



V40

OWNER'S MANUAL

VÄLKOMMEN!

ボルボ社では、末永くお車をご愛顧いただけることを願っております。お買い上げいただいた車両は、運転者および同乗者の方々に安全で快適なドライビングをご提供できるように設計されています。ボルボ車は世界でもっとも安全な車の1つです。ボルボ車は、現在の安全・環境基準も満たしています。

ボルボ車をより一層お楽しみいただくために、本オーナーズマニュアルに記載されている説明およびメンテナンス情報をよくお読みになることをお薦めします。オーナーズマニュアルには、モバイルアプリ版(ボルボマニュアル)およびボルボ・カーズサポートサイト(support.volvocars.com)で利用できるウェブ版もあります。

目次

イントロダクション

オーナーズインフォメーションのご利用について	12
車載のデジタルオーナーズマニュアル	13
Volvo Cars サポートサイト	16
オーナーズマニュアルを読む	17
データの記録	20
アクセサリおよび追加装備	21
Volvo ID	22
環境理念	23
オーナーズマニュアルと環境	26
ラミネテッドガラス	26

重要です。必ずお読みください。

ご使用に際して！	28
重要な安全上のご注意！	29
火災および排気ガスに関するご注意	35
エンジン始動時のご注意！	38
発進時のご注意！	39
重要な操作上のご注意！	39
してはいけないこと！	44
その他使用上のご注意！	53
踏切などで動けなくなったとき！	53
万が一、事故を起こしてしまったら…	54
冬道での安全走行のポイント！	54
タイヤ・ホイールについて！	56
タイヤチェーンについて！	57
燃料補給時のご注意！	58
保証とアフターサービス	58

セーフティ

シートベルトについて	60
シートベルト - 着用	61
シートベルト - 外す	62
シートベルト - 妊娠中	62
シートベルトリマインダー	63
シートベルトテンショナー	63
セーフティ - 警告灯	64
エアバッグシステム	65
運転席側エアバッグ	66
助手席側エアバッグ	67
助手席側エアバッグ - 作動/解除*	68
サイドエアバッグ (SIPS)	70
インフレータープルカーテン (IC)	71
WHIPS (後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート) について	72
WHIPS - 着座姿勢	73
セーフティモードについて	74
セーフティモード - 車両の始動を試行する	75
セーフティモード - 車両の移動	76
歩行者エアバッグ	76
歩行者エアバッグ - 車両の移動	77
歩行者エアバッグ - 折りたたみ	77
お客様の安全について	78
チャイルドシート	79

チャイルドシート - 位置	85
チャイルドシート - ISOFIX	86
ISOFIX - サイズ等級	87
ISOFIX - チャイルドシートの種類	88
チャイルドシート - アップパーマ ウンティングポイント	90

計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置、左 ハンドル車 - 概要	92	ライトスイッチ	122
計器およびコントロール装置、右 ハンドル車 - 概要	95	ポジションランプ	124
コンパインド・メーター・パネル	98	トンネルの検知*	125
アナログ式コンパインド・メー ター・パネル - 概要	98	ハイ/ロービーム	125
液晶デジタル式コンパインド・ メーター・パネル - 概要	99	アクティブハイビーム*	126
Eco guide および Power guide*	102	アクティブベンディングランプ*	128
コンパインド・メーター・パネル - 表示灯の意味	104	ヘッドライト - 車両通行帯ヘッ ドライト照射パターン	129
コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味	106	リアフォグランプ	132
外気温計	108	ブレーキランプ	132
トリップメーター(走行距離計)	109	非常点滅灯	133
時計	109	方向指示器	133
コンパインド・メーター・パネル - ライセンス契約	110	ルームランプ	134
ディスプレイのシンボル	111	ホームセーフライト点灯時間	135
ボルボ・センサス	114	アプローチライト	136
キー位置	115	ワイパーおよびウォッシャー	136
キー位置 - 各レベルでの機能	115	パワーウインド	138
シート、フロント	117	ドアミラー	140
シート、フロント - 電動	118	ウインドおよびドアミラー - ヒーター	141
シート、リア	119	ルームミラー	142
ステアリングホイール	121	パノラマ・ガラスルーフ*	143
		コンパス*	143
		メニューナビゲーション - コン パインド・メーター・パネル	144

メニュー概要 - アナログ式コン パインド・メーター・パネル	145
メニュー概要 - 液晶デジタル式 コンパインド・メーター・パネル	145
メッセージ	146
メッセージ - 取り扱い	147
MY CAR	147
トリップコンピューター	149
トリップコンピューター - アナ ログ式コンパインド・メーター・パネル	151
トリップコンピューター - 液晶 デジタル式コンパインド・メー ター・パネル	155
トリップコンピューター - 走行統計*	159

エアコンディショナー

エアコンディショナーご使用にあ たって	162
実際の温度	163
センサー - エアコンディショナー	163
空気の質	163
空気の質 - クリーンエアフィルター	164
空気の質 - クリーン・ゾーン・イ ンテリア・パッケージ (CZIP)*	164
空気の質 - IAQS*	164
空気の質 - 素材	165
メニュー設定 - エアコンディ ショナー	165
車内のエアディストリビューション	165
オートマチック・エアコンディ ショナー - ECC*	167
エレクトロニック・テンパレ チャー・コントロール - ETC	168
フロントシートヒーター*	169
リアシートヒーター*	169
ファン	170
自動調節	171
車内の温度コントロール	171
エアコンディショナー	172
ウインドスクリーンの曇りおよび 霜の除去	172
エアディストリビューション - リサーキュレーション	173

エアディストリビューション - 一覧表	174
エンジンブロックヒーターおよび 車内ヒーター*	177
エンジンブロックヒーターおよび 車内ヒーター* - ダイレクトスタート	178
エンジンブロックヒーターおよび 車内ヒーター* - 即時停止	179
エンジンブロックヒーターおよび 車内ヒーター* - タイマー	179
エンジンブロックヒーターおよび 車内ヒーター* - メッセージ	180
アディショナルヒーター*	181
フューエルドリブンアディショナ ルヒーター*	182
電気アディショナルヒーター*	182

荷物の積み込みおよび収納

収納スペース	184
収納ボックス、運転席側	186
トンネルコンソール	186
トンネルコンソール - アームレスト	186
トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿*	187
グローブボックス	187
フロアマット*	187
メイクアップミラー	188
トンネルコンソール - 12V 電源ソケット	188
荷物の積み込み	189
荷物の積み込み - 長尺物	190
ルーフの荷物	190
荷物固定用アイレット	191
荷物の積み込み - バッグホルダー	191
荷物の積み込み - 折りたたみ式バッグホルダー*	191
12V 電源ソケット - カーゴスペース	192
カーゴネット*	193
ハットシェルフ	194

ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー	196	キーレスドライブ* - リモートコントロールキー機能への干渉	208
リモートコントロールキー - 紛失	196	キーレスドライブ* - ロック	208
リモートコントロールキー - パーソナライズ*	197	キーレスドライブ* - ロック解除	209
ロック/ロック解除 - インジケーター	198	キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除	209
リモートコントロールキー - 電子式イモビライザー	199	キーレスドライブ* - ロック設定	210
追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー*	199	キーレスドライブ* - アンテナ位置	210
リモートコントロールキー - 機能	200	ロック/ロック解除 - 車外から	211
リモートコントロールキー - 作動範囲	201	手動ドアロック	211
PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能	202	ロック/ロック解除 - 車内から	212
PCC 付きリモートコントロールキー* - 作動範囲	203	グローバルオープニング機能	213
脱着式キーブレード	203	ロック/ロック解除 - グローブボックス	213
脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け	204	ロック/ロック解除 - テールゲート	214
脱着式キーブレード - ドアロック解除	204	ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ	215
リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換	205	デッドロック*	216
キーレスドライブ*	206	チャイルドロック - 手動による作動	217
キーレスドライブ* - 作動範囲	207	チャイルドロック - 電動ロック*	218
キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い	207	アラーム*	218
		アラームインジケーター*	220
		アラーム* - 自動再セット	220
		アラーム* - 自動セット	220

アラーム* - リモートコントロールキーが使用できない	221
アラームシグナル*	221
アラームの機能解除*	221
型式認定 - リモートコントロールキーシステム	222

運転者サポート

ステアリングホイール操舵力の調節*	224
エレクトロニック・スタビリティ・コントロール (ESC) - 概要	224
Electronic stability control (ESC) - 作動	226
Electronic stability control (ESC) - シンボルおよびメッセージ	227
速度リミッター*	229
速度リミッター* - 開始する	229
速度リミッター* - 速度変更	230
速度リミッター - 一時解除およびスタンバイモード*	231
速度リミッター* - 速度超過時のアラーム	232
速度リミッター* - 解除	232
クルーズコントロール*	232
クルーズコントロール* - 速度の管理	233
クルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード	235
クルーズコントロール* - 設定速度の再開	236
クルーズコントロール* - 解除	237
車間警告機能*	238
車間警告機能* - 作動限界	239
車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ	240

アダプティブクルーズコントロール (ACC)*	241
アダプティブクルーズコントロール* - 機能	242
アダプティブクルーズコントロール* - 概要	243
アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理	245
アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定	246
アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード	246
アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し	248
アダプティブクルーズコントロール* - 解除	248
アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント	249
アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える	251
アダプティブクルーズコントロール* - 故障点検および対処	252
アダプティブクルーズコントロール* - シンボルおよびメッセージ	253
レーダーセンサー	255
レーダーセンサー - 作動限界	255
型式認定 - レーダーシステム	257

City Safety™	261	ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 操作	284	パークアシスト・パイロット(PAP)*	304
City Safety™ - 機能	262	ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 作動限界	287	パークアシスト・パイロット(PAP)* - 機能	305
City Safety™ - 操作	262	ドライバー・アラート・システム*	287	パークアシスト・パイロット(PAP)* - 操作	306
City Safety™ - 機能の限界	263	Driver Alert Control (DAC)*	288	パークアシスト・パイロット(PAP)* - 機能限界	308
City Safety™ - レーザーセンサー	265	Driver Alert Control (DAC)* - 操作	288	パークアシスト・パイロット(PAP)* - シンボルおよびメッセージ	310
City Safety™ - シンボルおよびメッセージ	267	Driver Alert Control (DAC)* - シンボルおよびメッセージ	290		
衝突警告システム*	268	レーン・キーピング・エイド*	291		
衝突警告システム* - 機能	269	レーン・キーピング・エイド - 機能	291		
衝突警告システム* - サイクリストの検知	270	レーン・キーピング・エイド - 作動	293		
衝突警告システム* - 歩行者の検知	271	レーン・キーピング・エイド - 機能の限界	294		
衝突警告システム* - 操作	272	レーン・キーピング・エイド - シンボルおよびメッセージ	295		
衝突警告システム* - 機能の限界	274	パークアシスト*	296		
衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界	275	パークアシスト* - 機能	296		
衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ	277	パークアシスト* - リア	297		
BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)	279	パークアシスト* - フロント	298		
BLIS - 操作	280	パークアシスト* - 異常表示	299		
CTA*	281	パークアシスト* - センサーの清掃	299		
BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ	283	パークアシスト・カメラ	300		
ロード・サイン・インフォメーション(RSI)	284	パークアシスト・カメラ - 設定	303		
		パークアシスト・カメラ - 作動限界	304		

運転操作の要領

エンジンの始動	312	フットブレーキ - アダプティブ ブレーキランプおよび自動非常点滅灯	334	トレーラーを使用した走行 - オートマチックトランスミッション	347
エンジンを切る	313	フットブレーキ - エマージェン シー・ブレーキ・アシスタンス	334	トーイングブラケット	348
ステアリングホイールロック	313	パーキングブレーキ	334	脱着式トウバー* - 保管	349
ジャンプスタート	314	水たまりでの運転	335	脱着式トウバー* - 仕様	349
トランスミッション	315	オーバーヒート	336	脱着式トウバー* - 取り付け/取り 外し	350
マニュアルトランスミッション	315	テールゲートを開けたままの走行	337	トレーラー・スタビリティ・アシ スト - TSA	352
ギヤシフトインジケーター*	316	過負荷 - メインバッテリー	337	けん引	353
オートマチックトランスミッショ ン - Geartronic(ギヤトロニック)*	317	長距離走行の前に	338	けん引フック	355
ギヤセクターインヒビター	320	冬季の運転	338	車両移動	355
坂道発進支援機能(HSA)*	321	燃料給油口フラップ - 開閉	339		
Start/Stop*	321	燃料給油口フラップ - 手動	339		
Start/Stop* - 機能と操作	322	適切な給油方法	339		
Start/Stop* - エンジンが停止しない	324	燃料 - 取り扱い	340		
Start/Stop* - エンジンがオート スタートする	325	燃料 - ガソリン	341		
Start/Stop* - エンジンがオート スタートしない	326	燃料 - ディーゼル	342		
Start/Stop* - 不意の停止(マニユ アルトランスミッション)	327	触媒コンバーター	343		
Start/Stop* - シンボルおよび メッセージ	328	燃料容器での給油	344		
ECO ドライブモード*	330	ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF)	344		
フットブレーキ	332	経済走行	345		
フットブレーキ - アンチロック ブレーキシステム	333	トレーラーなどのけん引	346		
		トレーラーを使用した走行 - マ ニュアルトランスミッション	347		

ホイールおよびタイヤ

タイヤ - メンテナンス	358
タイヤ - 回転方向	359
タイヤ - トレッド磨耗インジケーター	360
タイヤ - 空気圧	360
ホイールおよびホイールリムサイズ	361
タイヤ - サイズ	362
タイヤ - ロードインデックス	362
タイヤ - 速度記号	362
ホイールナット	363
ウインタータイヤ	364
スペアタイヤ*	364
タイヤの交換 - スペアタイヤの取り出し*	365
タイヤの交換 - タイヤを取り外す	366
タイヤの交換 - 取り付け	368
三角警告板(停止表示板)	370
ジャッキ*	370
救急用品キット*	371
タイヤ・モニタリング(TM)*	371
緊急パンクリペアー*	373
緊急パンクリペアーキット* - 概要	374
緊急パンクリペアーキット* - 操作	375
緊急パンクリペアー* - 再点検	378

緊急パンクリペアーキット*のコンプレッサーを使用してタイヤに空気を入れる

379

保守点検

ボルボサービスプログラム	382
サービスと修理の予約*	382
車両リフトアップ	385
ボンネット - 開閉	387
エンジンルーム - 概要	387
エンジンルーム - 点検	388
エンジンオイル - 概要	389
エンジンオイル - 点検および補充	390
クーラント - レベル	391
ブレーキおよびクラッチフルード - レベル	392
エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理	393
ランプ交換 - 一般	393
ランプ交換 - フロントランプの位置	394
ランプ交換 - ヘッドライト	395
ランプ交換 - ハイ/ロービームバルブ用カバー	396
ランプ交換 - ロービーム	396
ランプ交換 - ハイビーム	397
ランプ交換 - フロント方向指示器	398
ランプ交換 - ポジションランプ	398
ランプ交換 - リアランプの位置	398
ランプ交換 - リア方向指示器、ブレーキランプ、後退灯	399
ランプ交換 - リアフォグランプ	399

ランプ交換 - メイクアップミ ラーランプ	400
ランプ - 仕様	400
ワイパーブレード	401
ウォッシュャー液 - 補充	403
メインバッテリー - 概要	404
バッテリー - シンボル	406
メインバッテリー - 交換	406
バッテリー - Start/Stop	407
電気系統	409
ヒューズ - 概要	409
ヒューズ - エンジンルーム	411
ヒューズ - グローブボックス下	414
ヒューズ - 右側フロントシート下	417
洗車	420
磨きおよびワックスがけ	422
撥水/防塵加工コーティング	423
防錆	424
内装の清掃	424
塗装の損傷	425

仕様

タイプの表示	430
寸法	432
重量	434
けん引重量およびトウボール荷重	435
エンジンの仕様	437
エンジンオイル - 過酷な走行条件	439
エンジンオイル - グレードおよ び容量	440
クーラント - グレードおよび容量	442
トランスミッションフルード - グレードおよび容量	443
ブレーキフルード - グレードお よび容量	444
燃料タンク - 容量	445
エアコンディショナー、フルード - 容量およびグレード	446
燃料消費量およびCO2 排出量	447
タイヤ - 承認された空気圧	449

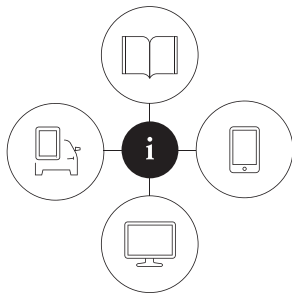
50 音順索引

50 音順索引	451

イントロダクション

オーナーズインフォメーションのご利用について

オーナーズインフォメーションは、デジタル版および印刷版ともに、さまざまな形式でご利用いただけます。オーナーズマニュアルは、車両の画面、モバイルアプリ、およびボルボ・カーズ・サポートサイトにてご覧いただけます。さらに、グローブボックスには Quick Guide や、仕様およびヒューズの情報などを収録したオーナーズマニュアルの付録冊子をご用意しています。オーナーズマニュアルの印刷版は別売りです。



090003

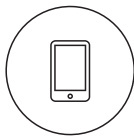
車両の画面¹



車両の画面でデジタルオーナーズマニュアルを使用することができます。センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押して、**OK/MENU**、続いて **オーナーズマニュアル** を選択します。情報は検索が可能で、カテゴリ別に分けることもできます。

詳しくは車載のデジタルオーナーズマニュアルをご覧ください。

モバイルアプリ



App Store または Google Play で「ボルボ・マニュアル」を検索します。ご利用のスマートフォンまたはタブレットにアプリをダウンロードして、車両を選択してください。

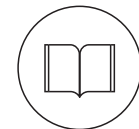
アプリには、車両のエクステリア画像およびインテリア画像を使用したビジュアル操作ガイドやビデオチュートリアルが含まれています。オーナーズマニュアルはセクション間を簡単に移動することができます。また、内容は検索可能です。詳しくはモバイル機器対応のオーナーズマニュアルをご覧ください。

ボルボ・カーズ・サポートサイト



support.volvocars.com でお住いの国を選択してください。このサイトでは、オーナーズマニュアルをオンラインおよび PDF ファイル形式で利用することができます。また、ボルボ・カーズ・サポートサイトでは、ビデオチュートリアルや、ご利用のボルボ車および車両の所有権に関する詳細情報およびサポートをご提供しています。このページは、ほとんどの市場にてご利用いただけます。詳しくは ボルボ・カーズ・サポートサイトを参照してください。

印刷版



グローブボックスには、仕様およびヒューズに関する情報を収録したオーナーズマニュアル付録冊子 (SUPPLEMENT TO OWNER'S MANUAL)² が収納されています。この付録冊子には、重要情報や実用的な情報もまとめられています。

Quick Guide も印刷版として提供され、車両でよく使われる機能について最初に読んでおく役立つ情報が収録されています。

¹ 画面表示のオーナーズマニュアルに非対応の市場では、印刷版のオーナーズマニュアル(完全版)が提供されます。

² 画面表示のオーナーズマニュアルに非対応の市場では、印刷版のオーナーズマニュアル(完全版)が提供されます。

選択した装備レベルや市場などにより、他にも印刷版で提供される可能性のあるオーナーズインフォメーションがあります。

印刷版オーナーズマニュアルおよび関連の付録は別途ご注文いただくこともできます。ボルボディーラーまでお問い合わせください。オーナーズマニュアルの構成については、「オーナーズマニュアルを読む」を参照してください。

車両の画面の言語を変更する

車両の画面の言語は変更できますが、情報が国や地域の法令と一致しないことがあります。理解しづらい言語には変更しないでください。画面のメニューに戻る方法がわかりにくくなる場合があります。

❗ 重要

安全運転を行い、適用される法律や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。また、オーナーズマニュアルに記載されているボルボの推奨事項に従って、車両の維持および取り扱いを行うことも重要です。

万が一、画面の情報とマニュアル(印刷版)の情報が異なる場合、必ず印刷版のマニュアルに記載されている情報に従ってください。

関連情報

- 車載のデジタルオーナーズマニュアル (p. 13)
- Volvo Cars サポートサイト (p. 16)

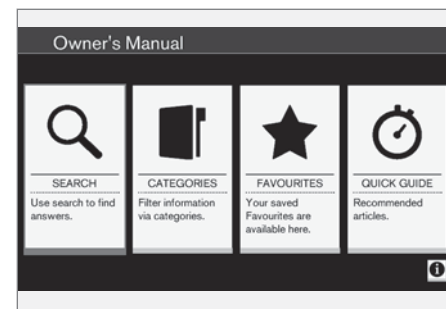
- オーナーズマニュアルを読む (p. 17)

車載のデジタルオーナーズマニュアル

車内³の画面でオーナーズマニュアルを読むことができます。コンテンツは検索可能で、セクション間の移動も簡単です。

デジタルオーナーズマニュアルを見る - センターコンソールの **MY CAR** ボタンを押し、**OK/MENU** を押して、**オーナーズマニュアル** を選択します。

ナビゲーションの基本操作については、「システムの操作」を参照してください。詳しくは以下を参照してください。



オーナーズマニュアル、スタートページ

デジタル版オーナーズマニュアルの中で目的の情報を見つけるには、以下の4通りの方法があります。

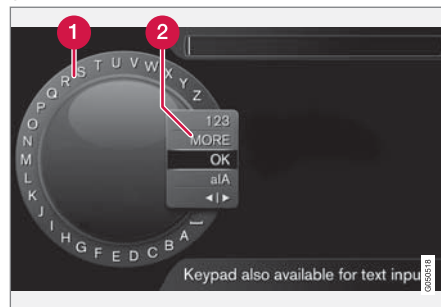
- **検索** - 項目を見つけるための検索機能
- **カテゴリ** - すべての項目がカテゴリ別に分類されています。
- **お気に入り** - ブックマークに登録したお気に入りの項目を素早く表示できます。
- **Quick Guide** - よく使う機能の項目が集められています。

デジタルオーナーズマニュアルに関する情報を入手するには、右下隅のインフォメーションシンボルを選択してください。

① 注意

走行中にデジタルオーナーズマニュアルを利用することはできません。

検索



テキストホイールによる検索

- ① 文字リスト
- ② 入力モードの変更(次の表を参照してください。)

テキストホイールを使用して、検索語(「シートベルト」など)を入力します。

1. **TUNE** を入力したい文字まで回して、**OK/MENU** を押して確定します。センターコンソールのコントロールパネルの番号や文字ボタンも使用できます。
2. 同様に順々に次の文字に進みます。

3. 入力モードを数字や特殊文字に変える場合、または検索を実行するには、**TUNE** を入力モードの変更(2)のリストにあるオプションのいずれか(以下の一覧表の説明を参照)まで回し、**OK/MENU** を押します。

123/A BC	OK/MENU で文字と番号を切り替えます。
記号	OK/MENU で特殊文字に切り替えます。
OK	検索を実行します。 TUNE を回して検索結果項目を選択し、 OK/MENU を押して項目に移動します。
a A	OK/MENU を押して、小文字と大文字を切り替えます。
◀ ▶	テキストホイールから検索フィールドに変わります。 TUNE でカーソルを動かします。 EXIT を押して、スペルミスを削除します。テキストホイールに戻るには、 OK/MENU を押します。 コントロールパネルの数字ボタンおよび文字ボタンは、検索フィールドでの編集にも使用することができます。

3 一部の車両モデルに適用されます。

番号キーで入力する



番号キー

文字の入力方法には、センターコンソールのボタン **0**~**9**、*****、**#**を使用する方法もあります。

例えば、**9**を押すと、パーが表示され、そのボタンに関連付けられている文字⁴(**W**、**X**、**Y**、**Z**、**9**)がすべて表示されます。ボタンを軽く押すと、カーソルがこれらの文字を移動します。

- 目的の文字でカーソルを止めると、その文字が選択され、入力ラインに表示されます。
- **EXIT** を使用すると、削除する/元に戻すことができます。

番号を入力するには、対応する番号キーを押したままにします。

カテゴリー

オーナーズマニュアルの項目は、メインカテゴリーおよびサブカテゴリーの形式に構成されています。検索性を向上させるために、同じ項目が複数の適切なカテゴリーに分類されています。

TUNE を回すとカテゴリーツリー内を移動でき、**OK/MENU** を押すとカテゴリー(選択された ) または項目(選択された ) が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

お気に入り

ここには、お気に入りとして保存されている項目があります。任意の項目をお気に入りとして選択する方法については、「項目内での移動」の項を参照してください。

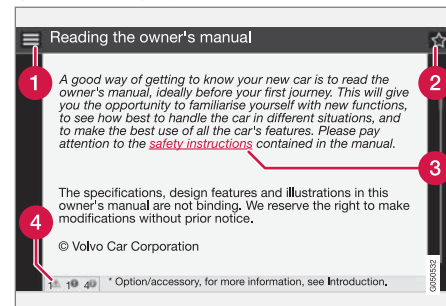
TUNE を回すとお気に入りリスト内を移動でき、**OK/MENU** を押すと項目が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

Quick Guide

ここには、車両のよく使われる機能を理解するための項目が集められています。項目はカテゴリーを使用して閲覧することもできますが、ここでは、素早く閲覧できるようにまとめられています。

TUNE を回すと Quick Guide 内を移動でき、**OK/MENU** を押すと項目が開きます。**EXIT** を押すと、前のビューに戻ります。

項目内での移動



- 1 ホーム** - オーナーズマニュアルのスタートページに移動します。
- 2 お気に入り** - 項目をお気に入りに追加/お気に入りから削除します。項目をお気に入りに追加/お気に入りに削除するには、センターコンソールの **FAV** ボタンを押す方法もあります。
- 3 ハイライト表示のリンク** - リンクされている項目に移動します。
- 4 特別なメッセージ** - 項目に警告、重要メッセージまたは参考メッセージが含まれている場合、該当するシンボルと項目に含まれている当該メッセージの数がここに表示されます。

TUNE を回すと、リンク間の移動、または項目内でのスクロール移動ができます。画面を項目の

⁴ 各ボタンの文字は、市場/国/言語により異なることがあります。

- ◀ 先頭/末尾までスクロールした後、さらに1ステップ上/下にスクロールすると、ホームおよびお気に入りオプションが表示されます。**OK/MENU**を押すと、選択項目/ハイライト表示のリンク先にジャンプできます。**EXIT**を押すと、前のビューに戻ります。

関連情報

- Volvo Cars サポートサイト (p. 16)

Volvo Cars サポートサイト

ボルボ・カーズのウェブサイトには、車両に関する追加情報が掲載されています。そのウェブサイトから、お客様とお客様の車両のパーソナルウェブページである My Volvo に移動することもできます。

インターネットによるサポート

URL、support.volvocars.com を入力するか、または以下の QR コードを使用してサポートページへアクセスしてください。サポートページは、ほとんどの市場にてご利用いただけます。



サポートページへのアクセス用 QR コード

サポートページ上の情報は検索が可能で、さまざまなカテゴリー別に分けることもできます。ここでは、例えばインターネット接続サービスおよび機能、Volvo On Call*、ナビゲーションシステム*、アプリなどに関するオプション用サポートをご利用いただけます。ビデオおよびステップごとのインストラクションにより、携帯電話を使用して車両をインターネットに接続する方法など、さまざまな手順をご説明しています。

サポートページからダウンロード可能な情報

地図

Sensus Navigation*装備車では、サポートページから地図をダウンロードすることができます。

アプリ

モデルイヤー 2014 年および 2015 年のボルボモデルの一部では、アプリ形式でオーナーズマニュアルをご利用いただけます。ここから Volvo On Call*アプリへアクセスすることも可能です。

旧モデルイヤー車両のオーナーズマニュアル

旧モデルイヤー車両のオーナーズマニュアルは、PDF 形式でここからご利用いただけます。Quick Guide および補足情報もサポートページからアクセスが可能です。車両モデルおよびモデルイヤーを選択して、必要なドキュメントをダウンロードしてください。

お問い合わせ

サポートページでは、カスタマーサポートおよび最寄りのボルボディーラーのお問い合わせ先をご案内しています。

インターネットでご利用可能な My Volvo⁵

お客様と車両のパーソナルウェブサイトである My Volvo ウェブ には、www.volvocars.com から移動することができます。

⁵ 特定市場に適用

* オプション/アクセサリ。

個人用 Volvo ID を作成して、My Volvo ウェブにログインし、サービス、契約および保証などの概要を把握してください。My Volvo ウェブには、お客様の車両モデルに対応するアクセサリやソフトウェアに関する情報もあります。

関連情報

- Volvo ID (p. 22)

オーナーズマニュアルを読む

運転の前に、ボルボ車についてご理解いただくため、オーナーズマニュアルを十分にお読みください。

オーナーズマニュアルをお読みにになると、新しい機能をご理解いただけると共に、さまざまな状況で適切な判断ができ、また車両の色々な機能を十分にご活用いただけます。オーナーズマニュアルに記載されている、注意、警告指示を厳守してください。

製品改良のため、開発作業はつねに継続されています。改良により、オーナーズマニュアルに収録されている情報、説明および図が実際の車両と異なる場合があります。製造者(メーカー)が予告なく変更する場合があります。

© Volvo Car Corporation

モバイル機器対応のオーナーズマニュアル



i 注意

オーナーズマニュアルはモバイルアプリケーションとしてダウンロードすることができます(一部の車両モデルおよびモバイル機器のみ)。www.volvocars.com をご覧ください。

モバイルアプリケーションは、ビデオや検索可能なコンテンツが含まれているだけでなく、セクション間の移動も簡単です。

オプション/アクセサリ

このオーナーズマニュアルでは、オプション装備には*マークが付いています。

- ◀◀ 標準装備の他に、オプション装備(メーカーオプション)やアクセサリ装備(ディーラーオプション)などについても記載されています。

オーナーズマニュアルに記載されていても、車両にその装備がない場合があります。車両の装備は、各市場でのニーズや、国、地域の法規に適合するようになっています。

標準装備またはオプション/アクセサリ装備についてご不明な点は、ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください。

特別なテキスト

警告

ケガのおそれがあれば、警告テキストが表示されます。

重要

損傷のおそれがあれば、「重要」と表示されます。

注意

「注意」には、装備や機能を使いやすくするためのヒントなどが記載されています。

脚注

このオーナーズマニュアルでは、ページの下に脚注が記載されている場合があります。これ

は、本文中の番号に対応した補足情報です。表内の記載に対応した脚注の場合は、参照先の番号ではなく文字が使用されています。

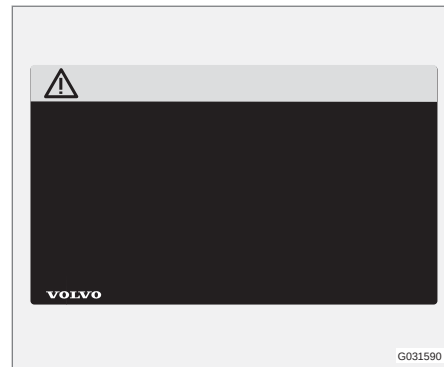
ディスプレイテキスト

車内には、メニューテキストとディスプレイテキストを表示する画面があります。オーナーズマニュアルでは、ディスプレイに表示されるテキストと通常のテキストは書体が異なります。メニューテキストおよびディスプレイテキストの例：**メディア**、**車両位置を送信中**。

表示ラベル

重要な情報を簡潔かつ明確な方法で表示するように、車内にはさまざまな表示ラベルが使用されています。表示ラベルは、警告/情報の重要度に応じて次のように分類されています。

ケガに対する警告



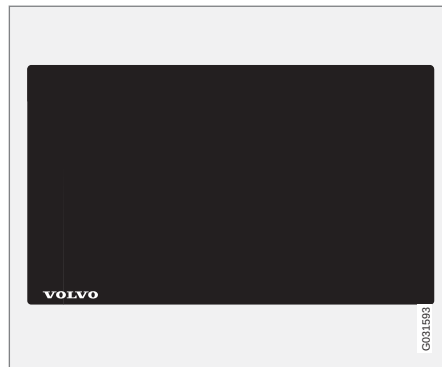
黄色地に黒の ISO シンボル、メッセージ欄は黒地に白字テキスト/イメージ。危険な状況であることを示すために使用。この警告を無視した場合、大ケガや死亡にいたるおそれがあります。

重大な損傷のおそれ



黒地または青地の警告欄およびメッセージ欄に、白の ISO シンボルおよび白字テキスト/イメージ。危険な状況であることを示すために使用。この警告を無視した場合、物品などが損傷を受けるおそれがあります。

インフォメーション



黒地のメッセージ欄に、白の ISO シンボルおよび白字テキスト/イメージ。

① 注意

オーナーズマニュアルに掲載されている表示ラベルは、車両の表示ラベルと若干異なっている場合があります。ラベル掲載の目的は、ラベルの概観と車両に貼られている位置を示すことです。お客様の車両に関する情報は、車両内の各ラベルに記載されています。

作業手順のリスト

このオーナーズマニュアルでは、指定の順番で行うべき作業手順には、番号が付いています。

1 作業手順がステップ・バイ・ステップで図示されている場合は、図の中に手順に対応した番号が付いています。

A 作業手順を指定の順番で行う必要がない場合は、文字の付いた箇条書きの説明が図の近くにあります。

i 矢印(番号付きの矢印、番号のない矢印の両方があります)は、可動部分の動きを示すためのものです。

A 順序を変えても問題がない場合には、動きをはっきりさせるために文字を伴った矢印が使用されています。

作業手順がステップ・バイ・ステップで図示されていない場合は、手順を示す番号には普通の字体が使われています。

位置リスト

1 図の中の色々なコンポーネントを指し示すには、赤丸付きの番号が使用されています。図のそばに位置リストがあり、それぞれの番号は図の中の番号と対応しています。

箇条書き

順不同のものを表記するときは、黒丸付きの箇条書きが使用されています。

例：

- クーラント
- エンジンオイル

◀◀ 関連情報

密接に関連している情報を含む他の項目を指しています。

図

本書の図には略図が使用されていることがあるため、装備レベルや市場によっては、実際の車両と外観が異なる場合があります。

次ページに続く

▶▶ このシンボルは、項目が次ページに続いている場合、ページの右下に表示されます。

前ページから続く

◀◀ このシンボルは、項目が前ページから続いている場合、ページの左上に表示されます。

関連情報

- オーナーズマニュアルと環境 (p. 26)
- Volvo Cars サポートサイト (p. 16)

データの記録

ボルボ社の安全および品質保証の一環として、車両の作動、機能および事故に関する特定の情報が車両に記録されます。

この車両には「Event Data Recorder」(EDR) が搭載されています。この装置の主な目的は、交通事故や、エアバッグが作動する、または車両が路上の障害物にぶつかるといった、衝突に似た状況に関連するデータを記録することです。データは、こういった種類の状況下で車両システムがどのように作動するかについて理解を深めるために記録されます。EDR は車両の運動状態および安全システムに関するデータを、短時間(通常 30 秒以下)記録するよう設計されています。

この車両に搭載された EDR は交通事故、または衝突に似た状況があった場合に、以下に関するデータを記録するよう設計されています。

- 車内のさまざまなシステムがどのように作動したか
- 運転席および助手席のシートベルトは作動したか
- ドライバーによるアクセルまたはブレーキペダルの使用
- 車両の走行速度

この情報は、弊社が交通事故、ケガ、車両の損傷が発生する状況をより把握するために役立ちます。EDR は、重大な衝突状況が発生した場合

にのみデータを記録します。EDR は、通常の走行状況下では一切データの記録を行いません。同様に、誰が運転しているか、または事故やニアミス状況の地理的な位置に関するデータをシステムが記録することはありません。ただし警察などの第三者が、交通事故後に規定に沿って収集した個人情報の類と共に記録されたデータを使用する場合があります。データを解析するには、車両または EDR にアクセスするための特殊な機器およびアクセス権が必要です。

EDR に加え、車両には車両の機能を継続的に確認しモニターするよう設計された、多数のコンピューターが搭載されています。これらのコンピューターは通常条件での走行中にデータを記録することが可能ですが、特に車両の操作や機能性に影響する不具合、または車両のアクティブドライバースポート機能(例: City Safety やオートブレーキ機能)の起動時の不具合を記録します。

記録された一部のデータは、サービスおよびメンテナンステクニシャンが車両に発生した不具合を診断し、修正するために必要です。記録された情報はまた、ボルボが法律および政府当局によって定められた法的要件を満たすために必要です。車両で記録された情報は、該当の車両がサービスまたは修理を受けるまで、車内のコンピューターに保存されます。

上記に加え、記録された情報は、ボルボ車両の安全性および品質の継続的な向上を目的とした

研究や製品開発のために、集計形式で使用される場合があります。

車両所有者の同意なしに、ボルボが上述の情報を第三者に開示することはありません。国の法令および規制を順守するため、ボルボはこれらの情報へアクセスする法的権利を行使する警察または当局へ、関わる情報を開示せざるを得ない場合があります。車両のコンピューターに記録された情報を読み取り、解析するためには特殊な機器が必要です。ボルボ社およびボルボ社と契約を結んでいるサービス工場がこの機器へのアクセス権を持っています。ボルボ社は、点検整備時にボルボに転送される情報が、安全な方法で保管ならびに処理され、その処理が適用される法的要件を満たすものであるように保証する責任を負っています。詳しくはボルボ・ディーラーにお問い合わせください。

アクセサリおよび追加装備

アクセサリの接続不良または取り付け不良は、車両の電気系統に悪影響をおよぼすおそれがあります。

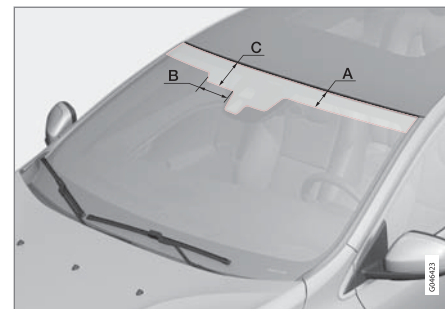
一部のアクセサリは、車両のコンピューターシステムに関連ソフトウェアをインストールしないと正常に作動しません。このため、ボルボは、電気系統に接続または影響するアクセサリを取り付ける前には、ボルボ指定のサービス工場へのお問い合わせを推奨します。

熱反射ウインドスクリーン*

ウインドスクリーンには、熱を反射するフィルム(赤外線)が装備され、車内に入り込む太陽熱放射を削減します。

トランスポンダーなどの電子機器を熱反射フィルムの後ろなどに配置すると、機能や性能を低下させる場合があります。

電子機器の機能を最適に保つためには、機器はウインドスクリーンの、熱反射フィルムが貼られていない場所に配置してください(図のハイライトされた場所を参照)。



赤外線フィルムが貼付されていない範囲

	寸法
A	65 mm
B	150 mm
C	125 mm

Volvo ID

Volvo ID は、さまざまなサービス⁶へアクセスするとき使用する個人用 ID です。

サービスの例：

- My Volvo - お客様とお客様の車両のパーソナルウェブサイト。
- オンライン車両* - 一部の機能およびサービスを利用するには、車両を個人の Volvo ID に登録する必要があります。例えば、インターネット上の地図サービスから住所を車両へ直接送信するサービスなどがこれに含まれます。
- Volvo On Call* - Volvo On Call アプリへのログイン時に Volvo ID が使用されます。

Volvo ID の利点

- ユーザー名 1 つとパスワード 1 つでオンラインサービスにアクセスできます。ユーザー名 1 つとパスワード 1 つを覚えておくだけです。
- 1 つのサービス (Volvo On Call など) のユーザー名/パスワードを変更すると、その他のサービス (My Volvo Web など) についても自動的に変更されます。

Volvo ID の作成

Volvo ID を作成するには、個人用メールアドレスを入力する必要があります。次に、指定の

メールアドレスに自動的に送信されてきたメールメッセージの指示に従って、登録を完了します。Volvo ID は、以下のサービスのいずれかを使用して作成することができます。

- My Volvo - メールアドレスを入力して指示に従います。
- オンライン車両* - Volvo ID の必要なアプリでメールアドレスを入力して、指示に従います。または、センターコンソールの接続ボタン  を 2 回押して、**アプリ → 設定** を選択し、指示に従う方法もあります。
- Volvo On Call* - 最新バージョンの Volvo On Call アプリをダウンロードします。スタートページから Volvo ID の作成を選択し、メールアドレスを入力して、指示に従います。

関連情報

- Volvo Cars サポートサイト (p. 16)

⁶ 利用できるサービスは、時間の経過とともに変化する場合があります。また、装備レベルや市場によっても異なります。

環境理念

ボルボでは、環境への悪影響を減らすために、より安全でより効率的な製品およびソリューションの開発に取り組んでいます。



環境への配慮はボルボ・カーズの本質的価値であり、すべての事業に影響をおよぼします。環境研究は車両のライフサイクル全体に基づくもので、設計から廃棄およびリサイクルにいたるまでの期間で車両が環境におよぼす影響を考慮します。ボルボ・カーズには、「ボルボの開発する新製品は必ず先代の製品よりも環境への影響が小さいものでなければならない」という基本理念があります。

ボルボで環境管理に取り組んだ結果、環境保護にさらに効果的で、低公害化を実現するドライ

ブライン Drive-E が開発されました。ボルボは個人環境も重視します。例えば、エアコンディショナーシステムの働きにより、車内の空気は車外の空気よりもきれいです。

ボルボ車は厳しい国際環境基準に適合します。ボルボの製造工場はすべて、ISO 14001 認証を取得する必要があります。この認証取得により、事業に伴う環境問題に対して体系的な取り組みが可能になり、環境影響を低減しつつ改善を継続することができます。ISO 認証の取得は、現行の環境法令および規制を順守していることも意

味します。ボルボはパートナーにもこの認証の取得を要求しています。

燃費

車両の全体的な環境影響の大部分はその使用によるものであるため、ボルボ・カーズの環境への取り組みでは、燃料消費量、二酸化炭素排出量、その他の空気汚染物質の低減を重視しています。ボルボ車は、非常に効率のよい燃費を誇っています。燃費が良ければよいほど、温室効果の原因となる二酸化炭素の排出量が少なくなります。

44 環境向上への貢献

エネルギー効率および燃料効率に優れた車両は、環境影響の低減に貢献するだけでなく、維持費の低減にもつながります。運転者は簡単に燃料消費量の低減を図ることができるため、燃料費を節約すると同時に環境の向上に貢献することになります。以下はいくつかのヒントです。

- 効果的な平均速度をあらかじめ想定してください。速度が約 80 km/h (50 mph) を超える場合、または 50 km/h (30 mph) 未満の場合、エネルギー消費量が増加します。
- メンテナンスノート(整備手帳)で推奨されている間隔に従って、車両の点検整備を実施してください。
- 無用なアイドリングは避けてください。長時間停車するときは、エンジンを停止してください。地域の規則に従って、交通法規を遵守してください。
- 計画的に走行してください。何度も不必要に停止したり、走行速度にバラツキがあると、燃料消費量が増加します。
- 車両にエンジンブロックヒーター*が装着されている場合は、冷寒時始動の前に使用してください。始動しやすくなり、寒冷時の摩耗を低減させます。また通常の作動温度に到達できるまでの時間も短縮されます。このため、燃費が向上し、排気ガスを低減できます。

使用済みのバッテリーやオイルなど、環境に有害な廃棄物は、環境に配慮した適切な方法で処理してください。この種の廃棄物の処理についてご不明な点は、ボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

このようなアドバイスの従うことで、節約だけでなく、地球の資源も節約でき、車両の寿命も長くなります。さらに詳しい情報、およびアドバイスに関してはエコガイド(p. 102)、経済走行(p. 345)および燃費(p. 447)を参照してください。

効率のよいエミッションコントロール

ボルボ車は「内も外もクリーン」というコンセプトの基に設計されています。このコンセプトは、車内の空気を清浄に保ち、なおかつ車外に排出されるガスをできるだけ効率よくコントロールすることを指しています。ボルボ車の排気ガスは、現在の排気ガス規制値のほとんどを大幅に下回ります。

車内の空気を清浄に保つ

クリーンエアフィルターは、空気取入口から埃や花粉が車内に侵入することを防ぎます。

インテリア・エア・クオリティ・システム(IAQS)*が、車内に取り入れられる空気を外気よりも清浄に保ちます。

このシステムは、車内の空気から、粒子状物質、炭化水素、窒素酸化物、地表オゾンなどの有害物質を除去します。センサーが外気の汚れを感知すると空気取入口を閉じて、内気のリサー

キュレーションに切り替えます。このような状況は、渋滞走行時やトンネル通過時などに発生する場合があります。

IAQSはクリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ(CZIP)*に含まれています。このパッケージには、車両をリモートコントロールキーでロック解除したときにファンを作動できるようにする機能も含まれています。

インテリア

ボルボ車のインテリアには厳選された素材が使用されており、快適にお使いいただけるように検査を実施しています。細部の中には手製の箇所もあります。ステアリングホイールの縫い目などは手で縫合されています。インテリアは、高温や強い光にさらされたときに不快感の原因になる強烈な臭いや化学物質を発することがないようにモニターされます。

ボルボのサービス工場と環境

定期的にメンテナンスを受けることにより、車両の耐用年数が長くなるだけでなく、燃料消費量も低減します。これは、環境保全への貢献にもつながります。ボルボ指定のサービス工場に修理やメンテナンスをご依頼いただければ、ボルボ社のシステムに基づいて適切な整備を実施します。ボルボ社では、サービス工場から出るガス、廃液、廃棄物などができるだけ環境に悪影響を与えない方法で処理するなど、環境対策を徹底させています。ボルボ指定のサービス工場には、環境対策に関するボルボの教育・訓練を受けたメカニックがおり、必要な機器や工具

も揃っておりますので、最善の環境対策をご提供することができます。

リサイクル

ボルボはライフサイクルの視点で取り組んでいるため、環境に優しい方法で車両をリサイクルすることも重要視しています。車両のほとんどの部品がリサイクルできます。車両を廃車にされるオーナーの皆様には、ディーラーから認定/承認リサイクル施設の紹介を受けていただくようお願いいたします。

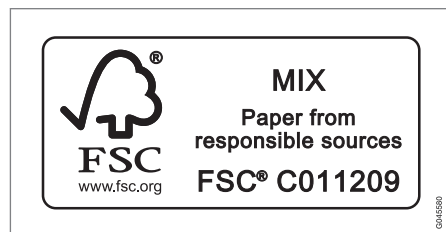
関連情報

- オーナーズマニュアルと環境（p. 26）

オーナーズマニュアルと環境

オーナーズマニュアルは、Forest Stewardship Council®(森林管理協議会)が認証した森またはその他の管理資源からの紙パルプを使用しています。

FSC® のシンボルは、オーナーズマニュアルに使用されている紙パルプが FSC® が認証した森やその他の管理資源からのものであることを示します。



関連情報

- 環境理念 (p. 23)

ラミネーテッドガラス



ガラスは補強されているため、不法侵入に対する保護が強化され、車内の防音効果も高くなっています。ウインドスクリーンとすべてのウインド*に、ラミネーテッドガラスが使用されています。

重要です。必ずお読みください。

重要です。必ずお読みください。

ご使用に際して！

このオーナーズマニュアルは、標準で取り付けられていない装備品、機能および日本仕様以外の装備品、機能についても記載されています。**このオーナーズマニュアルで説明されていても、車にその装備などが装着されていない/装着できない場合がありますのでご了承ください。**

スウェーデン・ボルボ社の原稿を元に、日本語版を作成していますが、現車と記述内容などが異なる場合は現車が優先されます。

後付けのオプションパーツおよびアクセサリパーツなどの使用方法、あるいは取付方法については、各製品ごとに添付されている取扱説明書(または取付説明書)の指示に従ってください。

ご不明な点がございましたら、ボルボ指定のディーラーにお尋ねください。

このオーナーズマニュアルに記載されている取扱説明は、一般的な使用状況を想定したものです。従って、車の使用場所、使用環境、取扱方法により異なる場合がありますので、十分ご注意ください。

このマニュアルに記載してあるすべての情報、イラスト、および仕様は、最新の製品情報に基づいていますが、製造者が予告なく変更する場合があります。

マニュアル内のイラストは、大まかなものであり正確な描写を目的とするものではありませんので、実際の車両と一致しない場合があります。

また、安全・快適なドライブのために知っていただきたい項目が、次ページから説明されていますので、必ずお読みください。

このマニュアルは、車両の一部とみなされます。

車を売却される場合は、次のオーナーの方のためにこのマニュアルとメンテナンスノート(整備手帳)および点検整備記録簿を車内に保管しておいてください。

道路運送車両法により、点検整備と日常点検が義務付けられています。

車を適切な状態に維持し、安心してご使用いただくために点検整備を必ず実施してください。

また、お客様ご自身で日常点検も必ず実施してください。

このオーナーズマニュアルに記載されている取扱方法と異なる使用や、点検整備を実施していないなどの場合は、ボルボ社の保証が適用されないことがありますので十分ご注意ください。

また、このオーナーズマニュアルの記載事項を守らなかったために生じた損傷、事故などに関しては、弊社は責任を負うことができませんのでご了承ください。

(オーナーズマニュアル掲載の写真、イラスト、文章の無断転載、複写を禁じます。)

© Volvo Car Corporation

警告

このオーナーズマニュアルは、ボルボ・カー・ジャパンによる正規の販売ルートで輸入および販売された車両にのみ適用されます。

追加装備品の取り付けについて：

追加装備品を装着する場合は、製品に付属の取付要領書および注意事項に従って装着を行ってください。

ご不明な点がございましたら、ボルボ指定のディーラーにお尋ねください。

警告

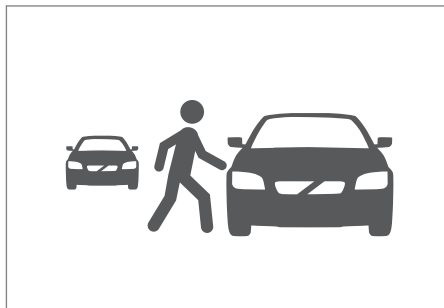
ボルボ純正以外の追加装備品の装着や、装置の不適切な取り付けは、運転に悪影響をおよぼし故障や火災の原因となります。

無線機などについて：

無線機など、アンテナを介して通信する通信機器を車内で使用すると、車両の電子機器(エンジンマネジメントシステム、ABS、エアバッグなど)に影響をおよぼすおそれがあります。

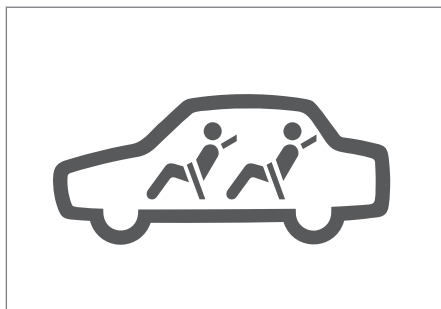
詳しくは、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。

重要な安全上のご注意！



ドアを開ける際は、必ず周囲の安全を確認してください。特に路上では、後続車や他の交通に十分注意してください。

- ドアを確実に閉めてください。ドアが確実に閉められていないと、走行中にドアが突然開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。



シートベルトは正しい姿勢で、必ず正しく着用してください。シートベルトを正しく着用できない場所に、同乗者を乗車させないでください。

- シートベルトのロックタブを、バックルに確実にロックしてください。同乗者のシートベルトも正しく着用しているか、必ず確認してください。



エアバッグは、シートベルトの補助装置です。エアバッグが取り付けられていても、シートベルトは必ず着用してください。

- シートベルトを着用していないと、エアバッグが作動した際の衝撃で大ケガをするおそれがあります。
- 同乗者にもエアバッグシステムについての注意事項を、十分に説明してください。
- エアバッグは膨張速度が極めて速く、また、布でできているため、エアバッグ作動時に摩擦熱で皮膚にヤケドや擦過傷を負うおそれがあります。

重要です。必ずお読みください。

◀



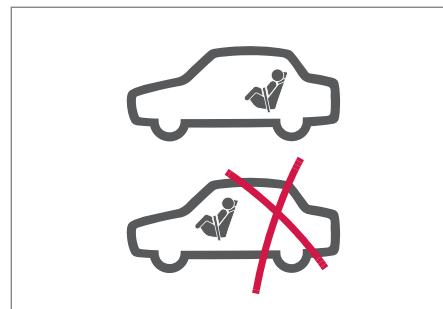
お子様は、後席に乗車させてください。走行中は絶対に、ひざの上に幼児を抱えないでください。

- お子様は助手席に乗車中にエアバッグが作動すると、エアバッグが作動した際に衝撃を受け、大ケガをするおそれがあり大変危険です。
- お子様を助手席に乗車させると、不意の動作が気になって運転の妨げになるばかりか、ドアインナーハンドルやスイッチ類に触れて思いがけない事故につながるおそれがあります。また、お子様の手の届くところに、マッチやライターなどを置かないでください。



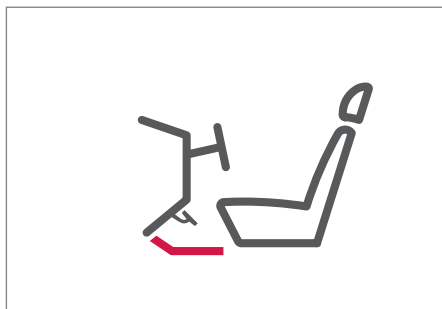
後席であってもシートベルトは必ず正しく着用し、お子様にもシートベルトを着用させてください。

- シートベルトが首やあごに当たるような小さなお子様や幼児を乗車させる際は、チャイルドシートを必ずご使用ください。
- シートベルトが合わないまま使用すると、衝突の際に頭部や腹部などに強い衝撃を受けて大ケガをするおそれがあります。



チャイルドシートは、後席に取り付けてください。助手席に取り付けると、エアバッグが作動したときの衝撃で、幼児が大ケガをするおそれがあります。

- チャイルドシート、または小児用の安全装置を取り付ける際は、使用する製品の取扱説明書の指示と警告に従って、確実に取り付けてください。
- 指示に従わないと、大ケガをする危険性が高くなります。



フロアマットは敷く前に運転席用、助手席用を必ず確認し、アクセルペダルに引っかからない位置に正しく敷いてください。

- エンジンを始動する前にフロアマットが正しく固定されているか確認してください。
- フロアマットを固定していない状態で使用したり、二重に敷いたり正しく敷かれていないと、運転中にフロアマットが移動してペダルと干渉し、暴走などのおそれがあります。
- アクセルペダルの上に、フロアマットを乗せないでください。ペダルが戻らなくなり、大変危険です。



ペダルの踏み間違いを防ぐため、エンジンを始動する前に右足で各ペダルを踏み、ペダルの位置を確認してください。



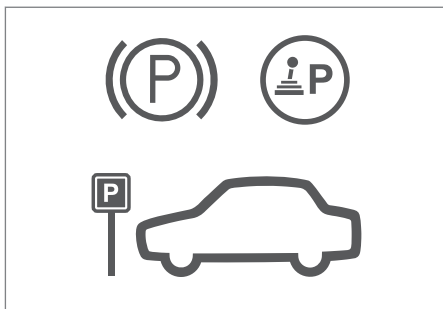
タバコやマッチなどは、完全に火を消してから灰皿に入れてください。使用後は、必ず灰皿を閉めてください。

開けたままにしたり、火を消さずに入れると火災になるおそれがあり、大変危険です。

- 灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、紙などの可燃物は入れないでください。
- タバコの火などによって、引火するおそれがあり大変危険です。

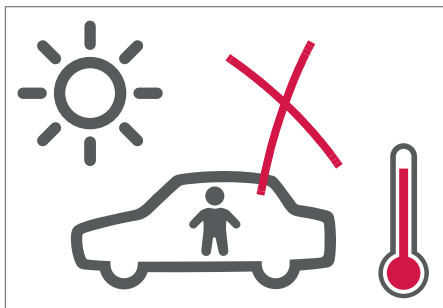
重要です。必ずお読みください。

◀



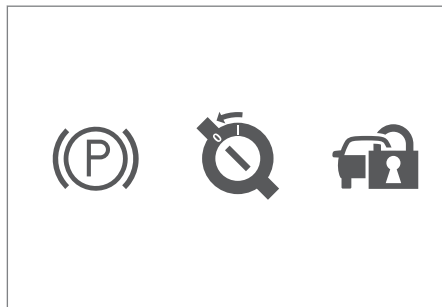
駐車する場合は傾斜した場所を避け、パーキングブレーキを確実にかけ、セクターレバーがP(パーキング)の位置に入っていることを確認してください。

- エンジンを止めてください。



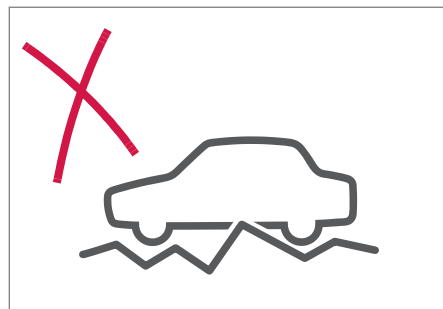
車から離れる場合は、お子様も一緒にお連れください。

- お子様だけを車内に残すことは危険です。特に炎天下に駐車した場合は、車内およびシートベルトやシートは高温になり、熱射病/熱中症やヤケドなど思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子様パワーウィンドやその他の装置を動かしたり、あるいは車を発進させてしまう場合があります、大ケガをしたり火災や事故につながるおそれがあります。



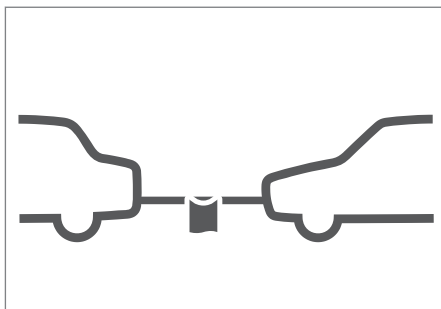
盗難やいたずらを未然に防ぐためにも車から離れる際は、パーキングブレーキをかけ、必ずエンジンを停止してキーを抜き、施錠してください。

- 車内に、貴重品を置いたままにしないでください。

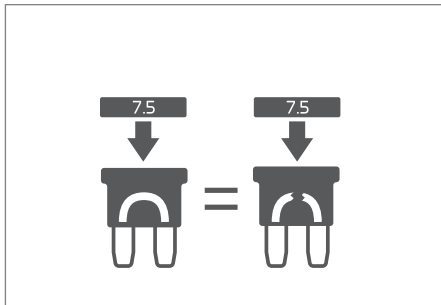


悪路や未舗装路の走行は、十分ご注意ください。

- タイヤ、床下、サスペンションなどを損傷し、さらには障害物に挟まれたり、ぬかるみにはまって脱出できなくなるおそれがあります。
- やむをえず走行する場合は、低速でゆっくり走行してください。
- 走行後、すみやかに車両の点検を行ってください。
- AWD 車といっても、万能ではありません。

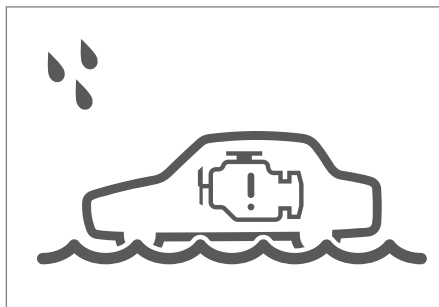


けん引が必要な場合は、オーナーズマニュアルの「けん引」の項を参照して、事故を起こさないように十分注意してください。また、周囲の交通状況にも注意してください。



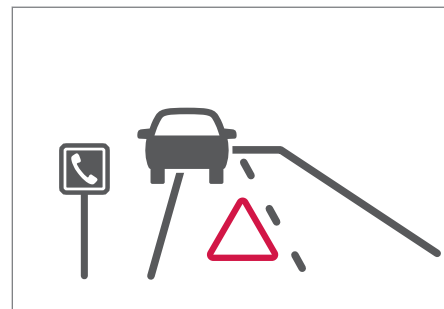
ヒューズを交換する場合は必ず同じ色、同じアンペアのヒューズと交換してください。高アンペアのヒューズを使用すると過大な電流が流れてもヒューズが切れず、配線や電

装品を損傷させて発火し火災が発生するおそれがあり大変危険です。



深い水たまりや、極端な冠水路を走行、また、突然の大雨などにより水しぶきを上げて走行した場合は、エンジンルーム内の電気配線やドライブベルト、タイミングベルトに水分が付着しているおそれがありますので、早めに点検を受けてください。

- 水分が付着していると、エンジン不調やベルト類の損傷劣化の原因となります。

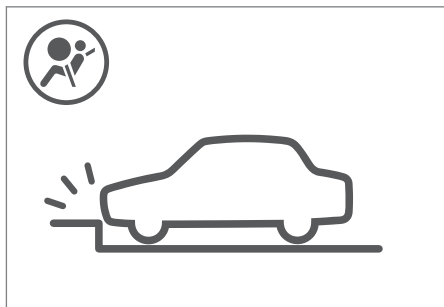


高速道路や自動車専用道路を走行中に故障したときなどは、急ブレーキをかけずに情力で路肩に車を止めてください。

- 故障やパンクで驚き、急ブレーキを踏むと、追突されたりスリップするおそれがあります。
- 車を惰性で直進させて、路肩に止めてください。
- 前輪がパンクしたときは、ハンドルが取られて大変危険です。
- 路肩に停車したときは、後続車にわかるように、停止表示器材を置いてください。なお、夜間の場合は、非常点滅灯およびリアランプを点灯してください。
- 非常電話は1 km おき(トンネル内は 200 m おき)に設置されています。

重要です。必ずお読みください。

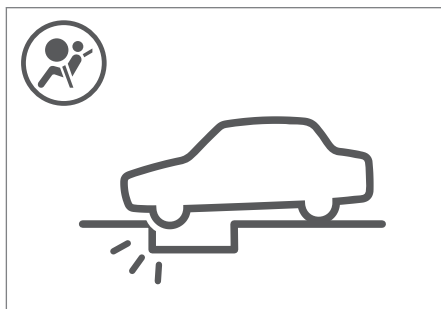
- 近き場所の非常電話で通報しようとして、反対車線へ横断しないでください。
- 通報後は、必ず全員安全な場所に避難してください。



エアバッグ(運転席、助手席、サイドエアバッグ、インフレーターブルカーテン)が作動しない場合があります。

- 衝突の位置/角度、衝撃の度合いによっては、エアバッグが作動しない場合があります。
- 斜めに塀や、ガードレール、車などに衝突したとき。
- トラックなどの荷台の下に潜り込み衝突したとき。
- 追突されたり、転覆、横転したとき。
- 衝突の方向が、車の中心からずれていたとき。

- 電柱、道路標識などのポールに衝突したとき。
- 前後フェンダー部など、車室以外に側面から衝突されたとき。
- 電柱などに側面をぶつけたとき。
- 車室部に斜めに衝突されたとき。
- 側面にバイクなどが衝突したとき。



車の外見上の損傷が少なくても、エアバッグが作動する場合があります。

- 道路上の物や車止めなどの縁石にぶつかったとき。
- 穴や溝に落ちる、またはジャンプしたとき。
- 車両の下面に強い衝撃を受けたとき。
- その他、中央分離帯などに衝突したとき。

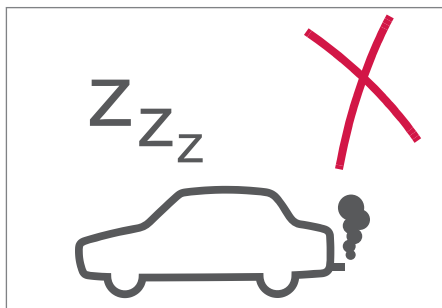


もしも、川や海などに転落した場合は…

水中に車が転落したときの脱出方法：

- 水中ではドアロックやパワーウインドが使用できず、閉じ込められるおそれがあります。このような場合は、脱出用ハンマーなどを使用してください。(脱出用ハンマーは、カーショップなどで購入することができます。)
- 浮いている車のドアは、水圧で開きません。落ちていてシートベルトを外し、窓が開けられる状態であれば、窓を開けて脱出してください。
- 窓が開けられない場合は、水面より高い位置の割りやすい側面の窓ガラスを脱出用ハンマーなどで割って脱出します。ドアをロック解除できる場合などには、車両内と車両外の水位がほぼ同じ高さになるまで待ち、ドアを開けて脱出します。

火災および排気ガスに関するご注意



エンジンをかけたまま、車内で仮眠をとることは大変危険です。

- 仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏んだり、セレクトレバーを動かすおそれがあり、排気システムの過熱による車両火災や車が走り出して事故が発生する場合があります。
- やむをえず仮眠するときは、必ずエンジンを止めてください。



ガレージのような換気の悪い場所や密閉された場所で、エンジンをアイドリングしないでください。

- 人体に有害な排気ガスが充満し、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。
- このような場所でエンジンを始動する場合は、その前に必ずガレージのドアや窓を開放してください。

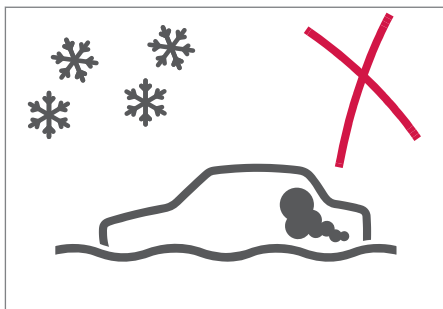


車内を閉めきった状態で、エンジンをアイドリングしないでください。

- 排気ガスが車体の水抜き穴や溶接の隙間、マフラーの腐食部から車内に侵入し、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。
- 広い場所でも、しばらくアイドリングする必要があるときは、換気のため窓などを開けるか、エアコンディショナーを作動させてください。
- 熱せられた排気系統に接触するような枯れ草や枯葉、紙、木材など燃えやすい物の上に車を駐停車しないでください。風や気象条件によって、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。

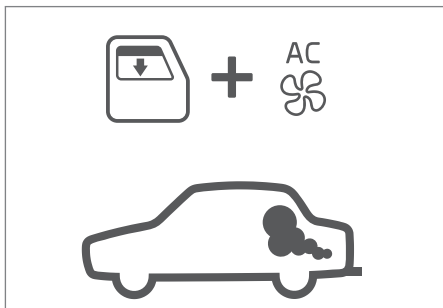
重要です。必ずお読みください。

◀



大雪で停車してしまった場合は、排気ガスの侵入に注意してください。

- 車の周囲に積もった雪や、特に排気管の出口を塞いでいる雪を取りはらってください。



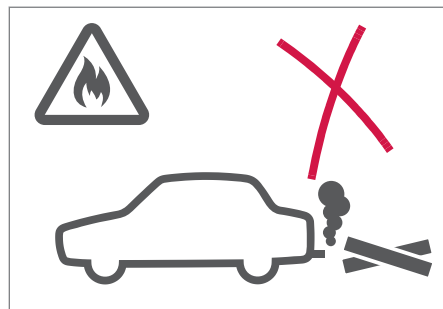
排気ガスの臭いがしたり、排気ガスが車内に侵入している疑いがある場合は、すべての窓

を開放してエアコンディショナーを作動させて換気してください。

ただちに車の点検、または整備を受けてください。そのまま放置すると、一酸化炭素(CO)中毒を起こすおそれがあります。

次のような場合も車内に排気ガスが侵入する原因となりますので、排気系統はときどき点検してください。

- 排気管などの排気系統に異常音が聞こえるとき。
- 車の床下まわりに錆が発生しているとき。
- 衝突などにより車が損傷を受けたとき。
- 走行中、路上の障害物などにより損傷を受けたとき。
- 修理や整備が正しく行われていなかったとき。
- その他、車や排気系統が不適切に改造されているとき。



可燃物の近くに、車を止めないでください。

- 車両後方や排気管付近に燃えやすい物があると、火災になるおそれがあり危険です。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を 60 cm 以上離して止めてください。木材との距離が短いと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあります。

エンジンルーム内に可燃物などがないことを確認してください。

- 走行前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないか確認してください。エンジンや排気管の熱により火災になるおそれがあります。
- 車両を長期間使用しなかった場合は、エンジンルーム内に小動物や鳥類によって持ち込まれた小枝などがないことを確認してくだ

重要です。必ずお読みください。

さい。エンジンや排気管の熱により火災になるおそれがあります。

- 走行中に焦げたような異臭などを感じたときは、ただちにエンジンを止めて車両から離れてください。

重要です。必ずお読みください。

エンジン始動時のご注意！



エンジン始動時は、ブレーキペダルを踏み、パーキング(駐車)ブレーキをかけて、トランスミッションのセレクターレバーをP(パーキング)の位置にしてください。

発進時のご注意！

オートマチック車を発進させるときは、以下の点にご注意して正しい方法で操作してください。

誤った方法で操作すると、思わぬ事故につながります。

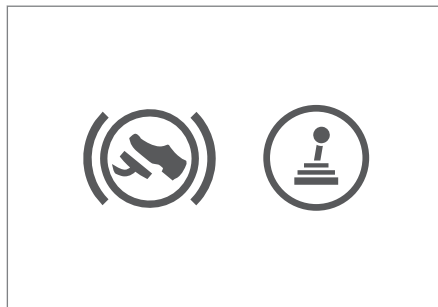
セレクトレバーを**P**(パーキング)または**N**(ニュートラル)から他へシフトするときは、アクセルペダルは踏まずに**必ずブレーキペダルを確実に踏みながら**行ってください。

- ブレーキペダルを踏まずに、セレクトレバーを**D**(ドライブ)または**R**(リバース)にシフトすると、アクセルペダルを踏まなくても車は動き出しますのでご注意ください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時など、アイドル回転が高いときは、車が動こうとする力が強くなるので特にご注意ください。

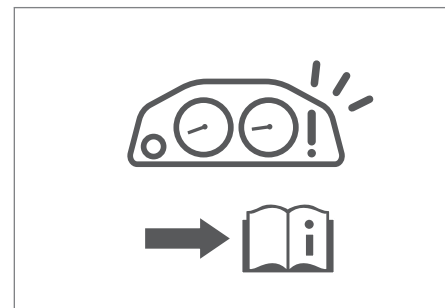
発進時はブレーキペダルを、ゆっくりゆるめることをつねに心がけてください。ブレーキペダルを徐々にゆるめてアクセルペダルを踏み込み、パーキングブレーキを解除します。

- 急発進を防ぐために、アクセルペダルは徐々に踏み込んでください。ルームミラーやドアミラーで、確認できない死角範囲があります。
- 発進するときは、周りの状況にも十分ご注意ください。

- 適切な始動方法と運転操作をご理解いただくために、「運転操作の要領」の説明もあわせてご覧ください。



重要な操作上のご注意！

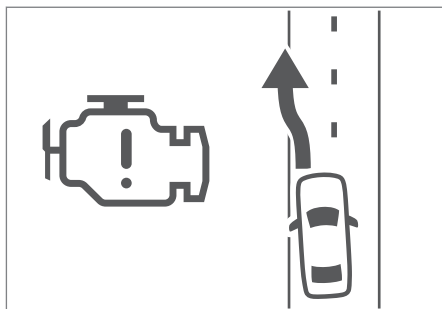


走行中にメーター・パネルにある警告灯が点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、オーナーズマニュアルに従って適切な処理をおこなってください。

- 走行中の車の状態にも注意し、いつもと違うエンジン、排気系統からの異音、臭い、運転感覚などの違いを感じた場合は、すみやかに点検を行ってください。そのまま走行を続けると、重大な事故につながるおそれがあります。

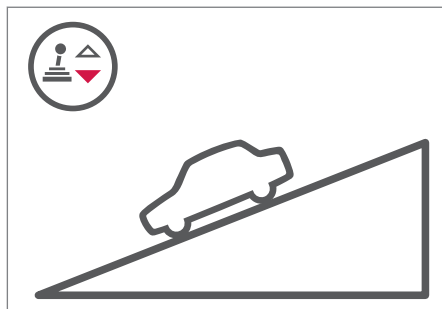
重要です。必ずお読みください。

◀



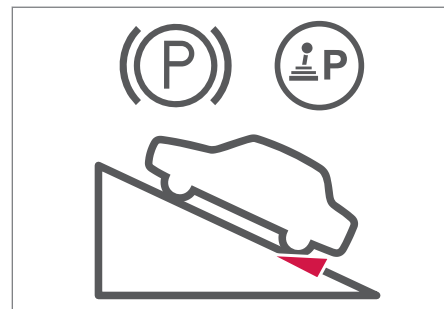
走行中にエンジンが停止した場合は、安全な場所に停車してください。

- 特に高速道路などで停車する場合は、後続車両に十分注意してください。
- 走行中にエンジンが停止すると、ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置の倍力補助が正常に作動しなくなるので、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドルが重くなります。

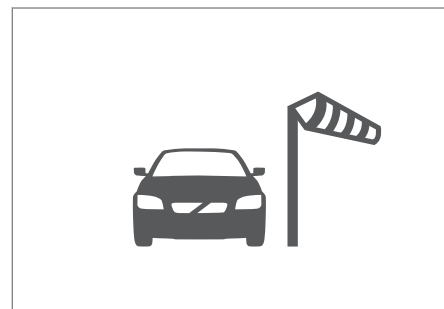


長い下り坂や急な坂道を下る場合は、低いシフトレンジにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。

- ブレーキペダルを踏み続けたり急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが過熱して効が悪くなり、最悪の場合は停止できなくなるおそれもあります。
- エンジンブレーキを使用する際は、車のコントロールを失ってしまうような過度な効かせ方をしないでください。



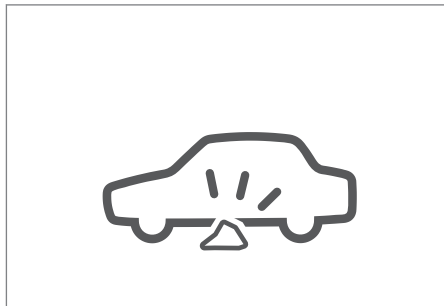
坂道で駐車する場合は、パーキングブレーキを確実にかけ、セレクトレバーをP(パーキング)に入れてください。さらに急な坂道では、タイヤに輪止めをしてください。



強風で車が横に流されるようなときは、ハンドルを確実に握りスピードはひかえめに走行してください。

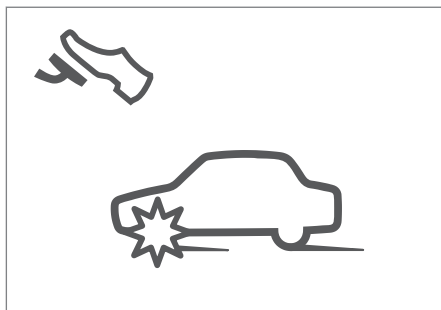
重要です。必ずお読みください。

- 特にトンネルの出口や橋、土手の上、山の切り通し、大型車を追い越したり追い越されたりする場合、強い横風が発生しやすいので十分ご注意ください。

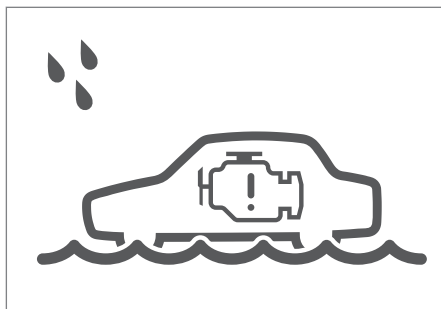


走行中に路上の障害物によって、車の床下に衝撃を受けた場合は、安全な場所に停車し、車の下にブレーキオイルや燃料などの漏れがないか、また各部に損傷がないかも必ず確認してください。

- そのまま走行を続けると、大変危険です。

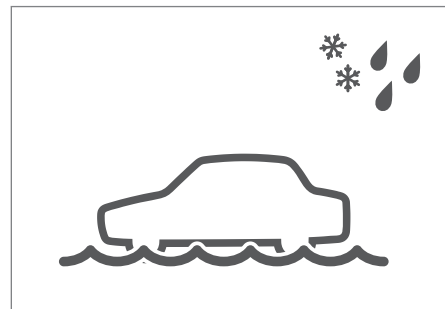


走行中にタイヤがパンクした場合は、タイヤ、ホイールを損傷させないように徐々にブレーキをかけてゆっくり減速してください。急ブレーキをかけると、ハンドルを取られて大変危険です。



水たまり走行後や洗車後は、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

- ブレーキペダルを軽く踏み、効き具合を確認してください。ブレーキの効きが悪いときは、しばらく低速で走行しながらブレーキペダルを軽く数回踏み、ブレーキを乾かしてください。

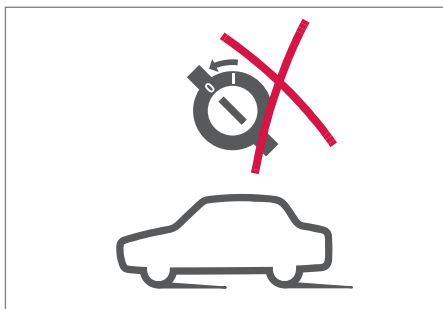


雨天時は路面が滑りやすくなっているので急加速、急ブレーキ、急ハンドルを避け、スピードをひかえめにして走行してください。

- 積雪路や凍結路など、普段と異なる環境で走行する場合は、特に慎重に運転してください。

重要です。必ずお読みください。

◀



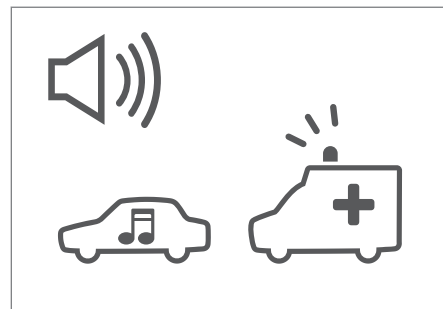
走行中は、エンジンを止めないでください。

- 走行中にエンジンを止めると、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドル操作も非常に重くなって事故につながるおそれがあります。
- リモートコントロールキーをロック位置にしてキーを抜くと、ハンドルがロックされてハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



走行中は、ハンドルやシートの位置を調節しないでください。

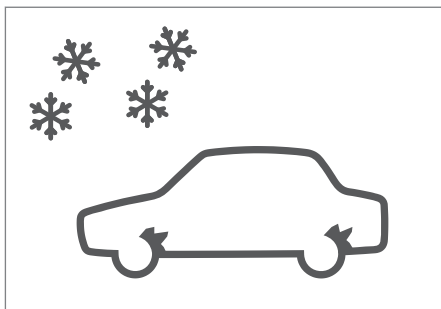
- 走行中に調節すると、正しい運転操作ができず重大な事故につながるおそれがあり大変危険です。



オーディオの音量はほどほどに、テレビやカーナビを見ながらの運転はおやめください。

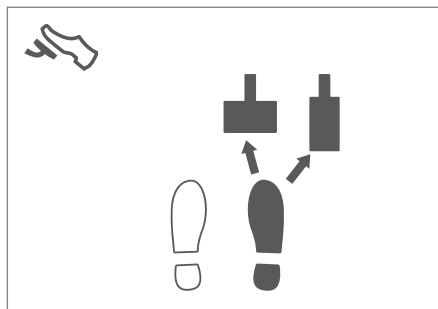
- 過大な音量で聞いていると、緊急車両が近づいてもわからない場合があります。
- テレビやカーナビを見ながら、あるいは携帯電話を使用しながらの運転も事故につながるおそれがあり大変危険です。また、道路交通法違反にもなります。

重要です。必ずお読みください。



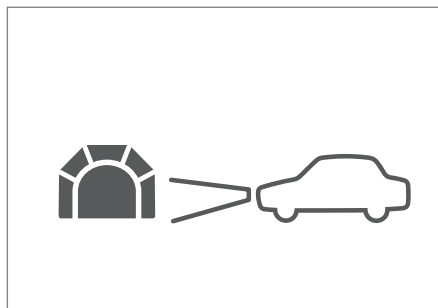
雪路を走行中は、はね上げた雪や氷が車のフェンダーの裏側に少しずつ溜まって氷結し、ハンドルの切れを悪くします。ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。

- ブレーキシステムに付着して、ブレーキの効きが悪くなる場合がありますので、ときどき軽くブレーキペダルを踏み、ブレーキの効き具合を確認してください。



ブレーキペダルはアクセルペダルのように、右足で踏む習慣をつけてください。

- 左足でのブレーキ操作は、緊急時の反応が遅れるなど適切なブレーキ操作ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

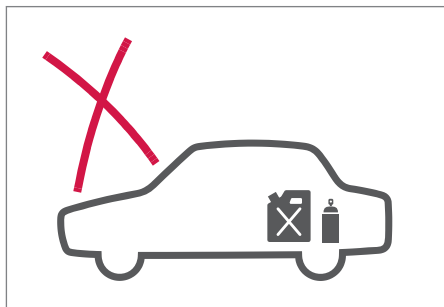


トンネル内を走行する際は、ライトを点灯して速度を落として進入してください。

- 照明が暗いトンネルでは、進入直後に急に視界が悪くなる場合がありますので注意してください。また、トンネルを出た後は、ライトの消し忘れにもご注意ください。

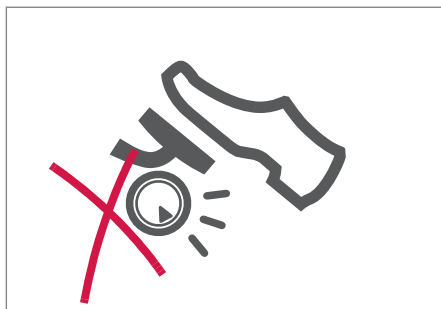
重要です。必ずお読みください。

してはいけないこと！



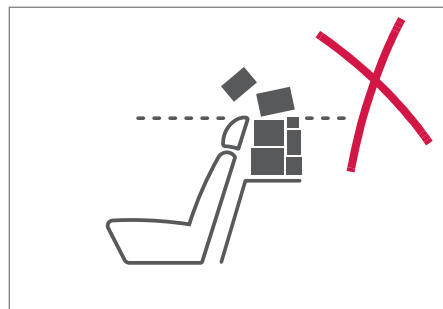
車内やラゲッジルーム内などに、燃料の入った容器やスプレー缶などの可燃物を載せないでください。

- 特に夏期には可燃物が気化しやすく、膨張して引火、爆発するおそれがあり大変危険です。



運転席の足元付近に、物を置かないでください。

- 空き缶などが足元にあると、アクセルペダルやブレーキペダルの下に挟まって操作の妨げとなり、重大な事故につながるおそれがあります。



荷物を、シートバックよりも高く積み上げないでください。また、後席のシートバックの後方にあるハットシェルフの上に、荷物を置かないでください。

- 急ブレーキや衝突の際に物が移動したり飛び出してケガをしたり、荷物が損傷して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 運転視界を妨げないためにも、荷物はできるだけラゲッジルームに載せ、あるいはシートバックの高さよりも低く水平に積み、走行中に荷物が動かないように確実に固定してください。



二人で、同一のシートベルトを使用しないでください。

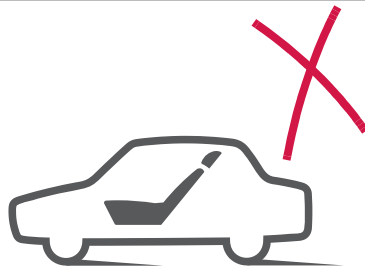
- 衝突した際に二人が互いにぶつかり合い、大ケガをするおそれがあります。また、シートベルトが本来の機能を発揮しません。



肩ベルトを、肩の後ろに通さないでください。また、脇の下に通したり、ベルトをね

じったり、たるみをつけて着用することもしないでください。

- 衝突の際に、上半身が前方へ移動してベルトの力が直接腹部にかかり、大ケガをするおそれがあります。



走行中はシートバックを、大きくリクライニングさせないでください。

- リクライニングしていると、衝突した際にシートベルトが十分に機能しないため、大ケガをするおそれがあります。

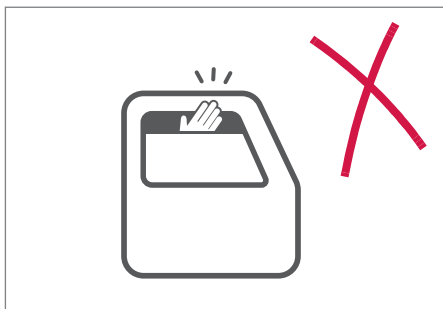


お子様をエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしないでください。

エアバッグが作動した際に衝撃を受け、大ケガをするおそれがあり大変危険です。乗車させる場合は、チャイルドシートを必ず使用してください。

重要です。必ずお読みください。

◀



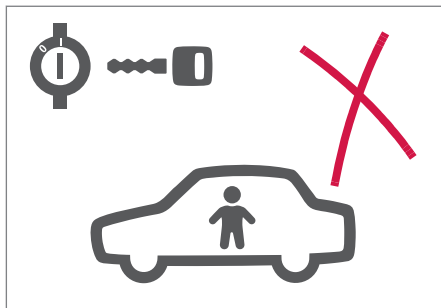
お子様にドアやパワーウィンドの操作をさせないでください。

- 閉めるときに手や頭などを挟んで、思わぬケガをするおそれがあり大変危険です。
- 走行中、あるいは後方を確認しないでドアを開けると、大変危険です。



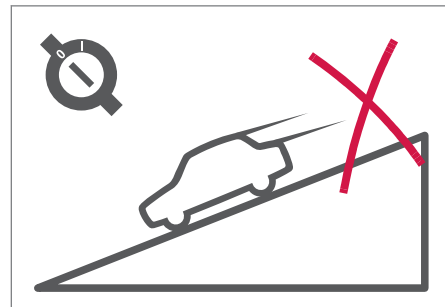
走行中にウィンドから顔や手を出さないでください。

- 車外の障害物に当たったり、急ブレーキの際に車外に投げ出されて、大ケガをするおそれがあります。



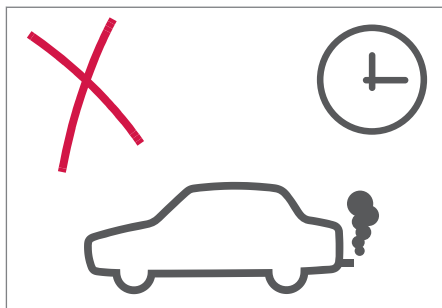
リモートコントロールキーを付けたまま、お子様を車内に残さないでください。

- お子様のパワーウィンドやその他の装置を動かしたり、あるいは車を発進させてしまう場合があります、大ケガをしたり火災や事故につながるおそれがあります。
- 車から離れる場合は、お子様も一緒にお連れください。また、リモートコントロールキーを必ず抜いてください。

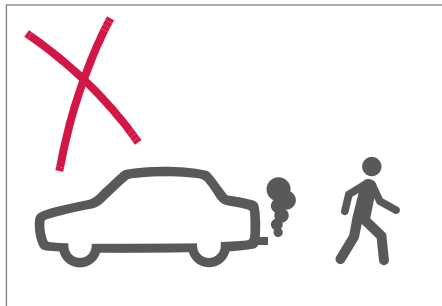


エンジンが停止しているときは、車を移動させないでください。車を少しでも移動する場合は、必ずエンジンを始動してください。

- エンジンが作動していないと、ブレーキペダルの踏み込みが硬くなり、ハンドル操作も重くなって思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 特に坂道を利用した移動は、事故を起こす可能性が高く危険です。



エンジンを始動したら、長時間アイドリングをしないでください。エンジンに悪影響を与え、燃費も悪くなります。

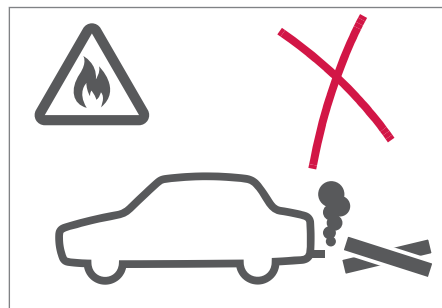


エンジンが作動しているときは、車から離れないでください。

- パーキングブレーキが完全にかけていない場合や、セレクトレバーがP(パーキ

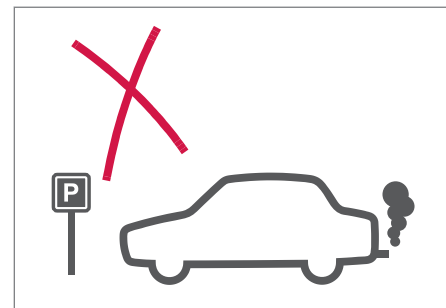
ング)に確実に入っていない場合、車が急に動き出すおそれがあります。

- 短い時間でも、車から離れたときに車内の貴重品を盗まれたり、車ごと盗難されるおそれがあります。



枯れ草や紙、木材など、燃えやすい物があるところで駐停車したり、走行しないでください。

- 排気管や排気ガスの熱により着火し、火災が発生するおそれがあります。
- 木材、ベニヤ板などが車両後方にあるときは、車両後端を 60 cm 以上離して止めてください。木材との距離が短いと排気ガスによって変色や変形したり、火災になるおそれがあります。

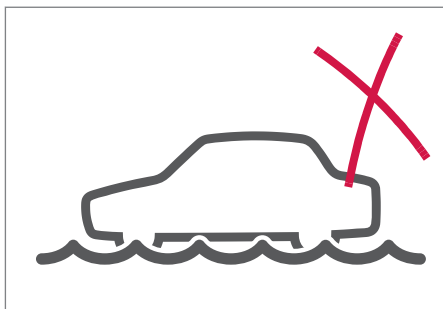


停車中に、エンジンを空吹かししないでください。

- セレクトレバーがP(パーキング)またはN(ニュートラル)以外にあると、車が動き出して思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。近隣の方の迷惑にもなります。

重要です。必ずお読みください。

44



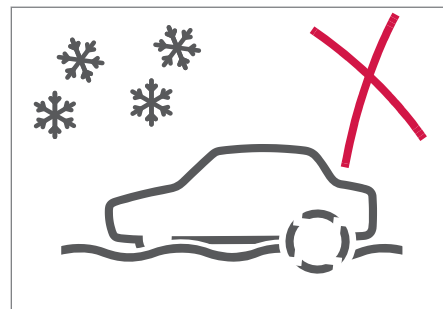
深い水たまりや冠水路は、走行しないでください。

- 水が吸気口や排気管からエンジンに侵入して、エンジンを損傷させるおそれがあります。
- 車内の床面に少しでも水が入ってしまった場合は、ただちに運転を中止してください。浸水した水が車の電子システムの作動に悪影響を与えて、誤作動するおそれがあり大変危険です。
- 冠水してエンジンが停止した場合は、絶対にエンジンを再始動させずに修理を依頼してください。エンジン内部が損傷する原因となります。



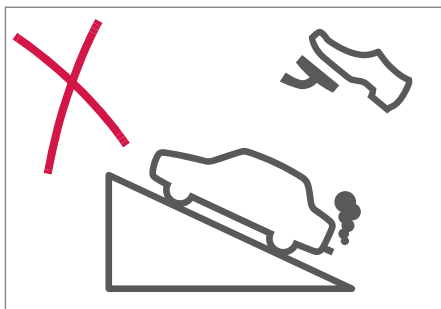
河原や砂地は、できる限り走行しないでください。

- タイヤ、床下、サスペンションなどを損傷し、さらには砂利石など障害物に挟まれたり、砂地にはまって脱出できなくなるおそれがあります。
- AWD 車といっても、万能ではありません。



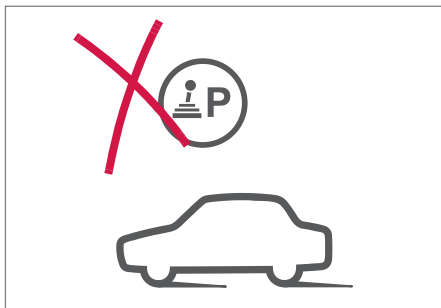
車が新雪やぬかるみにはまり込んでしまった場合は、脱出するときに高速でホイールスピンをさせないでください。

- タイヤを高速で回転させると、タイヤが破裂したり、車体や駆動システムが損傷して思わぬ事故につながるおそれがあります。



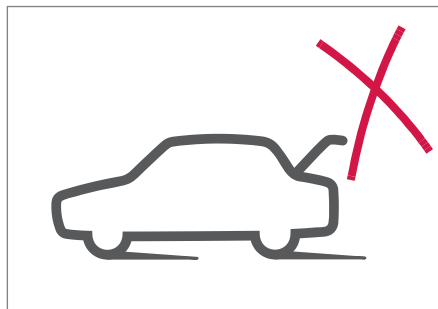
上り坂の途中で、ブレーキの代わりにアクセルペダルを踏んで、車を停止状態に保つことはしないでください。

- トランスミッションが損傷する原因となります。



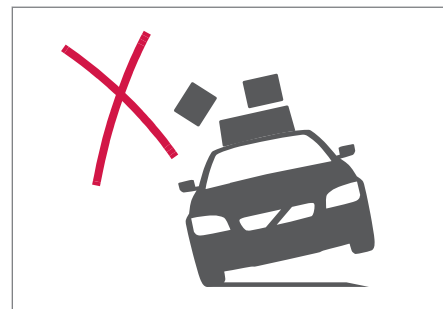
車が動いているときは、セレクトレバーをP(パーキング)に入れしないでください。

- 車が停止しているときにのみ、**P**(パーキング)にシフトしてください。走行中に**P**にシフトすると、トランスミッションが損傷します。
- 前進中に、**R**(リバース)にシフトしないでください。また、後退中に前進位置にシフトしないでください。トランスミッションが損傷する原因となります。



トランクリッドまたはテールゲートを開けたまま、走行しないでください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあり大変危険です。

- トランクリッドまたはテールゲートを開けたまま走行すると、車外の物などに当たったり、車内の物が落ちて、思わぬ事故につながるおそれがあります。

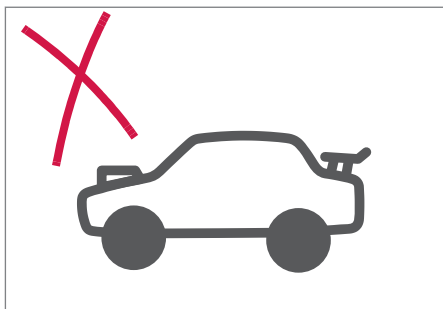


ルーフには直接、物を載せしないでください。

- 荷崩れなどを起こして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ロードキャリアなどを付けた場合でも、重い物や大きな物は載せしないでください。重心が高くなり、走行不安定になり大変危険です。

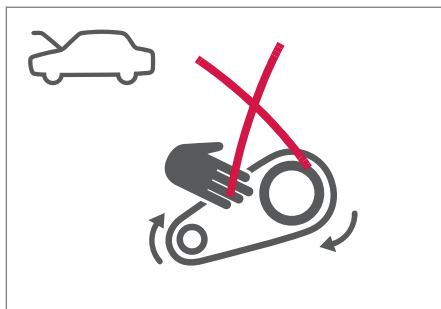
重要です。必ずお読みください。

◀◀



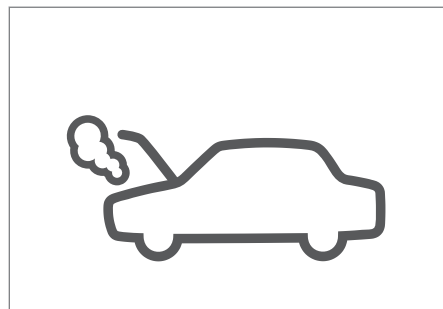
違法改造はしないでください。

- 車の性能や機能に適さない部品を装着すると故障の原因となったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ボルボ純正部品を、必ずご使用ください。

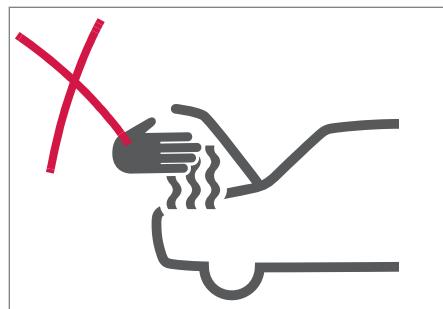


エンジン作動中は、ドライブベルトなど回転している部分に手や衣服、髪の毛などを近付けないでください。

- 電動クーリングファンは、エンジン停止中でも自動的に回転する場合があります大変危険です。ご注意ください。

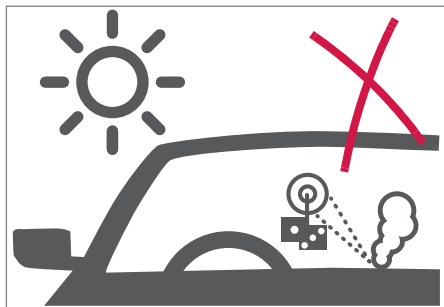


過熱したエンジンから噴き出す蒸気によって、ボンネットを開けただけでも大ヤケドをするおそれがあります。蒸気が噴き出すのが見えたり、噴き出す音が聞こえた場合は、エンジンに近寄らないでください。



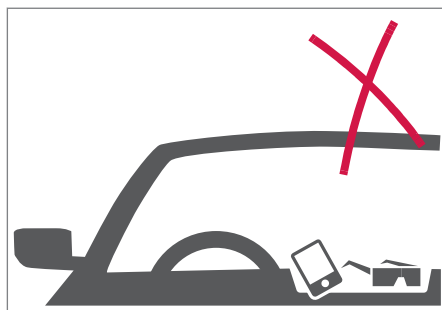
エンジンやラジエータが熱いときは、エキスパンションタンクキャップを開けないでください。

- 沸騰した液体と蒸気が噴き出して、ヤケドをするおそれがあります。冷えるまでお待ちください。



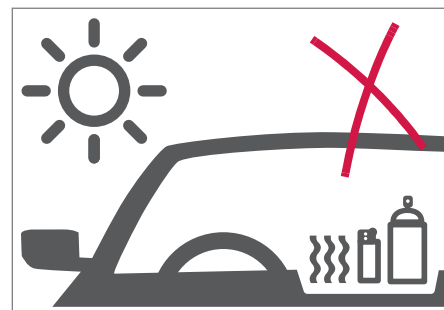
ウインドスクリーンに、アクセサリなどを取り付けしないでください。

- 運転視界を妨げたり、吸盤などがレンズの役目をして火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。



メーター・パネルやダッシュボードの上に、物を置いたまま走行しないでください。

- 運転視界を妨げたり、発進時や走行中にそれらが移動して、安全運転の妨げになります。
- 衝突の際にエアバッグが正常に作動せず、大ケガをするおそれがあります。



車内にライターやスプレー缶、炭酸飲料などの缶類を、放置しないでください。

- 炎天下などに駐車していると、車内が高温になり、ライターなどの可燃物が自然発火したり、缶類が破裂するおそれがあり大変危険です。

重要です。必ずお読みください。

44



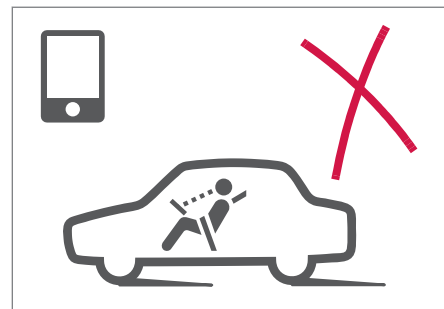
ジャッキアップした車の下には、絶対に入らないでください。

- ジャッキが突然外れて、大ケガをするおそれがあり危険です。また、ジャッキは必ず水平な場所で、正しいジャッキ取り付け位置にあてがってください。
- ジャッキをかけたまま、エンジンをかけないでください。車が突然動き出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤ交換の際、車が動き出さないようにパーキングブレーキをかけ、地面に接しているタイヤの前後に輪止めをしてください。



エアバッグ装置を、ご自分で修理・交換しないでください。

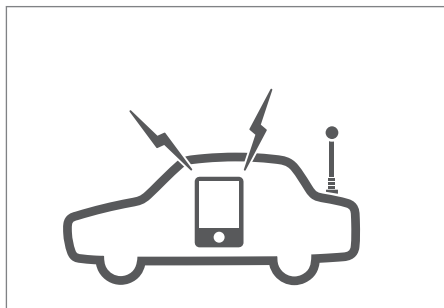
- エアバッグ装置の修理・交換は、必ずボルボ指定のサービス工場にご用命ください。ご自分で不適切な修理・交換を行うと、誤って作動して大ケガをしたり、正常に作動しないおそれがあり大変危険です。



運転中はナビゲーションシステムを眺め続けたり、携帯電話を使用したりしないでください。

- 運転中のナビゲーションシステム(RTI など)の注視/使用により前方不注意となり、事故を起こす原因となります。
- 携帯電話を探したり、電話の操作に気をとられる、また、会話に夢中になるなどして、運転に集中できず大変危険で、事故を起こす原因となります。また、道路交通法違反にもなります。

その他使用上のご注意！



車に無線機、自動車電話などの電子機器を取り付けると、エンジンなどを制御する電子システムの作動に障害を与える場合があります、正常な走行ができなくなったり最悪の場合、火災など、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

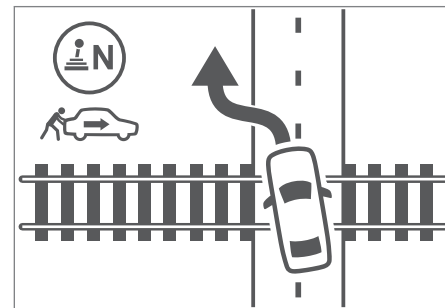
- このような装置を取り付ける際は、必ずボルボ指定のサービス工場にご相談ください。



走行中の飛び石などによるボディの傷は、すみやかに補修をしてください。また、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰などがボディにかかった場合も、すみやかに洗い流すなどして取り除いてください。

- ボディの傷をそのままにしておくと、塗装面ばかりではなくボディそのものを腐食させてしまいます。
- 鳥の糞などの成分で塗装を急速に変色させ、洗っただけでは取れないシミが残ります。

踏切などで動けなくなったとき！



安全な場所まで押し出してください。(シフトレバーは、N(ニュートラル)位置にしてください)ただし、列車が近づいている場合は、ただちに全員安全な場所に避難してください。

- ただちに、車から全員降りて安全な場所に避難してください。
- 踏切から脱出できない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがない所では、非常信号用具/懐中電灯や目立ちやすい赤い布などで、安全な場所から列車に合図してください。

重要です。必ずお読みください。

万が一、事故を起こしてしまったら ...



事故現場での対処法は、次の通りです。

事故発生

ケガ人を救助する：

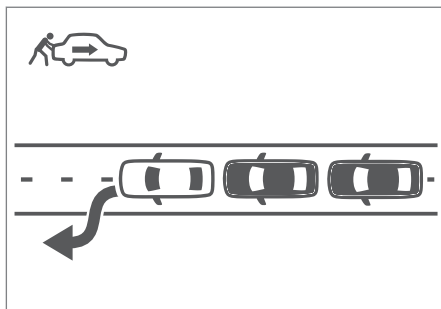
- どんなに軽いケガでも病院へ。ただし、むやみにケガ人を動かさない方がよい場合があります。必要であれば救急車を呼んでください。（警察・消防に連絡するときは、場所や目印になるもの、ケガ人の状況、事故の様子などを伝える。）

加害者、被害者に関わらず、相手を確認する：

- 氏名、住所、勤務先、車の登録番号（ナンバープレート）、相手の加入先の保険会社名、証券番号、契約者名などを確認する。

可能であれば、車を安全な場所に移動する：

- 渋滞や二次災害を起こさないように。



事故状況を確認してメモをとる：

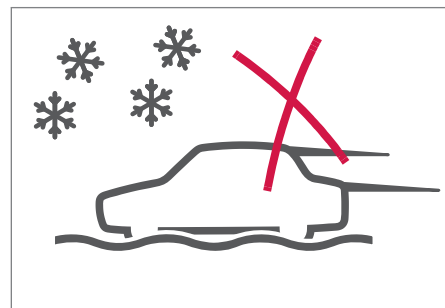
- スピード、信号、停車位置などを確認します。目撃者の証言も重要です。忘れない内にメモしましょう。



必ず警察に連絡をする：

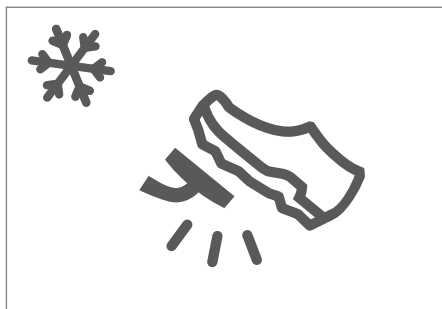
- 警察に事故届を、必ず出してください。

冬道での安全走行のポイント！

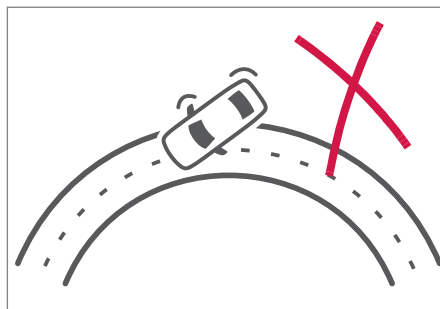


路面の積雪、雪質、凍結状況に応じた適切な運転を行ってください。

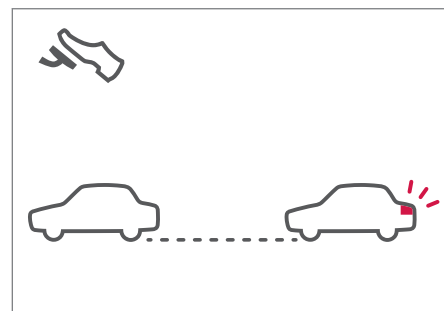
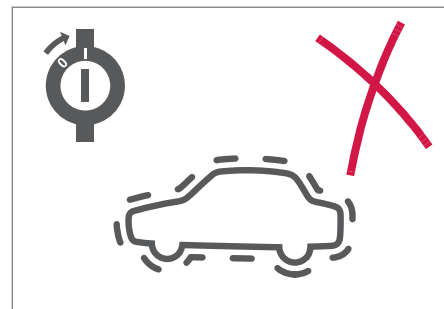
- 車に雪が積もっている場合は、雪を落としてから走行してください。
- 車に雪が積もっている場合、ドアの開閉時に車内に入らないようにご注意ください。
- 降雪時や前走車で巻き上げられる雪煙などで、視界が妨げられるのでご注意ください。また、ヘッドライトやテールランプに付着した雪は、こまめに取り除いてください。



- ペダル操作を誤らないように、靴底の雪などを落としてください。
- ブレーキは一度に強く踏み込まずに、ソフトに踏んでください。
- 急ハンドルは避けて、スムーズなハンドル操作をしてください。
- 交差点付近やカーブの手前では、早めに減速してください。



- 急なアクセル操作によるスリップを避けるため、カーブは一定の速度で走行してください。
- 橋の上や山間部では、凍結やスリップにご注意してください。
- 日中でも、日陰などは雪や氷が残っている場合がありますので、十分ご注意ください。



急発進は避け、ゆっくり発進してください。

- ブレーキは早めに踏んでください。急ブレーキは避けて、エンジンブレーキを上手に使用してください。
- 下り坂では、エンジンブレーキを有効に使用してください。状況に応じて、シフトダウンしてください。

重要です。必ずお読みください。

- 車間距離は十分にとり、車線変更は慎重に行ってください。
- つねに、2～3 台前の車の動き・状況を見て、判断するようにしてください。
- 車両前部を風下に向けて、**パーキング(駐車)ブレーキ**はかけずに、**P**位置に入れてください。パーキング(駐車)ブレーキを使用すると、凍り付くおそれがあります。
- ワイパーブレードがウインドスクリーンに凍り付いてしまわないように、ご注意ください。
- ドアキーシリンダーが凍り付いてしまう場合がありますので、ご注意ください。

タイヤ・ホイールについて！

- タイヤローテーションをする場合、タイヤのサイドウォール部にタイヤの回転方向(→)が表示されている際には、前進方向のタイヤの回転方向に合わせて、すべてのタイヤの(→)が前進方向になるように装着してください。
- 積雪路など走行時は、ウインタータイヤの残り溝が新品時の 50 %以上ある(トレッドに残り溝マークが出ていない)ことを確認してください。溝の深さが 50 %未満のウインタータイヤは、ウインタータイヤとしての機能を十分発揮しません。
- スチールおよびアルミホイールに、亀裂、変形などの損傷や著しい腐食があるもの、また溶接や手直した物は絶対に使用しないでください。
- タイヤやリムの側面を縁石に接触させたり、道路上の物体や段差を乗り越えたりすることを避けてください。タイヤやリムに傷が付くおそれがあります。
- 急発進、急加速、急停止、急旋回は、大変危険ですので絶対にしないでください。特に、積雪路など滑りやすい道路では、事故を起こすおそれがありますので、カーブでは減速するなど道路状況に応じた適切な運転をしてください。
- 走行中は、つねに走行速度に応じた車間距離を取ってください。特に、積雪路など滑り

やすい道路走行時は、十分な車間距離を取ってください。

- 走行中に操縦不安定、または異常な音および振動を感じたときは、すみやかに安全な場所に停車して、車両およびタイヤなどを点検してください。外観上、異常が見当たらなくても、早い時期にボルボ指定のサービス工場に点検を依頼してください。
- 瞬間パンク修理剤、またはタイヤ艶出し剤などで、タイヤに劣化など有害な影響をおよぼすおそれのあるものは、使用しないでください。
- タイヤのタイプやサイズを変更したとき(ウインタータイヤ↔夏タイヤ)などの場合は、タイヤの運動特性・操縦特性が変化しますので、十分注意して運転してください。
- ウインタータイヤで乾燥舗装路を走行する場合は、急発進、急加速、急停止、急旋回を避けて、安全運転を心がけてください。
- 車体と接触する状態で、タイヤを装着しないでください。また、フェンダーからはみ出すタイヤ・ホイールの装着は、違法改造となりますので、絶対にしないでください。なお、フェンダーからはみ出さない場合でも、ホイールハウスの内側、フェンダーの折り返しなどとの干渉にも注意してください。
- タイヤを取り外して保管する場合は、直射日光、雨および水、油類、その他熱源、火花などがつかないようにしてください。

重要です。必ずお読みください。

- ホイールバランス調整時は、必ず4本調整してください。
- 定期的にホイールボルト・ナットの締め付け状態、ホイールバランスウェートの取り付け状態を確認してください。
- 自動洗車機を使用するとアルミホイールに傷が付くおそれがありますので、なるべく手作業で行ってください。

タイヤチェーンについて！

- 装着するタイヤとサイズが合ったタイヤチェーンを装着してください。
- タイヤチェーンの装着を、事前に練習してください。
- タイヤチェーンは、必ず前輪左右に同じ物を装着してください。
- タイヤチェーン装着時、車体との隙間が十分にある事を確認してください。（詳しくは、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。）
- タイヤチェーンの脱着は、安全な場所で行ってください。
- タイヤチェーンを脱着する際に車を動かす場合は、チェーンの金具類をタイヤで踏まないでください。
- タイヤチェーン装着後、約 200 m 程走行して異常な音、振動などがないか確認し、安全な場所で停車して再度、タイヤチェーンの取り付け状態を確認してください。
- タイヤチェーン装着時は、時速 50 km/h (30 mph) 以下で走行してください。
- タイヤチェーン装着時は、急発進、急加速、急停止、急旋回やタイヤを空転させる運転は絶対にしないでください。
- タイヤチェーン装着走行中、異常な音や振動がしたら、安全な場所に車を止めて点検してください。

- 雪のない舗装路面を、タイヤチェーンを装着して連続走行しないでください。

重要です。必ずお読みください。

燃料補給時のご注意！

燃料補給時は、次の事項を必ず守ってください。
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、ヤケドをするおそれがあります。

- エンジンは、必ず止めてください。
- 車のドア、窓を閉めてください。
- タバコなどの火気を、近付けないでください。
- 燃料の給油口にポンプのノズルを挿入する前に、車両のボディまたは給油機などの金属部分に触れて、必ず身体の静電気除去を行ってください。
- 給油口のフラップを開くなどの給油操作はすべて、必ず一人で行ってください。（複数で行うと、静電気が除去できない場合があります。）
- 給油中、再び車内のシートに戻らないでください。（座ることで再帯電する場合があります。）
- 給油口に、他の人を近付けないでください。
- ガソリンスタンドの計量器が、最初に自動停止した時点で給油をやめてください。過度に給油すると、気温が高いときに燃料が外に漏れ出すおそれがあり、大変危険です。



- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を必ず守ってください。
- アルコール系燃料や不適切な燃料添加剤を給油/使用すると、走行性能の悪化、およびエンジン/燃料系統に重大な障害を与え、燃料漏れなどの不具合や火災などの事故にいたる危険性があり、また車を長期間ご使用されずにいた場合、燃料が劣化するおそれがあります。

必ず、適正なガソリンをご使用ください。

- ディーゼルエンジン搭載車にディーゼル以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- ガソリンエンジン搭載車にガソリン以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- 指定グレードの燃料を使用してください。
- 誤った燃料を少量でも使用すると、燃料系統やエンジンが損傷するおそれがあります。

保証とアフターサービス

保証書(別冊)

- 保証書は、必ず「お名前、ご住所、ディーラー名」などの必要事項が記入され、ディーラー印が押印されていることをご確認の上、保証規定の内容をよくお読みください。保証書は、大切に保管してください。保証期間、保証内容などは、保証書(別冊)に記載しています。

修理を依頼されるとき

- お買い上げいただいたボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。なお、保証期間中に修理を依頼される際は、保証書/メンテナンスノート(整備手帳)、点検整備記録簿をご提示ください。保証規定に示す条件に従って、ボルボ指定のサービス工場で修理させていただきます。

ご不明な点や修理に関するご相談

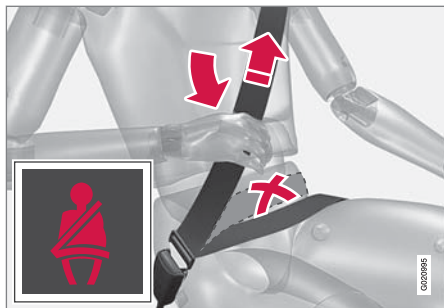
- 修理などに関するご相談、ご不明な点は、お買い上げいただいたボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。

なお、故障などの緊急時にボルボディーラー、またはボルボ指定のサービス工場に連絡が取れない場合(定休日など)は、ロードサイド・アシスタンスサービス、JAF などに対応を依頼してください。

セーフティ

シートベルトについて

シートベルトを着用していないと、急ブレーキの際に大ケガをしたり、生命に危険がおよぶおそれがあります。走行中は、乗員全員が必ずシートベルトを着用してください。



斜めにかかった肩ベルトを肩の方に引き上げて、腰ベルトを締めてください。腰ベルトは、腹部を避け、必ず腰の低い位置にかけてください。

シートベルトの保護機能が最大の効果を発揮するためには、シートベルトが体に密着していることが重要です。バックレストはできるだけ倒さずに、立てた位置で使用してください。シートベルトは、通常の着座姿勢のときに効果を発揮するようにできています。

シートベルトを着用していない乗員に対して、警告音と警告灯 (p. 63) でシートベルトの着用 (p. 61) を促します。

次のことに注意してください

- シートベルトにクリップなどを取り付けしないでください。正常な着用ができなくなるおそれがあります。
- シートベルトがねじれていたり、なにかに引っかかるようなことがないようにしてください。

⚠ 警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

⚠ 警告

各シートベルトは1人用です。

⚠ 警告

ご自身で、シートベルトの改造や修理を絶対にしないでください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

衝突などが原因でシートベルトに大きな力が加わった場合は、必ずシートベルト装置全体を交換してください。シートベルトに損傷が見当たらなくても、体を保持する力が失われているおそれがありますのでご注意ください。シートベルトがすり切れていたり損傷している場合は、新しいシートベルトと交換してください。新しいシートベルトは必ず認定されたタイプを使用し、交換前と同じ位置に取り付けてください。

関連情報

- シートベルト - 妊娠中 (p. 62)
- シートベルト - 外す (p. 62)
- シートベルトテンショナー (p. 63)

シートベルト - 着用

走行を開始する前にシートベルト (p. 60) を着用してください。

シートベルトをゆっくり引き出し、ロックタブをシートベルトバックルに押し込んでください。ロックすると、カチッと音がします。



正しく装着されたシートベルト



不適切に装着されたシートベルト。シートベルトは必ず肩にかけてください。



シートベルト高さ調節ボタンを押して、ベルトを上下に動かしてください。ベルトがのどにかからない範囲で、ベルトをできるだけ高い位置に配置してください。

中央リアシートのシートベルトのロックタブは、専用のバックルにのみロックできるようになっています。

次のことに注意してください

以下のような場合には、シートベルトがロックして引き出せなくなります：

- シートベルトを急激に引き出したとき。
- ブレーキ時や加速時。
- 車体が大きく傾いたとき。

関連情報

- シートベルト - 妊娠中 (p. 62)
- シートベルト - 外す (p. 62)
- シートベルトテンショナー (p. 63)
- シートベルトリマインダー (p. 63)

シートベルト - 外す

車両が停止しているときにシートベルト (p. 60) を外してください。

シートベルトバックルの赤いリリースボタンを押すと、シートベルトは自動的に巻き取られます。シートベルトが完全に巻き取られない場合は、手で押し戻して、ゆるみが残らない状態まで完全に巻き取らせてください。

関連情報

- シートベルト - 着用 (p. 61)
- シートベルトリマインダー (p. 63)

シートベルト - 妊娠中

妊娠中もシートベルト (p. 60) をつねに着用してください。シートベルトは正しく着用することが重要です。



肩ベルトは肩から胸の中央を通り、腹部の横にくるようにかけてください。

腰ベルトは、骨盤のできる限り下の位置にかけてください。絶対に腹部を圧迫しないように注意してください。シートベルトはゆるみがない状態で、体に確実に密着させてください。さらに、シートベルトがねじれていないことを点検してください。

妊娠中の運転では、妊娠月が進むにしたがって、フットブレーキやステアリングホイールの操作など車両の操作がしやすいようにシート (p. 117) およびステアリングホイール (p. 121) を調節してください。シートを腹部

とステアリングホイールの間の距離が最大となる場所に配置してください。

関連情報

- シートベルト - 着用 (p. 61)
- シートベルト - 外す (p. 62)

シートベルトリマインダー

シートベルトを着用していない乗員に対して、警告音と警告灯でシートベルトの着用 (p. 61) を促します。



警告音は車速に応じて作動し、また時間に応じて作動する場合もあります。警告灯は、ルーフコンソールおよびコンバインド・メーター・パネル (p. 98) にあります。

チャイルドシートは、シートベルトリマインダーの対象外となります。

リアシート

リアシートのシートベルトリマインダーには、2つの補助機能があります：

- リアシートのシートベルト (p. 60) の使用状況を、インフォメーション・ディスプレイに表示します。シートベルトが使用されている場合、またはリアドアのいずれかが開かれ

た場合には、コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。メッセージは、約 30 秒間走行すると自動的に消えます。または、方向指示器レバーの **OK** ボタン (p. 144) を押して確認すると消えます。シートベルトを着用していない乗員がいる場合には、方向指示器レバーの **OK** ボタンを押して手動で確認した場合のみ消えます。

- 走行中に、いずれかのリアシートベルトが外されると作動します。コンバインド・メーター・パネルにメッセージが表示され、警告音/警告灯が作動します。この警告は、シートベルトを再び着用するか、または **OK** ボタンを押して確認すると停止します。

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイには、どのシートベルトが使用中かが表示されます。この情報はいつでも利用できます。

シートベルトテンショナー

運転席および助手席、外側リアシートのシートベルト (p. 60) には、シートベルトテンショナーが装備されています。衝突により一定レベル以上の衝撃を受けると、シートベルトのゆるみを素早く取り除きます。衝突の際に、乗員をより効果的に保護します。

⚠ 警告

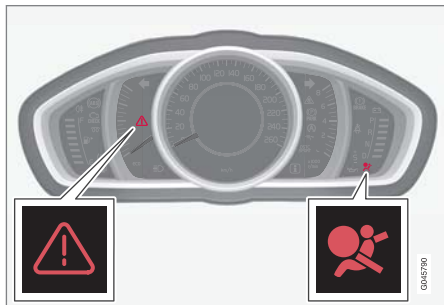
助手席側シートベルトを、運転席側シートベルトバックルに絶対に差し込まないでください。シートベルトは、必ず正しい側のバックルに差し込んでください。シートベルトに傷を付けたり、バックルの中に異物を入れたりしないでください。衝突時にシートベルトやバックルが正常に機能しないおそれがあります。大ケガを負うおそれがあります。

関連情報

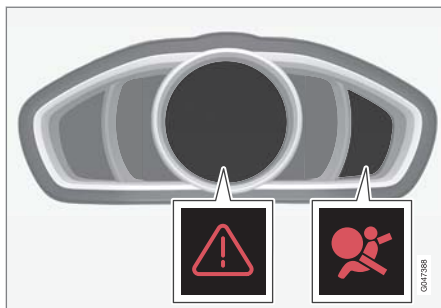
- シートベルトについて (p. 60)

セーフティ - 警告灯

警告灯は、故障診断中に不具合が検出されるか、システムが既に起動されている場合に表示されます。必要な場合には、警告灯がメッセージと共にコンパインド・メーター・パネル (p. 98) のインフォメーション・ディスプレイに表示されます。



アナログ式コンパインド・メーター・パネルのエアバッグシステム (p. 65) 三角警告灯および警告灯



液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネルのエアバッグシステム三角警告灯および警告灯

リモートコントロールキーのキー位置 II (p. 115) であればコンパインド・メーター・パネルに警告灯が点灯し、イグニッションがオンにされるたびに故障診断が実行されます。システムに不具合がなければ、警告灯は約 6 秒後に消灯します。

警告灯は、故障診断中に不具合が検出されるか、システムが既に起動されている場合に表示されます。必要な場合には、警告灯がメッセージと共にコンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに表示されます。警告灯に不具合がある場合は、三角警告灯が点灯して、ディスプレイに **SRSエアバッグ サービスが必要です** または **SRSエアバッグ 直ちにサービスが必要です** が表示されます。ただちに、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

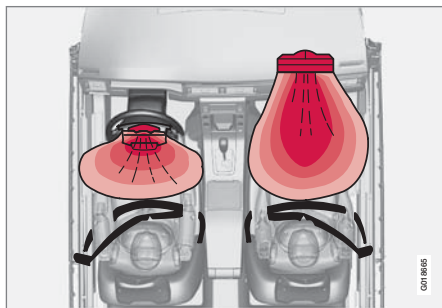
エアバッグシステムの警告灯が点灯し続けたり、走行中に点灯した場合は、エアバッグシステムの機能に不具合があることを示しています。エアバッグの警告灯が点灯した場合、シートベルトテンショナーシステム、SIPS、IC システム、またはその他のシステムに不具合が発生しているおそれがあります。すみやかに、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

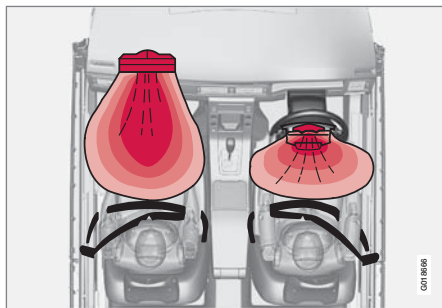
- セーフティモードについて (p. 74)

エアバッグシステム

前面衝突の際、エアバッグシステムが運転者と助手席乗員の頭部、顔面、胸部を衝撃から保護します。



上から見たエアバッグ、左ハンドル車



上から見たエアバッグ、右ハンドル車

このシステムは、エアバッグとセンサーで構成されています。衝突事故により一定レベル以上の衝撃を受けると、センサーが反応してエアバッグが膨張し、高温になります。エアバッグにより、衝突時に乗員に対する当初の衝撃が緩和されます。エアバッグは、衝突による圧力がかかると内部のガスが抜け、収縮します。このとき、車内に煙が放出されますが、これは異常ではありません。エアバッグが膨張・収縮する一連の動作は、瞬間的に行われます。

エアバッグが作動したときは、次の指示に従ってください。

- 車両を回収してください。車両をボルボ指定のサービス工場に搬送します。エアバッグ作動後は、絶対に自走しないでください。
- ボルボ指定のサービス工場に、車両のセーフティシステム部品の交換を依頼してください。
- 医師の診察を必ず受けてください。

⚠ 警告

エアバッグコントロールモジュールは、センターコンソールの中にあります。センターコンソールに、水やその他の液体が入った場合は、バッテリーケーブルの接続を外してください。エアバッグが展開するおそれがありますので、エンジンを始動しないでください。この場合、車両を回収します。車両をボルボ指定のサービス工場に搬送してください。

⚠ 警告

エアバッグ作動後は、絶対に自走しないでください。エアバッグによってハンドル操作が妨げられるおそれがあります。他のセーフティシステムも損傷を受けているおそれがあります。エアバッグ作動時に放出された煙や埃が原因で、目や皮膚に傷や炎症を起こす場合があります。炎症を起こした場合は、冷水でよく洗ってください。エアバッグの展開速度は極めて速く、エアバッグの布との摩擦熱で皮膚にヤケドや擦過傷を負うおそれがあります。



⚠ 警告

修理は、必ずボルボ指定のサービス工場に依頼してください。エアバッグシステムへの作業に不具合があると、誤作動につながり、大ケガをするおそれがあります。

ⓘ 注意

センサーは、衝突の性質やシートベルトが着用されているかどうかを判断し、それに応じて反応します。これは、センターリアシート以外の全席に該当します。

そのためエアバッグ1つだけが作動する場合や、1つも作動しない場合があります。センサーは、車両が受けた衝撃の強さを感知して、必要なエアバッグだけを作動させます。

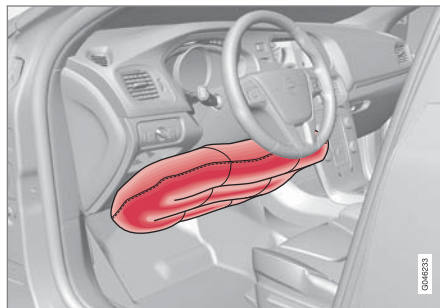
関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 66)
- 助手席側エアバッグ (p. 67)
- セーフティ - 警告灯 (p. 64)

運転席側エアバッグ

シートベルト (p. 65) の補助として、運転席側にエアバッグ (p. 60) が2つ装着されています。

このうち一つは、ステアリングホイールの中央に収納されています。ステアリングホイールに **AIRBAG** の文字が表示されています。



左ハンドル車の運転席側ニー(膝)エアバッグ

もうひとつのエアバッグ(膝の高さ)は運転席側ダッシュボードの下側にあり、このパネルには **AIRBAG** と表示されています。

⚠ 警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

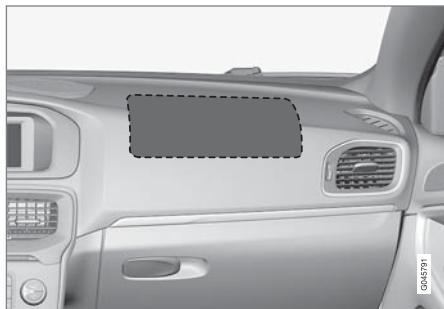
関連情報

- 助手席側エアバッグ (p. 67)

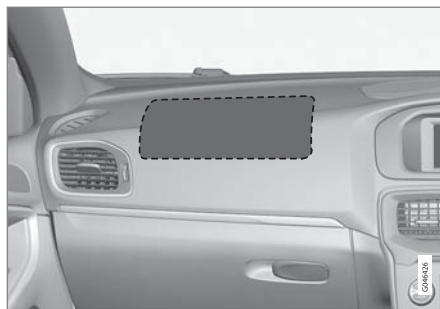
助手席側エアバッグ

シートベルト(p. 60)を補助する目的で、助手席側にエアバッグ(p. 65)が装備されています。

このエアバッグは、グローブボックス上のパネル内に収納されています。パネルに、**AIRBAG**の文字が表示されています。



助手席側エアバッグの位置(左ハンドル車)



助手席側エアバッグの位置(右ハンドル車)

助手席側エアバッグラベル



助手席側サンバイザーのラベル



助手席側ドアビラーのラベル。ラベルは助手席側ドアを開くと見えます。

助手席側エアバッグの警告ラベルは、前図の位置に表示されています。

⚠ 警告

後ろ向きのチャイルドシートはエアバッグが作動可能状態のシート上で絶対使用しないでください。この指示を守らないと、お様が死亡するまたは重傷を負う可能性があります。



⚠ 警告

シートベルトとエアバッグの作動は、連動しています。シートベルトを着用していない場合、または着用方法が正しくない場合は、衝突の際にエアバッグの保護機能が最大限に働かないおそれがあります。

エアバッグ作動時にケガをする危険を減らすため、乗員は背中全体がバックレストに接するように背筋を伸ばしてまっすぐに座り、足はフロアに置いてください。シートベルトを必ず着用してください。

⚠ 警告

助手席側エアバッグが装着されているダッシュボードの前や上には、絶対に物を置いたりアクセサリなどを取り付けないでください。

⚠ 警告

助手席シートの前には、絶対に誰も立たせたり座らせたりしないでください。

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

助手席側エアバッグが無効になっている場合、絶対に乗員（お子様および大人）を前向きで助手席に座らせないでください。

この指示を守らないと、命を危険にさらす、または大ケガをするおそれがあります。

スイッチ - PACOS*

車両に PACOS (Passenger Airbag Cut Off Switch) が装着されている場合は、助手席側エアバッグの作動をオフ (p. 68) にすることができます。

⚠ 警告

車両に助手席側エアバッグが装備されており、PACOS (Passenger Airbag Cut Off Switch) がない場合には、エアバッグはつねに作動可能状態です。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 66)
- チャイルドシート (p. 79)

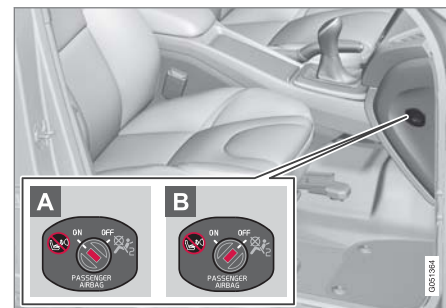
助手席側エアバッグ - 作動/解除*

助手席側エアバッグ (p. 67) は、車両に PACOS (Passenger Airbag Cut Off Switch) スイッチが装備されている場合にはオフにすることができます。

スイッチ - PACOS

助手席側エアバッグの PACOS スイッチは、ダッシュボードの助手席側端にあります。助手席ドアを開けて操作します。

スイッチが希望の位置になっているか確認してください。リモートコントロールキーのキーブレード (p. 204) を使用して位置を変更してください。



エアバッグスイッチの位置

- A ON** - エアバッグが作動可能状態になっています。スイッチがこの位置にあるときは、す

* オプション/アクセサリ。

すべての乗員(大人およびお子様)が助手席に前を向いて安全に座ることができます。

- B OFF** - エアバッグが非作動状態になっています。スイッチがこの位置にあるときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを使用して、お子様を安全に助手席に座らせることができます。

⚠ 警告

助手席側エアバッグが作動可能状態の場合：

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

助手席側エアバッグが非作動状態の場合：

助手席側エアバッグが無効になっている場合は、絶対に乗員(お子様および大人)を前向きで助手席に座らせないでください。

この指示を守らないと、命を危険にさらす、または大ケガをするおそれがあります。

① 注意

リモートコントロールキーをキー位置 **II** (p. 115) にすると、コンパインド・メーター・パネルのエアバッグ警告灯(p. 64)が約6秒間点灯します。

続いてルーフコンソールのインジケーターが点灯し、助手席側エアバッグの作動可能/非作動状態を表示します。

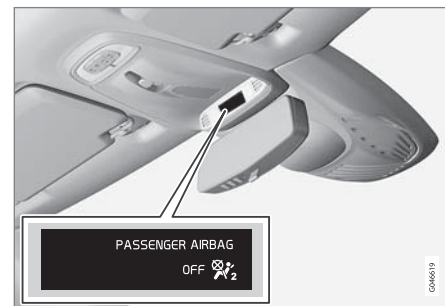


助手席側エアバッグが作動状態であることを表示するインジケーター

ルーフコンソールにディスプレイテキストおよび警告が表示されれば、助手席側エアバッグが作動状態であることを示します(前図参照)。

⚠ 警告

助手席側エアバッグが有効で、ルーフコンソールの  シンボルが点灯してこの状態を示している場合、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。この指示を守らないと、お子様の生命に危険がおよぶおそれがあります。



助手席側エアバッグが非作動状態であることを表示するインジケーター

ルーフコンソールにディスプレイテキストおよびシンボルが表示されれば、助手席側エアバッグが非作動状態であることを示します(前図参照)。

⚠ 警告

ルーフコンソールにエアバッグ非作動のメッセージが表示され、コンパインド・メーター・パネルのエアバッグ 警告灯 (p. 64) も点灯しているときは、助手席に誰も座らせないでください。重大な故障が発生しているおそれがあります。すみやかに、サービス工場で点検を受けてください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

この指示を守らないと、乗員の生命に危険がおよぼおそれがあります。

関連情報

- チャイルドシート (p. 79)

サイドエアバッグ (SIPS)

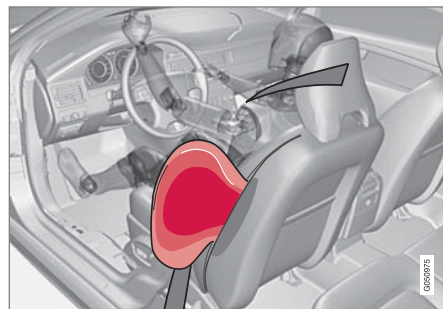
側面衝突時にかかる衝撃の大部分が、側面衝撃吸収システム、SIPS (Side Impact Protection System) によって、ビーム、ピラー、フロア、ルーフ、車体のその他の構造部分へ分散されます。運転席と助手席のサイドエアバッグは、胸部および腰を保護する SIPS の重要なシステムです。



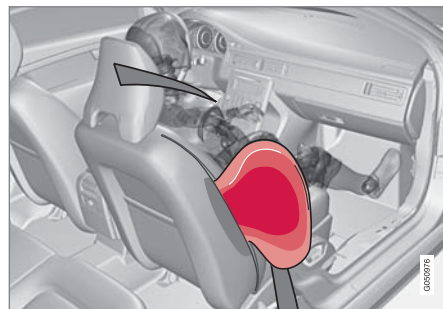
SIPS バッグシステムは、サイドエアバッグおよびセンサーで構成されています。サイドエアバッグは、フロントシートバックレスト内に取り付けられています。

側面からの衝突によって一定レベル以上の衝撃を受けるとセンサーが反応し、サイドエアバッグが膨張します。サイドエアバッグは、乗員とドアの間で膨張して衝突の衝撃を和らげます。エアバッグは、衝突による圧力がかかると内部

のガスが抜け、収縮します。作動するのは、側面から衝撃を受けた側のエアバッグのみです。



運転席シート (左ハンドル車)



助手席シート (左ハンドル車)

⚠ 警告

- 修理は必ず、ボルボ指定のサービス工場に依頼してください。SIPS バッグシステムへの作業に不具合があると、誤作動につながり、大ケガをするおそれがあります。
- シートの外側とドアパネルの間に、なにも物を置かないでください。このスペースは、サイドエアバッグの作動に必要です。
- シートカバーは、ボルボ社が認可した製品以外は使用しないでください。それ以外のシートカバーは、サイドエアバッグの作動の妨げになるおそれがあります。
- サイドエアバッグは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

SIPS およびチャイルドシート

サイドエアバッグはチャイルドシート/ブースタークッションに座っているお子様の保護効果を損なうものではありません。

関連情報

- 運転席側エアバッグ (p. 66)
- 助手席側エアバッグ (p. 67)
- インフレーターブルカーテン(IC) (p. 71)

インフレーターブルカーテン(IC)

インフレーターブルカーテンは、ドア側の乗員の頭部を衝突の衝撃から保護します。



インフレーターブルカーテン IC (Inflatable Curtain) は SIPS システム (p. 70) の一部です。ヘッドライニングの両側に取り付けられており、ドア側の乗員と運転者の保護に役立ちます。衝突によって一定レベル以上の衝撃を受けると、センサーが作動してインフレーターブルカーテンが展開します。

⚠ 警告

ルーフのハンドルに、絶対に重い物を吊り下げたり取り付けしないでください。ハンドルに付いているフックは、軽量の衣服のみをかけるために設計されたものです(傘などの硬い物はかけないでください)。

ヘッドライニング、ドアビラー、およびサイドパネルに、スクリューをねじ込んだり物を取り付けしないでください。保護効果が損なわれるおそれがあります。この部分への取り付けが認められている、ボルボ純正品以外の物を取り付けしないでください。

⚠ 警告

ドア内のウインドの上端から 50 mm 下の位置に達するまで、荷物を積み上げないでください。荷物を積むと、ヘッドライニングの内側に装着されているインフレーターブルカーテンの保護効果が損なわれるおそれがあります。

⚠ 警告

インフレーターブルカーテンは、シートベルトの補助装置です。

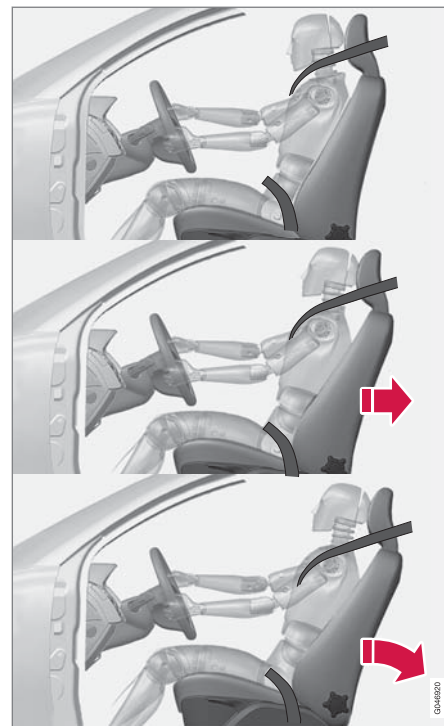
シートベルトを必ず着用してください。

◀◀ 関連情報

- シートベルトについて (p. 60)
- エアバッグシステム (p. 65)
- サイドエアバッグ (SIPS) (p. 70)

WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)について

WHIPS(後部衝撃吸収リクライニング機構付フロントシート)はむち打ち症を防ぐ機能です。このシステムは、衝撃を吸収するバックレストおよび特別な機構を持つフロントシートのヘッドレストで構成されています。



WHIPS は衝突時に起動します。この際、衝突の角度、速度、および衝突車の状態などが作動条件に合うと作動します。

⚠ 警告

WHIPS システムは、シートベルトの補助装置です。シートベルトを必ず着用してください。

シートの特性

WHIPS システムが作動すると、フロントシートバックレストを後方に傾斜させて運転席および助手席の乗員の着座姿勢を変えます。この機能は、むち打ち症になる危険性を低減します。

⚠ 警告

ご自身で、シートや WHIPS システムの改造や修理を絶対にしないでください。必ずボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

WHIPS およびチャイルドシート

WHIPS システムはチャイルドシートやブースタークッションに座っているお子様の保護効果を損なうものではありません。

関連情報

- WHIPS - 着座姿勢 (p. 73)
- シートベルトについて (p. 60)

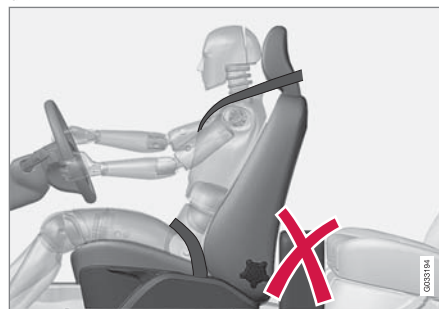
WHIPS - 着座姿勢

WHIPS システム (p. 72) の最大の保護効果を得るために、運転者と助手席乗員は正しい着座姿勢を保ち、システムの機能を妨げないようにすることが必要です。

着座姿勢

走行を開始する前に、フロントシート (p. 117) での正しい着座姿勢を確認してください。

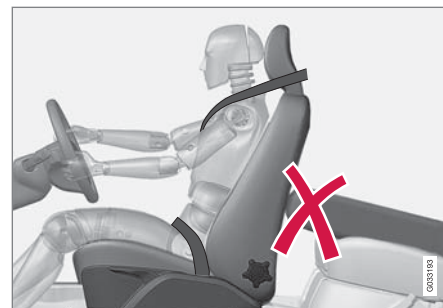
運転者と助手席乗員は、頭部とヘッドレストの間の隙間ができるだけ小さくなるような姿勢で、シートの中央に座ってください。

機能

WHIPS システムの作動が妨げられないよう、運転席および助手席の後ろの床にはなにも置かないようにしてください。

⚠ 警告

リアシートクッションとフロントシートバックレストの間に、硬い物を置かないでください。WHIPS システムの作動が妨げられていないことを確認してください。



WHIPS システムの作動が妨げられないよう、リアシートに物を置かないようにしてください。

⚠ 警告

リアシートバックレストを倒す場合は、倒したバックレストとフロントシートバックレストが接触しないように、フロントシートを前方に移動させてください。

⚠ 警告

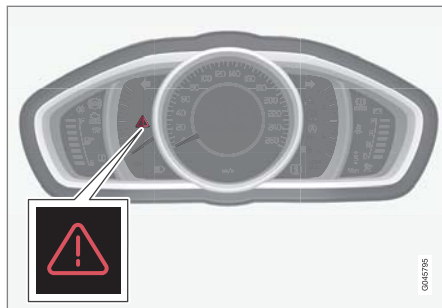
追突などでシートが衝撃を受けた後は、WHIPS システムの点検を受けてください。点検は、ボルボ指定のサービス工場を受けてください。

シートに損傷が見当たらなくても WHIPS システムの保護機能が一部失われているおそれがあります。

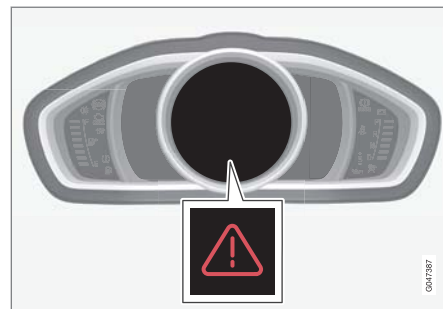
軽い追突の後でも、ボルボ指定のサービス工場ですシステムの点検を受けてください。

セーフティモードについて

セーフティモードは、燃料パイプ、セーフティシステムのセンサー、ブレーキシステムなどの重要な機能が損傷を受けた可能性があるときに作動する保護機能です。



アナログ式コンバインド・メーター・パネルの三角警告灯



液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルの三角警告灯

衝突の際、セーフティモード^{*} マニュアルを参照して 下さいのテキストがコンバインド・メーター・パネル (p. 98) のインフォメーション・ディスプレイに表示されることがあります。この表示は、車両の機能が低下していることを意味します。

⚠ 警告

車両がセーフティモードになっているときは、絶対にご自身で車を修理したり、電子機器のリセットをしないでください。ケガをするおそれがあり、また不具合の原因となります。セーフティモード^{*} マニュアルを参照して 下さいが表示された場合には、ボルボ指定のサービス工場です車両の点検修理を必ず行ってください。

関連情報

- セーフティモード - 車両の始動を試行する (p. 75)
- セーフティモード - 車両の移動 (p. 76)

セーフティモード - 車両の始動を試行する

車両がセーフティモード (p. 74) になっている場合、車両全体が正常なように見え、燃料漏れがないことが確認できた場合、始動を試行することができます。

始めに、車両から燃料が漏れていないか確認してください。燃料の臭いがしていないことを、必ず確認してください。

なにも異常が見られず、燃料漏れもなければ、エンジンを始動してください。

リモートコントロールキーを取り出して、運転席ドアを開けてください。イグニッションがオンであるというメッセージが表示されたら、スタートボタンを押してください。その後、ドアを閉め、もう一度リモートコントロールキーを挿入してください。これにより、車両の電子機器が、ノーマルモードへのリセットを試みます。エンジンを始動します。

セーフティモード マニュアルを参照して 下さい のメッセージがまだ表示されている場合は、絶対に走行またはけん引をしないでください。レッカーサービス (p. 355) を使用してください。隠れた損傷があった場合、移動中に車両を制御できなくなるおそれがあります。

⚠ 警告

セーフティモード マニュアルを参照して 下さい が表示されているときに燃料の臭いを感じた場合は、エンジンを絶対に始動しないでください。ただちに、車両から離れてください。

⚠ 警告

車両がセーフティモードになっているときは、絶対に車両をけん引しないでください。ボルボ指定のサービス工場に積載車に載せて搬送してください。

関連情報

- セーフティモード - 車両の移動 (p. 76)

セーフティモード - 車両の移動

車両の始動を試行 (p. 75) した後で **セーフティモード** マニュアルを参照して 下さい がリセットされ、**Normal mode** が表示された場合は、車両を危険な場所から注意しながら移動させることが可能です。

必要以上に移動させないでください。

関連情報

- セーフティモードについて (p. 74)

歩行者エアバッグ

歩行者エアバッグ (Pedestrian Airbag) は、特定の前面衝突の際、歩行者が受ける衝撃を軽減するのに役立ちます。



この歩行者エアバッグ (Pedestrian Airbag) はボンネットの下、ウインドスクリーン付近に装着されています。万が一、歩行者と前面衝突した場合には、フロントバンパー内のセンサーが反応し、衝撃の大きさに基づいてエアバッグが必要に応じて膨張します。センサーは車速が約 20~50 km/h (12~30 mph)、外気温 -20~+70 °C のときに作動します。

このセンサーは「人の足」の特徴を持つ物体との衝突を感知するように設計されています。

① 注意

歩行者との衝突時と同様のセンサー信号を発生させる物体が、交通環境に存在する場合があります。このような物体と衝突したときに、システムが起動する可能性があります。

エアバッグ (Pedestrian Airbag) が作動すると

- ボンネットの後部が上昇し、この位置でロックされます。
- 非常点滅灯が点滅します。
- ブレーキシステムが来るべき急ブレーキの準備をします。

⚠ 警告

フロント部分にアクセサリーを取り付けたり、変更を加えたりしないでください。フロント部分に不適切な変更がなされるとシステム内の機能の誤作動を引き起こすおそれがあり、深刻なケガや車両への損傷の原因となります。

ボルボでは、純正ワイパーアームの使用を推奨しています。ワイパーアームの部品も必ず純正部品をご使用ください。

⚠ 警告

バンパーが損傷を受けたとき、システムが無傷であることを確認するために、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- 歩行者エアバッグ - 車両の移動 (p. 77)
- 歩行者エアバッグ - 折りたたみ (p. 77)

歩行者エアバッグ - 車両の移動

車両がセーフティモード (p. 74) になっている場合には、車両を移動することができます。

車内の他のエアバッグが作動した場合には、車両はセーフティモードになります。

歩行者エアバッグ (p. 76) (Pedestrian Airbag) のみが作動した場合は：

1. できる限り安全な場所に車両を移動させます。
2. エアバッグを説明 (p. 77) に従って折りたたみます。
3. 最寄りのサービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

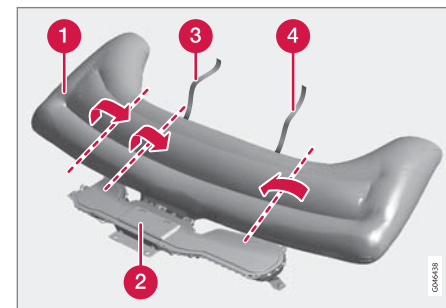
ボルボでは、エアバッグが作動した場合には、すみやかにボルボ指定のサービス工場にご連絡いただくよう推奨しています。

関連情報

- 歩行者エアバッグ (p. 76)

歩行者エアバッグ - 折りたたみ

歩行者エアバッグ (p. 76) (Pedestrian Airbag) は、車両を動かす前に折りたたむ必要があります。



- ① エアバッグ
- ② エアバッグハウジング
- ③ マジックテープストラップ、右側
- ④ マジックテープストラップ、左側

エアバッグが温かく感じられることや、煙が出ることがありますが、これは不具合ではありません。次のようにエアバッグをたたみます：

1. 左側(4)のマジックテープストラップを見つけます。

- ◀ 2. 左側でエアバッグの布地を長辺に沿って寄せ集めます。それを中央に向けて折りたたみます。エアバッグの布地をできるだけ覆うように、布地周囲にマジックテープストラップ(両面)を巻きつけ、固定します。
3. たたんだエアバッグをエアバッグハウジング(2)に押し入れます。
4. 1〜3を右側でも行います。助手席側では、たたんだ布地を2回折らないとマジックテープストラップを巻きつけられない場合があります。
5. エアバッグハウジングカバーは少し開いたままになります。これは異常ではありません。

関連情報

- 歩行者エアバッグ - 車両の移動 (p. 77)

お子様の安全について

ボルボ車には、特定の車両専用に設計されたチャイルドセーフティ製品(チャイルドシート、ブースタークッションおよび取付アタッチメント)が装備されています。

ボルボのチャイルドセーフティ製品をご利用いただくことで、お子様のためにもっとも安全な車内環境を整えることができます。また、ボルボのチャイルドセーフティ製品は車両に確実に対応し、取り扱い方法も簡単です。

お子様は、年齢や体格に関わらず、必ず適切な固定装置を使用して正しく座らせてください。お子様を、けっして乗員のひざの上に座らせないでください。

小さいお子様(少なくとも3〜4歳ごろまで)には、できるだけ後ろ向きに装着するチャイルドシートをご使用ください。その後、身長が140 cmに達するまでは、前向きのブースタークッション/チャイルドシートをご利用ください。

① 注意

お子様の年齢および身長に応じて使用する必要のあるチャイルドシートのタイプを規定した法律は、国ごとに異なります。適用される法律や規則を確認してください。

① 注意

チャイルドセーフティ製品の取り付けに関してご不明な点は、その用具の製造元(メーカー)にお問い合わせください。

チャイルドロック

リアドアのパワーウインドの操作スイッチやリアドアのハンドルがロック(p. 217)されて、内側から開けられないようになります。

関連情報

- チャイルドシート (p. 79)
- チャイルドシート - 位置 (p. 85)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 86)
- チャイルドシート - アップーマウンティンクポイント (p. 90)

チャイルドシート

お子様が、快適で安全な姿勢になるように座らせてください。チャイルドシートの正しい使用を確認してください。

① 注意

チャイルドセーフティ用具をご使用になる場合は、付属の取付説明書をよくお読みください。

⚠ 警告

チャイルドシートのストラップは、シートの前後方向調節バー、スプリング、またはシート下のレールやビームに取り付けしないでください。これらの部分には鋭い角があるため、ストラップが損傷するおそれがあります。

正しい取り付け方法に関しては、チャイルドシートの取付説明書をご覧ください。

推奨チャイルドシート¹

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下			ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、ISOFIX フィクスチャーシステムで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (L)	
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下	ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (U)		ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (U)	ボルボ純正ベビーシート (Volvo Infant Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E1 04301146 (U)

¹ この表に記載されていないチャイルドシートをご使用になる場合は、車両とチャイルドシートが適合するか、必ず確認してください。チャイルドシートの製造元(メーカー)が提供する適合車種一覧表に該当車種が掲載されている、あるいはチャイルドシートが欧州基準 ECE R44 に合格したものであることを確認してください。

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 0 10 kg 以下 グループ 0+ 13 kg 以下	一般に承認されているチャイルドシート ^A (U)		一般に承認されているチャイルドシート (U)	
グループ 1 9~18 kg	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)		ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)	
グループ 1 9~18 kg	ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定 : E5 04212 (L)		ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定 : E5 04212 (L)	
グループ 1 9~18 kg		一般に承認されている前向きのチャイルドシート ^{A, B} (UF)	一般に承認されているチャイルドシート (U)	



体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2 15～25 kg	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)		ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 後ろ向きに装着し、シートベルトとストラップで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04192 (L)	
グループ 2 15～25 kg	ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定 : E5 04212 (L)		ボルボ純正後ろ向き装着チャイルドシート 型式認定 : E5 04212 (L)	
グループ 2 15～25 kg		ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04191 (U)	ボルボ純正の向きを変更できるチャイルドシート (Volvo Convertible Child Seat) - 前向きに装着し、シートベルトで固定するチャイルドシート。 型式認定 : E5 04191 (U)	

体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2/3 15～36 kg		ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest) 型式認定 : E1 04301169 (UF)	ボルボ純正ブースタークッション - バックレスト付き (Volvo Booster Seat with backrest) 型式認定 : E1 04301169 (UF)	
グループ 2/3 15～36 kg		ボルボ純正ブースタークッション 型式認定 : E1 04301312 (UF)	ボルボ純正ブースタークッション 型式認定 : E1 04301312 (UF、L)	



体重	フロントシート(エアバッグが非作動状態、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	フロントシート(エアバッグが作動可能状態、前向き装着タイプのチャイルドシートのみ使用可)	リアシート(ドア側)	リアシート(中央)
グループ 2/3 15～36 kg		ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest) 型式認定 : E5 04216 (UF)	ブースタークッション - バックレスト付き/なし (Booster Cushion with and without backrest) 型式認定 : E5 04216 (UF)	

L : 特定のチャイルドシートに適しています。この種のチャイルドシートは、限定カテゴリーや特殊性の高いカテゴリーの特殊車種で使用するを意図している場合があります。

U : この体重等級で一般的に承認されているチャイルドシートに適しています。

UF : この体重等級で一般的に承認されている前向きのチャイルドシートに適しています。

B : この体重等級用に承認されているビルトインチャイルドシート。

A 後ろ向きに装着するチャイルドシートのみ。シートのバックレストを直立位置にセットしてください。

B このグループのお子様向けには、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートのご使用をお勧めします。

関連情報

- チャイルドシート - 位置 (p. 85)
- チャイルドシート - アップーマウンティン
グポイント (p. 90)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 86)
- お子様の安全について (p. 78)

チャイルドシート - 位置

お子様が車内で座る位置やチャイルドシートの種類は、お子様の体重と身長により異なります。



後ろ向き装着タイプのチャイルドシートとエアバッグを一緒に使用することはできません。

助手席側エアバッグがオン(作動可能状態)(p. 68)になっているときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシート(p. 79)は必ずリアシートに取り付けてください。お子様を助手席に座らせると、エアバッグ作動時に大ケガを負うおそれがあります。

助手席側エアバッグがオフ(非作動状態)になっているときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを助手席に取り付けることができます。

助手席側エアバッグラベル



助手席側サンバイザーのラベル



助手席側ドアビラーのラベル。ラベルは助手席側ドアを開くと見えます。

助手席側エアバッグの警告ラベルは、前図の位置に表示されています。

使用できる位置：

- 助手席側エアバッグがオフ(非作動状態)になっているときは、後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを助手席に取り付けることができます。
- 助手席側エアバッグがオン(作動可能状態)になっているときは、前向き装着タイプのチャイルドシート/ブースタークッションを助手席に取り付けることができます。
- リアシートに1つ以上のチャイルドシート/ブースタークッション。

⚠ 警告

後ろ向きのチャイルドシートはエアバッグが作動可能状態のシート上で絶対使用しないでください。この指示を守らないと、お子様が死亡するまたは重傷を負う可能性があります。



⚠ 警告

助手席シートの前には、絶対に誰も立たせたり座らせたりしないでください。

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

助手席側エアバッグが無効になっている場合、絶対に乗員(お子様および大人)を前向きで助手席に座らせないでください。

この指示を守らないと、命を危険にさらす、または大ケガをするおそれがあります。

⚠ 警告

シートベルトバックルのリリースボタンに当たるようなタイプのスチール製ブレース付きブースタークッション/チャイルドシートなどは、絶対に使用しないでください。シートベルトバックルが、突然外れるおそれがあります。

チャイルドシート上部を、ウインドスクリーンに当てないでください。

ⓘ 注意

お子様を乗せる位置に関する規則は、国により異なります。適用される法律や規則を確認してください。

関連情報

- お子様の安全について (p. 78)
- チャイルドシート - アップーマウンティングポイント (p. 90)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 86)

チャイルドシート - ISOFIX

ISOFIX は国際標準規格に基づくチャイルドシート(p. 79)固定システムです。



ISOFIX フィクスチャーシステム用のマウンティングポイントは、外側リアシートのバックレストの下側にあります。

マウンティングポイントの位置は、バックレストのトリムにシンボルで表示されています(前図参照)。

チャイルドシートを ISOFIX 対応マウンティングポイントに取り付けるときは、シートの製造元(メーカー)の取扱説明書に必ず従ってください。

関連情報

- ISOFIX - サイズ等級 (p. 87)
- ISOFIX - チャイルドシートの種類 (p. 88)
- お子様の安全について (p. 78)

ISOFIX - サイズ等級

ISOFIX (p. 86) 対応のチャイルドシートにはサイズ等級があります。サイズ等級は、正しいタイプのチャイルドシート (p. 88) を選択するための参考にすることができます。

サイズ等級	説明
A	フルサイズ、前向きに装着するチャイルドシート
B	小型サイズ(タイプ 1)、前向きに装着するチャイルドシート
B1	小型サイズ(タイプ 2)、前向きに装着するチャイルドシート
C	フルサイズ、後ろ向きに装着するチャイルドシート
D	小型サイズ、後ろ向きに装着するチャイルドシート
E	後ろ向きに装着するベビーシート
F	横置きベビーシート(左側用)
G	横置きベビーシート(右側用)

⚠ 警告

助手席側エアバッグが有効になっている場合は、絶対に助手席で後ろ向きチャイルドシートを使用しないでください。

i 注意

ISOFIX チャイルドシートにサイズ等級がない場合は、チャイルドシートの製造元(メーカー)が提供する適合車種一覧表に該当車種が掲載されていることが必要です。

i 注意

ボルボが推奨する ISOFIX チャイルドシートに関して、ボルボディーラーにお問い合わせください。

関連情報

- ISOFIX - チャイルドシートの種類 (p. 88)

ISOFIX - チャイルドシートの種類

チャイルドシートにはさまざまなサイズがあり、車両の寸法も異なります。そのため、モデルにより取り付けができないチャイルドシートがあります。

ルにより取り付けができないチャイルドシートがあります。

チャイルドシートのタイプ	体重	サイズ等級	ISOFIX ^A アタッチメントによるチャイルドシートの取り付け	
			フロントシート	リアシート(ドア側)
横置きベビーシート	10 kg 以下	F	X	X
		G	X	X
後ろ向きに装着するベビーシート	10 kg 以下	E	X	OK (IL)
後ろ向きに装着するベビーシート	13 kg 以下	E	X	OK (IL)
		D	X	OK (IL)
		C	X	OK (IL)
後ろ向きに装着するチャイルドシート	9～18 kg	D	X	OK (IL)
		C	X	OK (IL)

チャイルドシートのタイプ	体重	サイズ等級	ISOFIX ^A アタッチメントによるチャイルドシートの取り付け	
			フロントシート	リアシート(ドア側)
前向きに装着するチャイルドシート	9～18 kg	B	X	OK ^B (IUF)
		B1	X	OK ^B (IUF)
		A	X	OK ^B (IUF)

X：この ISOFIX ポジションは、この体重等級やサイズ等級の ISOFIX チャイルドシートには適していません。

IL：特定の ISOFIX チャイルドシートに適しています。この種のチャイルドシートは、限定カテゴリーや特殊性の高いカテゴリーの特殊車種で使用する
ことを意図している場合があります。

IUF：この体重等級用に一般的に承認されている前向きの ISOFIX チャイルドシートに適しています。

^A ISOFIX は国際標準規格に基づくチャイルドシート固定システムです。

^B ボルボ社は、このグループに後ろ向きに装着するチャイルドシートをお薦めします。

ISOFIX 対応の適切なサイズ等級(p. 87)のチャ
イルドシートを選択してください。

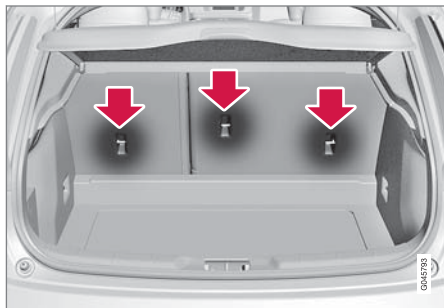
関連情報

- チャイルドシート - ISOFIX (p. 86)

チャイルドシート - アップーマウンティングポイント

車両には、前向きに装着する一部のチャイルドシート (p. 79) 用のアップーマウンティングポイントが装備されています。マウンティングポイントは、シートの裏側にあります。

アップーマウンティングポイント



アップーマウンティングポイントは、前向きに装着するチャイルドシート用です。ボルボ社は、小さいお子様には、できるだけ後ろ向きに装着するチャイルドシートをご使用になることをお勧めします。

① 注意

外側シートに折りたたみ式ヘッドレストが装備されている場合には、このタイプのチャイルドシートが取り付けやすくなるように、ヘッドレストを折りたたんでください。

① 注意

カーゴスペースにラゲッジカバーが付いている車両は、マウンティングポイントにチャイルドシートを取り付ける前に、ラゲッジカバーを取り外してください。

アップーマウンティングポイントにチャイルドシートを固定する方法については、シートの製造元(メーカー)の取扱説明書を参照してください。

⚠ 警告

チャイルドシートのストラップは、必ずヘッドレスト脚部の穴を通してから、取り付け地点で張力を調節してください。

関連情報

- お子様の安全について (p. 78)
- チャイルドシート - 位置 (p. 85)
- チャイルドシート - ISOFIX (p. 86)

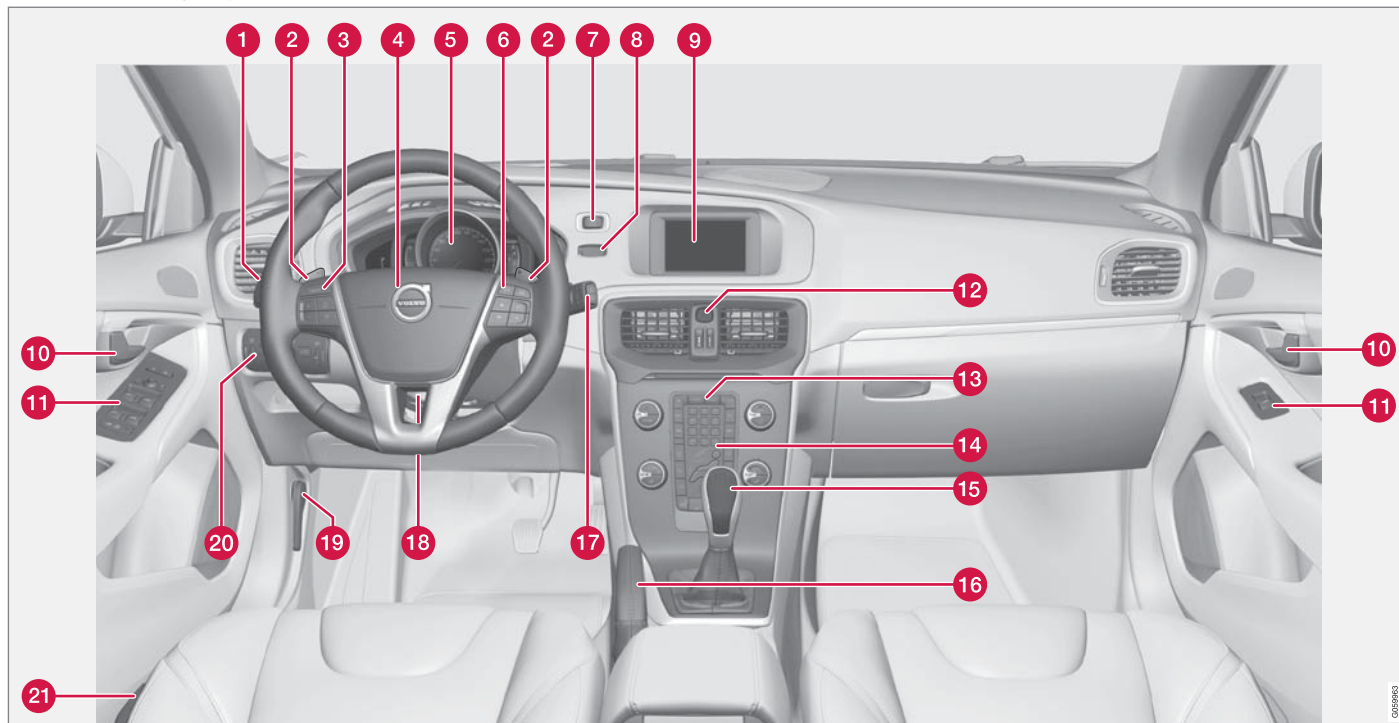
計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置

計器およびコントロール装置、左ハンドル車 - 概要

車両のディスプレイとコントロール装置の位置を示します。

左ハンドル車の各配置





	機能	参照
①	メニューおよびメッセージ、方向指示器、ハイ/ロービーム、トリップコンピューター	(p. 144)、 (p. 147)、 (p. 133)、 (p. 125) および (p. 149)
②	オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ*	(p. 317)
③	クルーズコントロール*	(p. 232) および (p. 241)
④	ホーン、エアバッグ	(p. 121) および (p. 65)
⑤	コンバインド・メーター・パネル	(p. 98)
⑥	メニューナビゲーション、オーディオコントロール、電話コントロール*	(p. 147) および 付録「Sensus Infotainment」
⑦	START/STOP ENGINE ボタン	(p. 312)
⑧	イグニッションスイッチ	(p. 115)

	機能	参照
⑨	インフォテインメントシステムおよびメニュー表示画面	(p. 147) および 付録「Sensus Infotainment」
⑩	ドアハンドル	-
⑪	コントロールパネル	(p. 212)、 (p. 218)、 (p. 138) および (p. 140)
⑫	非常点滅灯	(p. 133)
⑬	インフォテインメントシステムおよびメニューナビゲーションのコントロールパネル	(p. 147) および 付録「Sensus Infotainment」
⑭	エアコンディショナー用コントロールパネル	(p. 167) または (p. 168)
⑮	ギヤセクターレバー	(p. 315) または (p. 317)
⑯	パーキングブレーキ	(p. 334)
⑰	ワイパー/ウォッシャー	(p. 136)

	機能	参照
⑱	ステアリングホイールの調節	(p. 121)
⑲	ボンネットオープナー	(p. 387)
⑳	テールゲートオープン・ライトスイッチ	(p. 122) および (p. 214)
㉑	シート調節*	(p. 118)

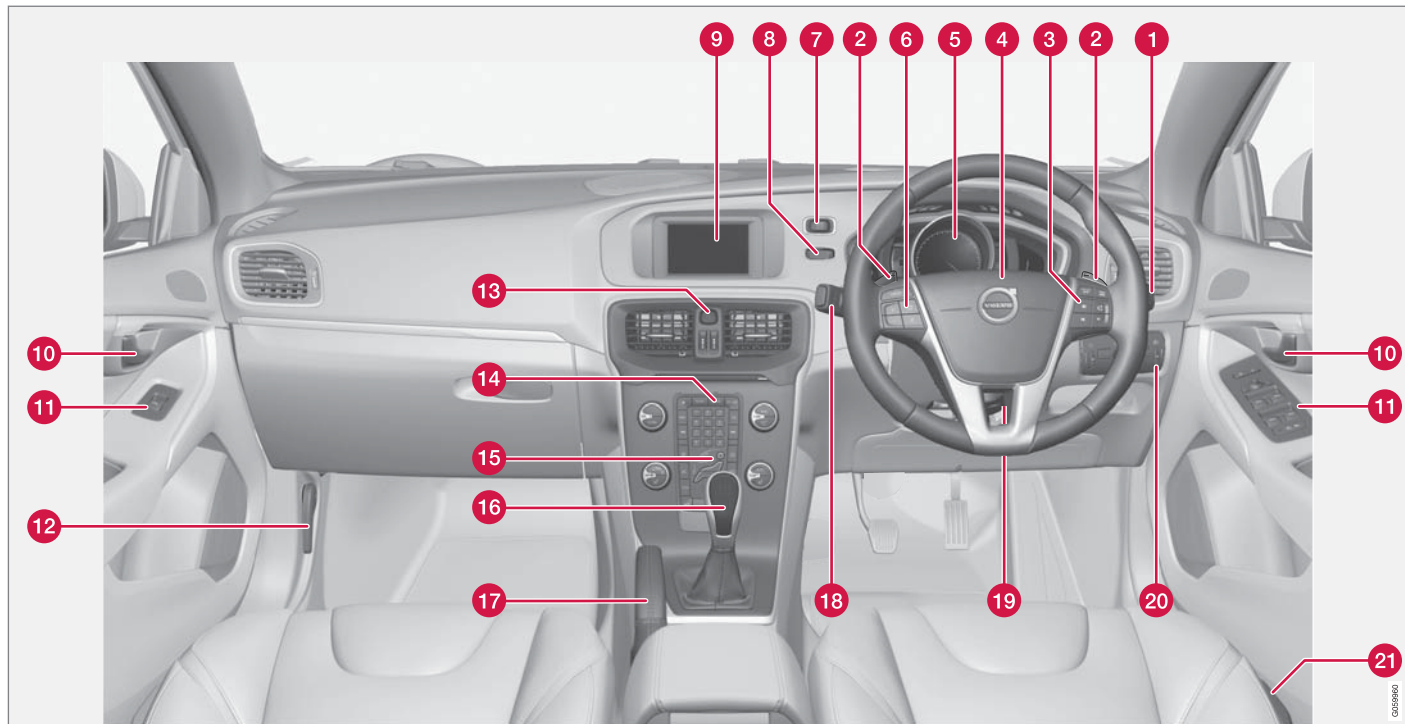
関連情報

- 外気温計 (p. 108)
- トリップメーター (走行距離計) (p. 109)
- 時計 (p. 109)

計器およびコントロール装置、右ハンドル車 - 概要

車両のディスプレイとコントロール装置の位置を示します。

◀ 右ハンドル車の各配置



	機能	参照
①	ワイパー/ウォッシャー	(p. 136)
②	オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ*	(p. 317)
③	メニューナビゲーション、オーディオコントロール、電話コントロール*	(p. 147)および付録「Sensus Infotainment」
④	ホーン、エアバッグ	(p. 121) および (p. 65)
⑤	コンパインド・メーター・パネル	(p. 98)
⑥	クルーズコントロール*	(p. 232) および (p. 241)
⑦	START/STOP ENGINE ボタン	(p. 312)
⑧	イグニッションスイッチ	(p. 115)
⑨	インフォテインメントシステムおよびメニュー表示画面	(p. 147)および付録「Sensus Infotainment」

	機能	参照
⑩	ドアハンドル	-
⑪	コントロールパネル	(p. 212)、(p. 218)、(p. 138) および (p. 140)
⑫	ボンネットオープナー	(p. 387)
⑬	非常点滅灯	(p. 133)
⑭	インフォテインメントシステムおよびメニューナビゲーションのコントロールパネル	(p. 147)および付録「Sensus Infotainment」
⑮	エアコンディショナー用コントロールパネル	(p. 167) または (p. 168)
⑯	ギヤセクターレバー	(p. 315) または (p. 317)
⑰	パーキングブレーキ	(p. 334)

	機能	参照
⑱	メニューおよびメッセージ、方向指示器、ハイ/ロービーム、トリップコンピューター	(p. 144)、(p. 147)、(p. 133)、(p. 125) および (p. 149)
⑲	ステアリングホイールの調節	(p. 121)
⑳	テールゲートオープン・ライトスイッチ	(p. 122) および (p. 214)
㉑	シート調節*	(p. 118)

関連情報

- 外気温計 (p. 108)
- トリップメーター(走行距離計) (p. 109)
- 時計 (p. 109)

コンバインド・メーター・パネル

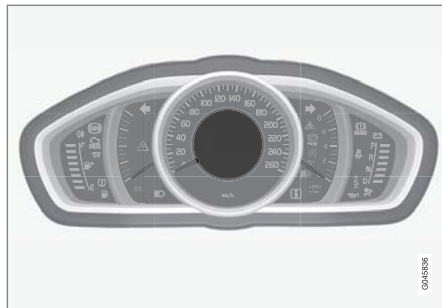
コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

- アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 98)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99)
- コンバインド・メーター・パネル - 表示灯の意味 (p. 104)
- コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 106)

アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

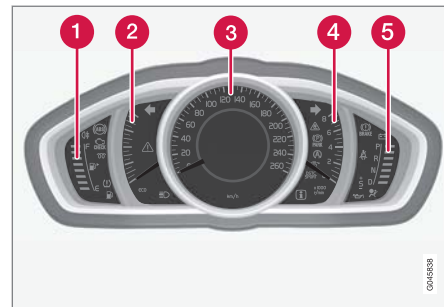
インフォメーション・ディスプレイ



インフォメーション・ディスプレイ、アナログ式メーター・パネル

ディスプレイを使用する機能については、該当の章にさらに詳しい説明があります。

計器およびインジケーター類



- 1 燃料計。インジケーターが白のマーク¹ 1本まで下がると、燃料の残量低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター (p. 149) および適切な給油方法 (p. 339) も参照してください。
- 2 Eco meter。この計器は、車両の経済走行がどの程度達成されているかを表示します。値が高ければ高いほど、経済走行が達成されていることを表します。
- 3 スピードメーター
- 4 タコメーター(エンジン回転計)。1分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
- 5 ギヤシフトインジケーター²/ギヤポジションインジケーター³。ギヤシフトインジ

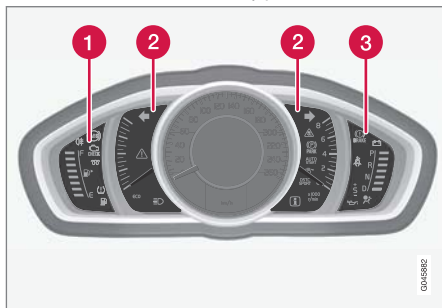
¹ ディスプレイテキスト **走行可能距離**：が — を示すようになると、マーキングが赤く表示されます。

² マニュアルトランスミッション

³ オートマチックトランスミッション

ケーター* (p. 316)またはオートマチック
トランスミッション - Geartronic(ギヤト
ロニック)* (p. 317)も参照してください。

インジケーターおよび警告灯



表示灯および警告灯、アナログ式メーター・パネル

- ① 表示灯
- ② インジケーターおよび警告灯
- ③ 警告灯⁴

機能点検

インフォメーション・ディスプレイの中央にあるシンボルの他に、すべてのインジケーターおよび警告灯が、キー位置 **II** のとき、またはエンジンの始動時に点灯します。エンジン始動後、パーキングブレーキ作動表示灯以外はすべて消灯します。パーキングブレーキ作動表示灯

は、パーキングブレーキを解除すると消灯します。

エンジンが始動しない場合、あるいは機能点検がキー位置 **II** で実施された場合には、エミッションシステム警告灯および油圧低下警告灯以外はすべて数秒以内に消灯します。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)
- コンバインド・メーター・パネル - 表示灯の意味 (p. 104)
- コンバインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 106)
- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99)

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイは、車両の一部の機能に関する情報やメッセージを表示します。

インフォメーション・ディスプレイ



インフォメーション・ディスプレイ、液晶デジタル式メーター・パネル*

ディスプレイを使用する機能については、該当の章にさらに詳しい説明があります。

計器およびインジケーター類

液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネルでは、さまざまなテーマを選択できます。選択可能なテーマは、「Elegance」、「Eco」、「Performance」です。

⁴ エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル - 概要 (p. 389)を参照してください。

- ◀ テーマはエンジン作動中にのみ選択することができます。

テーマを選択するには、左側レバースイッチの **OK** ボタンを押し、レバー上のコントロールダイヤルを回して、**テーマ** メニューオプションを選択します。**OK** ボタンを押しします。コントロールダイヤルを回してテーマを選択し、**OK** ボタンを押して選択を確定します。

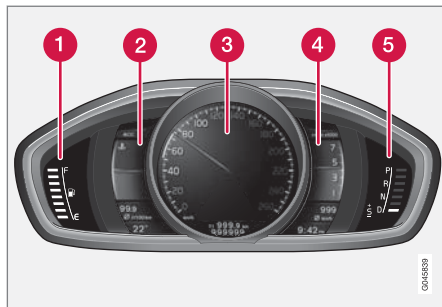
一部のモデルでは、センターコンソールの画面の外観はコンパインド・メーター・パネルのテーマ設定に応じて変わります。

左側レバースイッチを使用すると、インストールメントのコントラストモードおよびカラーモードを設定することもできます。

メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 144) を参照してください。

テーマの選択とコントラストモードおよびカラーモードの設定は、リモートコントロールキーごとにカーキーメモリー*に保存することができます。リモートコントロールキー - パーソナライズ* (p. 197) を参照してください。

テーマ「Elegance」



メーターおよびインジケーター、テーマ「Elegance」

- ① 燃料計。インジケーターが白のマーク⁵ 1本まで下がると、燃料の残量低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター (p. 149) および適切な給油方法 (p. 339) も参照してください。
- ② エンジン冷却水用水温計
- ③ スピードメーター
- ④ タコメーター (エンジン回転計)。1 分あたりのエンジン回転数 (rpm) を表示します。
- ⑤ ギヤシフトインジケーター⁶/ギヤポジションインジケーター⁷。ギヤシフトインジケーター* (p. 316) またはオートマチック

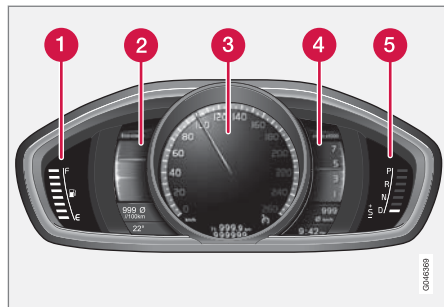
トランスミッション - Geartronic (ギヤトロニック)* (p. 317) も参照してください。

⁵ ディスプレイテキスト **走行可能距離**: が — を示すようになると、マーキングが赤く表示されます。

⁶ マニュアルトランスミッション

⁷ オートマチックトランスミッション

テーマ「Eco」

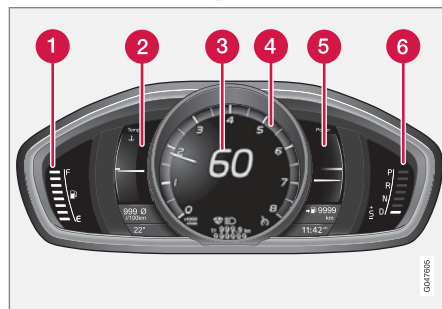


メーターおよびインジケーター、テーマ「Eco」

- ① 燃料計。インジケーターが白のマーク⁵ 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター (p. 149) および適切な給油方法 (p. 339) も参照してください。
- ② Eco guide。Eco guide および Power guide* (p. 102) も参照してください。
- ③ スピードメーター
- ④ タコメーター(エンジン回転計)。1分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。
- ⑤ ギヤシフトインジケーター⁶/ギヤポジションインジケーター⁷。ギヤシフトインジケーター* (p. 316) またはオートマチック

トランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 317) も参照してください。

テーマ「Performance」



メーターおよびインジケーター、テーマ「Performance」

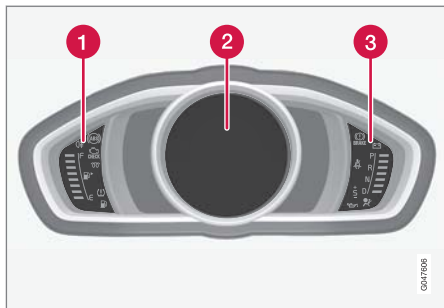
- ① 燃料計。インジケーターが白のマーク⁵ 1本まで下がると、燃料タンクのレベル低下を示す黄色の表示灯が点灯します。トリップコンピューター (p. 149) および適切な給油方法 (p. 339) も参照してください。
- ② エンジン冷却水水温計
- ③ スピードメーター
- ④ タコメーター(エンジン回転計)。1分あたりのエンジン回転数(rpm)を表示します。

⁵ ディスプレイテキスト **走行可能距離**: が — を示すようになると、マーキングが赤く表示されます。

⁶ マニュアルトランスミッション

⁷ オートマチックトランスミッション

◀ インジケーターおよび警告灯



表示灯および警告灯、液晶デジタル式メーター・パネル

- ① 表示灯
- ② インジケーターおよび警告灯
- ③ 警告灯⁸

機能点検

インフォメーション・ディスプレイの中央にあるシンボルの他に、すべてのインジケーターおよび警告灯が、キー位置 **II** のとき、またはエンジンの始動時に点灯します。エンジン始動後、パーキングブレーキ作動表示灯以外はすべて消灯します。パーキングブレーキ作動表示灯は、パーキングブレーキを解除すると消灯します。

エンジンが始動しない場合、あるいは機能点検がキー位置 **II** で実施された場合には、エミッションシステム警告灯および油圧低下警告灯以外はすべて数秒以内に消灯します。

関連情報

- コンパインド・メーター・パネル (p. 98)
- コンパインド・メーター・パネル - 表示灯の意味 (p. 104)
- コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 106)
- アナログ式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 98)

Eco guide および Power guide*

Eco guide および Power guide は、経済走行できるように運転者をサポートするコンパインド・メーター・パネル (p. 98) の 2 つの計器です。

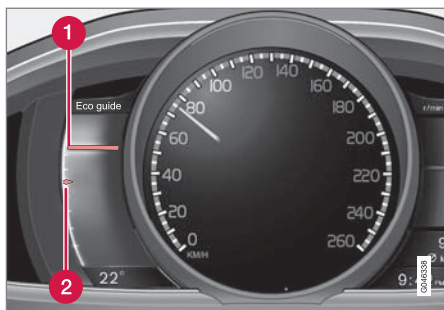
車両にはその時点までの走行統計も保存されています。これはブロック図で確認することができます。トリップコンピューター - 走行統計* (p. 159) を参照してください。

Eco guide

この計器は、車両の経済走行がどの程度達成されているかを表示します。

この機能を表示するには、「Eco」のテーマを選択します。液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99) を参照してください。

⁸ エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル - 概要 (p. 389) を参照してください。



① 瞬間値

② 平均値

瞬間値

瞬間値が表示されます。値が大きいほどよいことを表します。

瞬間値は車速、エンジン回転数、現在の出力値、フットブレーキの使用に基づいて計算されます。

最適速度(50-80 km/h (30-50 mph))と低エンジン回転数が推奨されます。ポインターは加速中および減速中に下がります。

瞬間値が非常に小さいと、(少し遅れてから)計器のレッドゾーンが点灯します。これは、経済走行ができていないことを意味するため、避ける必要があります。

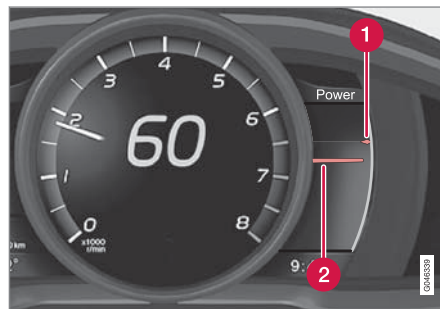
平均値

平均値は瞬間値にゆっくりと従い、車両の最新の走行状況を示します。ポインターが高い値を指している場合は、経済走行ができていていることを示しています。

Power guide

この計器はエンジンからの出力の使用量(Power)と使用可能な出力の関係を示します。

この機能を表示するには、「Performance」のテーマを選択します。液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99)を参照してください。



① 最高出力値

② 現在の出力値

最高出力値

小さい上側のポインターは最高出力値⁹を示します。この値が高ければ高いほど、現在のギヤで使用できる出力が多いことを示しています。

現在の出力値

大きい下側のポインターは現在の出力値⁹を示します。この値が高ければ高いほど、エンジン出力を多く使用していることを示しています。

これら2つのポインターの差が大きいほど、予備の出力量がたくさん残っていることを表します。

⁹ 出力はエンジン回転数に応じて変化します。

コンバインド・メーター・パネル - 表示灯の意味

表示灯は、機能の作動、システムの作動、異常や故障の発生を運転者に知らせます。

表示灯

シンボル	意味
	ABL 不具合
	エミッションシステム
	ABS 不具合
	リアフォグランプオン
	スタビリティ・システム、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 224) 参照
	スタビリティ・システム、スポーツモード、Electronic stability control (ESC) - 作動 (p. 226) 参照
	エンジンプレヒーター(ディーゼル)
	燃料残量低下

シンボル	意味
	インフォメーション(ディスプレイテキストを参照してください)
	ハイビーム作動
	左右方向指示インジケーター (左)
	左右方向指示インジケーター (右)
	Eco 機能オン、ECO ドライブモード* (p. 330) 参照
	Start/Stop、エンジンがオートストップしました。Start/Stop* - 機能と操作 (p. 322) を参照してください。
	タイヤ空気圧システム、タイヤ・モニタリング(TM)* (p. 371) 参照

ABL 不具合

ABL 機能(アクティブベンディングランプ)に不具合が発生すると、このシンボルが点灯します。

エミッションシステム

エンジン始動後にこの警告灯が点灯した場合、車両のエミッションシステムに不具合が発生したおそれがあります。サービス工場まで走行

し、点検を受けてください。ABS 装置の点検を受けてください。

ABS 不具合

この警告灯が点灯した場合は、システムが機能していません。この状態でもブレーキシステムは通常通り作動しますが、ABS 機能は働きません。

1. 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。
2. エンジンを再始動してください。
3. 警告灯が点灯し続ける場合は、最寄りのボルボ指定のサービス工場まで走行し ABS システムの点検を受けてください。

リアフォグランプオン

リアフォグランプがオンのときに点灯します。リアフォグランプは運転席側に 1 つだけ装備されています。

スタビリティ・システム

スタビリティ・システムが作動すると、点滅します。点灯し続ける場合は、システムに不具合があります。

スタビリティ・システム、スポーツモード

スポーツモードがオンのときには、シンボルが点灯します。スポーツモードを選択すると、よりアクティブな運転が可能になります。システムがアクセルペダルやステアリングホイールの動き、さらにコーナリングをモニターし、通常よりもアクティブに運転しているとシステムが判断すると、一定範囲内で後輪の意図的なスリップを許容します。スリップが一定レベルを超えると、システムが介入し、車両を安定させます。

エンジンプレヒーター(ディーゼル)

エンジンプレヒーター作動中に点灯します。予熱は多くの場合、低温時に実施されます。

燃料残量低下

燃料の残量が少なくなると点灯します。すみやかに給油してください。

インフォメーション(ディスプレイテキストを参照してください)

車両のシステムに不具合が発生するとこのインフォメーションシンボルが点灯し、インフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。メッセージは、OK ボタンを押すと消えます(メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 144) 参照)。または、しばらくするとメッセージは自動的に消えます(メッセージが消えるまでの時間はその機能によって異なります)。インフォメーション

シンボルは、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

① 注意

サービスメッセージが表示されたとき、OK ボタンを押すとシンボルおよびメッセージを消去できます。または一定時間が経過すると自動的に消えます。

ハイビーム作動

このシンボルは、ハイビーム使用時またはパッシングライト位置で点灯します。

左右方向指示器

非常点滅灯が点滅している間は、方向指示インジケーターが両方とも点滅します。

Eco 機能オン

このシンボルは、Eco 機能がオンのときに点灯します。

Start/Stop

エンジンがオートストップするとシンボルが点灯します。

タイヤ空気圧システム

タイヤ空気圧が低下するか、タイヤ空気圧システムに不具合が発生すると、このシンボルが点灯します。

リマインダー(半ドア警告)

正常に閉まっていないドアがあるとインフォメーションシンボルまたは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、開いているドアを閉めてください。

 車速が約 7 km/h (約 4 mph) 未満のときは、インフォメーションシンボルが点灯します。

 車速が約 7 km/h (約 4 mph) を超えると、警告灯が点灯します。

ボンネット¹⁰が正常に閉まっていないときは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、ボンネットを閉めてください。

テールゲートが正常に閉まっていないときはインフォメーションシンボルが点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、テールゲートを閉めてください。

関連情報

- コンパインド・メーター・パネル (p. 98)
- コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 106)

¹⁰ アラーム*装着車両のみ。

- アナログ式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 98)
- 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99)

コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味

警告灯は、重要な機能の作動や、重大な異常や故障の発生を運転者に知らせます。

警告灯

シンボル	意味
	油圧低下 ^A
	パーキングブレーキ作動、液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル
	パーキングブレーキ作動、アナログ式メーター・パネル
	エアバッグ - SRS
	シートベルトリマインダー
	充電不良
	ブレーキシステムの不具合
	警告

^A エンジンタイプによっては、油圧低下の警告システムが搭載されていない場合があります。このようなタイプのエンジンが搭載されている車両では、油圧低下のシンボルは使用されません。オイルレベル低下の警告は、ディスプレイテキストを介して表示されます。詳しくは、エンジンオイル - 概要 (p. 389)を参照してください。

油圧低下

この警告灯が走行中に点灯した場合は、エンジンオイルの油圧が低下しています。ただちにエンジンを停止して、エンジンオイルのレベルを点検し、必要に応じて補充してください。オイルレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯する場合は、サービス工場にご連絡ください。ABS 装置の点検を受けてください。

パーキングブレーキ作動

パーキングブレーキがかかっているときに、警告灯が点灯します。この警告灯はパーキングブレーキ作動中点灯します。詳しくは、パーキングブレーキ (p. 334)を参照してください。

エアバッグ - SRS

警告灯が点灯し続ける場合、または走行中に点灯した場合は、車両のセーフティシステムのいずれかに不具合が検出されたことを表しています。すみやかにサービス工場まで走行し、点検を受けてください。ABS 装置の点検を受けてください。

シートベルトリマインダー

この警告灯は、運転席/助手席の乗員がシートベルトを着用していないとき、またはリアシート乗員の乗員がシートベルトを外したときに点滅します。

充電不良

走行中に電気系統に不具合が発生すると点灯します。サービス工場にご連絡ください。ABS 装置の点検を受けてください。

ブレーキシステムの不具合

この警告灯が点灯したときは、ブレーキフルード量が規定量以下に減っているおそれがあります。安全な場所に停車して、リザーバータンクのブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 392)を参照してください。

ブレーキと ABS の警告灯が両方同時に点灯した場合は、制動力(ブレーキ力)分配システムに不具合が発生しているおそれがあります。

1. 安全な場所に停車して、エンジンを停止してください。
2. エンジンを再始動してください。
 - 両方の警告灯が消灯した場合は、走行を続けられます。
 - 警告灯が消灯しない場合は、リザーバータンクのブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 392)を参照してください。ブレーキフルードレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯したままの場合は、最寄りのサービス工場まで慎重に走行し、ブレーキシステムの点検を受けてください。ABS 装置の点検を受けてください。

⚠ 警告

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。

サービス工場でブレーキフルードが減った原因を点検してもらってください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

ブレーキシステムと ABS の警告灯が両方同時に点灯しているときは、急ブレーキをかけた際に車体後部が横滑りするおそれがありますので、ご注意ください。

警告

車両の安全性または操縦安定性に関わるような不具合が発生すると、赤色の警告灯が点灯します。同時に、インフォメーション・ディスプレイにテキストが表示されます。異常が修正されるまで警告灯は点灯を続けますが、ディスプレイテキストは **OK** で消去することができます。メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 144)を参照してください。警告灯は、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

対処：

1. 安全な場所に停車してください。停車後は、走行しないでください。
2. インフォメーション・ディスプレイの表示をお読みください。ディスプレイテキストに従って処置を行います。**OK** ボタンを使用して、メッセージを消去します。

44 リマインダー(半ドア警告)

正常に閉まっていないドアがあるとインフォメーションシンボルまたは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、開いているドアを閉めてください。

 車速が約 7 km/h (約 4 mph) 未満のときは、インフォメーションシンボルが点灯します。

 車速が約 7 km/h (約 4 mph) を超えると、警告灯が点灯します。

ボンネット¹¹ が正常に閉まっていないときは警告灯が点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、ボンネットを閉めてください。

テールゲートが正常に閉まっていないときはインフォメーションシンボルが点灯し、同時にインフォメーション・ディスプレイにシンボルが表示されます。ただちに安全な場所に停車して、テールゲートを閉めてください。

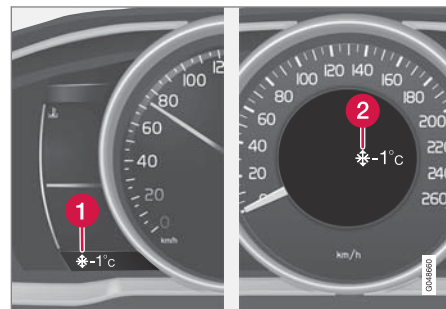
関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)
- コンバインド・メーター・パネル - 表示灯の意味 (p. 104)
- アナログ式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 98)

- 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99)

外気温計

外気温計のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



- 1 外気温計のディスプレイ、液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル
- 2 外気温計のディスプレイ、アナログ式メーター・パネル

外気温が+2℃～-5℃のときは、低温警告のため雪の結晶マークが表示され、路面が凍結してスリップする危険があることを警告します。これにより、凍った路面に関する警告が得られます。車両が停止している場合、温度計は高すぎる値を示すことがあります。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)

¹¹ アラーム*装着車両のみ。

トリップメーター(走行距離計)

トリップメーター(走行距離計)のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



トリップメーター(走行距離計)、液晶デジタル式メーター・パネル

① トリップメーター(走行距離計)¹²のディスプレイ

トリップメーター(走行距離計)**T1**と**T2**は短距離を測定するために使用されます。ディスプレイに距離が表示されます。

左側レバースイッチのコントロールダイヤルを回して、望ましいメーターを表示します。

左側レバースイッチの**RESET**ボタンを(変化するまで)長押しすると、表示されているトリップメーターがリセットされます。詳しくは、ト

リップコンピューター (p. 149)を参照してください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)

時計

時計のディスプレイはコンバインド・メーター・パネルに表示されます。



クロック、液晶デジタル式メーター・パネル

① ディスプレイの時刻表示¹³

時計の設定

時計は、メニューシステム MY CAR で調節できます。MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)

¹² 外観はメーターのタイプによって異なります。

¹³ アナログ式メーター・パネルが装備されている場合には、メーター・パネルの中央に時刻が表示されます。

コンバインド・メーター・パネル – ライセンス契約

ライセンスとは、特定のアクティビティを操作する権利、または他人の権利を契約条件に基づいて使用する権利の許諾契約です。以下はボルボ社と製造元/開発元との使用許諾契約で、英語で記載されています。

Combined Instrument Panel Software Open Source Software Notice

This product uses certain free / open source and other software originating from third parties, that is subject to the GNU Lesser General Public License version 2 (LGPLv2), The FreeType Project License ("FreeType License") and other different and/or additional copy right licenses, disclaimers and notices. The links to access the exact terms of LGPLv2, and the other open source software licenses, disclaimers, acknowledgements and notices are provided to you below. Please refer to the exact terms of the relevant License, regarding your rights under said licenses. Volvo Car Corporation (VCC) offers to provide the source code of said free/open source software to you for a charge covering the cost of performing such distribution, such as the cost of media, shipping and handling, upon written

request. Please contact your nearest Volvo Dealer.

The offer is valid for a period of at least three (3) years from the date of the distribution of this product by VCC / or for as long as VCC offers spare parts or customer support.

Portions of this product uses software copyrighted © 2007 The FreeType Project (www.freetype.org). All rights reserved.

Portions of this product uses software with Copyright © 1994-2013 Lua.org, PUC-Rio (<http://www.lua.org/>)



This product includes software under following licenses:

LGPL v2.1: <http://www.gnu.org/licenses/old-licenses/lgpl-2.1.html>

- GNU FriBidi
- DevIL

The FreeType Project License: <http://git.savannah.gnu.org/cgit/freetype/freetype2.git/tree/docs/FTL.TXT>

- FreeType 2

MIT License: <http://opensource.org/licenses/mit-license.html>

- Lua

ディスプレイのシンボル

車両のディスプレイには、さまざまなシンボルが表示されます。これらのシンボルは、警告灯、表示灯、インフォメーションシンボルに分類されます。

以下に列挙されているのはもっとも一般的なシンボルで、その意味と、マニュアル内の詳細情報の記載場所に関する情報が表示されています。

 - 車両の安全性や操縦安定性に関わるような不具合が発生すると、赤色の警告灯が点灯します。同時に、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにディスプレイテキストが表示されます。

 - 車両のシステムに不具合が発生すると、このインフォメーションシンボルが点灯し、コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにテキストが表示されます。黄色いインフォメーションシンボルは、他の表示灯と共に点灯する場合もあります。

コンバインド・メーター・パネルの警告灯

シンボル	意味	参照
	油圧低下	(p. 106)
	パーキングブレーキ作動、液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル	(p. 106)、 (p. 334)
	パーキングブレーキ作動、アナログ式メーター・パネル	(p. 106)
	エアバッグ - SRS	(p. 64)、 (p. 106)
	シートベルトリマインダー	(p. 60)、 (p. 106)
	充電不良	(p. 106)
	ブレーキシステムの不具合	(p. 106)、 (p. 332)
	警告、セーフティモード	(p. 64)、 (p. 74)、 (p. 106)

コンバインド・メーター・パネルのコントロールシンボル

シンボル	意味	参照
	ABL 不具合*	(p. 104)、 (p. 128)
	エミッションシステム	(p. 104)
	ABS 不具合	(p. 104)、 (p. 332)
	リアフォグランプオン	(p. 104)、 (p. 132)
	スタビリティ・システム、ESC (Electronic Stability Control)、トレーラー・スタビリティ・アシスト*	(p. 104)、 (p. 227)、 (p. 352)
	スタビリティ・システム、スポーツモード	(p. 104)、 (p. 227)
	エンジンプレヒーター(ディーゼル)	(p. 104)
	燃料残量低下	(p. 104)、 (p. 180)



◀

シンボル	意味	参照
	インフォメーション(ディスプレイテキストを参照してください)	(p. 104)
	ハイビーム作動	(p. 104)、 (p. 125)
	方向指示インジケーター(左)	(p. 104)
	方向指示インジケーター(右)	(p. 104)
	Start/Stop*、エンジンオートストップ	(p. 104)、 (p. 322)
	ECO 機能*オン	(p. 104)、 (p. 330)
	タイヤ空気圧システム*	(p. 104)、 タイヤ・モニタリング(TM)* (p. 371)

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーションシンボル

シンボル	意味	参照
	自動防眩機能付きハイビーム - AHB*	(p. 126)
	カメラセンサー*、レーザーセンサー*	(p. 126)、 (p. 267)、 (p. 277)、 (p. 290)、 (p. 295)
	アダプティブクルーズコントロール*	(p. 253)
	アダプティブクルーズコントロール*	(p. 245)、 (p. 253)
	アダプティブクルーズコントロール*、車間警告機能*(車間警報システム)	(p. 253)、 (p. 238)
	アダプティブクルーズコントロール*	(p. 243)
	クルーズコントロール*	(p. 232)

シンボル	意味	参照
	速度リミッター	(p. 229)
	レーダーセンサー*	(p. 253)、 (p. 240)、 (p. 277)
	Start/Stop*	(p. 328)
	Start/Stop*	(p. 328)
	Start/Stop*	(p. 328)
	車間警告機能*(車間警報システム)、City Safety™、衝突警告システム*、オートブレーキ*	(p. 240)、 (p. 267)、 (p. 277)
	エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*	(p. 180)

* オプション/アクセサリ。

シンボル	意味	参照
	エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* サービスが必要です。	(p. 180)
	起動済みタイマー*	(p. 180)
	起動済みタイマー*	(p. 180)
	ABL システム*	(p. 128)
	バッテリー電圧低下	(p. 180)
	パークアシスト・パイロット - PAP*	(p. 304)
	レインセンサー*	(p. 136)
	レーン・アシスト*	(p. 293)

シンボル	意味	参照
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・アシスト*	(p. 295)
	ドライバー・アラート・システム*、レーン・アシスト*	(p. 290)、 (p. 295)
	ドライバー・アラート・システム*、休憩してください。	(p. 288)
	ドライバー・アラート・システム*、休憩してください。	(p. 290)
	ギヤシフトインジケーター	(p. 316)
	ギヤポジション	(p. 317)

シンボル	意味	参照
	感知された速度情報*	(p. 284)
	オイルレベルの測定	(p. 390)

ルーフコンソールディスプレイのインフォメーションシンボル

シンボル	意味	参照
	シートベルトリマインダー	(p. 63)
	エアバッグ、助手席、作動可能状態	(p. 68)
	エアバッグ、助手席、非作動状態	(p. 68)

関連情報

- コンパインド・メーター・パネル - 表示灯の意味 (p. 104)
- コンパインド・メーター・パネル - 警告灯の意味 (p. 106)
- メッセージ - 取り扱い (p. 147)

ボルボ・センス

ボルボ・センスは、ボルボ体験の中心をなすシステムで、お客様を車両および外部の世界とつなぐ役割を果たします。センスは、必要ときに情報、エンターテインメントおよび支援の提供をします。センスは、車での移動をさらに魅力的にする直感的な機能で構成されており、車両の所有に伴う面倒を減らします。

SENSUS

0048196

直感的なナビゲーション構成により、必要なときに、運転の邪魔をすることなく、適切なサポート、情報およびエンターテインメントを提供することができます。

センスは、外部とのつながりを実現する*、あらゆるソリューションに対応するとともに、車両のすべての機能を直感的に操作するシステムです。

ボルボ・センスは、車両システムのさまざまな機能を組み合わせて、センターコンソールの画面に表示します。ボルボ・センスがあれば、

直観的なインターフェースにより、車両をパーソナライズすることができます。車両設定、オーディオ・メディア、エアコンディショナーなどの設定が可能です。

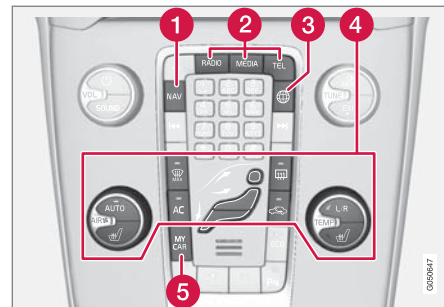
センターコンソールのボタンやコントロールスイッチ、またはステアリングホイール右側のステアリングリモコンを使用すると、機能を起動または解除し、さまざまな設定を行うことができます。

MY CAR を押すと、City Safety、ロックおよびアラーム、自動ファン速度、時計の設定など、走行や車両の操作に関するすべての設定が表示されます。

RADIO、MEDIA、TEL、  **NAV*** および **CAM**¹⁴ など、関連のボタンを押すと、AM、FM、CD、DVD、TV*、Bluetooth®、ナビゲーション*、パークアシスト・カメラ*など、他のソースやシステム、機能が起動できます。

すべての機能/システムの詳細については、オーナーズマニュアルまたはその追補版の該当セクションを参照してください。

概要



センターコンソール内のコントロールパネル図には略図が使用されています。選択した装備や市場により、機能の数やボタンの配置が異なります。

- 1 ナビゲーション* - **NAV**
- 2 オーディオ・メディア - **RADIO、MEDIA、TEL**、別冊付録「Sensus Infotainment」を参照してください。
- 3 オンライン車両 - 
- 4 エアコンディショナーシステム (p. 162)
- 5 機能設定 - **MY CAR**、**MY CAR** (p. 147) を参照してください。

¹⁴ 一部の車両モデルに適用されます。

キー位置

リモートコントロールキーは、車両の電気系統を各モード/レベルに設定し、各種機能を使用できるようにします。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。



リモートコントロールキーを抜いた/差し込んだ状態のイグニッションスイッチ

① 注意

キーレススタートおよびロックシステム*機能装備の車両では、キーをイグニッションスイッチに挿入する必要はなく、ポケットなどに入れておくことができます。キーレススタートおよびロックシステムについては、キーレスドライブ* (p. 206) を参照してください。

キーを差し込む

1. リモートコントロールキーの端(脱着式キーブレードが付いた側)を持ち、キーをイグニッションスイッチに入れます。
2. キーを奥まで押し込みます。

❗ 重要

イグニッションスイッチに異物を入れないでください。ロックが破損し、機能が正常に作動しなくなります。

リモートコントロールキーを不適切な向きで差し込まないでください。脱着式キーブレードが付いた側を持つようにしてください。脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 204) を参照してください。

キーを引き出す

リモートコントロールキーを、イグニッションスイッチから引き出します。

キー位置 - 各レベルでの機能

エンジン停止中でもいくつかの機能が利用できるように、車両の電気系統はリモートコントロールキーにより3つのレベル、0、I および II に設定できます。このオーナーズマニュアルではこれらのレベルを「キー位置」として表現しています。

次の表は、各キー位置/レベルで利用できる機能を示しています。



レベル	機能
0	- オドメーター(積算距離計)、時計、水温計が点灯します。 - パワーシートが調節できます。 - 限られた時間であれば、オーディオシステムが利用できます。
I	サンルーフ、パワーウインド、車内の12V電源ソケット、ナビゲーション、電話、ベンチレーションファンおよびウインドスクリーンワイパーが使用できます。
II	- ヘッドライトを点灯させることができます。 - 表示灯/警告灯が5秒間点灯します。 - 他にもいくつかのシステムが作動可能状態です。しかし、シートヒーターおよびリアウインドの熱線はエンジン始動後にしか起動できません。 このキー位置では、バッテリーから大量の電流を消費するため、使用をひかえてください。

キー位置/レベルの選択

- **キー位置 0** - 車両のロックを解除します。車両の電気系統はレベル **0** です。

① 注意

エンジンを始動**せずに I または II** にアクセスするには、これらのキー位置を選択する際にブレーキ/クラッチペダルを**踏み込まない**でください。

- **キー位置 I** - リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ¹⁵の奥まで差し込まれている状態で、**START/STOP ENGINE**を短く押します。
- **キー位置 II** - リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ¹⁵の奥まで差し込まれている状態で、**START/STOP ENGINE**を長押し¹⁶します。
- **キー位置 0 へ戻す** - キー位置 **0** へ **II** および **I** から戻すには、**START/STOP ENGINE**を短く押します。

エンジンの始動と停止

エンジンの始動/停止については、エンジンの始動 (p. 312)を参照してください。

けん引

けん引中のリモートコントロールキーに関する重要な情報があります。けん引 (p. 353)を参照してください。

関連情報

- キー位置 (p. 115)

¹⁵ キーレス始動およびロックシステム*装備車の場合は不要。

¹⁶ 約2秒間。

シート、フロント

車両のフロントシートには、最適な座り心地を提供するためにさまざまな設定オプションがあります。



- ① ランバーサポート*を調整するには、ホイール¹⁷を回してください。
- ② 前後の調節：レバーハンドルを持ち上げて、ステアリングホイールおよびペダルからの位置を調節します。調節後は、シートが確実に固定されているか確認してください。
- ③ シートクッションの前端の上げ下げ*には、レバーを繰り返し上下に操作します。
- ④ ダイヤルを回して、バックレストの傾きを調節します。
- ⑤ シートの高さ調節*：上げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し引き上げ

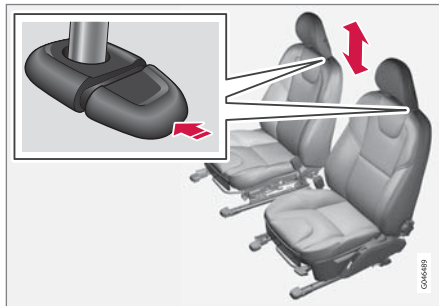
ます。下げるときは、希望の高さになるまでレバーを繰り返し押し下げます。

- ⑥ パワーシート用コントロールパネル*、シート、フロント - 電動 (p. 118) を参照してください。

警告

運転席シートの調節は、必ず走行前に行ってください。走行中は絶対に調節しないでください。急ブレーキや事故の際に、ケガをすることがないように、シートが確実に固定されていることを確認してください。

フロントシートヘッドレストの調整



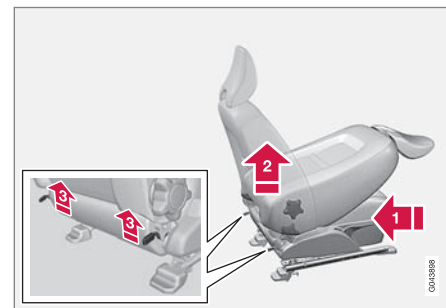
ヘッドレストの高さは調整できます。

ヘッドレストが頭全体を支えるよう、できる限り乗員の身長に合わせてヘッドレストを調節してください。

高さを調節するには、ボタン(図を参照)を押した状態で、ヘッドレストを上下に動かしてください。

ヘッドレストの高さは、3段階に調節することができます。

助手席のバックレストを倒す*



長尺物を載せる場合など、助手席のバックレストを前方に倒すことができます。

- ① シートを一番後方の、一番低い位置にします。
- ② バックレストを立てた位置にします。

¹⁷ パワーシートにも適用されます。

- ◀ 3 バックレストの後部下側にあるキャッチを持ち上げて、バックレストを前方に倒します。
4. シートを前方に押し、ヘッドレストがグローブボックス下に「固定」されるようにします。

起こす場合は、逆の手順で行ってください。

警告

助手席シートのバックレストを倒しているときには、助手席後ろのシートまたはリアセンターシートを使用しないでください。

警告

バックレストを起こした後は、急ブレーキや事故の際にケガをすることがないように、バックレストをつかみ、バックレストが確実に固定されていることを確認してください。

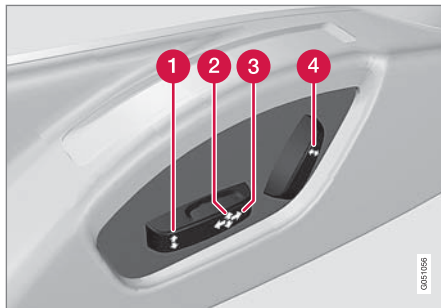
関連情報

- シート、フロント - 電動 (p. 118)
- シート、リア (p. 119)

シート、フロント - 電動

車両のフロントシートには、最適な座り心地を提供するためにさまざまな設定オプションがあります。電動シートは前後上下に動かすことができます。シートクッションの前部を上下させることができます。バックレストの角度を変えることができます。

パワーシート*



- 1 シートクッション前端の高さ調節
- 2 シートの上下調節
- 3 シートの前後の位置調節
- 4 バックレストの傾き

パワーシートの動きが妨げられると、オーバーロードプロテクションが作動します。オーバーロードプロテクションが作動した場合、車両の電気システムをキー位置 **1** または **0** にして、しば

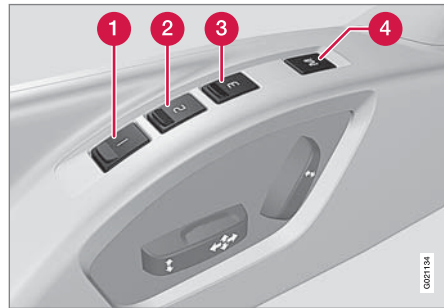
らく待ってから再度シートの調節を行ってください。

一度に1つのシート設定(前/後/上/下)のみ、調節することができます。

準備

シートは、ドアをリモートコントロールキーでロック解除した後、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込んでいない状態でも、一定時間内は調節することができます。通常、シートの調節はキー位置が **1** のときに行います。エンジン作動中はいつでも調節することができます。

メモリー機能付シート*



メモリー機能は、シートおよびドアミラーの設定を保存します。

設定を保存する

- ① メモリーボタン
- ② メモリーボタン
- ③ メモリーボタン
- ④ 設定保存ボタン

1. シートおよびドアミラーの位置を調節します。
2. **M**を押しながら、ボタン**1**、**2**または**3**を押します。作動音が鳴り、コンパインド・メーター・パネルにテキストが表示されるまでボタンを押したままにします。

新しいメモリーを設定するには、シートを再調節する必要があります。

メモリー位置に移動する

シートとドアミラーが停止するまで、メモリーボタン**1** - **3**のいずれかを押します。途中でボタンから指を放すと、シートおよびドアミラーの動きは中断します。

リモートコントロールキーのキーメモリー*

全リモートコントロールキーとも、異なる運転者によって使用でき、各運転者用のシートとドアミラー¹⁸の設定を記憶させることができます。リモートコントロールキー - パーソナライズ* (p. 197)を参照してください。

非常停止

シートが不意に動き出した場合は、シート用設定ボタンまたはメモリーボタンいずれか1つを押すと停止します。

⚠ 警告

挟まれるおそれがあります。お子様にシートの操作をさせないでください。シートの調節は、シートの前後や下になにも物がない状態で行ってください。リアシートの乗員が挟まれないように注意してください。

シートヒーター

シートヒーターについては、フロントシートヒーター* (p. 169)およびリアシートヒーター* (p. 169)を参照してください。

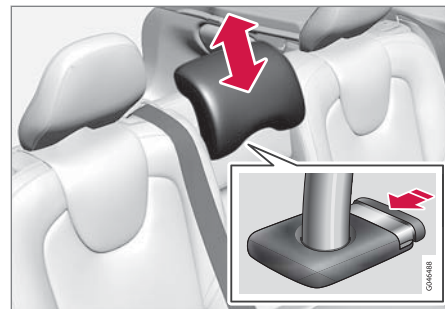
関連情報

- シート、フロント (p. 117)
- シート、リア (p. 119)

シート、リア

リアシートのバックレストと外側シートのヘッドレストは折りたたむことができます。センターシートのヘッドレストは乗員の座高に合わせて調節することができます。

リアセンターシート、ヘッドレスト



リアセンターシートヘッドレストは、ヘッドレストが頭全体を支えるよう、乗員の身長に合わせて調節することができます。必要に応じて、持ち上げます。

ヘッドレストを再び下げるには、ボタン(図参照)を押しながら、ヘッドレストを注意して押し下げてください。

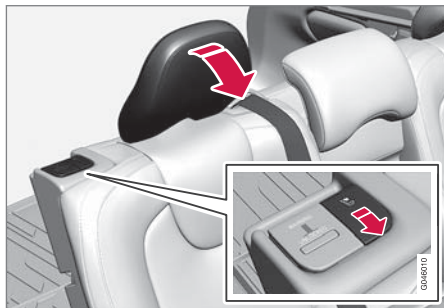
ヘッドレストの高さは、5段階に調節することができます。

¹⁸ 車両にメモリー付きパワーシートと電動格納式ドアミラーが装備されている場合のみ。

⚠ 警告

センターシートを使用しない場合は、センターシートのヘッドレストを必ず一番低い位置に設定してください。センターシートを使用する場合は、ヘッドレストを乗員の座高に合わせて正しく調節し、可能であれば後頭部全体をサポートするようにします。

ドア側のリアシートヘッドレストを手で倒す



ヘッドレストの横のロックハンドルを引き、ヘッドレストを前に倒します。

ヘッドレストは手で元に戻してください。

⚠ 警告

ヘッドレストを持ち上げた場合には、必ずロック位置に固定してください。

リアシートバックレストを倒す

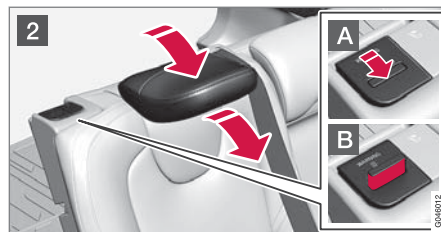
❗ 重要

バックレストを倒す際には、リアシートカップホルダーが開いており、リアシートになにも置かれていないことが必要です。また、シートベルトも接続しないください。リアシートの内装を傷付けるおそれがあります。

ⓘ 注意

リアシートバックレストを前方に完全に倒す際は、フロントシートを前方に移動するかバックレストを立てる、またはその両方の作業をする必要があります。

- 左右どちらの部分も個別に倒すことができます。
- バックレスト全体を倒す場合には、各部分を別々に倒してください。



- 1 右側セクションを倒している場合は、センターシートのヘッドレストを解除して調節します。前述の「ヘッドレスト、センターシート、リア」の項を参照してください。
- 2 ドア側ヘッドレストは、バックレストを倒すと自動的に倒れます。バックレストのロックハンドル **A** を持ち上げながら、バックレストを前方に倒します。ロックキャッチ **B** の赤いインジケーターが見える場合は、バックレストが固定されていません。

ⓘ 注意

バックレストをたたむ場合には、シートクッションと接触しないように、ヘッドレストをわずかに前に動かす必要があります。

起こす場合は、逆の手順で行ってください。

① 注意

バックレストを起こして固定すると、赤いインジケータは見えなくなります。それでも見える場合は、バックレストが正しく固定されていません。

⚠ 警告

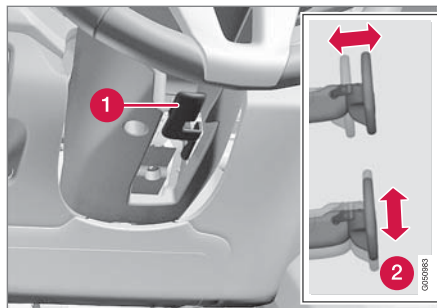
リアシートバックレストが倒されていた場合には、バックレストおよびヘッドレストが確実に固定されているか確認してください。

関連情報

- シート、フロント (p. 117)
- シート、フロント - 電動 (p. 118)

ステアリングホイール

ステアリングホイールは位置の調節が可能です。ステアリングホイールには、ホーン、クルーズコントロール、メニュー、オーディオ、電話のコントロール装置が備わっています。

調節

ステアリングホイールの調節

- ① ステアリングホイールリリースレバー
- ② 調節可能なステアリングホイールの位置

ステアリングホイールは、高さと前後の調節が可能です：

1. ステアリングホイールのロックを解除するときは、レバーを前方に押します。
2. ステアリングホイールの位置を調節します。

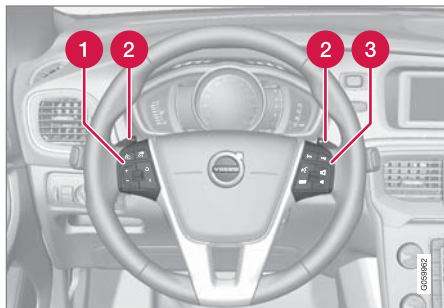
3. リリースレバーを元の位置に引き戻して、ステアリングホイールをロックします。レバーが動かしにくいときは、レバーを押し戻すと同時にステアリングホイールを少し押すようにしてロックしてください。

⚠ 警告

ステアリングホイールの調節およびロックは、走行前に行ってください。

速度感应式パワーステアリング*では、ステアリングホイールを回すために必要な力を調節することができます。ステアリングホイール操舵力の調節* (p. 224) を参照してください。

◀ ステアリングリモコン*およびパドル*



ステアリングホイールのステアリングリモコンおよびパドル

- ① クルーズコントロール* (p. 232)*、およびアダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)*。
- ② オートマチックトランスミッションのマニュアルギヤチェンジ用パドル。オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 317)を参照してください。
- ③ オーディオおよび電話コントロール。付録「Sensus Infotainment」を参照してください。

ホーン

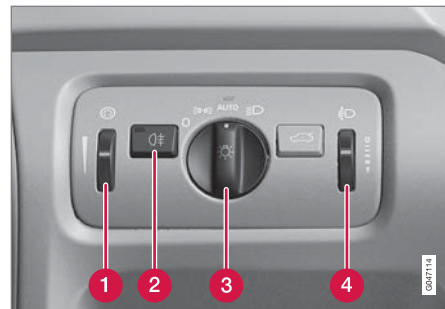


ホーン

ステアリングホイールのセンターパッドを押すと、ホーンが鳴ります。

ライトスイッチ

ヘッドライトスイッチを操作して、車外の照明の点灯、調節を行います。また、ディスプレイやメーターパネルライト、アンビエントライト (p. 134) の調節にも使用します。



ライトスイッチの概要

- ① ディスプレイ、メーター・パネルライト、アンビエントライトのコントロールダイヤル*
- ② リアフォグランプボタン
- ③ 走行中および駐車中のライト用ノブ
- ④ ヘッドライト光軸補正用コントロールダイヤル

LED¹⁹ ヘッドライト*装備車は、ヘッドライト光軸補正が自動的に行われるため、ヘッドライト光

¹⁹ LED (Light Emitting Diode)

軸補正用のコントロールダイヤルは装着されていません。

ノブ位置

位置	意味
0	パッシングライトを使用することができます。
	リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプ。 パッシングライトを使用することができます。

位置	意味
AUTO	昼間、車両の電気系統がキー位置 II のとき、またはエンジンが作動しているとき、リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプが点灯します。 薄暗いときや暗闇、またはリアフォグランプまたはウインドスクリーンワイパー(連続作動)が作動したとき、ロービーム、リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプが点灯します。 トンネル検知(p. 125)*機能が作動します。 アクティブハイビーム(p. 126)*機能を使用することができます。 ロービーム点灯中にハイビームにすることができます。 パッシングライトを使用することができます。

位置	意味
	ロービーム、リアサイドマーカーランプおよびポジションランプ/テールランプ。 ハイビームを作動させることができます。 パッシングライトを使用することができます。

ボルボ社は、走行中は **AUTO** モードの使用をお勧めします。

警告

霧、雨など日光が弱い、または十分な強さがない場合、車両のライトシステムは反応しません。

運転者には、適用される交通法規に従って交通状況に適した照射パターンを使用して走行する義務があります。

ディスプレイおよびメーター・パネルライト

キー位置に応じて各ディスプレイおよびメーター・パネルライトが点灯します。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。

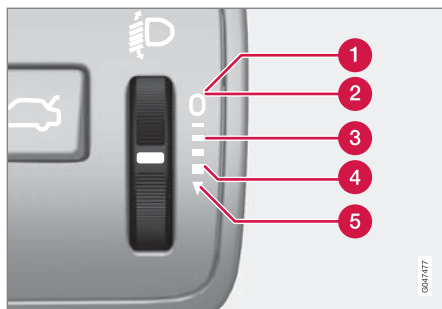
周囲が暗くなると、インフォメーション・ディスプレイの照度も自動的に低くなります。この感度はコントロールダイヤルで調節することができます。

メーター・パネル・ランプの照度は、コントロールダイヤルで調節することができます。

ヘッドライト光軸補正

荷重によって車体前後の傾きが変わり、ヘッドライトの光が対向車の視界を妨げることがあります。こうした状態を防ぐため、ヘッドライトの光軸を調節してください。車両に重い荷物を積載しているときは、光軸を低くしてください。

1. エンジンを回転させたままにするか、車両の電気系統をキー位置 **I** にします。
2. コントロールダイヤルを上/下に戻して、ヘッドライトの光軸を調節します。



車内の乗員や積荷の状態に合わせたコントロールダイヤルの位置

- 1 運転者のみ
- 2 運転者と助手席乗員
- 3 全シートに乗員がいる
- 4 全シートに乗員がいて、カーゴスペースも満載の状態
- 5 カーゴスペースが満載の状態です運転者のみ

関連情報

- ポジションランプ (p. 124)
- ハイ/ロービーム (p. 125)

ポジションランプ

ポジションランプ/テールランプはヘッドライトスイッチのノブを使用して点灯させます。



ヘッドライトスイッチのノブがポジションランプ/テールランプ点灯位置の状態

ノブを **D** の位置に回します(同時にナンバープレートランプが点灯します)。

周囲が暗いときにテールゲートを開けた場合には、後続の車両に注意を促すために、リアポジションランプが点灯します。これは、ノブの位置や車両の電気系統のキー位置に関係なく作動します。

関連情報

- ライトスイッチ (p. 122)

トンネルの検知*

車両がトンネルに入ると、トンネル検知機能によりロービームが点灯します。

トンネルに入ったことをレインセンサー横のセンサーが検知し、ロービームを点灯させます。車両がトンネルを出てから約 20 秒後に、ロービームは消灯します。この間に車両が別のトンネルに入った場合には、ロービームが引き続き点灯します。これによって車両のヘッドライトが繰り返し切り替わるのを防ぎます。

注意 - トンネル検知が機能するには、ヘッドライトスイッチノブが **AUTO** 位置であることが必要です。

関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 125)
- ライトスイッチ (p. 122)

ハイ/ロービーム

ヘッドライト調整用ノブが **AUTO** 位置で、車両の電気系統がキー位置 **II** のとき、またはエンジンが作動しているとき、周辺の明るさが十分ではない場合には、ロービームが自動的に点灯します。



ヘッドライトスイッチノブおよびレバースイッチ

1 パッシングライト位置

2 ハイビーム位置

ロービーム

ノブが **AUTO** 位置の場合、夕方などに明りが十分でなくなると、ロービームが自動的に点灯します。ロービームはリアフォグランプまたはウインドスクリーンワイパー(連続作動)が作動したときにも自動的に点灯します。

ノブが **II** 位置の場合、エンジン始動中またはキー位置が **II** のときには、ロービームが常時点灯します。

パッシングライト

レバーを手前に軽く引くと、パッシングライト位置になります。レバーを放すまで、ハイビームが点灯します。

ハイビーム

ハイビームは、ノブが **AUTO**²⁰ または **II** 位置のときに作動させることができます。レバースイッチをステアリングホイール側へいっぱいまで引いてから放してハイビームを点灯/消灯します。代わりに、レバースイッチをステアリングホイール側に軽く引いて、ハイビームを解除することができます。

ハイビームが点灯すると、コンパインド・メーター・パネルにシンボル **II** が点灯します。

関連情報

- アクティブベンディングランプ* (p. 128)
- アクティブハイビーム* (p. 126)
- ライトスイッチ (p. 122)
- ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン (p. 129)
- トンネルの検知* (p. 125)

²⁰ ロービームが作動すると。

アクティブハイビーム*

アクティブハイビーム機能は、対向車のヘッドライトや先行車のリアランプを検知し、ハイビームからロービームに切り替える機能です。光を検知しなくなるとハイビームに戻ります。

アクティブハイビーム - AHB

アクティブハイビーム (Active High Beam - AHB) はウインドスクリーンの上端にあるカメラセンサーを利用して、対向車のヘッドライトや先行車のリアランプを検知し、ハイビームからロービームに切り替える機能です。この機能では街路灯も検知対象になることがあります。

カメラセンサーが対向車のヘッドライトや先行車両のリアランプを検知しなくなってから約1秒経過後に、ライトはハイビームに戻ります。

作動/非作動

AHB は、ヘッドライトのスイッチノブが **AUTO** 位置のとき作動させることができます。(メニュースステム MY CAR でこの機能を解除している場合は除きます。MY CAR (p. 147) を参照してください。)



レパースイッチおよびヘッドライトスイッチノブ、**AUTO** 位置

この機能は、暗闇を約 20 km/h (12 mph) 以上の速度で走行しているときに作動させることができます。

AHB をオン/オフするときは、左側レパースイッチを手前にいっぱいまで引いてから放します。ハイビーム点灯中に解除すると、ライトはすぐロービームに戻ります。

アナログ式コンパインド・メーター・パネル装備車

AHB 作動中はインストルメントのインフォメーション・ディスプレイにシンボル  が点灯します。

ハイビームが点灯すると、コンパインド・メーター・パネルにシンボル  も点灯します。

液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル装備車

AHB 作動中はインストルメントのインフォメーション・ディスプレイにシンボル  が白く点灯します。

ハイビーム作動中は、このシンボルは青く点灯します。

マニュアル操作

① 注意

カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。

カメラセンサー前面のウインドスクリーンに、なにも貼り付けたり、取り付けたりしないでください。カメラの効力に支障が出て、カメラを使用している各システムが作動しなくなる原因となります。

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージ **アクティブハイビーム 一時的に利用できません 手動で操作して下さい** が表示された場合には、ハイビームとロービームの切り替えは手動で行うことが必要です。ただし、ヘッドライトスイッチのノブは **AUTO** の位置のままでかまいません。メッセージ **ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照** と  シンボルが表示されている場合にも同じことが当てはまります。 シンボルはこれらのメッセージが表示されると消灯します。

AHB は、濃い霧や激しい雨の中では一時的に利用できなくなる場合があります。AHB が再度利用できるようになるか、ウインドスクリーンセ

ンサーを遮っていたものがなくなると、メッセージが消え、 シンボルが点灯します。

⚠ 警告

AHB は、好条件の下で最適なヘッドライトの使用をサポートする機能です。

運転手は、交通状況や天候により必要に応じて、ハイビームとロービームを手動で切り替える責任がありますので、ご注意ください。

❗ 重要

ハイビームとロービームの手動切り替えが必要になる場合の例:

- 激しい雨や霧の中を走行するとき
- 着氷性のある雨の中を走行するとき
- 雪嵐や溶けかかった雪の中を走行するとき
- 月明かりで走行するとき
- 明かりの乏しい建物密集地域を走行するとき
- 前方の車両のライトが暗いとき
- 道路上や道路脇に歩行者がいるとき
- 道路周辺に看板など反射性の高い物体があるとき
- 中央分離帯などにより、対向車のライトが遮られているとき
- 連絡道路に走行中の車両があるとき
- 稜線や谷底を走行するとき
- 急カーブを走行するとき

カメラセンサーの限界については、衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界 (p. 275) を参照してください。

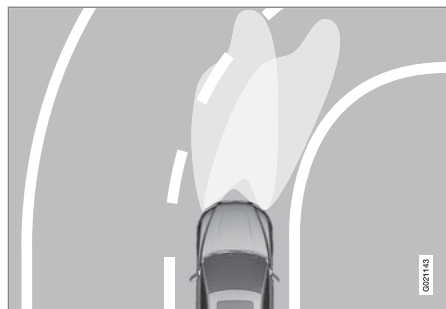
関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 125)
- ライトスイッチ (p. 122)

アクティブベンディングランプ*

アクティブベンディングランプは、カーブや交差点で十分な明るさを確保するように設計されています。

LED²¹ ヘッドライト*装備車両には、車両の装備レベルに応じてアクティブベンディングランプを搭載することができます。



アクティブヘッドライトを解除したときの照射パターン(左)と作動したときの照射パターン(右)

LED ヘッドライトには、車両の装備レベルに応じてアクティブベンディングランプ機能を搭載することができます。アクティブベンディングランプは、ステアリングホイールの動きに追従して、カーブや交差点で十分な明るさを確保し、安全性を高めます。

この機能は、エンジンを始動すると自動的に作動します。(メニューシステム MY CAR で解除されている場合を除きます。MY CAR (p. 147)を参照してください。)この機能に不具合が発生すると、コンパインド・メーター・パネルに  の警告灯が点灯すると共に、インフォメーション・ディスプレイに説明のテキストが表示され、シンボルが点灯します。

シンボル	メッセージ	意味
	ヘッドライトシステム故障 サービスが必要です	システムが解除されています。メッセージが消えない場合は、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

この機能は、夕方や夜間、および車両走行時のみ作動します。

この機能²²は、メニューシステム MY CAR で解除/作動可能にすることができます。MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- ハイ/ロービーム (p. 125)
- アクティブハイビーム* (p. 126)
- ライトスイッチ (p. 122)

²¹ LED(Light Emitting Diode)

²² 工場からの出荷時に起動。

ヘッドライト - 車両通行帯ヘッドライト照射パターン

ハロゲンヘッドライトの光が対向車の視界を妨げないように、左側通行帯または右側通行帯に合わせてヘッドライト照射パターンを調節してください。

LED ヘッドライト*

ヘッドライト照射パターンは調整する必要がありません。ヘッドライトの照射パターンは、対向車にまぶしくないように設計されています。

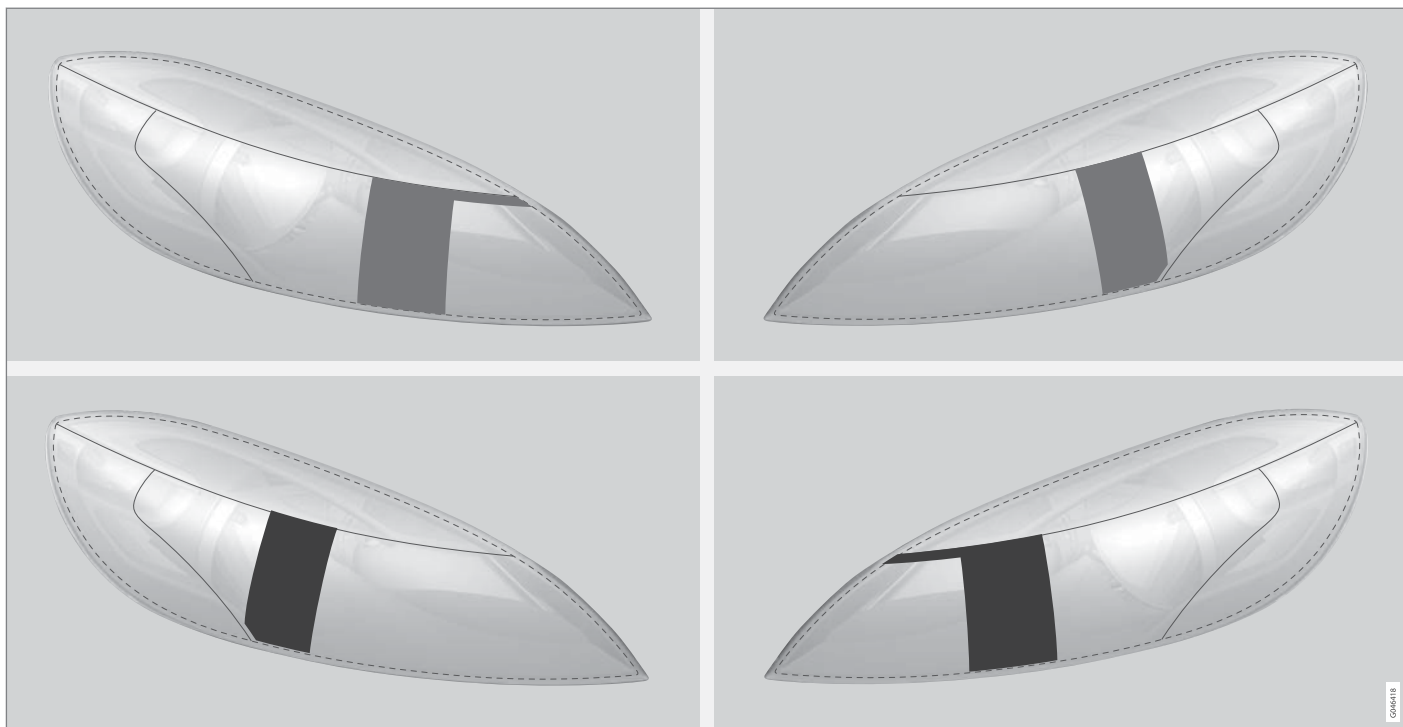
ハロゲンヘッドライト

ハロゲンヘッドライトは、ヘッドライトレンズをマス킹して、ヘッドライト照射パターンを調節します。ヘッドライト照射パターンは、マス킹していないときよりも劣る場合があります。

ヘッドライトのマス킹

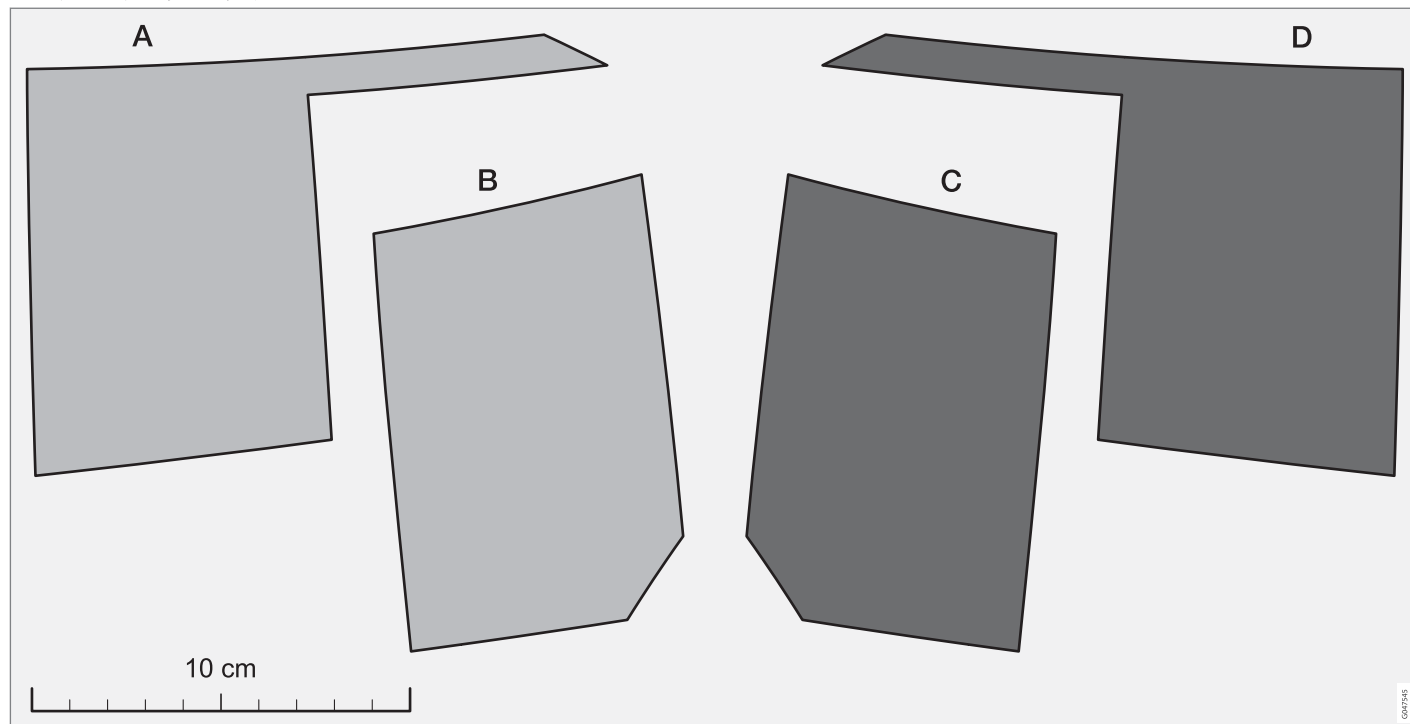
1. A と B のテンプレートは左ハンドル車用、C と D のテンプレートは右ハンドル車用です (後の「ハロゲンヘッドライト用テンプレート」を参照)。テンプレートの縮尺は 1:2 になっています。該当するテンプレートをコピー機で 200% に拡大コピーして使用します。
 - A = LHD 右 (左ハンドル、右レンズ)
 - B = LHD 左 (左ハンドル、左レンズ)
 - C = RHD 右 (右ハンドル、右レンズ)
 - D = RHD 左 (右ハンドル、左レンズ)

2. テンプレートを、シールタイプの防水ビニールシートなどに転写して切り抜きます。
3. ヘッドライトのレンズのラインから始めます。以下の図のラインを確認してください。図を参考にシールタイプのシートに複写したテンプレートをデザインラインに貼り付けます。



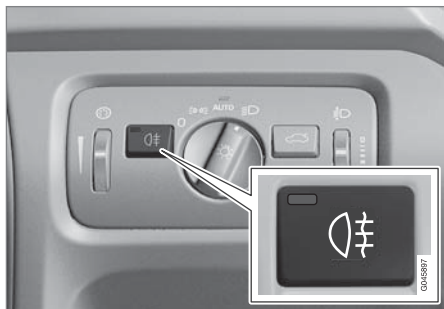
前図：左ハンドル車用、テンプレート A および B。次図：右ハンドル車用、テンプレート C および D。

ハロゲンヘッドライト用テンプレート



リアフォグランプ

霧で視界が悪い場合は、リアフォグランプを使用して他の道路使用者に車両の存在を早めに知らせます。



リアフォグランプボタン

リアフォグランプは、左ハンドル車では左側、右ハンドル車では右側のランプで構成されています。

リアフォグランプはキー位置が **II** の場合、またはエンジンが作動していてヘッドライトスイッチのノブが **AUTO** または **☾** の位置にある場合のみ点灯させることができます。

On/Off ボタンを押します。リアフォグランプが点灯すると、コンパインド・メーター・パネルの表示灯 **☾** およびボタンのランプが点灯します。

START/STOP ENGINE ボタンを押す、またはヘッドライトスイッチのノブが **0** または **☾** 位置のとき、リアフォグランプは自動的に消灯します。

① 注意

リアフォグランプの使用に関する法規は、国によって異なります。

関連情報

- ライトスイッチ (p. 122)

ブレーキランプ

ブレーキペダルを踏むと、ブレーキランプが点灯します。

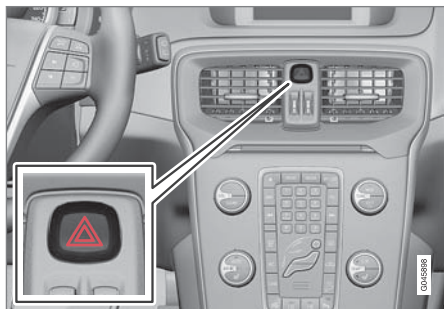
ブレーキランプは、ブレーキペダルを踏み込むと点灯します。また、ブレーキランプはアダプティブクルーズコントロール(p. 241)、City Safety(p. 261)、衝突警告システム(p. 268)のいずれかの運転者サポートシステムが車両にブレーキをかけると点灯します。

関連情報

- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 334)

非常点滅灯

非常点滅灯は、車両のすべての方向指示器を同時に点滅させて他の道路利用者に注意を促します。



非常点滅灯ボタン

ボタンを押すと、非常点滅灯が点滅します。非常点滅灯を使用すると、コンパインド・メーター・パネルの方向指示器のシンボルが両方とも点滅します。

車両に急ブレーキをかけてアダプティブブレーキランプが作動したとき、車速が約 10 km/h (6 mph) を下回ると、非常点滅灯が自動的に作動します。停車した後も非常点滅灯は点滅し続け、車両の走行を開始すると自動的に点滅が解除されます。ボタンを押して点滅を解除することもできます。

関連情報

- 方向指示器 (p. 133)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 334)

方向指示器

車両の方向指示器は左側レバースイッチで操作します。レバーの位置に応じて、方向指示器が 3 回または連続で点滅します。



方向指示器

ワンタッチ方向指示位置

- 1** レバーを上または下に、1 段目の位置まで動かして放します。方向指示器が 3 回点滅します。この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 147) を参照してください。

方向指示位置

- 2** レバーを上または下に、いっぱいまで動かします。

レバーはこの位置で止まります。手で元の位置に戻すか、右折または左折終了後にステアリングホイールを直進位置に戻すと、自動的に元の位置に戻ります。

◀ 方向指示器のシンボル

方向指示器のシンボルについては、コンパインド・メーター・パネル – 表示灯の意味 (p. 104) を参照してください。

関連情報

- 非常点滅灯 (p. 133)

ルームランプ

ルームランプはフロントシートおよびリアシートの上のスイッチから点灯/消灯します。



ルーフコンソールの読書灯およびルームランプのスイッチ

- ① 左側読書灯
- ② ルームランプ(フロアライト*およびシーリングランプ)– オン/オフ
- ③ ルームランプの自動機能
- ④ 右側読書灯

次の場合、30 分以内ならルームランプを手動で点灯/消灯させることができます：

- エンジンを停止して、車両の電気系統をキー位置 **0** にした場合
- ドアをロック解除して、エンジンを始動していない場合

フロント読書灯*

読書灯は、ルーフコンソールのボタンを軽く押して点灯/消灯します。

ボタンを長押しすると明るさを調整できます。

リア読書灯*



リア読書灯

ライトは、それぞれに対応したボタンを軽く押して点灯/消灯します。

ボタンを長押しすると明るさを調整できます。

アンビエントライトとしてのフロアライト*

車内を明るくするために、走行中でも輝度を下げてフロアライトを点灯させることができます。

フロアライトの輝度はメニューシステム MY CAR で変更できます。MY CAR (p. 147) を参照してください。

フロントドア収納ボックスの照明*

フロントドア収納ボックスの照明はエンジンが始動すると点灯します。

グローブボックスランプ

グローブボックスランプは、グローブボックスリッドの開閉と連動して点灯/消灯します。

メイクアップミラーランプ

メイクアップミラー (p. 188) のランプは、カバーの開閉と連動して点灯/消灯します。

カーゴスペースランプ

カーゴスペースランプは、テールゲートの開閉と連動して点灯/消灯します。

ルームランプの自動機能

AUTO ボタン内のランプが点灯していると、自動機能が作動しています。

その場合、ルームランプは以下のように点灯/消灯します。

ルームランプは次の場合に点灯し、30 秒後に消灯します：

- リモートコントロールキーまたはキーブレードで、ドアをロック解除した場合。リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)、または脱着式キーブレード - ドアロック解除 (p. 204) を参照してください。
- エンジンを停止して、車両の電気系統をキー位置 **0** にした場合

ルームランプは、次の場合に消灯します：

- エンジンを始動したとき
- 車両をロックしたとき

ルームランプは、ドアの開閉と連動して点灯/消灯します。

いずれかのドアが開いていると、ライトは 2 分間点灯したままになります。

いずれかのランプを手動で点灯させてドアをロックすると、ランプは 2 分後に自動的に消灯します。

アンビエントライト*

通常のルームランプがオフにされたときにエンジンが作動している場合には、フロントおよびリアのルーフコンソールの LED が点灯してわずかな明かりを提供し、走行中のムードを高めます。外が暗い時間帯には、このランプにより小物入れの中なども見やすくなります。エンジンを停止すると、このランプは消灯します。ライトの輝度と色はメニューシステム MY CAR で変更できます。MY CAR (p. 147) を参照してください。

ホームセーフライト点灯時間

ホームセーフライトは、ロービーム、ポジションランプ、アウターハンドルランプおよびナンバープレートランプから構成されています。

夜間に車両をロックした後、エクステリアランプの一部をホームセーフライトとして点灯させておくことができます。

1. イグニッションスイッチからリモートコントロールキーを抜きます。
2. 左側レバースイッチを、エンドポジションまで手前に引いてから放します。パッシングライトと同様の操作方法で作動させることができます。ハイ/ロービーム (p. 125) を参照してください。
3. 車外に出てドアをロックします。

機能が作動すると、ロービーム、ポジションランプ、アウターハンドルランプおよびナンバープレートランプが点灯します。

ホームセーフライトの点灯時間は、メニューシステム MY CAR で設定することができます。MY CAR (p. 147) を参照してください。

関連情報

- アプローチライト (p. 136)

アプローチライト

アプローチライトは、ポジションランプ/テールランプ、ドアミラーランプ、ナンバープレートランプ、インテリアルーフランプ、フロアライトで構成されています。

アプローチライトはリモートコントロールキーで点灯させます(リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)参照)。車両から少し離れた場所からライトを点灯させることができます。

この機能をリモートコントロールキーで作動させると、ポジションランプ、アウターハンドルランプ、ナンバープレートランプ、インテリアルーフランプ、およびフロアライトが点灯します。

アプローチライトの点灯時間は、メニューシステム MY CAR で設定することができます。MY CAR (p. 147)を参照してください。

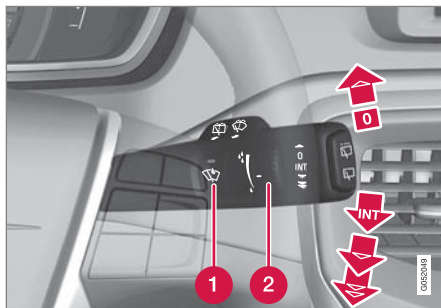
関連情報

- ホームセーフライト点灯時間 (p. 135)

ワイパーおよびウォッシャー

ワイパーおよびウォッシャーはウインドスクリーンおよびリアウインドを洗浄します。ヘッドライトは高圧洗浄で洗浄します。

ウインドスクリーンワイパー 23



ウインドスクリーンワイパーおよびウインドスクリーンウォッシャー

- ① レインセンサー - オン/オフ
- ② コントロールダイヤルによる感度/作動回数の調節

ウインドスクリーンワイパーオフ

0 ワイパーレバーを **0** 位置に戻すと、ワイパーが停止します。

シングルストローク



ワイパーレバーを上を押して放すと、ワイパーが1回だけ作動します。

間欠ワイパー



間欠ワイパーの位置のときには、コントロールダイヤルを使用してワイパーの作動間隔を調節することができます。

ワイパー連続作動



ワイパーが通常速度で作動します。



ワイパーが高速で作動します。

重要

ワイパーを作動させる前に、ウインドスクリーン(およびリアウインド)とワイパーブレードが凍結していないか確認してください。積もった雪や凍結を取り除いてからワイパーを作動させてください。

重要

ワイパーを作動させるときは、ウォッシャー液を十分に使用してください。ウインドスクリーンが濡れている状態であることが必要です。

²³ ワイパーブレードの交換およびワイパーブレードのサービスポジションについては、ワイパーブレード (p. 401)を参照してください。ウォッシャー液の補充については、ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)を参照してください。

ワイパーブレード、サービスポジション
ウインドスクリーン/ワイパーブレードの清掃
およびワイパーブレードの交換については、洗
車 (p. 420) およびワイパーブレード
(p. 401) を参照してください。

レインセンサー*

レインセンサーはウインドスクリーンに付着し
た水滴の量を感じて、フロントワイパーを自
動的に作動・停止させます。レインセンサーの
感度は、コントロールダイヤルで設定するこ
とができます。

レインセンサー作動時、ボタンの表示灯および
コンパインド・メーター・パネルのレインセン
サーシンボル  が点灯し、レインセンサー
が作動していることを示します。

作動/感度設定

レインセンサーを作動させる場合は、車両走行
中またはリモートコントロールキーが **I** また
は **II** の位置のときに、ウインドスクリーンワ
イパーレバーを **0** 位置またはシングルスト
ロック作動位置にします。

レインセンサーボタン  を押して、レイン
センサーを作動させます。ワイパーが 1 回作動
します。

ワイパーレバーを上げると、ワイパーがもう 1
回作動します。

コントロールダイヤルを上に戻すと感度が増
し、下に回すと感度が低下します(コントロール

ダイヤルを上に戻すごとに、ワイパーが 1 回多
く作動します)。

解除する

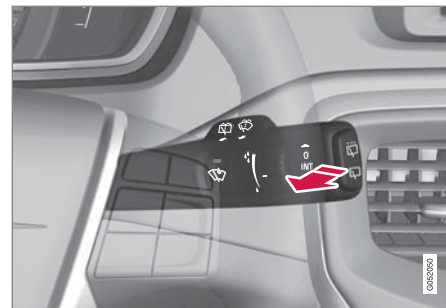
レインセンサーボタン  を押すか、レバー
を下げてワイパーの作動プログラムを変更する
と、レインセンサーが解除されます。

レインセンサーは、イグニッションスイッチか
らリモートコントロールキーを抜いたとき、ま
たはエンジンを停止してから 5 分後に、自動的
に解除されます。

❗ 重要

自動洗車機で洗車する際、洗車中にレインセ
ンサーが作動してワイパーが動き出し、ワイ
パー機構が損傷するおそれがあります。走
行中またはリモートコントロールキーが **I**
または **II** 位置のときには、レインセンサー
をオフにしてください。コンパインド・メー
ター・パネル内のシンボルとボタン内のラン
プが消灯します。

ヘッドライトウォッシャー/ウインド ウォッシャー



ウォッシャー機能

ウインドスクリーンウォッシャー

レバーを手前に引くと、ウインドスクリーンお
よびヘッドライトのウォッシャーが作動して、
ウォッシャー液が噴射されます。

レバースイッチから手を離れたあともワイパー
が数回作動し、ヘッドライトの洗浄が実施され
ます。

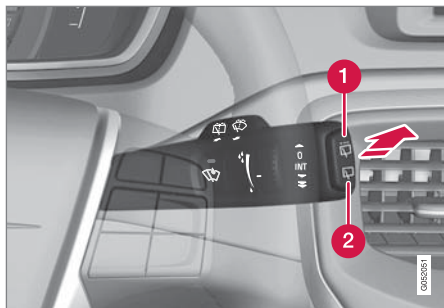
高圧ヘッドライトウォッシャー*

高圧ヘッドライトウォッシャーは、大量の
ウォッシャー液を消費します。ウォッシャー液
を節約するため、ウインドスクリーンウォッ
シャーが 5 回作動するごとに、ヘッドライト
ウォッシャーが自動的に 1 回作動します。

節約洗浄

リザーバータンク内のウォッシャー液残量が約1リットルになると、ウォッシャー液の充填を促すメッセージがコンパインド・メーター・パネルに表示され、ヘッドライトへのウォッシャー液の供給がオフになります。これは、ウインドスクリーンを洗浄し、視界を確保することを優先するためです。

リアウインドのワイピングと洗浄



① リアウインドワイパー - 間欠作動

② リアウインドワイパー - 通常速度で作動

レバーを前方に押すと(前図矢印参照)、リアウインドワイパー/ウォッシャーが作動します。

注意

リアウインドワイパーには過熱保護が装備されているため、過熱した場合にはモーターが停止します。リアウインドワイパーは、しばらくすると(モーター内の熱と外気温により30秒以上)再び作動し始めます。

ワイパー - 後退時

ウインドスクリーンワイパーを作動させているときにリバースギヤにシフトすると、リアウインドワイパーは間欠作動します²⁴。この機能は、リバースギヤを解除すると停止します。

リアウインドワイパーが既に通常速度で作動している場合、作動モードは変更されません。

注意

レインセンサー装着車では、レインセンサーが起動していて雨天の場合には、後退時にリアウインドワイパーが作動します。

関連情報

- ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)

パワーウインド

運転席ドアのコントロールパネルからはすべてのパワーウインドを操作することができます。他のドアのコントロールパネルからはそのドアのパワーウインドのみが操作できます。



運転席側ドアのコントロールパネル

① お子様が内側からリアドアを開く行為*およびリアパワーウインドを開閉する行為を防止するパワー・チャイルドロック。チャイルドロック - 電動ロック* (p. 218)を参照してください。

② リアパワーウインドスイッチ

③ フロントパワーウインドスイッチ

²⁴ 後退時の間欠ワイパー機能は解除することができます。サービス工場にご連絡ください。ボルボが指定のサービス工場をお薦めします。

⚠ 警告

運転席側のドアから窓を閉める際は、お子様または乗員が挟まれることのないよう、確認してください。

⚠ 警告

リモートコントロールキーを使用して窓を閉める際は、お子様または乗員が挟まれることのないよう、確認してください。

⚠ 警告

車内にお子様を残して車から離れる場合は、忘れずにキー位置を **0** にしてパワーウィンドの電源を切り、リモートコントロールキーを携帯してください。キー位置については、キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。

操作

パワーウィンドの操作

➡ マニュアル作動**➡ オート作動**

運転席ドアのコントロールパネルからはすべてのパワーウィンドを操作することができます。他のドアのコントロールパネルからはそのドアのパワーウィンドのみが操作できます。同時に複数のコントロールパネルを操作することはありません。

パワーウィンドを使用するには、キー位置が **I** 以上である必要があります。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。エンジンをオフにし、リモートコントロールキーを取り出した後も数分間はパワーウィンドが操作できますが、いったんドアを開けると操作できなくなります。

ウィンドを閉めているときにその動きが妨げられると、ウィンドが停止して自動的に開きます。氷などにより、ウィンドが閉まらなくなった場合には、ピンチプロテクションを強制解除することができます。2 回続けて閉じる動作が中断された場合には、ピンチプロテクションがオーバーライドされ、自動保護機能が短時間解除されます。これにより、ボタンを持ち上げたままにすると、ウィンドを閉めることができます。

① 注意

リアパワーウィンドが開いているときに発生する風圧音は、フロントパワーウィンドを少し開けると低減させることができます。

マニュアル作動

スイッチを上/下に軽く動かします。パワーウィンドは、スイッチを保持している間上/下に動きます。

オート作動

スイッチを上/下のエンドポジションまで動かして、手を離します。ウィンドは自動的にエンドポジションまで上/下します。

リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンでの操作

パワーウインドをリモートコントロールキーで外側から操作する場合、またはセントラルロックボタンで内側から操作する場合については、リモートコントロールキー - 機能 (p. 200) またはロック/ロック解除 - 車内から (p. 212)を参照してください。

リセット

バッテリーの接続を外した後は、パワーウインドのオート機能が正しく動作するようにリセットする必要があります。

1. ボタンの前端を軽く引き上げて、ウインドをいっぱいに入れ、そこでボタンを1秒間保持します。
2. 少しの間、ボタンから手を離します。
3. ボタンの前端を再度引き上げ、1秒間保持します。

警告

ピンチプロテクションが作動するためにはリセットすることが必要です。

ドアミラー

ドアミラーの位置は運転席ドアのコントロールのレバーで調節します。



ドアミラースイッチ

調節

1. 左側のミラーを調節するときは **L**、右側のミラーを調節するときは **R** ボタンを押します。ボタンのLEDが点灯します。
2. 中央のノブを使用して、位置を調節します。
3. **L** または **R** ボタンを再度押します。ボタンのLEDが消灯します。

警告

両側のミラーは、最適な視野が得られるように、広角タイプになっています。後続車や物体は、実際よりも遠くに見える場合がありますのでご注意ください。

設定の保存²⁵

ドアミラーと運転席シートの位置の設定は、リモートコントロールキーごとにカーキーメモリーに保存することができます*。リモートコントロールキー - パーソナライズ* (p. 197)を参照してください。

駐車時にドアミラーを傾ける²⁵

駐車するときなどに路面がよく見えるように、ドアミラーを下向きに傾けることができます。

- リバースギヤに入れ、**L** または **R** ボタンを押します。

リバースギヤを解除すると、ドアミラーは約10秒後に元の位置に戻ります。あるいは、**L** または **R** ボタンを押すとただちに元の位置に戻ります。

駐車時に自動的にドアミラーを傾ける²⁵

リバースギヤを選択すると、駐車するときなどに路面がよく見えるように、ドアミラーが自動的に下向きに傾きます。リバースギヤを解除す

²⁵ メモリー機能付きパワーシートが装備されている場合のみ。シート、フロント - 電動 (p. 118)を参照してください。

ると、ドアミラーは数秒後に元の位置に戻ります。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 147)を参照してください。

ロック時の自動格納*

リモートコントロールキーでロック/ロック解除すると、ドアミラーは自動的に格納位置/使用位置に動きます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。MY CAR (p. 147)を参照してください。

中立位置へセットし直す

外部からの影響でドアミラー本体の位置が動いてしまったときは、電動格納機能を正常に機能させるため、ドアミラーを基本位置に戻してリセットする必要があります。

1. **L** と **R** ボタンを同時に押して、ドアミラーを格納します。
2. **L** と **R** ボタンを再度同時に押して、ドアミラーを使用位置に戻します。
3. 必要に応じてこの手順を繰り返します。

ドアミラー本体が中立位置にリセットされます。

電動格納式ドアミラー*

狭い場所に駐車するときや狭い場所を通過するときは、ドアミラーを格納することができます。

1. **L** ボタンと **R** ボタンを同時に押してください(キー位置は **I** 以上であることが必要です)。
2. 約 1 秒間押してから放します。ミラーは自動的に格納位置まで動いて停止します。

ドアミラーを使用位置に戻すときは、**L** と **R** ボタンを同時に押します。ミラーは自動的に、使用位置まで動いて停止します。

ホームセーフライト/アプローチライト

ドアミラーのランプはアプローチライト (p. 136) またはホームセーフライト (p. 135) 使用時に点灯します。

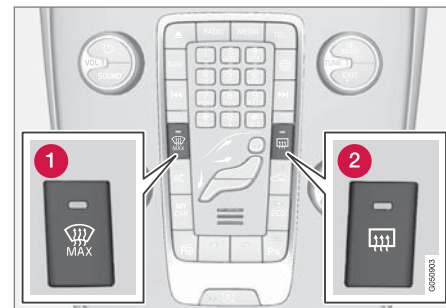
関連情報

- ルームミラー (p. 142)
- ウインドおよびドアミラー - ヒーター (p. 141)

ウインドおよびドアミラー - ヒーター

ウインドスクリーン、リアウインドおよびドアミラーの霜や曇りを素早く取る場合は、デフロスターを使用します。

ヒートドウインドスクリーン*、リアウインドおよびドアミラー



- 1 デフロスター、ウインドスクリーン
- 2 デフロスター、リアウインドおよびドアミラー

この機能は、ウインドスクリーン、リアウインド、ドアミラーから霜や曇りをとるために使用します。

そのボタンを 1 回押すとデフロスターがオンになります。ボタンが点灯すると、機能がオンであることがわかります。バッテリーに不必要な負担がかからないように、霜や曇りが取れたら



すぐに停止してください。ただし、この機能は一定時間が経過すると自動的にオフになります。

ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去 (p. 172) も参照してください。

外気温が+7℃未満のときにエンジンを始動すると、ドアミラーやリアウインドのデフロスターが自動的にオンになり、ウインドの曇りを取り除きます。自動設定は、メニューシステム MY CAR で選択できます。MY CAR (p. 147) を参照してください。

ウインドスクリーンヒーターがオンになると、コンパス (p. 143) 機能は解除されます。ウインドスクリーンヒーターがオフになると、コンパスが再起動します。

ルームミラー

ルームミラーは、ミラー下側のコントロールを使用して眩しさを調節することができます。または、自動的に眩しさが調節されます。



① 防眩切替レバー

手動防眩機能

ルームミラーに反射する後続車のヘッドライトの光を、自動的に和らげます。後続車のライトがルームミラーに反射して眩しいときは、防眩機能を使用してください。

1. 防眩機能を使用する場合は、防眩切替レバーを手前に引きます。
2. 防眩切替レバーを押して、通常位置に戻します。

自動防眩機能*

ルームミラーに反射する後続車のライトを、自動的に和らげます。自動防眩機能付ミラーには手動防眩機能のコントロールはありません。

ルームミラーにはセンサーが2つあり、1つは前方を、もう1つは後方を向いています。これらのセンサーが連動して眩しい光を判別および除去します。前向きのセンサーは周囲の光を感知します。後ろ向きのセンサーは後続車のヘッドライトの光を感知します。

① 注意

駐車証、トランスポンダー、サンバイザー、シートやカーゴスペースの荷物などで、センサーが遮られ、光がセンサーに届かない場合は、ルームミラーの防眩機能が低下します。

自動防眩機能付ルームミラーのみにコンパス (p. 143) を装備することができます。

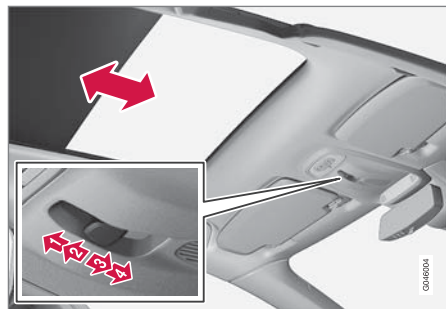
関連情報

- ドアミラー (p. 140)

パノラマ・ガラスルーフ*

ガラスルーフは、ルーフコンソールのスイッチで操作することができます。

パノラマ・ガラスルーフは固定されていますが、キー位置が **I** または **II** のときにルーフコンソールのスイッチを操作すると、電動スライドブラインドを開閉することができます。キー位置については、キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。



- 1 エンドポジションまでの自動オープン
- 2 ボタンを放すまで手動でオープン
- 3 ボタンを放すまで手動でクローズ
- 4 エンドポジションまでの自動クローズ

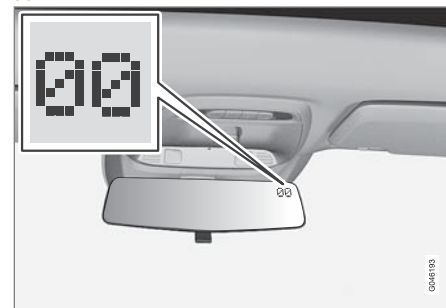
! 重要

- 損傷するおそれがあるため、ブラインドには触らないでください。
- ブラインドを操作するときには、必ずルーフコンソールのスイッチを使用してください。

コンパス*

ルームミラー右上の部分に、車両の進行方向を表示するディスプレイが組み込まれています。

操作



コンパス付きルームミラー

8 種類の方位が、英語の略字で表示されます：
N(北)、**NE**(北東)、**E**(東)、**SE**(南東)、**S**(南)、
SW(南西)、**W**(西)、**NW**(北西)。

コンパスは、エンジンが始動すると、あるいはキー位置 **II** になると自動的に起動します。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。コンパスを解除/起動するには、ミラー裏側のボタンをペーパークリップなどで押してください。

ウインドスクリーンヒーターがオンになると、コンパスは非作動状態になります。ウインドスクリーンヒーターがオフになると、コンパスが再起動します。



校正

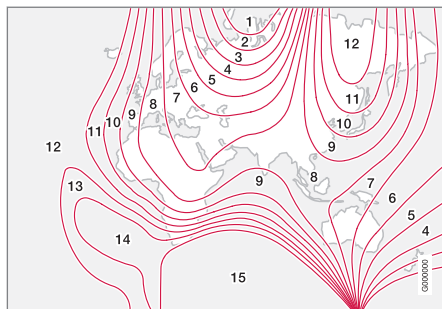
地球は地表の磁場により、15の地域に分けることができます。コンパスは、車両が納品される地域に合わせて設定されています。他の磁場ゾーンに移動する場合は、コンパスを校正し直す必要があります。次の手順に従ってください。

1. 鉄骨を使用した建物や高压送電線などのない、広く安全な場所(屋外)に停車します。
2. エンジンを始動します。

注意

校正が正しく行われるように、電装機器(エアコンディショナー、ワイパーなど)をすべてオフにして、ドアをすべて閉めてください。

3. ルームミラー下側のボタンを、ペーパークリップなどの細い物で約3秒押し続けます。ディスプレイに現在の地域の番号が表示されます。

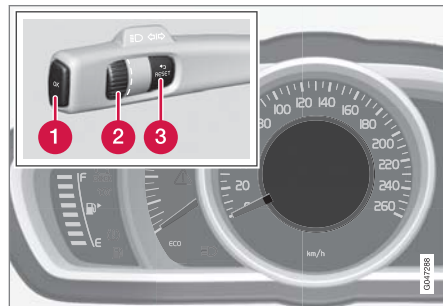


磁場の分布

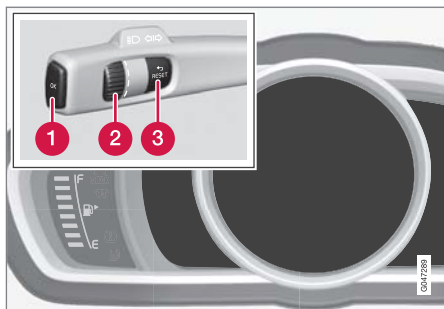
4. 希望する地域の番号(1-15)が表示するまで、ボタンを繰り返し押します。コンパス用の磁場分布図を参照してください。
5. ディスプレイが文字 **C** の表示に戻るまで待つか、またはルームミラーの下部にあるボタンを約6秒間(ペーパークリップなどを使用して)押したままにして、文字 **C** を表示させます。
6. 10 km/h (6 mph) 以下の低速で、ゆっくりと円を描くように走行します。ディスプレイにコンパスの方位が表示されれば校正終了です。校正を微調整するために、さらに2周走行してください。
7. 必要に応じてこの手順を繰り返します。

メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネル(p. 98)のインフォメーション・ディスプレイに表示されるメニューは左側レバースイッチで操作します。表示されるメニューはキー位置 (p. 115) によって異なります。



インフォメーション・ディスプレイ(アナログ式コンバインド・メーター・パネル)およびメニューナビゲーションコントロール



インフォメーション・ディスプレイ (液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル) およびメニューナビゲーションコントロール

- ① **OK** - メニューへのアクセス、メッセージの確認、メニュー選択の確定に使用します。
- ② **コントロールダイヤル** - メニューオプションを参照するときに使用します。
- ③ **RESET** - 選択したトリップコンピューターのデータをリセットし、1つ前のメニュー構成に戻ります。

メッセージ (p. 146) が表示されたときは、**OK** を押して確認すると、メニューが表示されます。

関連情報

- メッセージ - 取り扱い (p. 147)
- メニュー概要 - アナログ式コンバインド・メーター・パネル (p. 145)
- メニュー概要 - 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル (p. 145)

メニュー概要 - アナログ式コンバインド・メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネルに表示されるメニューはキー位置 (p. 115) によって異なります。

以下のメニューオプションの中には、機能およびハードウェアを車両にインストールすることが必要なものもあります。

デジタル速度

ヒーター*

補助ヒーター*

TCオフ・ション

サービースタート

オイルレベル²⁶

メッセージ (##)²⁷

関連情報

- メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 144)
- メニュー概要 - 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル (p. 145)
- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)

メニュー概要 - 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル

コンバインド・メーター・パネルに表示されるメニューはキー位置 (p. 115) によって異なります。

以下のメニューオプションの中には、機能およびハードウェアを車両にインストールすることが必要なものもあります。

設定*

テーマ

コントラストモード*/カラーモード*

サービースタート

メッセージ²⁸

オイルレベル²⁹

パワーウィンドウヒーター*

トリップコンピューターリセット

関連情報

- メニューナビゲーション - コンバインド・メーター・パネル (p. 144)
- メニュー概要 - アナログ式コンバインド・メーター・パネル (p. 145)
- コンバインド・メーター・パネル (p. 98)

メッセージ

警告灯、表示灯、あるいはインジケータシンボルが点灯すると、関連したメッセージがインフォメーション・ディスプレイに表示されます。

メッセージ	意味
安全に停車^A	停車してエンジンを停止してください。重大な損傷のおそれがあります。サービス工場 ^B にご相談ください。
エンジンを停止してください^A	停車してエンジンを停止してください。重大な損傷のおそれがあります。サービス工場 ^B にご相談ください。
ただちにサービスの必要^A	ただちにサービス工場 ^B に連絡し、点検を受けてください。
サービスが必要です^A	すみやかにサービス工場 ^B に連絡し、点検を受けてください。
マニュアルを参照^A	オーナーズマニュアルをお読みください。

メッセージ	意味
メンテナンスを予約して下さい	定期点検整備を予約する時期です。サービス工場 ^B にご連絡ください。
定期メンテナンスの時期です	定期点検整備の時期です。サービス工場 ^B にご連絡ください。定期点検整備の時期は、走行距離、前回の点検整備からの経過月数、エンジン作動時間およびオイルグレードに基づいて算出されます。
メンテナンスの時期を過ぎています	ボルボ社の保証が適用されるためには、メンテナンスノート(整備手帳)に従った点検を行う必要があります。サービス工場 ^B にご連絡ください。
トランスミッションオイル交換が必要です	すみやかにサービス工場 ^B に連絡し、点検を受けてください。

メッセージ	意味
トランスミッション性能が低下しています	トランスミッションは全機能を処理できません。メッセージ ^C が消灯するまで慎重に運転してください。 繰り返し表示する場合には、サービス工場 ^B にご連絡ください。
トランスミッション高温 減速して下さい	より穏やかに走行、または安全に停車してください。Nまたは、P位置にしてメッセージが消えるまでエンジンをアイドリングさせてください ^C 。
トランスミッション高温 安全に停車し 冷却するまで待機	重大な不具合が発生しているおそれがあります。ただちに安全に停車し、サービス工場 ^B にご連絡ください。

²⁶ 一部のエンジン。

²⁷ メッセージの数が()内に表示されています。

²⁸ メッセージの数が()内に表示されています。

²⁹ 一部のエンジン。

メッセージ	意味
一時解除 ^A	機能が一時的に解除されていることを示します。この機能は、走行中またはエンジン再始動後に、自動的にリセットされます。
バッテリー電圧低下 パワーモード*	節電のため、オーディオシステムのスイッチがオフになります。バッテリーを充電してください。

A メッセージの一部では、問題が発生した場所に関する情報が表示されます。

B ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

C オートマチックトランスミッションに関するさらなるメッセージ。

関連情報

- メッセージ - 取り扱い (p. 147)
- メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 144)

メッセージ - 取り扱い

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに表示されるメッセージ (p. 146) は、左側レバースイッチを使用して閲覧、確認します。

警告灯、インフォメーションシンボル、または表示灯が点灯すると、関連するメッセージがディスプレイに表示されます。エラーメッセージは、不具合が修正されるまでメモリーに記録されています。

左側レバースイッチの **OK** を押してメッセージ³⁰を確認します。コントロールダイヤル (p. 144) を使用してメッセージをスクロールします。

① 注意

トリップコンピューター使用中に警告メッセージが表示されたときは、必ず **(OK)** を押して) その警告メッセージを読み、今までの操作に戻ってください。

関連情報

- メニュー概要 - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 145)
- メニュー概要 - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 145)

MY CAR

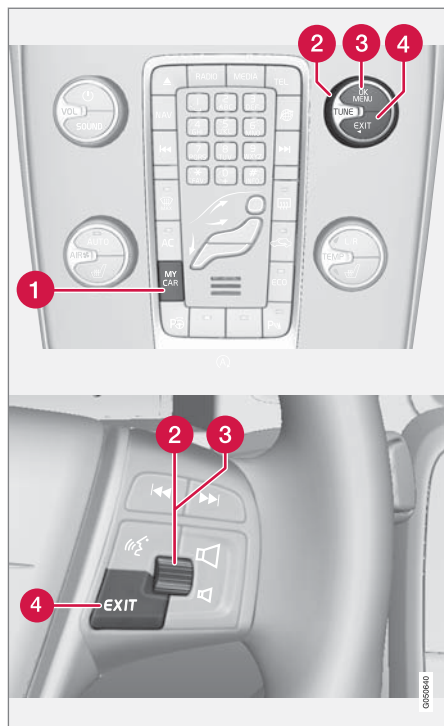
MY CAR は、City Safety™、ロックおよびアラーム、自動ファン速度、時計の設定など、車両の多くの機能を設定するためのメニューソースです。

一部機能は標準装備されていますが、オプション機能もあります。装備は、市場により異なります。

操作

メニュー内のナビゲーションは、センターコンソール上のボタンやステアリングホイール右側のステアリングリモコン*を使用して操作できます。

³⁰ メッセージはコントロールダイヤルまたは **RESET** ボタンによっても確認できます。



センターコンソールのコントロールパネルおよびステアリングホイールのステアリングリモコン。図に

は略図が使用されています。選択した装備や市場により、機能の数やボタンの配置が異なります。

- ① **MY CAR** – メニューシステム MY CAR を開きます。
- ② **TUNE** – センターコンソールのノブまたはステアリングホイールのコントロールダイヤルを回すと、メニューオプションを上下にスクロールできます。
- ③ **OK/MENU** – センターコンソールのボタンまたはステアリングホイールのコントロールダイヤルを押すと、ハイライト表示されているメニューオプションの選択/チェックマーク付け、または選択した機能のメモリーへの保存を行うことができます。

④ EXIT

EXIT 機能

EXIT を軽く押したときにカーソルが置かれていた機能とメニュー階層によって、次のいずれかが発生する場合があります。

- 通話が拒否される
- 現在の機能が中断される
- 入力された文字が削除される
- 直前の選択がキャンセルされる
- メニューシステムのひとつ前の画面に戻る

EXIT を長押しすると、MY CAR の通常ビューになり、通常ビューの場合には、トップのメニュー階層(メインソースメニュー)が表示されます。

メニューオプションおよびサーチパス

MY CAR のメニューオプションおよびサーチパスの説明については、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。

トリップコンピューター

車両のトリップコンピューターは、走行中の距離、燃料消費量および平均速度などの値を記録および計算します。

トリップコンピューターの内容と外観は、コンパインド・メーター・パネルがアナログ式か液晶デジタル式かによって異なります。

- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 151)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 155)



トリップコンピューターの情報は、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイ³¹に表示することができます。

トリップメーター(走行距離計)

トリップコンピューターにはトリップメーターが2つと、総走行距離用のオドメーターが1つあります。

平均燃費

リセットした後の平均燃費を表示します。

① 注意

フューエルドリブンヒーター*が使用されている場合には、若干の誤差が生じる場合があります。

平均速度

平均速度は最後に0にリセットしてからの走行距離で計算されます。

現在の瞬間燃費

現在の燃費の情報はつねに更新されます(約1秒間に1回)。低速走行時は時間当たりの消費量情報が表示され、高速走行時は距離当たりの消費量情報が表示されます。

トリップコンピューターに表示する単位(km/miles)を選択することができます。「単位の変更」(p. 149)の項を参照してください。

走行可能距離

トリップコンピューターに、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離が表示されます。

走行可能距離の項目が「—」を表示した場合、走行可能距離は残っていないことを示しています。

- その場合は、すみやかに燃料を補給してください。

30 km 前から現在までの平均燃費と、現在の燃料残量に基づいて、走行予想距離を算出します。

① 注意

車両走行状況の変動により、若干の誤差が生じる場合があります。

経済走行スタイルを心がけると、多くの場合、走行できる距離が長くなります。燃費への影響についての詳細は、環境理念 (p. 23)を参照してください。

デジタル速度表示の単位の変更³²

メインパネルにmphの目盛りがついている場合、同等の速度がkm/hにてデジタル表示されます。

単位の変更

距離および燃料の単位は、メニューシステム **MY CAR** で変更することができます。MY CAR (p. 147)を参照してください。

³¹ ディスプレイの外観と表示は、メーター・パネルのタイプに応じて異なることがあります。

³² 特定市場の液晶デジタルメーター・パネル装備車両のみ



① 注意

これらの単位は、トリップコンピューターだけでなくボルボのナビゲーションシステム*でも変更されます。

関連情報

- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 151)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 155)
- トリップコンピューター - 走行統計* (p. 159)

トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル

トリップコンピューターの情報はコンパインド・メーター・パネルに表示することができます。左側レバースイッチのコントロールおよびコンパインド・メーター・パネルのメニューで操作することができます。

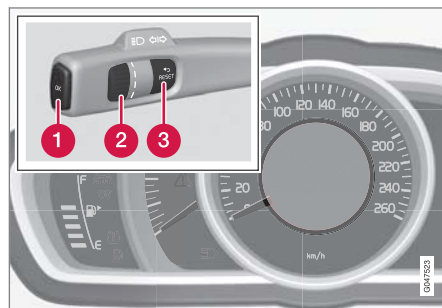
ロック解除でコンパインド・メーター・パネルが自動点灯するとすぐに確認および設定が可能です。運転席ドアが開いてから約 30 秒以内にどのトリップコンピューターのコントロールも起動しない場合は、メーターが消灯します。その後、トリップコンピューターを作動させるには、キー位置を **II** にするか、エンジンを始動する必要があります。

① 注意

トリップコンピューターを使用する際に警告メッセージが表示されたら、トリップコンピューターを再起動する前に、まずメッセージを確認してください。

- 方向指示器レバーの **OK** ボタンを軽く押して、メッセージを確認してください。

コントロール



インフォメーション・ディスプレイおよびメニューコントロール

- 1 OK** - コンパインド・メーター・パネルのメニューを開く、メッセージを確認する、またはメニュー選択を確定するときに使用します。
- 2 コントロールダイヤル** - メニューオプションまたはトリップコンピューターオプションをスクロールするときに使用します。
- 3 RESET** - 現在のトリップメーターをリセットする、または前のメニュー項目に戻るときに使用します。

トリップコンピューターオプション

表示するトリップコンピューターを選択します。

- 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
- コントロールダイヤルを回してオプションをスクロールし、必要な項目を選択します。

コンパインド・メーター・パネルのトリップコンピューター表示は、走行中にいつでも別のオプションに切り替えることができます。トリップコンピューターを表示しないというオプションもあります。



コンバインド・メーター・パネルのトリップコンピューターの項目	インフォメーション
トリップメーター(走行距離計) T1 総距離	RESET を長押しするとトリップメーター T1 がリセットされます。
トリップメーター(走行距離計) T2 総距離	RESET を長押しするとトリップメーター T2 がリセットされます。
走行可能距離	詳細は「走行可能距離」(p. 149)を参照してください。
燃料消費	現在の燃費。
平均速度	RESET を長押しすると 平均速度 がリセットされます。
トリップコンピューターインフォメーションなし。	このオプションではディスプレイになにも表示されません。これはループの始まりと終わりの目安になります。

トリップコンピューターのリセット

- コントロールダイヤルを回し、リセットするトリップコンピューターの項目を選択します(**T1 総距離**、**T2 総距離**、**平均速度**)。
- RESET** を長押しすると、選択した項目の値がリセットされます。

それぞれの項目はひとつずつリセットする必要があります。

コンバインド・メーター・パネルのメニューの機能

コンバインド・メーター・パネルのメニューには、トリップコンピューターの設定オプションが含まれています。メニューを開いて、次表の機能を確認/調節します。

- 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を2回押ししてリセットします。

- OK** を押します。
- コントロールダイヤルで機能をスクロールし、**OK** で選択/決定します。
- 確認/調節が終わったら、**RESET** を2回押しして終了します。

機能	インフォメーション
デジタル速度 • km/h • mph • ディスプレイなし	車速をコンバインド・メーター・パネルの中央にデジタル表示します。
ヒーター* • ダイレクトスタート • タイマー 1 • タイマー 2	タイマーのプログラミングについては、エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 179)を参照してください。
補助ヒーター* • オートON • OFF	詳しくは、アディショナルヒーター* (p. 181)を参照してください。
TCオプション • 走行可能距離 • 燃費 • 平均速度 • トリップメーター(走行距離計) T1 総距離 • トリップメーター(走行距離計) T2 総距離	ここから、トリップコンピューターで選択可能にしたいオプションを起動することができます。すでに選択しているオプションのシンボルは白で表示され、チェックマークが入っています。その他の項目はグレーで表示され、チェックマークは入っていません。
サービス状態	次のサービスまでの月数および走行距離を表示します。



機能	インフォメーション
オイルレベル ^A	詳しくは、エンジンオイル - 点検および補充 (p. 390)を参照してください。
メッセージ (##)	詳しくは、メッセージ (p. 146)を参照してください。

A 一部のエンジン。

関連情報

- トリップコンピューター (p. 149)
- トリップコンピューター - 走行統計*
(p. 159)

トリップコンピューター - 液晶デジタルコンパインド・メーター・パネル

トリップコンピューターの情報はコンパインド・メーター・パネルに表示することができます。左側レバースイッチのコントロールおよびコンパインド・メーター・パネルのメニューで操作することができます。

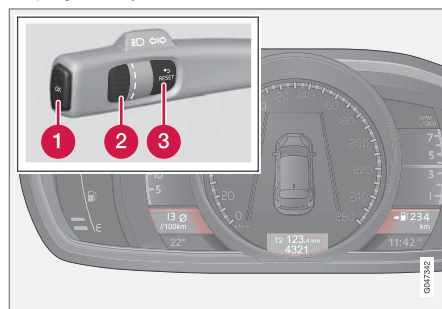
ロック解除でコンパインド・メーター・パネルが自動点灯するとすぐに確認および設定が可能です。運転席ドアが開いてから約 30 秒以内にどのトリップコンピューターのコントロールも起動しない場合は、メーターが消灯します。その後、トリップコンピューターを作動させるには、キー位置を II にするか、エンジンを始動する必要があります。

① 注意

トリップコンピューターを使用する際に警告メッセージが表示されたら、トリップコンピューターを再起動する前に、まずメッセージを確認してください。

- 方向指示器レバーの **OK** ボタンを軽く押して、メッセージを確認してください。

コントロール



トリップコンピューターの 3 つのオプションを各「ウィンドウ」に同時に表示することができます。

- 1 OK** - コンパインド・メーター・パネルのメニューを開く、メッセージを確認する、またはメニュー選択を確定するときに使用します。
- 2 コントロールダイヤル** - メニューオプションまたはトリップコンピューターオプションをスクロールするときに使用します。
- 3 RESET** - 現在のトリップメーターをリセットする、または前のメニュー項目に戻るときに使用します。

トリップコンピューターオプション

表示するトリップコンピューターを選択します。

- 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
- コントロールダイヤルを回して項目の組み合わせをスクロールします。
- この走行データをコンパインド・メーター・パネルに常時表示させるために必要な組み合わせを選択します。

コンパインド・メーター・パネルのトリップコンピューター表示は、走行中にいつでも別のオプションに切り替えることができます。トリップコンピューターを表示しないというオプションもあります。



項目の組み合わせ			インフォメーション
平均燃費	トリップメーター T1 + メーター値	平均速度	● RESET を長押しするとトリップメーター T1 がリセットされます。
現在の瞬間燃費	トリップメーター T2 + メーター値	走行可能距離	● RESET を長押しするとトリップメーター T2 がリセットされます。
現在の瞬間燃費	メーター値	km/h<mph ^A	km/h<mph - 「デジタル速度表示の切替」、トリップコンピューター (p. 149) を参照してください。
	トリップコンピューターインフォメーションなし。		このオプションはトリップコンピューターの 3 つすべての表示を消灯します。これはループの始まりと終わりの目安になります。

^A 特定市場のみ

トリップコンピューターのリセット

トリップメーター(走行距離計)

1. コントロールダイヤルを回し、リセットするトリップメーターの項目の組み合わせを選択します。
2. **RESET** を長押しすると、選択した項目の値がリセットされます。

平均速度および平均燃費

1. **OK** を押して、コンバインド・メーター・パネルのメニューを開きます。
2. コントロールダイヤルで **トリップコンピューターリセット** メニューオプションをスクロールし、**OK** で確定します。

3. 平均燃費、平均速度のいずれかのリセット、または両方のリセットを選択し、**OK** で選択を確定します。
4. **RESET** を押して手順を完了します。

コンバインド・メーター・パネルのメニューの機能

コンバインド・メーター・パネルのメニューには、トリップコンピューターの設定オプションが含まれています。メニューを開いて、次表の機能を確認/調節します。

1. 操作中のコントロールがないことを確認するために、まず **RESET** を 2 回押してリセットします。
2. **OK** を押します。
3. コントロールダイヤルで機能をスクロールし、**OK** で選択/決定します。
4. 確認/調節が終わったら、**RESET** を 2 回押して終了します。

機能	インフォメーション
トリップコンピューターリセット - 平均燃費 - 平均速度	平均燃費および平均速度の値をリセットします。 この機能では、トリップメーター T1 および T2 の両方はリセットされません。
メッセージ	詳しくは、メッセージ (p. 146)を参照してください。
テーマ	コンパインド・メーター・パネルの外観のテーマを選択します。液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル - 概要 (p. 99)を参照してください。
設定*	オートON または OFF を選択します。 詳しくは、アディショナルヒーター* (p. 181)を参照してください。
コントラストモード/カラーモード	コンパインド・メーター・パネルの輝度と色の強度を調節します。
パワーキングヒーター* - アイドレクストスタート - タイマー 1 - タイマー 2	タイマーのプログラミングについては、エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 179)を参照してください。
サービス状態	次のサービスまでの月数および走行距離を表示します。
オイルレベル ^A	詳しくは、エンジンオイル - 点検および補充 (p. 390)を参照してください。

A 一部のエンジン。

◀◀ 関連情報

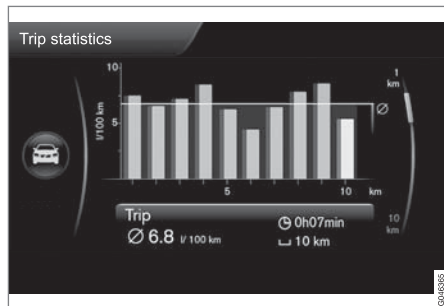
- トリップコンピューター (p. 149)
- トリップコンピューター - 走行統計*
(p. 159)

トリップコンピューター - 走行統計*

トリップコンピューターの走行統計はセンターコンソールの画面に表示されます。この統計では、燃費の概要がグラフィック表示されます。

機能

- メニューシステム MY CAR (p. 147)を開き、**トリップ統計**を選択して棒グラフを表示させます。



旅程情報 ³³

各バーは、選択した尺度に応じて走行した距離 1 km または 10 km を表します。一番右のバーは現在走行中の 1 km または 10 km の値を示します。

TUNE ノブを使うと各バーの縮尺を 1 km と 10 km の間で切り替えることができます。選択した縮尺に応じて右端のカーソルの位置が上下に変化します。

設定

設定はメニューシステム **MY CAR - トリップ統計** で変更することができます。

- 車が 4h 以上 OFF ならリセット** - **ENTER** を選択してボックスをハイライトし、**EXIT** を選択してメニューを終了します。このオプションが選択されている場合、走行を終えて車両を 4 時間以上静止させると、すべての統計データが自動的に削除されます。次回エンジンを始動すると、走行統計がゼロから始まります。
- 新しいトリップの開始** - **ENTER** を使用すると今までの統計をすべて削除し、**EXIT** を選択するとメニューを終了することができます。4 時間が経過する前に次の走行サイクルを始める場合には、このオプションを使用して現在のデータを手動で消去する必要があります。

Eco guide (p. 102) についての情報もご覧ください。

関連情報

- トリップコンピューター (p. 149)
- トリップコンピューター - アナログ式コンパインド・メーター・パネル (p. 151)
- トリップコンピューター - 液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル (p. 155)

³³ 図は概略図です。レイアウトはソフトウェアのアップデートおよび市場により異なる場合があります。

エアコンディショナー

エアコンディショナーご使用にあたって

車両には、オートマチック・エアコンディショナーが装備されています。車内の冷暖房と除湿をコントロールします。

エアコンディショナーシステムには次の2種類のシステムがあります。

- エレクトロニック・テンパレチャャー・コントロール (ETC) (p. 168)
- オートマチック・エアコンディショナー (ECC) (p. 167)

① 注意

エアコンディショナーシステム (AC) (p. 172) をオフにすることもできますが、最適な車内環境を維持し、またウインドが曇ることを防ぐため、つねにオンの状態にしてください。

注意事項

- 冷暖房効果を上げるため、冷暖房をご使用の際は、パワーウインドを閉めてください。
- グローバルオープニング機能 (p. 213) は、すべてのパワーウインドを同時に開閉します。気温が高く、空気を素早く取り入れたい場合などに使用できます。
- 車内への外気取入口は、ボンネットとウインドスクリーンの間のグリル部分にあります。

この部分に溜った氷や雪は、必ず取り除いてください。

- 気温が高いときは、空気中の水分がエアコンディショナーの内部で凝結して、凝結水が車両の下へ流れ出る場合があります。これは異常ではありません。
- フル加速などのためにエンジンの全出力が必要な場合、エアコンディショナーが一時的にオフになることがあります。その間、車内温度が上がったように感じる場合があります。
- ウインドスクリーン内側の曇りをとる際は、デフロスター機能 (p. 172) 使用してください。ウインドスクリーンの内側を曇りにくくするため、ウインド内側をガラスクリーナーで清掃してください。

Start/Stop*装備の車両

エンジンをオートストップ (p. 321) した場合には、エアコンディショナーのファンの速度 (p. 170) など一部の機器で機能が一時的に制限される場合があります。

ECO*装備の車両

ECO (p. 330) 機能がオンのときには、エアコンディショナー (p. 172) など、一部の機器で機能が一時的に制限または解除される場合があります。

① 注意

ECO 機能をオンにすると、エアコンディショナーシステムの設定のいくつかのパラメーターが変更され、一部の電力消費機器の機能が制限されます。一部の設定は手動でリセットできますが、すべての機能を回復させるには、ECO 機能をオフにする必要があります。

関連情報

- 実際の温度 (p. 163)
- センサー - エアコンディショナー (p. 163)
- メニュー設定 - エアコンディショナー (p. 165)
- 車内のエアディストリビューション (p. 165)
- 空気の質 (p. 163)
- フロントシートヒーター* (p. 169)
- リアシートヒーター* (p. 169)

実際の温度

車内で選択する温度は、その時点での車内および車両付近の周辺温度、気流速度、湿度、日射量などによる体感温度に対応します。

システムには車内のどちら側に日光が当たっているかを感知するソーラーセンサー (p. 163) が備わっています。左右両側を同じ温度に設定しても、左右の空気吹出口から流れる空気の温度が異なる場合があります¹。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- 車内の温度コントロール (p. 171)

センサー - エアコンディショナー

エアコンディショナーシステムは、複数のセンサーを使用して車内の温度 (p. 163) を調節します。

- ソーラーセンサーは、ダッシュボード上部に装着されています。
- 車内温度センサーは、エアコンディショナーコントロールパネルの下に装着されています。
- 外気温センサーは、ドアミラーに装着されています。

① 注意

センサーが衣服などで覆われることがないように注意してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

空気の質

車内の内装は接触アレルギーや喘息を持つ方にも快適な設計です。

- クリーンエアフィルター (p. 164)
- 車内の素材 (p. 165)
- クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ (CZIP) (p. 164)*
- インテリア・エア・クオリティ・システム (IAQS) (p. 164)*

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

¹ ECC 装着車のみ。

空気の質 - クリーンエアフィルター

車内に入る空気は、クリーンエアフィルターを通過して浄化されます。

このフィルターは、定期的に交換することが必要です。推奨交換間隔は、バルボメンテナンスサービスプログラムに従ってください。埃や塵などの多い場所を走行する場合は、さらに頻繁な交換が必要です。

i 注意

クリーンエアフィルターには、数種類のタイプがあります。適切なクリーンエアフィルターを装着してください。

関連情報

- 空気の質 (p. 163)

空気の質 - クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ (CZIP)*

CZIP は、アレルギー源や喘息を引き起こす物質を車内から除去する一連の機能で構成されています。

次の事項が含まれています。

- 拡張ファン機能は、リモートコントロールキーでロック解除したときにファンを作動させます。ファンにより、車内に新鮮な空気を導入します。この機能は必要に応じて作動し、一定時間が経過した後か、いずれかのドアを開けたときに解除されます。ファンの作動時間は、必要性の減少に応じ、車両製造後 4 年間を経過するまでの間に徐々に短くなります。
- 空気清浄システム IAQS (p. 164) は、車内の空気から、微粒子、炭化水素、窒素酸化物、地表オゾンなどの有害物質を除去するフルオートマチックシステムです。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- 空気の質 (p. 163)

空気の質 - IAQS*

エア・クオリティ・システム (IAQS) は、車内の空気から埃などの微粒子やガスを分離して、臭いや空気の汚れを低減します。

外気が汚れている場合、炭化水素、亜酸化窒素、地表オゾンの取り込みを遮断するために空気取入口が閉じられます。空気は車内を再循環します。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147) を参照してください。

i 注意

車内の空気を清浄に保つため、エア・クオリティ・センサーは常時作動させてください。

寒冷気候では、曇りを防止するために自動リサーキュレーションは制限されています。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- 空気の質 (p. 163)
- 空気の質 - クリーン・ゾーン・インテリア・パッケージ (CZIP)* (p. 164)

空気の質 - 素材

これらの素材は、車内に埃を発生させにくく、清掃しやすいように開発されたものです。

車内およびカーゴスペースのカーペットは、簡単に取り外して清掃することができます。ボルボ推奨のクリーナーとカーケア用品を使用して、車内を清掃 (p. 424) してください。

関連情報

- 空気の質 (p. 163)

メニュー設定 - エアコンディショナー

エアコンディショナーの機能のうち 4 つについては、センターコンソールを使用して、起動/解除または出荷時の設定から変更することができます。

- オートマチック・エアコンディショナー* (p. 171) 作動中のファン速度
- リサーキュレーションタイマー (p. 173)
- リアウインドデフロスター (p. 141) の自動始動
- インテリア・エア・クオリティ・システム* (p. 164)

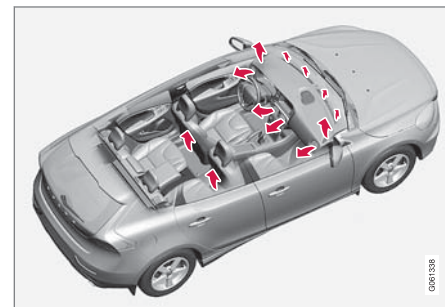
エアコンディショナーシステムの機能は、MY CAR のメニューシステムにより、初期設定にリセットすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147) を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

車内のエアディストリビューション

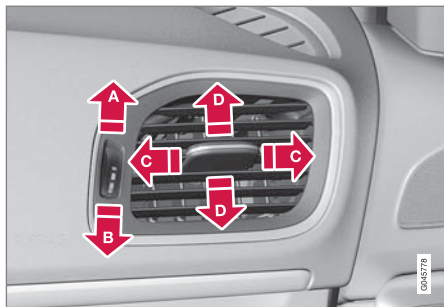
外気は、車内数箇所の空気吹出口に分配されます。



エアディストリビューションは、**AUTO** モード*で自動的に制御されます。

必要に応じて手動でも操作できます。エアディストリビューションの一覧表 (p. 174) を参照してください。

ダッシュボードの空気吹出口



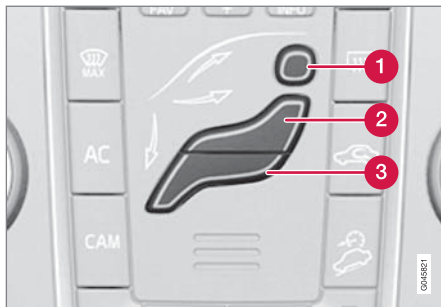
- A** 開ける
- B** 閉める
- C** 左右方向のエアフロー
- D** 上下方向のエアフロー

曇りを取り除く際は、空気吹出口の吹き出し方向をパワーウィンド側に向けます。

① 注意

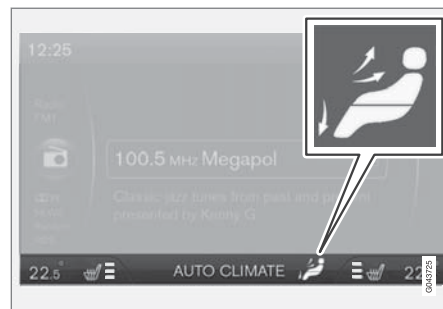
小さなお子様は、風に敏感ですのでご注意ください。体調を崩すおそれがあります。

エアディストリビューション



- 1** エアディストリビューション - ウィンドスクリーンデフロスター
- 2** エアディストリビューション - ダッシュボード空気吹出口
- 3** エアディストリビューション - フロアベンチレーション

ここには、3つのボタンがあります。ボタンを押すと対応したアイコンが画面に表示され(次図参照)、アイコン前方に表示される矢印により、選択されているエアディストリビューションが提示されます。詳しくは、エアディストリビューションの一覧表(p. 174)を参照してください。



選択されているエアディストリビューションがセンターコンソールの画面に表示されます。

関連情報

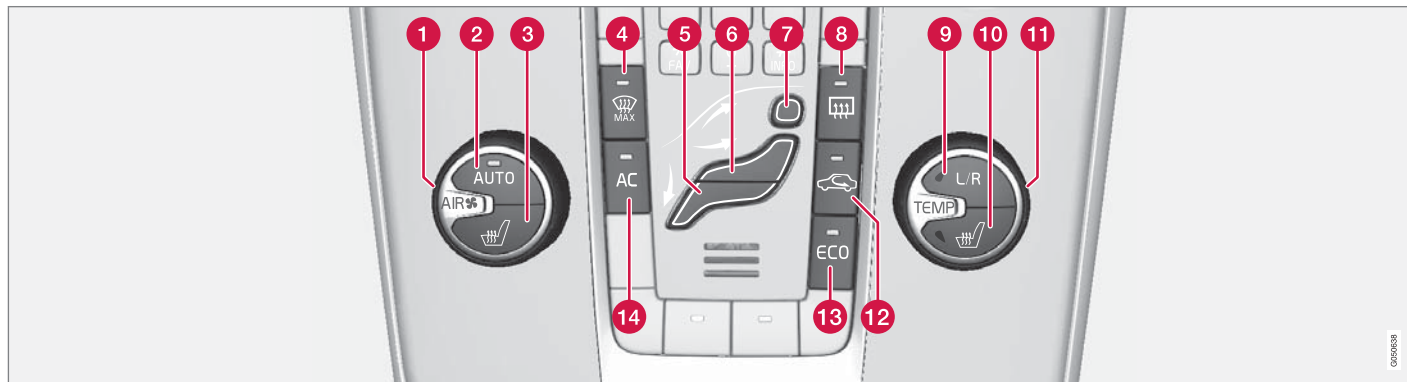
- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- 自動調節 (p. 171)
- エアディストリビューション - リサーキュレーション (p. 173)

オートマチック・エアコンディショナー - ECO*

ECO(オートマチック・エアコンディショナー)は、選択した車内温度を維持します。運転席側

と助手席側でそれぞれ異なる温度を設定することができます。

自動機能は、温度、エアコンディショナー、ファン速度、リサーキュレーション、エアディストリビューションを自動で調節します。



- ① ファン (p. 170)
- ② **AUTO** - オートマチック・エア・コンディショナー (p. 171)
- ③ 電気式フロントシートヒーター (p. 169)、左側
- ④ ヒーテッドウインドスクリーン*および最大デフロスター (p. 172)
- ⑤ エアディストリビューション (p. 165) - フロアベンチレーション

- ⑥ エアディストリビューション - ダッシュボード空気吹出口
- ⑦ エアディストリビューション - ウインドスクリーンデフロスター
- ⑧ リアウインドおよびドアミラーデフロスター (p. 141)
- ⑨ 左右の温度調節 (p. 171) 用設定
- ⑩ 電気式フロントシートヒーター (p. 169)、右側
- ⑪ 温度コントロール (p. 171)

- ⑫ リサーキュレーション (p. 173)
- ⑬ **ECO*** (p. 330)
- ⑭ **AC** - エアコンディショナーオン/オフ (p. 172)

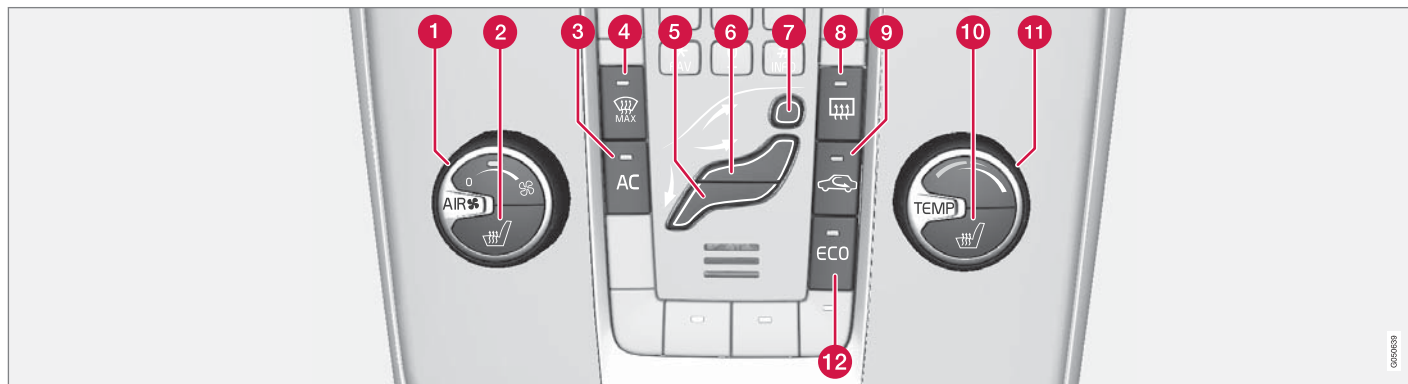
関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

エレクトロニック・テンパレチャークontrol - ETC

ETC (エレクトロニック・テンパレチャークontrol)により温度は自動的に制御され、

エアディストリビューションおよびファンコントロールは手動で操作されます。



① ファン(p. 170)

② 電気式フロントシートヒーター(p. 169)、
左側

③ AC - エアコンディショナーオン/オフ
(p. 172)

④ ヒートドウィンドスクリーンおよび最大
デフロスター*

⑤ エアディストリビューション(p. 165) - フ
ロアベンチレーション

⑥ エアディストリビューション - ダッシュ
ボード空気吹出口

⑦ エアディストリビューション - ウィンドス
クリーンデフロスター

⑧ リアウインドおよびドアミラーデフロ
スター(p. 141)

⑨ リサーキュレーション(p. 173)

⑩ 電気式フロントシートヒーター(p. 169)、
右側

⑪ 温度調節コントロール(p. 171)

⑫ ECO* (p. 330)

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって
(p. 162)

フロントシートヒーター*

フロントシートヒーターはヒーターレベルを3段階に調節できます。寒い日でも快適に過ごすことができます。



現在のヒーターレベルは、センターコンソールの画面に表示されています。



レベルを変更する、または機能をオフにするには、ボタンを繰り返し押します。

ヒーターには以下の3段階のヒーターレベルがあります。

- ヒーターレベル「強」 - センターコンソールの画面にオレンジ色のランプが3つ点灯します(前図参照)。
- ヒーターレベル「中」 - 画面にオレンジ色のランプが2つ点灯します。
- ヒーターレベル「弱」 - 画面にオレンジ色のランプが1つ点灯します。
- ヒーターがオフになります。ランプはすべて消灯します。

警告

ヒートッドシート機能の温度上昇や変化を感じにくい方や、ヒートッドシートの操作がわからない方は、ヒートッドシートを使用しないでください。火傷を負うおそれがあります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- リアシートヒーター* (p. 169)

リアシートヒーター*

リアシートのドア側シートではヒーターレベルを3段階に調節できます。寒い日でも快適に過ごすことができます。



現在のヒーターレベルは、プッシュボタンのランプに表示されます。

レベルを変更する、または機能をオフにするには、ボタンを繰り返し押します。

ヒーターには以下の3段階のヒーターレベルがあります。

- ヒーターレベル「強」 - ランプが3つ点灯します。
- ヒーターレベル「中」 - ランプが2つ点灯します。

- ヒーターレベル「弱」 - ランプが1つ点灯します。
- ヒーターがオフになります。ランプはすべて消灯します。

警告

ヒートッドシート機能の温度上昇や変化を感じにくい方や、ヒートッドシートの操作がわからない方は、ヒートッドシートを使用しないでください。火傷を負うおそれがあります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- フロントシートヒーター* (p. 169)

ファン

ファンはウインドの曇りを防ぐため、つねに作動させてください。

注意

ファンが完全に停止していて、エアコンディショナーがオフのときは、ウインドガラス内側が曇るおそれがあります。

EEC*装備車



ノブを回して、ファン速度を調節します。**AUTO** が解除されます。**AUTO** を選択している場合には、ファン速度は自動で (p. 171) 調整されます。前回設定されていたファン速度は

解除されます。

ETC 装備車



ノブを回して、ファンスピードを調節します。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- オートマチック・エアコンディショナー - ECC* (p. 167)

- エレクトロニック・テンパレチャー・コントロール - ETC (p. 168)

自動調節

自動調節は、電子制御フルオートマチック・エアコンディショナー(p. 167)でのみ使用できます。



この自動機能は、温度(p. 171)、エアコンディショナー(p. 172)、ファンスピード(p. 170)、リサーキュレーション(p. 173)、エアディストリビューション(p. 165)を

自動的に調節します。

これらの機能のいずれかを手動に切り替えても、それ以外の機能は自動的にコントロールされ続けます。**AUTO** を押すと、手動設定はすべて解除されます。画面に **オートエアコン** が表示されます。

自動モードのファン速度はメニューシステム MY CAR で設定することができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

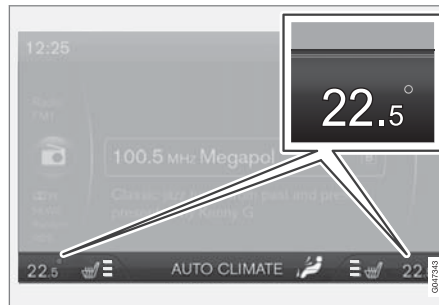
車内の温度コントロール

エンジンを始動すると、前回の温度設定が再開します。

① 注意

希望する温度より高い温度または低い温度にセットしても、希望した温度に達するまでの時間が早まることはありません。

EEC*装備車



各サイドの現在の温度がセンターコンソールの画面に表示されます。



運転席側と助手席側の温度を、別々に調節することができます。**L/R** ボタンを繰り返し押して、左、右、両側の設定を選択してください。ノブを使って温度を設定します。各サイド用に選択された温度がセンターコンソールの画面に表示されます。

ETC 装備車



車内の温度はノブで調節できます。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- 実際の温度 (p. 163)
- エレクトロニック・テンパレチャー・コントロール - ETC (p. 168)
- オートマチック・エアコンディショナー - ECC* (p. 167)

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、必要に応じて冷房や除湿を行います。



AC ボタン内の LED が点灯している場合には、冷暖房はシステムにより自動制御されています。

AC ボタン内の LED が消灯している場合には、冷暖房は解除されています。

それ以外の機能は、引き続き自動制御されています。最大デフロスター機能 (p. 172) をオンにすると、エアコンディショナーが自動的に作動し、最大設定で除湿を行います。

ウインドスクリーンの曇りおよび霜の除去

ヒートッドウインドスクリーン²と最大デフロスターを使用すると、ウインドスクリーンやパワウインドの曇りや霜を素早く除去できます。



選択されている設定がセンターコンソールの画面に表示されます。

- 1** ヒートッドウインドスクリーン*
- 2** 最大デフロスター



この機能は、ボタンの LED が点灯しているときに作動します。

レベルを変更する、または機能をオフにするには、ボタンを繰り返し押します。

ヒートッドウインドスクリーン非装備車のデフロスターのレベルは1つだけです。

- ウインドへの送風 - 画面にシンボル (2) が表示されます。
- 機能がオフになる - シンボルが消灯します。

ヒートッドウインドスクリーン装備車のデフロスターにはレベルが2つあります。

- ウインドスクリーンヒーターの起動² - 画面にシンボル (1) が表示されます。
- ウインドスクリーンヒーターの起動² とウインドへの送風 - 画面にシンボル (1) および (2) が表示されます。
- 機能がオフになる - シンボルが消灯します。

i 注意

ヒートッドウインドスクリーンおよび赤外線ウインド (p. 21) は、トランスポンダーやその他の通信機器の性能に影響をおよぼすことがあります。

² ヒートッドウインドスクリーンが作動すると、コンパスはオフになります。

① 注意

ウインドスクリーンの各側の端にある三角部分には電熱機能がないため、他の部分よりも除氷に時間がかかることがあります。

① 注意

エンジンがオートストップ(p. 321)すると、ヒートドウィンドスクリーンは利用できなくなります。

車内の除湿効果を最大にするため、この機能がアクティブになると、次の操作も実施されます：

- エアコンディショナーが自動的に作動します。
- 車内のリサーキュレーションシステムと空気清浄システムが自動的に停止します。

① 注意

ファンが最高速度で作動すると、ノイズレベルが増加します。

デフロスターをオフにすると、エアコンディショナーは元の設定に戻ります。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

エアディストリビューション - リサーキュレーション

リサーキュレーションを選択するといやな臭いや排気ガスなどが車内へ侵入するのを防ぐことができます。リサーキュレーションになり、外気が取り込まれません。



リサーキュレーション作動中は、ボタン内のオレンジ色のLED が点灯します。

! 重要

リサーキュレーションを長時間続けると、ウインドの内側が曇るおそれがあります。

タイマー

タイマー機能を作動させると、手動で作動させたリサーキュレーションモードが解除されます。解除までの時間は、外気温により異なります。ウインドに霜や曇りが付きにくくなり、汚れた空気が車内を循環し続けるおそれが少なくなります。

この機能は、メニューシステム MY CAR で作動可能状態/非作動状態にすることができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

① 注意

最大デフロスターを選択しているときは、リサーキュレーションは作動しません。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)
- 車内のエアディストリビューション (p. 165)
- エアディストリビューション - 一覧表 (p. 174)

エアディストリビューション ー ー 覧表

3つのボタンを使用してエアの送風方向
(p. 165) を選択します。

	エアディストリビューション	用途
	大量の熱風がウインドに向けて送風されます。	霜や曇りを早くとる場合。
	デフロスターベントを介してウインドスクリーンおよびリアウインドにエアを送風。空気吹出口から送風。	気温が低く湿度が高い気候条件下での曇りや霜を防ぎます (送風レベルを低くし過ぎないようにしてください)。
	ウインドに向けて送風、およびダッシュボードの空気吹出口から送風。	気温が高く乾燥した環境のときに、車内を快適な状態に保ちます。
	ダッシュボードの空気吹出口から、上半身に送風。	気温が高いとき、冷房効果を高めます。

	エアディストリビューション	用途
	フロアおよびウインドに向けて送風。ダッシュボードの空気吹出口から送風。	冷寒時、または湿度の高い環境のときに、車内を快適な状態に保ちます。
	フロアおよびダッシュボードの空気吹出口に送風。	快晴で涼しい外気温の場合。
	フロアに送風。ダッシュボードの空気吹出口およびウインドに向けて送風。	足元を暖房または冷房する場合。
	ウインドに向けて送風、ダッシュボードの空気吹出口から送風、およびフロアに送風。	高温の乾燥した気候のときにフロア付近を冷房する、または寒冷時に車内の上部を暖房する場合。

エアコンディショナー

◀◀ 関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって
(p. 162)
- エアディストリビューション - リサーキュレーション (p. 173)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター*

ブリコンディショニングを行うと、出発前に車両のヒーター、エンジンおよび車内の準備を整えておくことができるため、走行中の摩耗やエネルギー消費を低減することができます。車両を暖機することで、走行距離も延長できます。

このヒーターは、直接 (p. 178) またはタイマー (p. 179) で起動することができます。

外気温が 15 °C 以上あるときは、ヒーターは作動しません。ヒーターの最長作動時間は 50 分です。

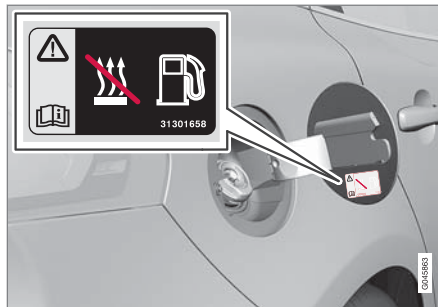
警告

フューエルドリブンヒーターは屋内で使用しないでください。見えないところで排気ガスが発生しています。

注意

フューエルドリブンヒーターが作動すると、車両の下から煙が出る場合がありますが、これは異常ではありません。

燃料の補給



燃料給油口フラップの警告表示

警告

燃料がこぼれると、引火するおそれがあります。燃料を補給する前に、フューエルドリブンヒーターのスイッチを必ずオフにしてください。

コンパインド・メーター・パネルでヒーターがオフになっていることを確認してください。ヒーターが作動している場合には、ヒーターのシンボルが表示されます。

坂道での駐車

急な坂道に駐車するときは、フューエルドリブンヒーターに燃料が供給されるように、車両前部が坂の下側を向くようにしてください。

バッテリーおよび燃料

バッテリーの充電量が低い場合、あるいは燃料残量が少ない場合、ヒーターが自動的に停止して、ディスプレイにメッセージが表示されます。ステアリングホイールの方向指示器レバー (p. 144) の OK ボタンを 1 回押して、メッセージを確認してください。

重要

近距離を走行するときにヒーターを繰り返し使用すると、メインバッテリーの充電レベルが低下するおそれがあります。この場合、ヒーターが停止したり、作動不能になったりする可能性があります。最悪の場合、エンジンが始動しなくなることもあります。

定期的にヒーターを使用する場合は、ヒーターを作動させた時間と同じ時間、車両を走行するようにしてください。メインバッテリーを十分な充電状態に保つことができます。ヒーターは 1 回につき最長 50 分間使用されます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* – メッセージ (p. 180)
- アディショナルヒーター* (p. 181)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターは、直接始動することができます。

ダイレクトスタート操作方法

- インフォメーション・ディスプレイ
- リモートコントロールキー*
- 携帯*

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター (p. 177) をダイレクトスタートすると、ヒーターが 50 分間作動します。

エンジン冷却水の温度が適切な温度に達すると、車内の暖房を開始します。

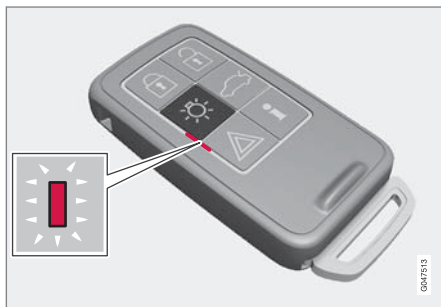
① 注意

ヒーター作動中でも、エンジンを始動して走行することができます。

インフォメーション・ディスプレイからのダイレクトスタート

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. ヒーターを作動させるには、次のメニューで **直接スタート** までスクロールし、**OK** で選択します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

リモートコントロールキーでダイレクトスタートを起動*



PCC*付きリモートコントロールキーのインジケータランプ

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターは、リモートコントロールキーを使用して作動させることができます。

- アプローチライト用のボタン  を 2 秒間押したままにします。

非常点滅灯は、合図の内容に応じて点滅パターンが異なります。

- 5 回短く点滅した後、約 3 秒間点灯する - 信号が車両に届き、ヒーターの作動が開始された。
- 5 回短く点滅する - 信号は車両に届いたが、ヒーターの作動は開始されていない。
- 非常点滅灯が消灯したまま - 信号が車両に届いていない。

ヒーターが作動しているときにインフォメーションボタン  を押すと、インジケータランプがその状態を車両のロック状況 (p. 202) と共に表示します。状態を確認している間、インジケータランプは早い間隔で 2 回ずつ点滅し、ヒーターが作動するとランプは点灯したままになります。

ヒーター作動中は、トリップコンピューターにも状態が表示されます。

携帯電話でダイレクトスタートを起動*

作動および選択した設定に関する情報は、Volvo On Call*アプリから利用することができます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 179)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - 即時停止 (p. 179)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ (p. 180)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - 即時停止

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターはインフォメーション・ディスプレイから直接オフにすることができます。

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. ヒーターをオフにするには、次のメニューで **停止** までスクロールして、**OK** を選択します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート (p. 178)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 179)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ (p. 180)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター(p. 177)のタイマーは車両の時計に接続しています。

タイマーには2つの異なる時刻を設定できます。タイマーに表示される時刻とは、エンジンが暖機され始動できる状態になる時刻を意味します。車両の電子システムが、外気温に基づいてヒーターを作動させる時間を決定します。

注意

車両の時計をリセットすると、プログラムされたタイマーの時刻はすべて消去されます。

調節

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤル(p. 144)を使って **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. コントロールダイヤルを使用して2つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で確定します。
4. **OK** を短く押すと、点灯している時刻表示に移動します。
5. 希望する時刻が表示されるまで、コントロールダイヤルを回します。

6. **OK** を短く押すと、点灯している分表示に移動します。
7. 希望する分が表示されるまで、コントロールダイヤルを回します。
8. **OK**³ を押して、設定を確定します。
9. **RESET** を使ってメニュー構成の前の画面に戻ります。
10. 別の時間を選択する(ステップ2の続き)か、**RESET** を押してメニューを終了します。

始動

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
3. コントロールダイヤルを使用して2つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で起動します。
4. **RESET** を押すとメニューを終了します。

機能オフ

タイマーで起動したヒーターを、設定時間の途中で停止させることができます。次の手順に従ってください。

1. **OK** を押し、メニューにアクセスします。

2. コントロールダイヤルを使用して **ヒーター** までスクロールし、**OK** で選択します。
 > タイマーが、設定はされているが起動していない場合は、時計のアイコンが設定されている時間の隣に表示されます。
3. コントロールダイヤルを使用して2つあるタイマーのいずれかを選択し、**OK** で確定します。
4. 次の手順でタイマーを解除してください。
 - **OK** をしばらく押したままにします。もしくは
 - **OK** を軽く押して、メニューを続行します。その後タイマーの停止を選択し、**OK** で確定します。
5. **RESET** を押すとメニューを終了します。

タイマーで起動させたヒーターを(p. 178)機能をオフにすることができます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ (p. 180)

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - メッセージ

エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター(p. 177)に関するシンボルおよびメッセージは、コンパインド・メーター・パネルがアナログ式(p. 98)か液晶デジタル式(p. 99)かによって異なります。



ヒーターが起動すると、インフォメーション・ディスプレイ内のヒーターのシンボルが点灯します。

いずれかのタイマーが起動すると、インフォメーション・ディスプレイ内の起動したタイマーのシンボルが点灯し、同時にセットされている時間がシンボルの横に表示されます。



アナログ式コンパインド・メーター・パネルの起動タイマーのシンボル



液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネルの起動タイマーのシンボル

以下の表に、表示される表示・警告灯とディスプレイテキストがまとめられています。

³ もう一度 **OK** を押すと、タイマーが起動します。

シンボル	メッセージ	意味
		ヒーターが起動し、作動しています。 ヒーターのタイマーは、イグニッションスイッチからリモートコントロールキーが取り出され、車両から離れた後で作動します。設定された時間にエンジンと車内用のヒーターがオンになります。
 	燃料式ヒーター停止 バッテリー節電モード	エンジンを始動しやすくするため、車両の電子機器によりヒーターが停止されました。

シンボル	メッセージ	意味
 	燃料式ヒーター停止 燃料レベル低下	燃料残量が少ないため、ヒーターを設定することができません。これは、エンジンの始動と、約 50 km の走行を可能にするためです。
	燃料式ヒーターサービスが必要です	ヒーターが作動していません。サービス工場に修理を依頼してください。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

メッセージはしばらくすると自動的に消えます。または、方向指示器レバー(p. 144)の **OK** ボタンを押すと消えます。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - ダイレクトスタート (p. 178)
- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* - タイマー (p. 179)

アディショナルヒーター*

寒冷地⁴で販売されるディーゼルエンジン搭載車両は、エンジンを作動温度に到達させ、車内を十分に暖房するためにアディショナルヒーターが必要な場合があります。

そのような場合、車両には次のいずれかが装備されています。

- 電気アディショナルヒーター(p. 182)、または
- フューエルドリブンアディショナルヒーター(p. 182)⁵。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 177)

⁴ 関連地域に関しては、ボルボ指定ディーラーにお問い合わせください。

⁵ パーキングヒーター(p. 177)が装備されている車両。

フューエルドリブンアディショナルヒーター*

車両には、電熱式 (p. 182) またはフューエルドリブンアディショナルヒーター (p. 181) が装備されています。

アディショナルヒーターは、エンジン回転中に追加の暖房が必要になると自動的に作動します。

車内の温度が設定温度に達したとき、またはエンジンを停止したときに、自動的に停止します。

① 注意

補助ヒーターが作動すると、車両の下から煙が出る場合がありますが、これは異常ではありません。

オートモード/シャットダウン

必要に応じて、アディショナルヒーターの自動作動はオフにすることができます。

① 注意

ボルボでは、短距離の運転のときには、フューエルドリブンアディショナルヒーターをオフにしておくことをお勧めします。

1. エンジンを始動する前に：キー位置 **I** (p. 115) を選択してください。
2. **OK** を押し、メニューにアクセスします。
3. コントロールダイヤルを使用して **補助ヒーター**⁶ または **設定**⁷ までスクロールし、**OK** で選択します。
4. コントロールダイヤルを使用してオプション **オン** または **オフ** のいずれかを選択し、**OK** で確定します。
5. **RESET** を押すとメニューを終了します。

① 注意

メニューオプションは、キー位置 **I** のときにしか、表示されません。そのため、調整が必要であれば、エンジンを始動する前に実行してください。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 177)

電気アディショナルヒーター*

車両には、フューエルドリブン (p. 182) または電気アディショナルヒーター (p. 181) が装備されています。

ヒーターは手動で制御できませんが、その代わりに、外気温 9 °C 未満でエンジンが始動されると自動的に起動し、車内の温度が設定された温度に達すると自動的にオフになります。

関連情報

- エンジンブロックヒーターおよび車内ヒーター* (p. 177)

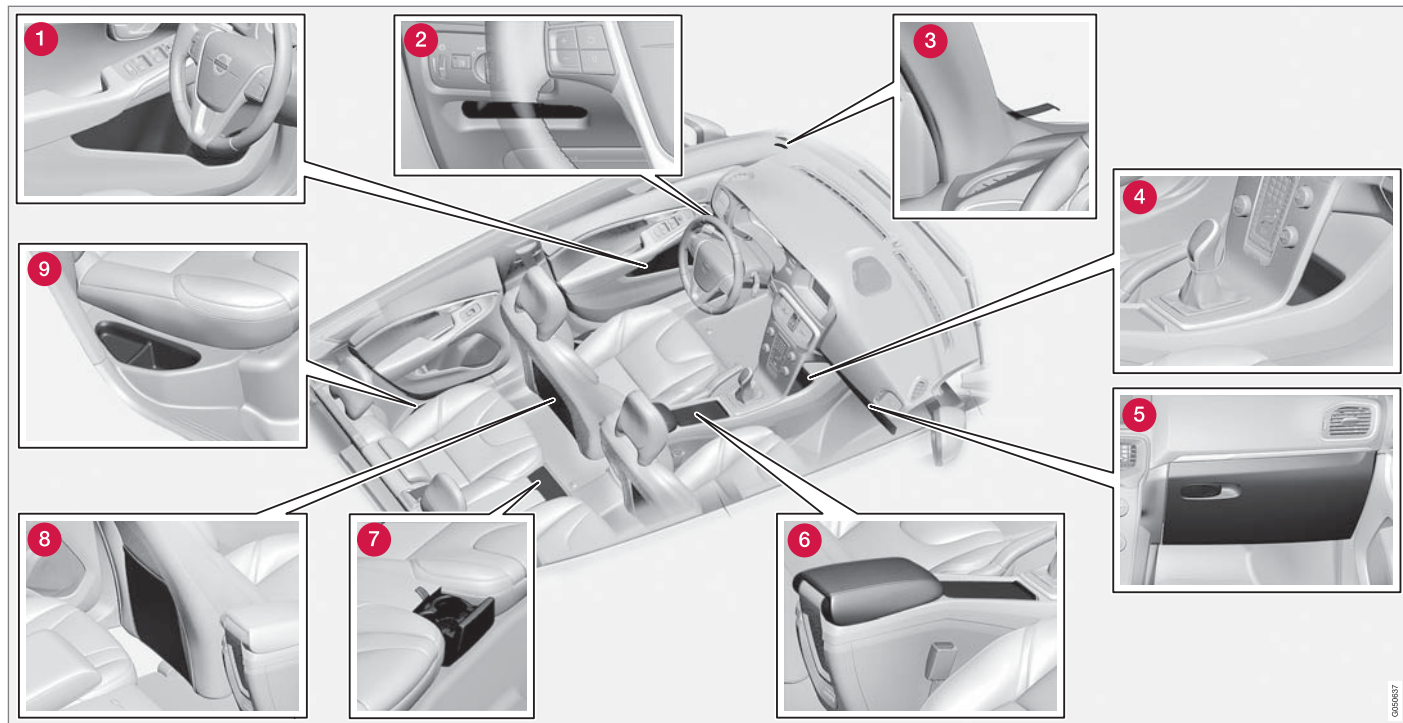
⁶ アナログ式コンバインド・メーター・パネル

⁷ 液晶デジタル式コンバインド・メーター・パネル

荷物の積み込みおよび収納

収納スペース

車内の収納スペースの概要



- ❶ ドアパネルの収納ボックス¹
- ❷ 収納ボックス、運転席側 (p. 186)
- ❸ チケットクリップ
- ❹ 小物入れ
- ❺ グローブボックス (p. 187)
- ❻ 小物入れ、カップホルダー (p. 186)
- ❼ リアシートのカップホルダー*
- ❽ 収納ポケット²
- ❾ 収納ボックス、リアシート

警告

携帯電話やカメラ、アクセサリ用リモコンなど固定されていない物体は、グローブボックスや収納ポケットに収納しておいてください。急ブレーキをかけたときや衝突事故の際に、乗員がケガをするおそれがあります。

¹ 運転席側にアイスクレーパーホルダー装備。

² 布製の内装には該当しません。

収納ボックス、運転席側

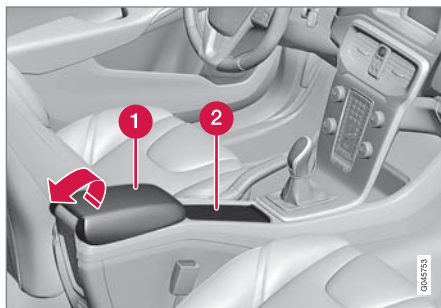
この収納ボックス (p. 184) は運転席側のライティングパネル下、左側にあります。

⚠ 警告

尖っている物体や突き出している物体を車内に保管しないでください。

トンネルコンソール

トンネルコンソールはフロントシートにあります。



- ① 収納ボックス (CD などの収納用) およびアームレスト下の USB*/AUX 端子
- ② 運転席および助手席用カップホルダーを含みます。(灰皿およびシガレットライター (p. 187) を指定した場合は、フロントシート用の 12V 電源ソケット (p. 188) がシガレットライターに、カップホルダーが取り外し可能な灰皿にそれぞれ変更されます。)

関連情報

- 収納スペース (p. 184)
- トンネルコンソール - アームレスト (p. 186)

トンネルコンソール - アームレスト

トンネルコンソールはフロントシートの間にあります。

閉じているときには、トンネルコンソールのアームレストを前後に調節できます*。

関連情報

- トンネルコンソール - 12V 電源ソケット (p. 188)
- トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿* (p. 187)

トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿*

取り外し可能な灰皿はアームレスト下のカップホルダーに取り付けられています。シガレットライターは、フロントシート用 12V 電源ソケット (p. 188) の場所に取り付けられています。

トンネルコンソール (p. 186) の灰皿はまっすぐ持ち上げて取り外します。

ライター自体を押し込みます。ライターが加熱されると、自動的に引き戻されます。ライターを引き出し、加熱されたヒーターコイルでタバコに火をつけます。

関連情報

- 収納スペース (p. 184)

グローブボックス

グローブボックスは助手席側にあります。

オーナーズマニュアル、地図などを収納することができます。リッドの内側に、ペンなどのホルダーもあります。グローブボックスの ロック* (p. 213) には、キーブレード (p. 204) を使用します。

関連情報

- 収納スペース (p. 184)

フロアマット*

フロアマットはゴミや泥などを収集します。ボルボでは、専用開発したフロアマットをご用意しています。

警告

各シートではフロアマットを 1 枚だけ使用してください。また、運転席のマットがペダルの横や下に引っかかることがないように、運転する前に、マットがピンに確実に固定されていることを確認してください。

関連情報

- 内装の清掃 (p. 424)

メイクアップミラー

メイクアップミラーはサンバイザーの裏側にあります。



ランプ付きメイクアップミラー

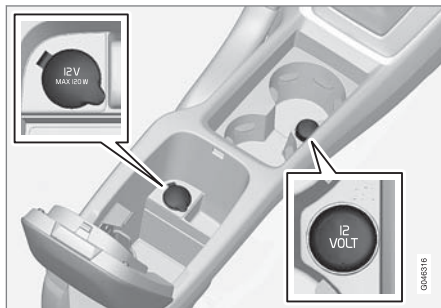
カバーを開けると、ランプが点灯します。

関連情報

- ランプ交換 - メイクアップミラーランプ
(p. 400)

トンネルコンソール - 12V 電源ソケット

電源ソケット (12V) はトンネルコンソールの収納ボックス内のカップホルダーの横にあります。³



トンネルコンソールの 12V 電源ソケット (フロントシート)

この電源ソケットはディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話など、12V 電源用に設計されているさまざまなアクセサリに使用することができます。電源ソケットを使用する際は、リモートコントロールキーをキー位置 I (p. 115) またはそれ以上に設定する必要があります。

⚠ 警告

ソケットを使用していないときは、つねにカバーをしておいてください。

① 注意

ディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話などのオプション装備品やアクセサリが車内の 12V 電源ソケットに接続されたままになっていると、リモートコントロールキーを取り外されている場合や車両がロックされている場合でも、事前に設定された時間にエンジンブロックヒーターおよび車内ヒーターが起動する際に* 起動することがあります。

このため、使用していないオプション装備品やアクセサリは、電源ソケットから外すようにしてください。バッテリーが放電するおそれがあります。

⚠ 重要

いずれのソケットも最大 10A (120W) まで供給できます。

³ 灰皿およびシガレットライターを指定した場合は、カップホルダーとその横の 12 V 電源ソケットはありません。

① 注意

緊急パンクリペアー (p. 373) 用コンプレッサーは、ボルボによって、試験が行われ、認定されています。

関連情報

- トンネルコンソール - シガレットライターおよび灰皿* (p. 187)
- 12V 電源ソケット - カーゴスペース (p. 192)

荷物の積み込み

最大許容重量は、車両重量により異なります。

最大許容重量は、車両重量により異なります。乗員および車両に装着されているアクセサリーの総重量の分だけ、最大許容重量は小さくなります。

重量についての詳細は、重量 (p. 434) を参照してください。



テールゲートはライティングパネル上のボタン、またはリモートコントロールキーにより開くことができます。ロック/ロック解除 - テールゲート (p. 214) を参照してください。

⚠ 警告

車両の走行性能は、搭載荷物の重量や荷物を積む位置の影響を受けます。

荷物の積み込みに関する注意事項

- 荷物は、リアシートのバックレストにもたれかかるように置いてください。

リアシートのバックレストのいずれかを折り畳む際には、荷物によってフロントシートの WHIPS システムの機能に支障が出ないように十分ご注意ください。WHIPS - 着座姿勢 (p. 73) を参照してください。

- 荷物を中央に置いてください。
- 重い荷物は、できるだけ低い位置に載せてください。倒したバックレストに重い荷物を置くことは避けてください。
- 鋭利な荷物は、内張りを傷付けないように柔らかい物で覆ってください。
- 荷物はストラップなどを使用して、荷物固定用アイレットに確実に固定してください。

⚠ 警告

固定されていない 20 kg の荷物は、50 km/h (30 mph) の速度で前面衝突したときには 1,000 kg の衝撃に相当します。

⚠ 警告

荷物を高く積み上げると、インフレータブルカーテンの保護効果が損なわれるおそれがあります。

- バックレストよりも高い位置に、荷物を積み上げないでください。

⚠ 警告

荷物は、必ず確実に固定してください。急ブレーキをかけたときに荷物が投げ出されて、乗員が大ケガをするおそれがあります。

尖った部分がある荷物は、柔らかい物で覆ってください。

長い荷物の積み降ろしは、必ずエンジンを停止してパーキングブレーキをかけてから行ってください。荷物がギヤセクターレバーに当たってギヤが入ると、車両が動き出すおそれがあります。

関連情報

- 荷物固定用アイレット (p. 191)
- カーゴネット* (p. 193)
- 荷物の積み込み - 長尺物 (p. 190)
- ルーフの荷物 (p. 190)

荷物の積み込み - 長尺物

カーゴスペースに荷物を積み込みやすくするため、リアシートバックレストを倒すことができます。助手席シートバックレストを前方に倒して長尺物を載せることもできます。

助手席シートを倒す

シート、フロント (p. 117)を参照してください。

リアシートバックレストを倒す

(p. 120)を参照してください。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)

ルーフの荷物

ルーフに荷物を積載するためのロードキャリアには、ボルボ開発のものが推奨されます。車両への損傷を防ぎ、走行中の安全を最大限に確保するためです。

ロードキャリアを取り付けるときは、付属の取付説明書に従ってください。

- ロードキャリアおよび荷物の固定状態をときどき点検してください。荷物はリテーニングストラップなどを使用して、確実に固定してください。
- ロードキャリア全体に重量が均等に配分されるように、荷物を載せてください。重い荷物は、下になるように載せてください。
- 荷物のサイズが大きい程空気抵抗が増えて、燃費が悪くなります。
- 安全運転を心がけてください。急発進、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。

⚠ 警告

ルーフ上に荷物を積載して走行するときは、車両の重心が変わり走行安定性が悪くなりますのでご注意ください。

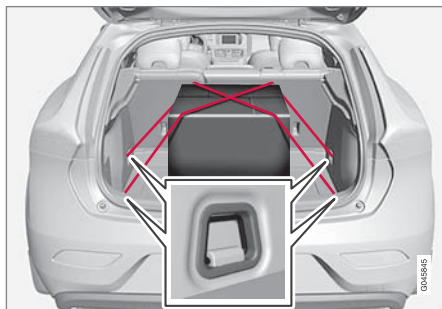
ルーフ最大許容荷重(ロードキャリアおよびスペースボックスなどを含む)については、重量 (p. 434)を参照してください。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)

荷物固定用アイレット

荷物固定アイレットは、カーゴスペース内の荷物固定地点として、ストラップを固定するために使用されます。



⚠ 警告

硬い物や尖った物、重い物が確実に固定されていない場合には、急ブレーキの際に飛び出してケガの原因となるおそれがあります。

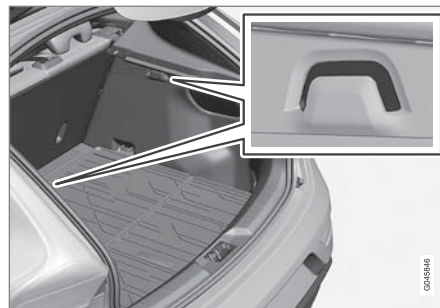
大きい物や重い物は、シートベルトまたはストラップベルトで必ず確実に固定してください。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)

荷物の積み込み - バッグホルダー

バッグホルダーは、買い物袋などの固定に使用します。袋が倒れたり、袋の中の物がカーゴスペース内に散乱したりするのを防ぎます。ホルダーの最大耐荷重は3 kg です。



バッグホルダー

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)
- 荷物の積み込み - 折りたたみ式バッグホルダー* (p. 191)

荷物の積み込み - 折りたたみ式バッグホルダー*

フロア内の折りたたみ式のバッグホルダーを使用すると、買い物袋などが固定でき、袋が倒れたり、中の物がカーゴスペース内に散乱したりするのを防ぐことができます。ホルダーは3箇所開きます。



折りたたみ式バッグホルダー

調整ポジション2箇所を設定できるほか、サービスポジションと呼ばれる、完全に展開した位置にも設定できます。またフロアコンビネーションタイプも2つあります。1つはフロア下のタブ内に調整ポジションがあるものと、もう1つはプラスチックレール内に調整ポジションがあるものです。次図のように立てると、フロア下のタブの調整ポジションが見えます。

最大耐荷重は中央のホルダーが3 kg、外側のホルダーが10 kg です。

跳ね上げ



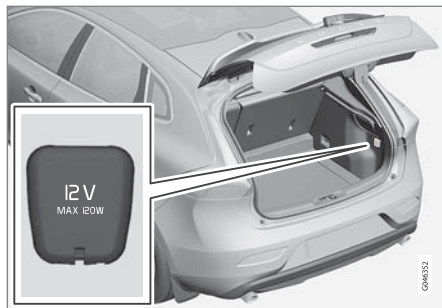
- 1 上部フロアのハンドル*を持ち上げ、フロアをたたむように引き上げます。
- 2 フロアを適切な位置まで前方に動かし、調整用溝に入れます。
3. サービスポジションでは、フロアがリアシートの手前、最前の位置になり、中央のプラスチック製サポートに差し込みます。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)
- 荷物の積み込み - バッグホルダー (p. 191)

12V 電源ソケット - カーゴスペース

この電源ソケットはディスプレイやミュージックプレーヤー、携帯電話など、12V 電源用に設計されているさまざまなアクセサリに使用することができます。



電源ソケットを使用するときは、カバーを開けます。

- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチに挿入されていないときでも、電源ソケットは使用することができます。

重要

最大 10A (120W) まで供給できます。

注意

エンジン停止中に電源ソケットを使用すると、車両のバッテリーが放電してしまうおそれがありますので、ご注意ください。

注意

緊急パンクリペアー (p. 373) 用コンプレッサーは、ボルボによって、試験が行われ、認定されています。

関連情報

- トンネルコンソール - 12V 電源ソケット (p. 188)

カーゴネット*

カーゴネットは、急ブレーキの際などに荷物が座席に投げ出されることを防ぎます。



カーゴネットは、4つの固定ポイントに取り付けます。

安全のため、カーゴネットをつねに正しく取り付け、固定してください。このネットは強靱なナイロン繊維でできており、フロントシートバックレストの後方に固定されます。

⚠ 警告

ラゲッジコンパートメント内の荷は確実に固定する必要があります。また、正しく装着されたカーゴネットを使用してください。

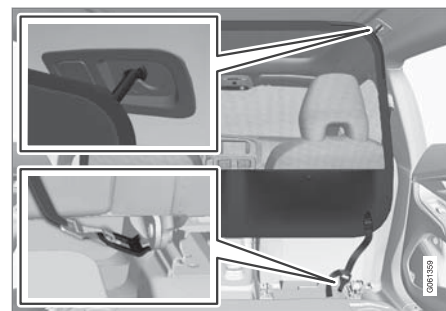
取り付け

❗ 注意

カーゴネットは、リアドアのいずれかから装着すると、容易に装着できます。

⚠ 警告

カーゴネットの上部固定地点が正しく取り付けられており、プーラストラップが正しく固定されていることを確認する必要があります。損傷のあるネットは使用しないでください。



1. フックをルーフマウンティングに引っかけます。このとき、アンカーストラップのロックが手前を向くようにしてください。

カーゴネットのアンカーストラップをシートのスライドレール後部にあるアイボルトに通します。バックレストを起こし、シートを若干前方に動かすと取り付けやすくなります。

シート/バックレストを元の位置に戻す際、シート/バックレストをネットに強く押し付けないように注意してください。シート/バックレストがネットに軽く触れる程度に調整してください。

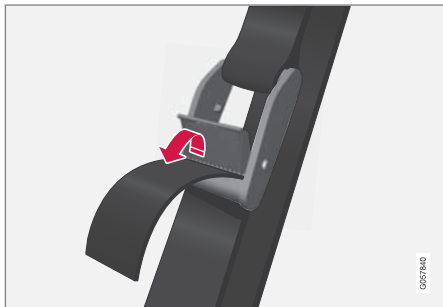


❗ 重要

シート/バックレストを後方に移動してカーゴネットに強く当てると、ネットやルーフマウンティングが損傷を受けるおそれがあります。

- アンカストラップのロックにあるボタンを押して、アンカストラップを下からロックに通します。

アンカストラップを使用して、カーゴネットを張ります。



取り外しおよび保管

- アンカストラップのロックにあるボタンを押してストラップをずらし、カーゴネットをゆるめます。
- フックをルーフマウンティングから外します。

- カーゴネットをたたみ、カーゴスペースの収納バッグに収納します。

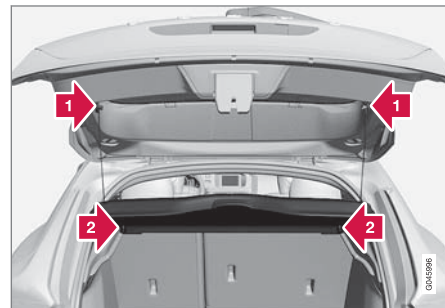
関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)
- 荷物固定用アイレット (p. 191)

ハットシェルフ

ハットシェルフは取り外しが可能で、さらなるカーゴスペースを作ることができます。

ハットシェルフの取り外し



- 両側でハットシェルフリフティングアイを外します。
- ハットシェルフ前端のフックを外し、取り外します。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)
- 荷物の積み込み - 長尺物 (p. 190)

ロックおよびアラーム

リモートコントロールキー

リモートコントロールキーは、特に、車両のロック/ロック解除および始動に使用されます。

キーには、基本バージョンのリモートコントロールキー、PCC*非装備のリモートコントロールキー、PCC*付きのリモートコントロールキーの3種類があります。

機能	基本 ^A	PCCなし ^A	PCC ^B 付き
ロック/ロック解除および脱着式キーブレード	X	X	X
キーレスロック/ロック解除		X	X
キーレスエンジン始動		X	X
インフォメーションボタンおよびインジケータランプ			X

A 5 ボタンキー

B 6 ボタンキー

詳細情報

- 基本リモートコントロールキー - 基本バージョンのキーです。機能については、リモ

ートコントロールキー - 機能 (p. 200)を参照してください。

- PCCなしのリモートコントロールキー - キーレスドライブ* (p. 206)とキーレスロック (p. 208)およびロック解除 (p. 209)対応。
- PCC付きリモートコントロールキー - インフォメーションボタンおよびインジケータランプも搭載されています。詳しくは、独自機能 (p. 202)をお読みください。

すべてのリモートコントロールキーには、金属製の脱着式キーブレード (p. 203)が付いています。リモートコントロールキーが識別できるように、外から見える部分のデザインには、2種類あります。

リモートコントロールキーは追加注文することができます。ただし、車両に付属しているもの以外のタイプはできません。車両1台に対してプログラムおよび使用可能なキーは6つまでです。

車両には、リモートコントロールキーが2つ搭載されています。

警告

車内にお子様が残る場合：

運転者が車両から離れる場合は、リモートコントロールキーを必ず抜いて、パワーウィンドの電源をオフにしてください。

リモートコントロールキー - 紛失

リモートコントロールキー (p. 196)を紛失した場合は、サービス工場で新しいキーを注文できます。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお勧めします。

残りのリモートコントロールキーをボルボのサービス工場へお持ちになってください。不正に使用されることを防ぐため、紛失したリモートコントロールキーのコード番号を車両のシステムから消去する必要があります。現在車両に登録されているキーの数は、メニューシステム MY CAR で確認できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)
- リモートコントロールキー - 作動範囲 (p. 201)

リモートコントロールキー - パーソナライズ*

リモートコントロールキーのキーメモリーを使用すると、車両の一部の設定を運転者ごとに個別に変更することができます。

キーメモリー機能は運転席パワーシート* (p. 118) などとの組み合わせで動作させることができます。

ドアミラー (p. 140)、運転席シート、ステアリングホイール操舵力 (p. 224)、コンパインド・メーター・パネルのテーマ、コントラストおよびカラーモード (p. 99) の設定はキーメモリーに保存することができます (車両の装備レベルに応じて異なる)。

この機能¹は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147) を参照してください。

この機能が作動している場合、設定は自動的にキーメモリーに関連付けられます。したがって、設定が変更されると、特定のリモートコントロールキーのメモリーに変更が自動的に保存されます。

設定の保存

設定を保存し、リモートコントロールキーのキーメモリーを使用するには、次の手順に従ってください。

1. メモリーに設定²を保存するリモートコントロールキーを使用して、車両をロック解除します。
2. メニューシステム MY CAR でキーメモリー機能が作動していることを確認してください。
3. シートおよびドアミラーなどを好みの位置に調節します。
4. 使用中のリモートコントロールキーのメモリーに設定が保存されます。

次回、同じリモートコントロールキーで車両をロック解除すると、キーメモリーに保存されている位置に自動的に調節されます (そのリモートコントロールキーの前回使用時以降に位置が変更されていた場合)。

非常停止

シートが不意に動き出した場合は、シート用設定ボタンまたはメモリーボタンいずれか1つを押すと停止します。

停止後、リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すと、シートはキーメモリーに記

憶されている位置まで再び移動します。運転席ドアを必ず開けておかなければなりません。

警告

挟まれるおそれがあります。お子様にシートの操作をさせないでください。シートの調節は、シートの前後や下になにも物がない状態で行ってください。リアシートの乗員が挟まれないように注意してください。

設定の変更

複数の人が各自リモートコントロールキーを持って車両に近づくと、最初に運転席ドアを開けた人の設定に合わせて、シートやドアミラーなどの位置が調節されます。

A さんがリモートコントロールキー A で運転席ドアを開けた後、B さんがリモートコントロールキー B で運転する場合、次の方法で設定を変更することができます。

- 運転席ドア側に立つか、運転席に座った状態で、B さんが自分のリモートコントロールキーのロック解除ボタンを押します。
- シート設定ボタン 1~3 の、3 つのメモリーの 1 つを選択します。
- シートおよびドアミラーを手動で調節します。

¹ MY CAR のカーキーメモリー。

² この設定により、パワーシートのメモリー機能に保存されている設定に影響が出ることはありません。

◀ 関連情報

- リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)
- PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能 (p. 202)

ロック/ロック解除 - インジケーター

リモートコントロールキー (p. 196) を使用して車両をロック/ロック解除すると、方向指示器が点滅して正常に作動したことを知らせます。

- ロック作動 - 1 回点滅し、ドアミラーが格納³されます。
- ロック解除 - 2 回点滅し、ドアミラーが展開³します。

① 注意

リモートコントロールキーを車内に残したままロックしないよう、ご注意ください。

ロック時には、すべてのドアが閉じすべてのロックが作動したときにのみ、その旨が確認できます。確認表示は最後まで開いていたドアが閉じたときに実施されます。

機能の選択

ロック作動/解除をライトで表示する方法に関しては、メニューシステム MY CAR で別の方法に変更することができます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147) を参照してください。

ロックインジケーター

ウインドスクリーン側の LED が点滅している場合には、車両はロックされています。



アラームインジケーター (p. 220) と同じ LED

① 注意

このインジケーターはアラームが装備されていない車両にも装備されています。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)
- アラームインジケーター* (p. 220)

³ 格納式パワードアミラー装備の車両のみ。

リモートコントロールキー - 電子式イモビライザー

電子式イモビライザーは、侵入者が車両を始動 (p. 312) するのを防ぐ盗難防止システムです。

各リモートコントロールキー (p. 196) には、固有のコードが使用されています。正しいコードのリモートコントロールキーを使用しなければ、エンジンを始動することができません。

コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに表示するメッセージのうち、以下のメッセージは電子式イモビライザーに関連しています。

メッセージ	意味
キーを挿入して下さい	リモートコントロールキーの読み取りエラー。キーをイグニッションスイッチから取り出し、もう一度挿入し直して、再度エンジンの始動を試みてください。
キーが見つかりません ^A	始動時のリモートコントロールキーの読み取りエラー。再度エンジンの始動を試みてください。 エラーが解消しない場合には、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込み、再度、エンジンの始動を試みてください。
イモビライザー - 再始動して下さい	始動中のイモビライザーのエラー。エラーが解消しない場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A キーレス始動およびロックシステム装備車のみ。

関連情報

- 追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー* (p. 199)
- キーレスドライブ* (p. 206)

追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー*

追跡システム搭載の遠隔操作式イモビライザー⁴が装備されている場合、車両を追跡して位置を割り出し、イモビライザーを遠隔操作で作動させることができます。

このシステムの起動に関するお問い合わせやご相談は、最寄りのボルボ・ディーラーにご連絡ください。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 196)
- リモートコントロールキー - 電子式イモビライザー (p. 199)

⁴ 特定市場のみ。使用には Volvo On Call*が必要。

リモートコントロールキー - 機能

リモートコントロールキーには、ドアのロック/ロック解除機能などがあります。

機能



基本バージョンのリモートコントロールキー

-  ロック作動
-  ドアロック解除
-  アプローチライト点灯
-  テールゲート
-  パニックアラーム機能



PCC*(Personal Car Communicator)付きリモートコントロールキー

-  インフォメーションボタン - 機能については、PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能 (p. 202)を参照してください。

ボタン機能

-  **ロック** - ドアおよびテールゲートをロックして、アラームをセットします。ロック/ロック解除 - 車外から (p. 211)を参照してください。

ボタンを押したままにすると、すべてのウインドが同時に閉まります。詳しくは、グローバルオープニング機能 (p. 213)を参照してください。

⚠ 警告

リモートコントロールキーを使用してウインドを閉める場合は、乗員の手などを挟まないように注意してください。

-  **ロック解除(p. 211)** - ドアおよびテールゲートをロック解除して、アラームを解除します。

ボタンを押したままにすると、すべてのウインドが同時に開きます。詳しくは、グローバルオープニング機能 (p. 213)を参照してください。

この機能は、すべてのドアを同時にロック解除する設定から、ボタンを1回押すと運転席のドアロックのみが解除され、10秒以内に再度押すと残りすべてのドアがロック解除される設定に変更することができます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で変更できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

-  **アプローチライト点灯(p. 136)** - 車両から少し離れた場所からライトを点灯させることができます。

-  **テールゲート(p. 214)** - テールゲートのみのロックとアラームを解除します。

-  **パニックアラーム機能** - 緊急時に注意を促すための機能です。

ボタンを3秒以上押し続けるか、3秒以内に続けて2回押すと、方向指示器およびホーンが作動します。

アラームが作動してから5秒以上経過後、再び同じボタンを押すと停止させることができます。または、約3分が経過すると自動的に停止します。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 196)

リモートコントロールキー - 作動範囲

リモートコントロールキー(基本バージョン)の機能の作動範囲は、車両から約20 m以内です。

ボタンが押されたことを車両が認識しない場合には、車両に近寄ってからもう一度試行してください。

① 注意

周囲の電波、建物、地形などによって、リモートコントロールキーの機能が妨げられる場合があります。車両は、つねにキーブレード(p. 204)でロック/ロック解除できます。

エンジン作動中や、キーが **I** または **II** (p. 115)にあるときにリモートコントロールキーが車両から持ち出された場合、すべてのドアが閉じられると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告メッセージが表示され、同時に短い警告音が鳴ります。

リモートコントロールキーを車内に戻してから **OK** ボタンを押すか、またはすべてのドアを閉めると、メッセージが消えます。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 196)
- リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)

PCC 付きリモートコントロールキー* - 独自機能

PCC* 付きリモートコントロールキーはインフォメーションボタンおよびインジケータランプを搭載し、基本バージョンのリモートコントロールキー (p. 196) よりも機能が強化されています。



PCC 付きリモートコントロールキー

- ① インフォメーションボタン
- ② インジケータランプ

インフォメーションボタンを使用すると、インジケータランプを介して車両から情報を得ることができます。

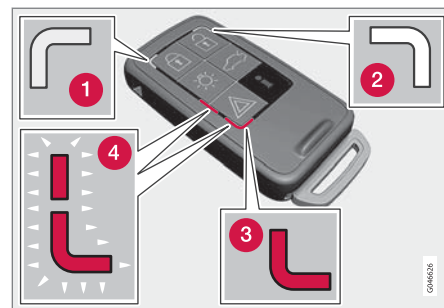
インフォメーションボタンの使用方法

- インフォメーションボタン  を押します。
- > すべてのインジケータランプが約 7 秒間点滅し、PCC 周囲のランプが回ります。この間、車両から情報が読み取られます。この間に別のボタンを押すと、読み取りは中断されます。

注意

インフォメーションボタン  をいろいろな場所で繰り返し押しても (7 秒経過後、および PCC 周囲のランプが回った後でも)、インジケータランプが 1 つも点灯しない場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

インジケータランプは、次の図のような情報を表示します。



- ① 緑のランプが点灯 - 車両はロックされています。
- ② 黄色のランプが点灯 - 車両はロック解除されています。
- ③ 赤いランプが点灯 - 車両がロックされた後、アラームが作動しています。
- ④ 両方のインジケータランプの赤いランプが交互に点滅 - 過去 5 分以内に、アラームが作動しました。

関連情報

- PCC 付きリモートコントロールキー* - 作動範囲 (p. 203)

PCC 付きリモートコントロールキー* - 作動範囲

PCC(Personal Car Communicator)付きリモートコントロールキーの作動範囲は、ドアおよびテールゲートをロック解除するときに車両から約 20 m 以内で、その他の機能は約 100 m 以内です。ボタンが押されたことを車両が認識しない場合には、車両に近寄ってからもう一度試行してください。

注意

周囲の電波、建物、地形などによって、インフォメーションボタンの機能が妨げられる場合があります。

作動範囲外

車両からの距離が遠過ぎるためにリモートコントロールキーが情報を読み取れない場合は、車両の状態に関する情報は更新されず、リモートコントロールキーの周囲のランプは回りません。

同じ車両に複数のリモートコントロールキーが使用された場合、直前にロック/ロック解除した際に使用されたリモートコントロールキーにのみ正しい状態が表示されます。

注意

インフォメーションボタン  をいろいろな場所で繰り返し押しても(7 秒経過後、および PCC 周囲のランプが回った後でも)、インジケーターランプが 1 つも点灯しない場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- キーレスドライブ* - 作動範囲 (p. 207)
- リモートコントロールキー - 作動範囲 (p. 201)

脱着式キーブレード

リモートコントロールキーには金属製の脱着式キーブレードが付いており、一部機能の起動や操作に使用できます。

キーブレードは特別なコード番号を使用していますので、新しいキーを注文される場合は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

キーブレードの機能

脱着式キーブレードを使用して：

- リモートコントロールキーでセントラルロックを作動できない場合は、左側フロントドアを手動でロック解除する (p. 204) ことができます。
- リアドアの手動チャイルドロックを作動/解除 (p. 217) できます。
- 電氣的不具合が発生した場合などには、右側フロントドアおよびリアドアを手動でロックすることができます。
- グローブボックスロック*をロック解除することができます。
- 助手席側エアバッグ(PACOS*)を作動可能状態/非作動状態にすることができます。

関連情報

- 手動ドアロック (p. 211)
- ロック/ロック解除 - グローブボックス (p. 213)
- 助手席側エアバッグ - 作動/解除* (p. 68)

脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け

脱着式キーブレード (p. 203) の取り外し/取り付けは次の手順で行います。

キーブレードを取り外す



- 1 スプリングキャッチを横にスライドさせます。
- 2 同時にキーブレードを、まっすぐ引き抜きます。

キーブレードを元に戻す

注意しながらキーブレードをリモートコントロールキー (p. 196) に取り付けます。

- 1 リモートコントロールキーのキーブレード差し込み溝を上に向けて持ち、キーブレードを差し込みます。

- 2 キーブレードを軽く押し込み固定します。所定の位置に固定されると、カチッと音がします。

関連情報

- 脱着式キーブレード - ドアロック解除 (p. 204)
- チャイルドロック - 手動による作動 (p. 217)
- 助手席側エアバッグ - 作動/解除* (p. 68)

脱着式キーブレード - ドアロック解除

リモートコントロールキーでセントラルロックを作動できない場合 (リモートコントロールキーの電池 (p. 205) が消耗した場合など) は、脱着式キーブレードを使用することができます。

次のようにすると左側フロントドアを開けることができます。

- 1 左側フロントドアハンドルのロックシリンダーにキーブレードを差し込み、ロック解除します。詳しくは、キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除 (p. 209) を参照してください。

① 注意

キーブレードを使用してドアをロック解除し、その後ドアを開けると、アラームが作動します。

- 2 イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、アラームを解除します。

キーレス始動およびロックシステム装備車の場合、キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除 (p. 209) を参照してください。

関連情報

- 脱着式キーブレード (p. 203)
- リモートコントロールキー (p. 196)

リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換

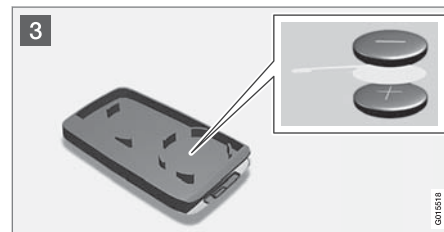
リモートコントロールキーの電池⁵は交換が必要になることがあります。

以下の場合には、リモートコントロールキーの電池を交換する必要があります。

- インフォメーションシンボルが点灯し、コンパインド・メーター・パネルのディスプレイに **キー電池切れ** マニュアルを参照して下さい が表示された場合

または

- 車両から 20 m 以内の距離でリモートコントロールキーのロック操作ができなくなった場合



開ける

- 1** **1** スプリングキャッチを横にスライドさせます。
- 2** **2** 同時にキーブレードを、まっすぐ引き抜きます。
- 2** **3** スプリングキャッチの後側にある穴に 3 mm のマイナスドライバーを差し込み、十分に注意してこじって、リモートコントロールキーのカバーを開けます。

⁵ PCC 付きリモートコントロールキーには、電池が 2 個使用されています。



① 注意

カバーを開けたときに電池が落下しないように、リモートコントロールキーのボタン面を上に向けてください。

① 重要

新しいバッテリーやその端子表面を手で触れないでください。機能が低下するおそれがあります。

電池の交換

① 注意

ボルボでは、リモートコントロールキー/PCCのバッテリーには、UN Manual of Test and Criteria, Part III, sub-section 38.3 の適合品を使用することをお薦めしています。工場出荷時のバッテリーまたはボルボ指定のサービス工場で交換されたバッテリーは、上記の基準を満たしています。

- 3** カバー内側の電池の + および - 極が、どの方向に入っているかよく注意してください。

リモートコントロールキー(電池 1 個)

1. 注意して、電池を取り外します。
2. + 側を下に向けて、新しい電池を取り付けます。

PCC*付きリモートコントロールキー(電池 2 個)

1. 注意して、電池を取り外します。
2. + 側を上に向けて、新しい電池を 1 個入れます。
3. 白いプラスチックタブを間に入れ、+ 側を下に向けて 2 個目の新しい電池を取り付けます。

電池タイプ

名称 CR2430 (3V) の電池を使用してください。

閉める

1. カバーを元の位置に戻します。
2. リモートコントロールキーのキーブレード差し込み溝を上に向けて持ち、キーブレードを差し込みます。
3. キーブレードを軽く押し込み固定します。所定の位置に固定されると、カチッと音がします。

① 重要

使用済みのバッテリーは、環境に優しい方法で処分してください。

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 196)
- リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)

キーレスドライブ*

キーレスドライブ装備車には、キーを使わずに操作できる始動およびロックシステムが搭載されています。

キーレス始動およびロックシステムが装備されている場合、リモートコントロールキー (p. 196) をイグニッションスイッチに挿入することなく、車両を始動、ロックおよびロック解除することができます。⁶ リモートコントロールキーはポケットの中に携帯しておくだけで機能します。両手に荷物を持っている場合などでも、ドアを開けることができるため便利です。

車両のリモートコントロールキーの両方にキーレスドライブ機能が付いています。予備のリモートコントロールキーを注文することもできます。

車両の電気系統は、リモートコントロールキーを使用して、3 種類のレベル - キー位置 **0**、**I** および **II** (p. 115) - のいずれかに設定することができます。

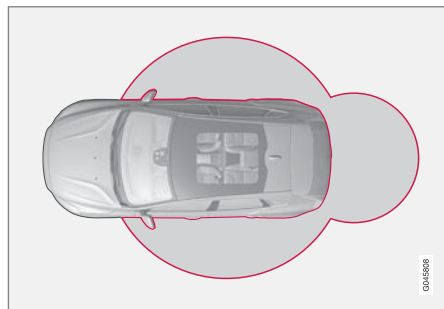
関連情報

- キーレスドライブ* - 作動範囲 (p. 207)
- キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い (p. 207)
- キーレスドライブ* - リモートコントロールキー機能への干渉 (p. 208)

キーレスドライブ* - 作動範囲⁷

リモートコントロールキーのボタンを押さずにドアやテールゲートを自動的にロック解除するには、リモートコントロールキーがドアハンドルまたはテールゲートから約 1.5 m 以内の範囲になければなりません。

ドアをロック/ロック解除する際はリモートコントロールキーを携帯しておく必要があります。車両の反対側のドアから、リモートコントロールキーでロック/ロック解除することはできません。



前図の赤で囲まれた部分は、システムのアンテナがカバーする範囲を示しています。

エンジン作動中や、キーが **I** または **II** (p. 115)にあるときにリモートコントロール

キーが車両からすべて持ち出された場合、いずれかのドアが開閉されると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告メッセージが表示され、同時に警告音が鳴ります。

リモートコントロールキーが車内に戻されると警告メッセージが消え、次のいずれかにより警告音も止まります。

- いずれかのドアを開閉する。
- リモートコントロールキーがイグニッションロックに挿入される。
- 方向指示器レバー上の **OK** ボタン。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)
- キーレスドライブ* - アンテナ位置 (p. 210)

キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い

すべてのリモートコントロールキーの取り扱いには、十分注意してください。

リモートコントロールキー⁸の1つが車内に残されている場合、車両に登録されているもう1つのリモートコントロールキーで車両がロックなどされることのないように、キーレスドライブ機能が解除されます。この機能は何者かが不正に車内に入ることを防ぎます。

機能が解除されたキーは、次回もう一方のリモートコントロールキーで車両をロック解除したときに機能を回復します。

重要

PCC 付きリモートコントロールキーは車内に放置しないでください。車内に何者かが侵入してリモートコントロールキーを持ち去った場合、イグニッションスイッチのリモートコントロールキーを押して、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すことにより、車両を始動することができます。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)

⁶ 基本リモートコントロールキーには適用されません。

⁷ キーレス始動の車両には該当しません。

キーレスドライブ* - リモートコントロールキー機能への干渉

電磁場および電磁遮蔽は、リモートコントロールキーのキーレスドライブ機能 (p. 206) を妨げるおそれがあります。

① 注意

キーレス機能付きのリモートコントロールキーを携帯電話や金属の物体の近く (10～15 cm 以内) に置いたり、保管したりしないでください。

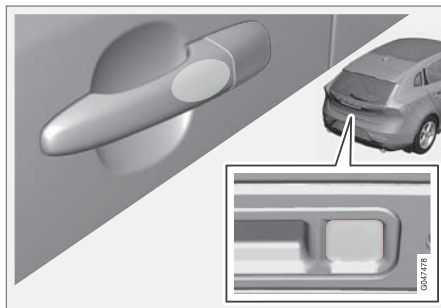
干渉が発生した場合、リモートコントロールキーおよびキーブレードを基本バージョンのリモートコントロールキー (p. 196) のように使用してください。

関連情報

- リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換 (p. 205)
- キーレスドライブ* - リモートコントロールキーの安全な取り扱い (p. 207)
- キーレスドライブ* - 作動範囲 (p. 207)

キーレスドライブ* - ロック

キーレス始動およびロックシステム装備車の外側ドアハンドルには感圧性のある領域があり、テールゲートのラバー加工されたプレッシャープレート⁸の隣には、ラバー加工されたボタンがあります。



ドアハンドルのひとつを握るか、テールゲートの2つラバー加工ボタンの小さい方を押して、ドアおよびテールゲートをロックします。ウインドスクリーンのロックインジケーター (p. 198) が点滅を開始し、正しくロックが行われたことを示します。

すべてのドアおよびテールゲートが閉まっている状態でロックボタンを押さないと、ドアおよびテールゲートはロックされません。

① 注意

オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセクターレバーを **P** 位置にしないと、車両のロックまたはアラームのセットをすることができません。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)
- アラームインジケーター* (p. 220)

⁸ PCC (パーソナル・カー・コミュニケーター) 付きリモートコントロールキーに適用されます。

キーレスドライブ* - ロック解除⁹

ドアハンドルを手で握るか、テールゲートのラバー加工されたプレッシャープレートを押すと、ロックが解除されます。通常通り、ドアまたはテールゲートを開けてください。

① 注意

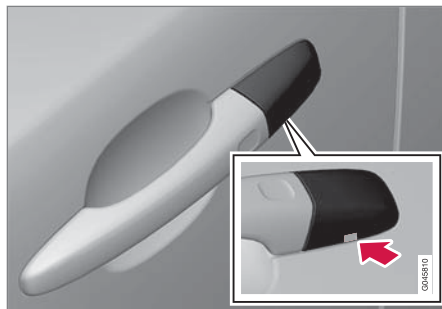
ドアハンドルは通常、ハンドルを握る手を感じますが、厚手の手袋をはめているときや、非常に速い動作で操作を行った場合には、もう一度やり直すか、手袋を外すことが必要となる場合があります。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)
- キーレスドライブ* - ロック (p. 208)

キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除

リモートコントロールキーでセントラルロックを解除できない場合(例えば、リモートコントロールキーの電池が消耗した場合など)は、リモートコントロールキー脱着式キーブレード(p. 203)で左側フロントドアをロック解除することができます。



キーブレード用の穴。カバーの固定をゆるめるために使用します。

ロックシリンダーにアクセスするには、ドアハンドルのプラスチックカバーを取り外す必要があります。これはキーブレードを使用して行ってください。

1. キーブレードをドアハンドルのプラスチックカバー下側の穴に約 1 cm まっすぐ押し入れます。こじらないでください。
 > ブレードが穴の中にまっすぐ押し上げられると、プラスチックカバーが外れます。
2. キーブレードをロックシリンダーに差し込み、ドアのロックを解除します。
3. ロックを解除したら、プラスチックカバーを元通りに取り付けます。

① 注意

キーブレードを使用して左側フロントドアのロックを解除して開けると、アラーム(p. 218)が発動します。アラームは、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込むと解除されます。アラーム* - リモートコントロールキーが使用できない (p. 221)を参照してください。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)
- 脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 204)

⁹ キーレス始動のリモートコントロールキーには該当しません。

キーレスドライブ* - ロック設定

キーレス始動およびロックシステム装備車のロック設定を変更するには、メニューシステム MY CAR でロック解除するドアを指定します。

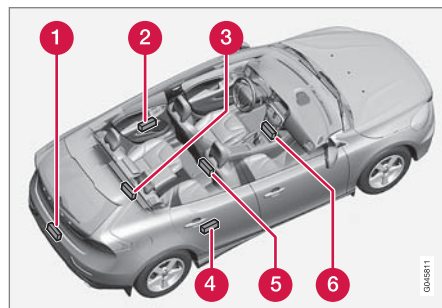
メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)

キーレスドライブ* - アンテナ位置

キーレス始動およびロックシステム装備車には、車両のさまざまな場所に多くのアンテナが装備されています。



- 1 リアバンパー、中央
- 2 左リアドアハンドル
- 3 カーゴスペース中央奥のフロア下部
- 4 右リアドアハンドル
- 5 センターコンソール、後部下側
- 6 センターコンソール、前部下側

⚠ 警告

心臓ペースメーカーをご使用のお客様は、ペースメーカーからキーレスシステムのアンテナまでの距離が 22 cm 以内にならないようにしてください。ペースメーカーとキーレスシステムが、相互に干渉するおそれがあります。

関連情報

- キーレスドライブ* (p. 206)

ロック/ロック解除 - 車外から

車外からのロック/ロック解除はリモートコントロールキー(p. 200)を使用します。リモートコントロールキーで、車外からすべてのドアおよびテールゲート、燃料給油口フラップをロック/ロック解除することができます。ロック解除の順序を変更することもできます。

ロック作動手順を開始するには、運転席ドアが閉じている必要があります。それ以外のドアやテールゲートが開いている場合には、それらが閉じた時点で、ロックが作動し、アラームがセットされます。キーレスロックシステム*装備車の場合、すべてのドアとテールゲートが閉じている必要があります。キーレスドライブ* - ロック(p. 208)およびキーレスドライブ* - ロック解除(p. 209)を参照してください。

① 注意

リモートコントロールキーを車内に残したままロックしないよう、ご注意ください。

リモートコントロールキーでロック/ロック解除できない場合は、電池が消耗している場合があります。脱着式キーブレード(p. 204)で左側フロントドアをロック/ロック解除してください。

① 注意

キーブレードで車両のロックを解除した後ドアを開くと、アラームが作動しますのでご注意ください。リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込むとアラームが停止します。

⚠ 警告

リモートコントロールキーで外側からドアをロックすると、内側からはドアを開けることができなくなります。車内に残った人が閉じ込められるおそれがありますので、ご注意ください。詳しくは、デッドロック*(p. 216)を参照してください。

オートリロック機能

ドアまたはテールゲートは、ロック解除後2分以内に開けないと自動的に再ロックされます。これはロックのかけ忘れを防ぐための機能です。アラーム装備車の場合は、アラーム*(p. 218)を参照してください。

関連情報

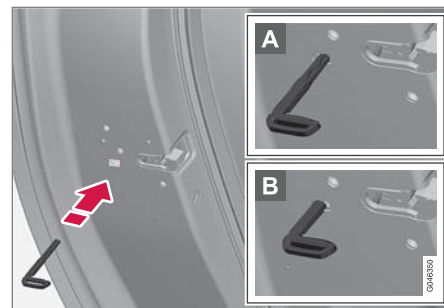
- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 212)
- リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)

手動ドアロック

電氣的不具合が発生した場合などには、手動で車両をロックすることが必要となります。

左側フロントドアは、ロックシリンダーと脱着式キーブレード(p. 209)を使ってロックすることができます。

他のドアにはロックシリンダーはありませんが、代わりに各ドアの端にロックスイッチがあります。これはキーブレードを使用して押し込む必要があります。これを押し込むと機械的にロック/ブロックされ、外側からは開けることができなくなります。この場合でもドアは内側から開けることができます。



手動ドアロックこれはチャイルドロック(p. 217)とは異なります。

- ◀ - 脱着式キーブレード(p. 204)をリモートコントロールキーから取り外します。キーブレードをロックの穴に差し込み、キーを奥まで約 12 mm 押し込みます。

A ドアは、外側からも内側からも開けることができます。

B ドアは外側からは開かなくなります。
A 位置に戻すには、内側ドアハンドルを開ける必要があります。

ドアはリモートコントロールキー(p. 196)のロック解除ボタンか、運転席側ドアのセントラルロックボタンでもロック解除できます。

① 注意

- ドアのロックリセットは、そのドアのみに作動します。すべてのドアが同時に作動するわけではありません。
- 手動チャイルドロック(p. 217)を作動しているリアドアを手動でロックすると、車外からも車内からも開けることができなくなります。この方法でロックされたドアは、リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンでのみロック解除できます。

関連情報

- リモートコントロールキー/PCC - 電池の交換 (p. 205)

ロック/ロック解除 - 車内から

ロック/ロック解除には、運転席ドアのセントラルロックボタンを使用します。すべてのドアとテールゲート(p. 214)を同時にロック/ロック解除することができます。



セントラルロック

- ボタンの片方  を押すとロックされ、もう片方  を押すとロック解除されます。

ロックボタン内のランプ

運転席ドア用のセントラルロックボタン内のランプが点灯しているときは、すべてのドアがロックされていることを示します。

ドアロック解除

ドアは2通りの方法で、内側からロック解除することができます。

- セントラルロックボタン  を押します。

長押しすると、すべてのパワーウインド*も同時に開きます。(セクショングローバルオープニング機能(p. 213)も参照してください。)

- ドアハンドルを引いてドアを開けてください。1つの動作で、ドアがロック解除され、開きます。

ロック作動

- セントラルロックを作動させるには、両側のフロントドアが閉じている必要があります。セントラルロックボタン  を押します。ドアはすべてロックされます。リアドアのいずれかが開いている場合には、ドアを閉じるとロックされます。

長押しすると、すべてのパワーウインドも同時に閉じます。(セクショングローバルオープニング機能(p. 213)も参照してください。)

オートロック

ドアおよびテールゲートは、車両が動き出すと自動的にロックすることができます。

この機能は、メニューシステム MY CAR で起動/解除できます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車外から (p. 211)
- アラーム* (p. 218)

グローバルオープニング機能

グローバルオープニング機能は、すべてのパワーウィンドを同時に開閉し、例えば気温の高いときに、車内に外気を素早く入れるためなどに使用することができます。



セントラルロックボタン

リモートコントロールキーまたはセントラルロックボタンのシンボル  を長押しすると、すべてのパワーウィンドが同時に**開きます**。同様にシンボル  を長押しすると、すべてのウィンドが同時に**閉まります**。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 212)
- パワーウィンド (p. 138)

ロック/ロック解除 - グローブボックス

グローブボックス (p. 187) は、リモートコントロールキー (p. 196) の脱着式キーブレードでのみロック/ロック解除できます。

キーブレードについては、脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 204) を参照してください。



グローブボックスのロック：

- 1 キーブレードをグローブボックスのロックシリンダーに差し込みます。
 - 2 キーブレードを時計回りに 90 度回します。ロックされているときは、キーホールが水平位置になります。
 - 3 キーブレードを抜き取ります。
- ドアロック解除は逆の手順で行います。

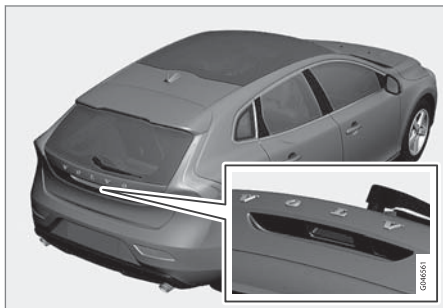
関連情報

- リモートコントロールキー - 機能 (p. 200)

ロック/ロック解除 - テールゲート

テールゲートを開く、またはロック/ロック解除するにはいくつかの方法があります。

手動で開く



電気接点付きラバープレート

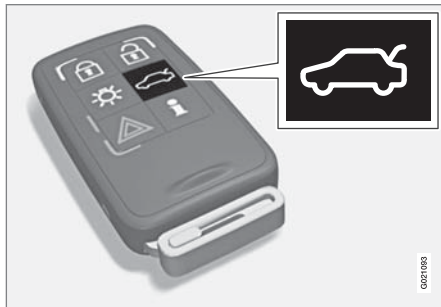
テールゲートは電動ロックで閉まったままとなります。開ける：

1. アウターハンドルの下に2つあるラバー加工されたプレッシャープレートのうち、幅の広いほうを軽く押してください。ロックがリリースされます。
2. テールゲートを完全に開くには、アウターハンドルを持ち上げます。

重要

- テールゲートのロックを解除するのにほとんど力は要りません。ラバー加工されたプレッシャープレートを軽く押してください。
- テールゲートを開ける際には、ラバー加工されたプレッシャープレートは持ち上げないでください。ハンドルを使用してください。強い力がかかると、ラバー加工されたプレッシャープレート部分の電気接点が損傷を受ける場合があります。

リモートコントロールキーによるロック解除



リモートコントロールキー(p. 196)の  ボタンを使用して、テールゲートのアラームを解

除*し、テールゲートのロックを解除することができます。

ダッシュボードのロックインジケーター(p. 198)の点滅が停止し、すべてのドア/テールゲートのロックが解除され、アラーム*のレベルセンサー、ムーブメントセンサー、テールゲートオープンセンサーが解除されていることを示します。

ドアはロックされた状態で、ドアのアラームは作動します。

リモートコントロールキーを使うと、テールゲートは2通りの方法で開くことができます。

1回押す - テールゲートがロック解除されますが、開きません。アウターハンドルの下側のラバー加工されたプレッシャープレートを軽く押し、テールゲートを開けます。2分以内にテールゲートが開かれないと、ロックが再作動し、アラームも再びセットされます。

3秒以内に2回押す - テールゲートがロック解除され、ロックが解放されて、テールゲートが数センチ開きます。アウターハンドルを持ち上げて、開けます。しかし、降雨、低温、霜、雪などにより、テールゲートが開かない場合があります。

① 注意

- リモートコントロールキーを2回押す操作または車内からの操作でトランクリッド/テールゲートをロック解除した場合、トランクリッド/テールゲートが開いているため、オートリロック機能は作動しません。手動で閉じる必要があります。
- トランクリッド/テールゲートを閉じて、ロックは解除されたままで、アラームもセットされません。リモートコントロールキーのロックボタン  でロックし直し、アラームをセットしてください。

車内から開ける



① テールゲートのロック解除

テールゲートを開けるには：

- ヘッドライトコントロールパネルにあるボタン(1)を押します。
 - ＞ ロックが解除され、テールゲートが数センチ開きます。

リモートコントロールキーによるロック

- リモートコントロールキー (p. 200) の  ボタンを押します。
 - ＞ ダッシュボードのロックインジケーターが点滅を始め、車両がロックされ、アラーム*が起動されたことを示します。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 212)
- ロック/ロック解除 - 車外から (p. 211)

ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ

燃料給油口フラップはリモートコントロールキー (p. 196) のロック解除ボタン  でロック解除します。

燃料給油口フラップは、リモートコントロールキーのロックボタン  で車両をロックするまでロック解除されたままになります。走行中に車両をロックした場合や車内のボタンでロックした場合、燃料給油口フラップはロック解除されたままになります。

燃料給油口フラップのロック機能は、キーレスシステムおよびセントラルロックシステムのロック/ロック解除と連動します。

関連情報

- 燃料給油口フラップ - 開閉 (p. 339)
- 燃料給油口フラップ - 手動 (p. 339)

デッドロック*

デッドロック¹⁰を使用するとすべてのドアハンドルが機械的に施錠されるため、内側からドアを開けることができなくなります。

デッドロック機能は、リモートコントロールキー(p. 196)で起動します。ドアがロックされてから約 10 秒後に作動します。

① 注意

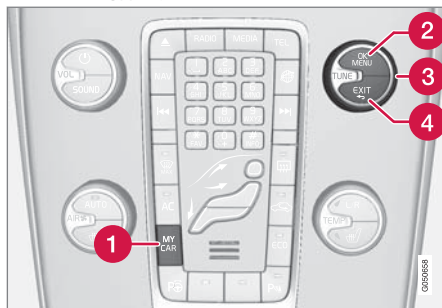
遅延時間内にドアが開けられた場合には、手順が中断され、アラームは解除されます。

デッドロック機能が作動している場合、車両をロック解除するには、必ずリモートコントロールキーを使用する必要があります。脱着式キーブレード(p. 203)を使用して、左フロントドアをロック解除することもできます。

⚠ 警告

車内に人が閉じ込められる危険を防止するため、デッドロック機能を解除しない限り、車内に人を残して車両から離れないでください。

一時的に解除する



選択されているメニューオプションに、+マークが表示されます。

- ① MY CAR
- ② OK MENU
- ③ TUNE ノブコントロールスイッチ
- ④ EXIT

車内に人を残したまま車外からドアをロックする場合、一時的にデッドロック機能を解除することができます。この操作はメニューシステム MY CAR で行います。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147)を参照してください。

MY CAR では、以下のオプションのいずれかを選択することができます。

- **1 回有効** - コンパインド・メーター・パネルは、今回のみ車両がロックされたときに**ロックおよびアラームガード機能低下**およびデッドロックがオフになることを示します。(アラームのムーブメントセンサーおよびチルトセンサー*も同時にオフになるため注意してください。)

次のエンジン始動時に、システムがゼロにリセットされてコンパインド・メーター・パネルに**ロックおよびアラームガード**のメッセージが表示され、デッドロック機能、およびアラームのムーブメントセンサーおよびチルトセンサーが、再び作動状態になります。

- **終了確認** : エンジン停止するたびに、毎回、運転者は質問 **エンジンを再び始動するまでに Reduced Guard を有効にしますか?** に答える必要があります。

¹⁰ アラームと併用のみ。

デッドロック機能を解除する場合

- OK/MENU を押して車両をロックします。(アラームシステムのムーブメントセンサーとチルトセンサー*も同時にオフになるため注意してください。)
- ▶ 次回エンジンを始動すると、システムがリセットされてコンパインド・メーター・パネルに **ロックおよびアラーム フォット** のメッセージが表示され、デッドロック機能、およびアラームのムーブメントセンサー、およびチルトセンサーが、再び作動状態になります。

ロックシステムを変更しない場合

- **EXIT** を押して車両をロックします。

① 注意

- 車両がロックされているときは、アラームが有効になっていますのでご注意ください。
- いずれかのドアを車内から開けた場合、アラームが作動します。

上記はデッドロックが一時的に無効にされていない場合に適用されます。

関連情報

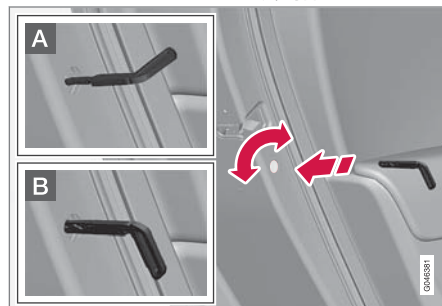
- キーレスドライブ* - キーブレードによるロック解除 (p. 209)

チャイルドロック - 手動による作動

チャイルドロックは、お子様が内側からリアドアを開けるのを防ぎます。

チャイルドロック用コントロールは左右リア
ドアの後端にあり、ドアが開いているときにの
み操作できます。

チャイルドロックの作動/解除



チャイルドロックがかかった状態。これは手動ドアロック (p. 211) とは異なります。

- リモートコントロールキーの脱着式キーブレード(p. 204)でノブを回してください。

A ドアは内側から開かなくなります。

B ドアは、外側からも内側からも開けることができます。

① 注意

- ドアのノブコントロールは、そのドアのみに作動します。両方のリアドアに同時に作動するわけではありません。
- 電動チャイルドロック装着車には、手動チャイルドロックは装着されていません。

関連情報

- チャイルドロック - 電動ロック*
(p. 218)
- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 212)

チャイルドロック - 電動ロック*

チャイルドロックは、お子様が内側からリアドアを開けるのを防ぎます。

作動

パワー・チャイルドロックは、キー位置 (p. 115) を **0** 以上にすると作動/解除できます。エンジンを停止してからドアを開いていない場合は、2 分が経過するまで作動/解除できます。



運転席ドアのコントロールパネル

1. エンジンを始動するか、キーを **0** 以外の位置に回してください。
2. 運転席ドアのコントロールパネルのボタンを押します。
 - ＞ インフォメーション・ディスプレイに **リチャイルドロック 作動** のメッセージが表示され、ボタンのライトが点灯すると、ロックが作動しています。

パワー・チャイルドロックが作動しているとき：

- パワーウインドは、運転席ドアのコントロールパネルスイッチでのみ開けることができます。
- リアドアは内側から開けられません。

エンジンを切ると、その時点での設定が保存されます。すなわち、エンジン停止時にチャイルドロックが作動していれば、次回エンジンを始動したときにも作動したままとなります。

関連情報

- チャイルドロック - 手動による作動 (p. 217)
- ロック/ロック解除 - 車内から (p. 212)

アラーム*

アラームは、何かが車内へ侵入した際に鳴る警報装置です。

作動可能状態のアラームは、次のようなときに作動します：

- ドア、ボンネット、またはテールゲートが開けられたとき¹¹
- 車内の動きを感知したとき(ムーブメントセンサー*装着車の場合)
- 車両が持ち上げられたり、けん引されたとき(チルトセンサー*装着車の場合)
- バッテリーケーブルの接続が外されたとき
- サイレンの接続を切断しようとしたとき

アラームシステムに不具合があると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージが表示されます。ボロボ指定のサービス工場にご連絡ください。

① 注意

車内でなんらかの動きが検知されると、ムーブメントセンサーによりアラームが作動します。気流も動きとして感知されます。このため、ウインドが開いたままになっている場合や車内ヒーターが作動している場合には、アラームが作動するおそれがあります。

こうした状況を避けるには：車両から離れる場合には、ウインドを閉じてください。車に一体化されている車内ヒーター(またはポータブル電気ヒーター)を使用する場合には、空気吹出口からの気流が車内上方に向かうことがないように気流を調整してください。または、低アラームレベルを使用する方法もあります。アラームの機能解除* (p. 221)を参照してください。

① 注意

アラームシステムの部品は、絶対にご自身で修理や改造をしないでください。保険が適用されなくなる場合があります。

アラームのセット

- リモートコントロールキーのロックボタンを押します。

アラームを非作動状態にする

- リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押します。

作動したアラームの停止

- リモートコントロールキーのロック解除ボタンを押すか、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます。

関連情報

- アラーム* - 自動再セット (p. 220)
- アラーム* - リモートコントロールキーが使用できない (p. 221)

¹¹ 特定市場に適用。

アラームインジケーター*

アラームインジケーターはアラームシステム (p. 218) の状態を示します。



ロックインジケーター (p. 198) と同じ LED

ダッシュボードにある赤い LED が、アラームシステムの状態を表示します：

- LED 消灯 - アラームが解除されています。
- LED が 2 秒に 1 回点滅 - アラームがセットされています。
- アラームを解除後 (および、イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、I 位置にするまでの間)、LED が速く点滅 - アラームが作動しました。

アラーム* - 自動再セット

アラームの自動再セットは、アラーム (p. 218) をセットし忘れた状態で、車両が放置されるのを防ぐ機能です。

リモートコントロールキー (p. 196) で車両をロック解除 (およびアラーム解除) してから 2 分以内にドアまたはテールゲートを開けなかった場合、アラームは自動的に再びセットされます。同時に車両もロックされます。

関連情報

- アラーム* - 自動セット (p. 220)

アラーム* - 自動セット

国によっては、運転席ドアがいったん開いてから閉まった後に車両がロックされなかった場合には、一定時間が経過した後にアラーム (p. 218) がセットされます。

関連情報

- アラームシグナル* (p. 221)

アラーム* - リモートコントロールキーが使用できない

アラーム (p. 218) をリモートコントロールキーで解除できない場合 (リモートコントロールキーの電池 (p. 205) が消耗した場合など) は、次の手順で車両のロックとアラームを解除して、エンジンを始動することができます。

1. 脱着式キーブレード (p. 209) を使用して、左側フロントドアを開けます。
 - ＞ アラームが作動すると、方向指示器が点滅し、サイレンが鳴ります。



2. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに差し込みます。
 - ＞ アラームが解除されます。

アラームシグナル*

アラーム (p. 218) が発動すると、サイレンが鳴り、すべての方向指示器が点滅します。

- サイレンは、30 秒間またはアラームを解除するまで鳴ります。サイレンには独自のバッテリーが接続されており、車両のバッテリーと関係なく機能します。
- すべての方向指示器が 5 分間、またはアラームを解除するまで点滅します。

アラームの機能解除*

ムーブメントセンサーおよびチルトセンサーを一時的に解除してアラームを解除します。

車内に犬を残すときや、列車やフェリーで車両を搬送する場合などは、アラームが誤作動しないように、ムーブメントセンサーおよびチルトセンサーを一時的に解除してください。

この手順は、デッドロックの一時解除と同じです。デッドロック* (p. 216) を参照してください。

関連情報

- アラーム* (p. 218)
- アラームインジケーター* (p. 220)

型式認定 - リモートコントロール
キーシステム

リモートコントロールキーの型式認定が表内に記載されています。

ロックシステム、標準

国/地域	
EU、中国	Continental FCC ID: KRC59WK48264 IC:2877-SWK48264 ◎ CCAS06LP1840T4 CET3777C300/R TRCPLPD2000/22 CNII ID:2006DJ1124 Complies with EDA Standard D501702 TA-2006/469 RLVNT05-348 Made in Cz CE Ⓜ Ⓢ

キーレスロックシステム(キーレスドライ
ブ)

国/地域	
EU	Continental SWK 4 9265 CE
韓国	Continental SIE-SWK 49268 Made in Cz K

国/地域	
中国	Continental SWK 4 926 CET38931D/0606/R TRCPLPD2000/06 CNII ID:2006DJ1121 Complies with EDA Standard D501702 TA-2006/469 Made in Cz CE Ⓜ Ⓢ
香港	Continental SWK 4 9209

関連情報

- リモートコントロールキー (p. 196)

運転者サポート

ステアリングホイール操舵力の調節*

速度感应式パワーステアリングは、車速が上がるとステアリングを重くしてハンドル操作をしやすくします。

高速道路では、ステアリングはさらに重く感じられます。駐車時や低速走行時はステアリングホイールが軽くなり、ハンドル操作が容易にできます。

ステアリングホイール操舵力は、路面反応性やステアリング感度といった好みに合わせて、メニューシステム **MY CAR** (p. 147) で3段階から選択できます。

- メニューシステムで、**ステアリングの重さレベル**を検索し、**低**、**中**、または **高** を選択します。

走行中はこのメニューにアクセスすることはできません。

注意

状況により、パワーステアリングの温度が上がりがすぎて、一時的に冷却が必要になることがあります。この間、パワーステアリングのアシスト力が低下するため、ステアリングホイールを回すときに、通常よりも少し重く感じられることがあります。

ステアリングのアシスト力が一時的に低下すると、コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されます。

関連情報

- MY CAR (p. 147)

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要

エレクトロニック・スタビリティ・コントロール ESC (Electronic Stability Control) は、横滑りの回避を支援し、車両のトラクションを向上させます。



ESC システムの作動中は、ブレーキペダルを踏むと振動音が聞こえます。アクセルペダルを踏み込むと、通常よりゆっくり加速します。

警告

スタビリティ・システム ESC は補助機能であり、あらゆる状況のすべての道路条件に対応できるわけではありません。

安全運転を行い、適用されている交通法規や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

ESC システムは以下の機能で構成されています。

- アクティブ・ヨー・コントロール
- スピンコントロール
- トラクション・コントロール・システム
- エンジン・ドラッグ・コントロール(EDC)
- コーナー・トラクション・コントロール(CTC)

- ドライバー・ステアリング・リコメンデーション(DSR)
- トレーラー・スタビリティ・アシスト¹(TSA)

アクティブ・ヨー・コントロール

この機能は、個々の車輪の回転と制動力をコントロールして、車両を安定させます。

スピンコントロール

駆動輪が路面でスリップした場合には、安定性とトラクションを保つために、この機能によりエンジン出力を減らします。

トラクション・コントロール・システム

この機能は、低速走行時に作動し、アクセルを踏んだときに駆動輪の片側が空転すると、その車輪の駆動力を空転していない側の車輪に伝えます。

エンジン・ドラッグ・コントロール(EDC)

EDC(Engine Drag Control)は、滑りやすい路面を低めのギヤで走行中にエンジンブレーキをかけた場合や、シフトダウンした場合などに、不意なホイールロックを防止します。

走行中の不意なホイールロックは、運転者が車両の制御を失う原因の一つとなります。

コーナー・トラクション・コントロール(CTC)

アーチ形になった高速道路の入り口などで、他の車両の速度に迅速に追いつけるように、CTC

(Corner Traction Control) はアンダーステアを補正し、内側のホイールをスピンさせずに通常以上の加速を可能にします。

ドライバー・ステアリング・リコメンデーション(DSR)

DSR (Driver Steering Recommendation) はトラクションが減少した場合や、ABS システムが作動した場合に、運転者が正しい方向へ車両を操舵するのをサポートします。

DSR 機能の主な役割は、車両がスリップしたときに運転者が正しい方向に操舵するのをサポートすることです。

DSR は、利用可能な最大限のトラクションを維持/達成し、車両が安定するように、操舵すべき方向に向かってステアリングホイールにわずかなトルクを与えることで作動します。

トレーラー・スタビリティ・アシスト¹(TSA)

トレーラー・スタビリティ・アシスト (p. 352) は、トレーラーが蛇行を始めた場合に車両とトレーラーを安定させる機能です。詳しくは、トレーラーなどのけん引 (p. 346)を参照してください。

関連情報

- Electronic stability control (ESC) - 作動 (p. 226)
- Electronic stability control (ESC) - シンボルおよびメッセージ (p. 227)

① 注意

運転者が **Sport** モードを選択すると、この機能は解除されます。

¹ Trailer Stability Assist はボルボ純正トウバーの取り付けに含まれます。

Electronic stability control (ESC) - 作動

レベルの選択 - Sport モード

ESC はつねに起動しています。解除することはできません。



しかし、運転者が **Sport** モードを選択すると、よりアクティブな運転が可能になります。

Sport モードでは、システムがアクセルペダルやステアリングホイールの動き、さらにコー

ナリングをモニターし、通常よりもアクティブに運転しているとシステムが判断すると、一定範囲内で後輪の意図的なスリップを許容します。スリップが一定レベルを超えると、システムが介入し、車両を安定させます。

例えば、運転者がアクセルペダルから足を放して、意図的なスリップを止めると、ESC システムが介入して、車両を安定させます。

Sport モードでは、車両が動けなくなった場合や、砂や深い雪など滑りやすい表面を走行している際にも、最大のトラクションが得られるようになります。

以下のように、**Sport** モードを選択します：

Sport モードはメニューシステム MY CAR で選択されます。メニューシステムの詳細については、MY CAR (p. 147) を参照してください。



Sport モードは、このシンボルがコンパインド・メーター・パネル内に点灯することで表示されます。この表示は、運転者が機能の選択を解除するまで、またはエンジンを停止するまで続きます。次のエンジン始動後には、ESC システムは通常モードに戻ります。

関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール (ESC) - 概要 (p. 224)
- Electronic stability control (ESC) - シンボルおよびメッセージ (p. 227)
- MY CAR (p. 147)

Electronic stability control (ESC) – シンボルおよびメッセージ

一覧表

シンボル	メッセージ	意味
	ESC 一時 OFF	ブレーキディスクが高温になり過ぎて、ESC システムが一時的に制限されたことを示します。ブレーキ温度が正常に戻ると、機能は自動的に作動状態に戻ります。
	ESC サービスが必要です	ESC システムが解除されています。 - 安全な場所に停車して、エンジンを一度停止し、その後再始動してください。 - メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
 および 	メッセージ	コンパインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示されます。ご確認ください。
	2 秒間点灯します。	エンジン始動時のシステムチェックを行っています。
	点滅状態	ESC システムが起動中です。
	点灯状態	Sport モードが起動されました。 注意： このモードの場合、ESC システムは解除されていません。一部制限されているだけです。

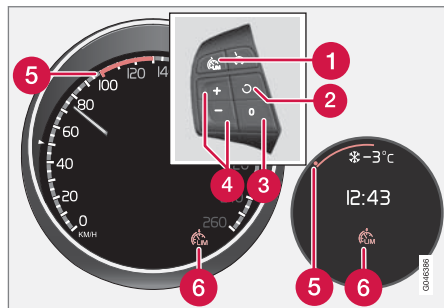


関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 224)
- Electronic stability control(ESC) - 作動 (p. 226)

速度リミッター*

速度リミッター (Speed Limiter) は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。



ステアリングホイールのステアリングリモコンおよびコンパインド・メーター・パネル (デジタルおよびアナログ)

- ① 速度リミッター - ON/OFF
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 作動および上限速度調整

⑤ 選択した速度

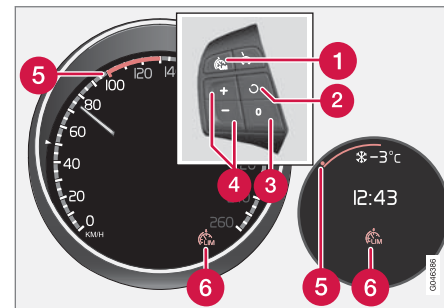
⑥ 速度リミッターがアクティブ

関連情報

- 速度リミッター* - 開始する (p. 229)
- 速度リミッター - 一時解除およびスタンバイモード* (p. 231)
- 速度リミッター* - 速度超過時のアラーム (p. 232)
- 速度リミッター* - 解除 (p. 232)

速度リミッター* - 開始する

速度リミッター (Speed Limiter) は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。



ステアリングホイールのステアリングリモコンおよびコンパインド・メーター・パネル (デジタルおよびアナログ)

- ① 速度リミッター - ON /OFF
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 起動して上限速度を調整

◀ ⑤ 選択した速度

⑥ 速度リミッターがアクティブ

オンにして起動する

速度リミッターが作動している場合、コンパインド・メーター・パネルにそのシンボル(6)と設定上限速度の横にマーク(5)が表示されます。

最高速度を選択し、メモリーに保存する作業は、走行中でも、静止している際にも実施できます。

走行中

1. ステアリングホイールの  ボタンを押して、速度リミッターをオンにします。
 > コンパインド・メーター・パネルに速度リミッターのシンボル(6)が点灯します。
2. 車両が設定したい上限速度で走行している間に、コンパインド・メーター・パネルの望ましい最高速度付近にマーク(5)が表示するまで、ステアリングホイール上の  または  ボタンを押します。
 > 速度リミッターがアクティブになり、設定した上限速度がメモリーに記録されます。

静止時

1. ステアリングホイールの  ボタンを押して、速度リミッターをオンにします。

2. コンパインド・メーター・パネルで設定したい上限速度の横にマーク(5)が表示されるまで、 ボタンでスクロールします。

> 速度リミッターがアクティブになり、設定した上限速度がメモリーに記録されます。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 229)

速度リミッター* – 速度変更

設定されている速度の変更

設定した上限速度は、ステアリングホイールのボタン  または  を軽く押すか長押しすると変更できます。

+/- 5 km/h (+/- 5 mph)ずつ調整するには：

- 短く押すたびに+/- 5 km/h (+/- 5 mph)ずつ変化します。

+/- 1 km/h (+/- 1 mph)ずつ調整するには：

- ボタンを押したままにし、設定したい上限速度に達したら指を放します。

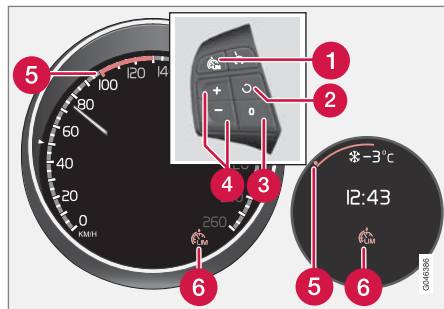
最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 229)

速度リミッター – 一時解除およびスタンバイモード*

速度リミッター (Speed Limiter) は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。



ステアリングホイールのステアリングリモコンおよびメーター・パネル (デジタルおよびアナログ)

- ① 速度リミッター – ON /OFF
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 起動して上限速度を調整

⑤ 選択した速度

⑥ 速度リミッターがアクティブ

一時解除 – スタンバイモード

一時的に速度リミッターを解除し、スタンバイモードにするには：

– ① 0 を押します。

＞ コンパインド・メーター・パネル内のマーク (5) の色が緑色から白色 (デジタル) または白色から灰色 (アナログ) に変わり、運転者は一時的に設定した上限速度を上回ることができます。

② を 1 回押すと速度リミッターが再起動します。マーク (5) の色が白色から緑色 (デジタル) または灰色から白色 (アナログ) に変わり、車両の上限速度がまた制限されるようになります。

アクセルペダルによる一時解除

速度リミッターはアクセルペダルによってもスタンバイモードにできます。すなわち急速に加速し、危険な状況から脱出できます。

– アクセルペダルを奥まで踏み込みます。

＞ コンパインド・メーター・パネルには設定した上限速度が色付きのマーク (5) で表示され、運転者は設定上限速度を一時的に上回ることができます。マーク (5) はこの間、緑から白 (デジタル) または白から灰色 (アナログ) に変わります。

速度リミッターは、アクセルペダルを解放すると自動的に再起動し、車速が選択/設定した上限速度まで減少して、マーク (5) は白から緑 (デジタル) または灰色から白 (アナログ) に変わり、車両の上限速度がまた制限されるようになります。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 229)

速度リミッター* - 速度超過時のアラーム

速度リミッター (Speed Limiter) は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。

急なこう配では、速度リミッターのエンジンブレーキだけでは不十分で、選択した上限速度を超過する場合があります。こうした状態では、警告音が鳴り、運転者に注意を喚起します。この信号は、運転者が減速し、設定した上限速度以下となるまで鳴りつづけます。

① 注意

アラームは、直前の 30 秒間に  または  のいずれかのボタンも押されず、速度が 3 km/h (約 2 mph) 以上超過したまま 5 秒経過した場合にのみ発せられます。

関連情報

- 速度リミッター* (p. 229)

速度リミッター* - 解除

速度リミッター (Speed Limiter) は、クルーズコントロールが逆になったものとみなすことができます。運転者がアクセルペダルで速度を調節しますが、速度リミッターにより、事前に選択/設定した速度を不用意に上回ることがないようにします。

速度リミッターを解除するには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。
 - > コンパインド・メーター・パネルの (p. 229) 速度リミッターのシンボルと設定速度のマークが消えます。設定し、保存した速度はメモリーから消去されるため、 ボタンを押しても再開できません。
- 運転者はアクセルペダルを使用して、制限なく速度を選択できるようになります。

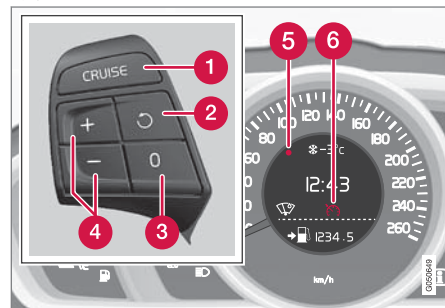
関連情報

- 速度リミッター* (p. 229)

クルーズコントロール*

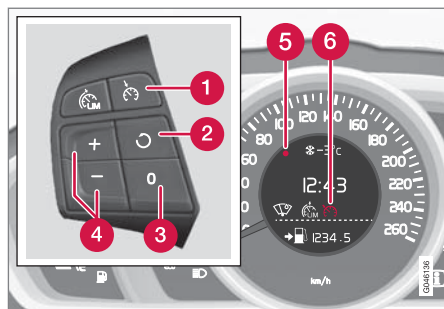
クルーズコントロール (CC - Cruise Control) は、運転者が一定の速度を維持するのをサポートします。このため、車の流れが一定な高速道路やまっすぐな道が長く続くときに、よりリラックスした運転が楽しめます。

概要



速度リミッター 非装備²の車両のステアリングリモコンとコンパインド・メーター・パネル

² 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。



速度リミッター **装備**²の車両のステアリングリモコンとコンパインド・メーター・パネル

- 1 クルーズコントロール - オン/オフ
- 2 スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- 3 スタンバイモード
- 4 作動および速度調整
- 5 設定速度 (グレー表示 = スタンバイモード)
- 6 クルーズコントロールアクティブ - シンボルが白く点灯 (グレー表示 = スタンバイモード)

⚠ 警告

交通状況によく注意をはらい、クルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車を制御してください。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

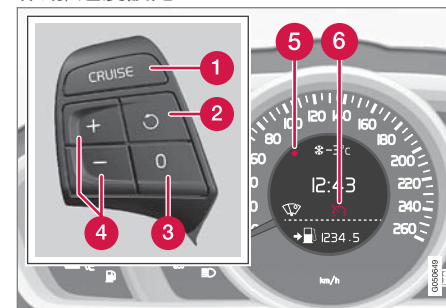
関連情報

- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 233)
- クルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 235)
- クルーズコントロール* - 設定速度の再開 (p. 236)
- クルーズコントロール* - 解除 (p. 237)
- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)

クルーズコントロール* - 速度の管理

作動、速度の設定または設定速度の変更が可能です。

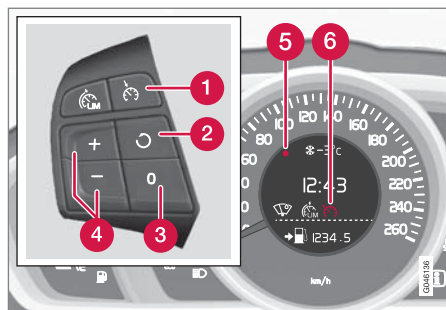
作動/速度設定



速度リミッター **非装備**³の車両のステアリングリモコンとディスプレイ

² 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

³ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。



速度リミッター³の車両のステアリングリモコンとディスプレイ

クルーズコントロールの起動：

- ステアリングリモコンの **CRUISE** (速度リミッター³非³装備) ボタンまたは  (速度リミッター³装備) を押します。
- コンパインド・メーター・パネルのクルーズコントロールシンボル(6)が点灯します。クルーズコントロールはスタンバイモードです。

クルーズコントロールを作動させるには：

- 設定したい車速に達したらステアリングリモコンの  または  ボタンを押します。
- その時点の速度がメモリーに記憶され、コンパインド・メーター・パネルのマーク (5) が

選択速度で点灯し、シンボル(6)が灰色から白に変わります。車両は記憶された速度になります。

① 注意

クルーズコントロールは、車速が 30 km/h (20 mph) 未満のときは使用できません。

設定されている速度の変更

設定されている速度は、ステアリングリモコンの  または  ボタンを軽く押すか長押しすると変更できます。

+/- 5 km/h (+/- 5 mph) ずつ調整するには：

- 短く押すたびに +/- 5 km/h (+/- 5 mph) ずつ変化します。

+/- 1 km/h (+/- 1 mph) ずつ調整するには：

- ボタンを押したままにし、設定したい速度に達したら指を離します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

 /  ボタンを押す前にアクセルペダルによって車速が上昇した場合、記憶されるのは、ボタンが押された時点での車速です。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、クルーズコントロールの

設定には影響しません。アクセルペダルを放すと、車速はクルーズコントロールでセットした速度に戻ります。

① 注意

クルーズコントロール用のボタンのいずれかを数分間押したままにすると、クルーズコントロールがブロックされ無効になります。クルーズコントロールを再起動するには、一旦停車し、エンジンを再始動する必要があります。

関連情報

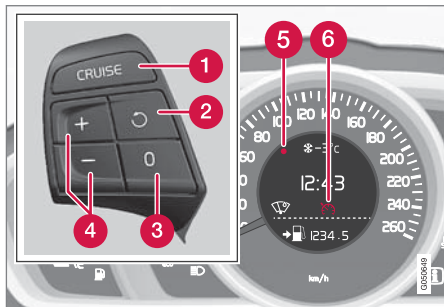
- クルーズコントロール* (p. 232)

³ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

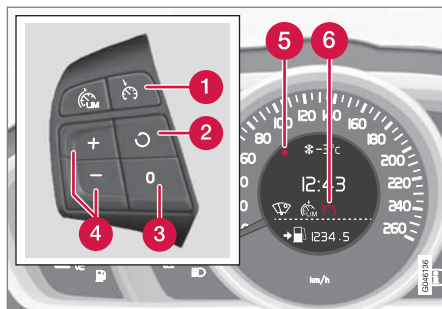
クルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード

この機能は一時的に解除し、スタンバイモードにすることができます。

一時的解除 - スタンバイモード



速度リミッター**非**装備⁴の車両のステアリングリモコンとインフォメーション・ディスプレイ



速度リミッター**装**備⁴の車両のステアリングリモコンとインフォメーション・ディスプレイ

一時的にクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- **[0]** を押します。
- ＞ コンパインド・メーター・パネルのマーク (5) およびシンボル (6) の色が白からグレーに変わり、クルーズコントロールは一時的に解除されます。

運転者の介入によるスタンバイモード

次のような場合には、クルーズコントロールが一時的に解除され、自動的にスタンバイモードになります：

- フットブレーキが使用された
- クラッチペダルが 1 分以上踏み込まれたままになった⁵
- セレクターレバーを **N** 位置にした
- 運転者が、設定されている速度よりも速い速度を 1 分以上維持した

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

自動スタンバイモード

次のような場合には、クルーズコントロールが一時的に解除され、スタンバイモードになります：

- タイヤのグリップ力が失われたとき
- エンジン回転数が低い、または高過ぎるとき
- 車速が 30 km/h (20 mph) を下回ったとき

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

⁴ 各市場に適用される最新情報は、ボルボ・ディーラーにお問い合わせください。

⁵ いったんクラッチを切って、別のギヤにシフトする場合には、スタンバイモードになりません。

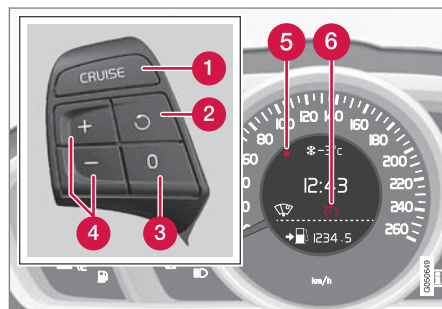
◀ 関連情報

- クルーズコントロール* (p. 232)
- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 233)
- クルーズコントロール* - 設定速度の再開 (p. 236)
- クルーズコントロール* - 解除 (p. 237)

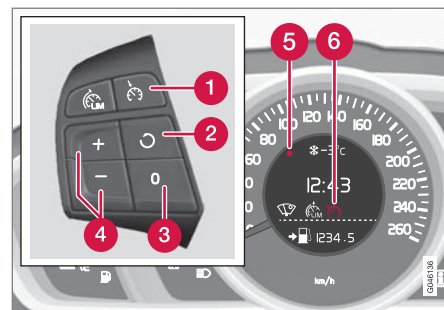
クルーズコントロール* - 設定速度の再開

クルーズコントロール (p. 232) (CC - Cruise Control) は一定速度を維持した走行をサポートします。

一時的解除およびスタンバイモード (p. 235) の後に、設定速度を再開することが可能です。



速度リミッター**非**装備⁶の車両のステアリングリモコンとインフォメーション・ディスプレイ



速度リミッター**装**備⁶の車両のステアリングリモコンとインフォメーション・ディスプレイ

クルーズコントロールをスタンバイモードから再開するには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。
- コンバインド・メーター・パネルのマーク (5) およびシンボル (6) の色がグレーから白に変わり、車両は最後に記憶された速度になります。

注意

 を選択して再開すると、急加速する場合があります。

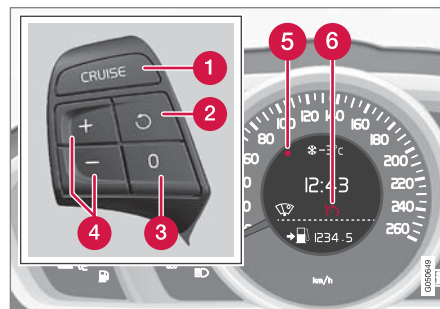
⁶ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

関連情報

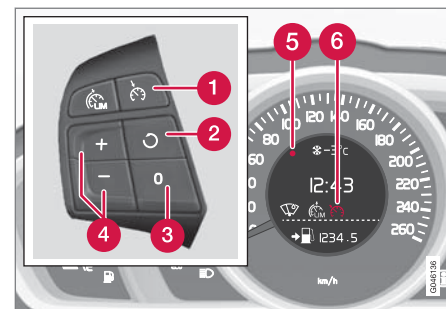
- クルーズコントロール* (p. 232)
- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 233)
- クルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 235)
- クルーズコントロール* - 解除 (p. 237)

クルーズコントロール* - 解除

ここでは解除方法が説明されています。



速度リミッター**非装備**⁷の車両のステアリングリモコンとインフォメーション・ディスプレイ



速度リミッター**装備**⁷の車両のステアリングリモコンとインフォメーション・ディスプレイ

クルーズコントロールは、ステアリングホイールボタン(1)を押すか、エンジンを停止するとオフになります。記憶されている速度はメモリーから消去され、 ボタンを押しても再開できません。

関連情報

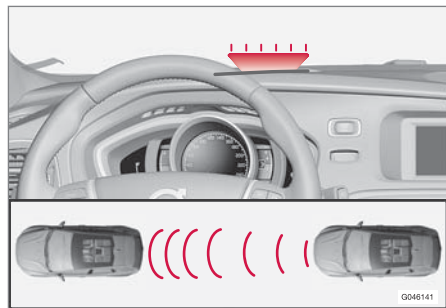
- クルーズコントロール* (p. 232)
- クルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 233)
- クルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 235)
- クルーズコントロール* - 設定速度の再開 (p. 236)

⁷ 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

車間警告機能*

車間警告機能 (Distance Alert) は、先行車との車間時間が短くなりすぎた場合に運転者に警告するシステムです。

車間警告機能は、車速が 30 km/h (20 mph) 以上で作動し、同じ方向に走行している前方車両のみに反応します。対向車、低速で走行している車両、または停止している車両に対して、車間情報は表示しません。



オレンジ色警告灯⁸

前方を走行している車両との間隔が、設定車間時間を下回ると、ウインドスクリーンのオレンジ色の警告灯が点灯したままとなります。

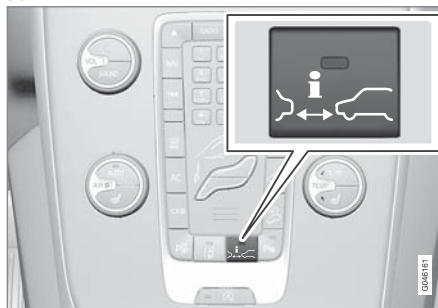
注意

アダプティブクルーズコントロール作動中は、車間警告機能は解除されます。

警告

車間警告機能は、前方の車両との距離が、プリセットされた値より短くなったときのみ反応します。自車の車速とは関係しません。

操作

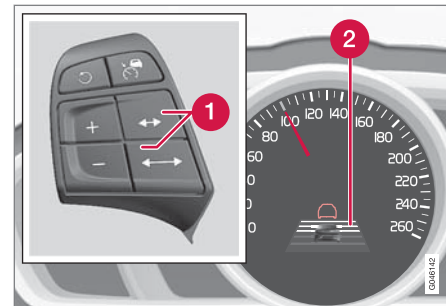


センターコンソールのボタンを押して、システムをオン/オフします。ボタンの LED が点灯しているとき、システムは作動しています。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにボタンを配置するスペースが

ない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム MY CAR (p. 147) で制御します。メニューシステムでは、距離警告 機能を検索してください。

車間時間の設定



車間時間のコントロールおよびシンボル

- ① 車間時間 - 増加/減少
- ② 車間時間 - 0n

⁸ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。



先行車両との車間時間は増減させることができ、1～5本の横線によってコンパインド・メーター・パネルに表示することができます。線の数が多いほど、車間時間が長くなります。

横線が1本であれば、前方の車両まで約1秒であることを示し、横線が5本あれば、約3秒であることを示します。

アダプティブクルーズコントロール(p. 241)作動中も、同じシンボルが表示されます。

① 注意

車速が高くなるほど、一定車間時間に相当する計算上の距離(単位:メートル)が長くなります。

設定された車間時間は、アダプティブクルーズコントロール(p. 242)機能も使用します。

各地の交通法規で許可されている車間時間のみを使用してください。

関連情報

- 車間警告機能* - 作動限界 (p. 239)
- 車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ (p. 240)

車間警告機能* - 作動限界

この機能は、アダプティブクルーズコントロール(p. 241)およびオートブレーキ機能付衝突警告システム(p. 268)と同じセンサーを使用します。機能には限界があります。

① 注意

陽射しが強いつきや光の反射があるとき、光の明暗が著しく変わるとき、あるいは運転者がサングラスを着用しているときは、ウィンドスクリーンの警告灯が見えにくい場合がありますのでご注意ください。

悪天候下での走行時や曲がりくねった道路では、前方を走行している車両を検知するレーダーセンサーの性能が低下します。

また、レーダーセンサーの感知能力は、車両の大きさ(オートバイなど)にも左右されます。場合によっては設定よりも短い車間距離で警告灯が点灯したり、警告灯が全く点灯しなかったりすることがあります。

極端に高速で走行すると、センサー視野の限界により、設定より短い距離で警告灯が点灯する場合があります。

レーダーセンサーの作動限界についての詳細は、レーダーセンサー - 作動限界 (p. 255)および衝突警告システム* - 操作 (p. 272)を参照してください。

関連情報

- 車間警告機能* (p. 238)
- 車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ (p. 240)

車間警告機能* - シンボルおよびメッセージ

この機能が制限 (p. 239) されている場合には、シンボルとメッセージがコンパインド・メーター・パネルに表示されます。

シンボル ^A	メッセージ	意味
	レーダーが遮られています マニュアル参照	車間警告機能が一時的に解除されています。 雨が激しく降っている場合や、泥などがレーダーセンサーの前にたまると、レーダーセンサー (p. 255) が遮られ他の車両を感知することができません。 詳しくは、レーダーセンサー - 作動限界 (p. 255) を参照してください。
 	衝突警告システム サービスが必要です	車間警告機能およびオートブレーキ機能付衝突警告システム (p. 273) が、完全に、または部分的に解除されています。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です。

アダプティブクルーズコントロール (ACC)*

アダプティブクルーズコントロール (ACC - Adaptive Cruise Control) は、運転者が一定の速度を維持し、前方を走行している車両との車間時間をあらかじめ選択した時間に維持するのに役立ちます。

アダプティブクルーズコントロールは、交通量が安定した高速道路や長い直線の幹線道路を長時間走行する際に、よりリラックスした走行を可能にします。

希望の速度 (p. 245) と車間時間を設定することができます。レーダーセンサーが、前方に自車よりも低速で走行する車両を検知すると、自車の車速を自動的にその車両に合わせます。前方の車両がいなくなると、車両は選択されていた速度に戻ります。

アダプティブクルーズコントロールが解除されている、またはスタンバイモードのときに、前方の車両に異常に接近すると、代わりに 車間警告機能 (p. 238) が車間距離が短いことを警告します。

⚠ 警告

交通状況によく注意をはらい、アダプティブクルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車両を制御してください。

アダプティブクルーズコントロールは、運転状況、交通、天候、路面の状態などにより使用できない場合があります。

オーナーズマニュアル内のアダプティブクルーズコントロールに関するセクションすべてに目を通してください。この機能を使用するにあたって注意すべき作動限界が記載されています。

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときでも、車間距離や速度を正しく維持する責任は運転者にあります。

❗ 重要

アダプティブクルーズコントロール・コンポーネントのメンテナンスは、必ずボルが指定のサービス工場でのみ行ってください。

オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション車には、アダプティブクルーズコントロールに拡張機能の渋滞アシスタント (p. 249) が追加されています。

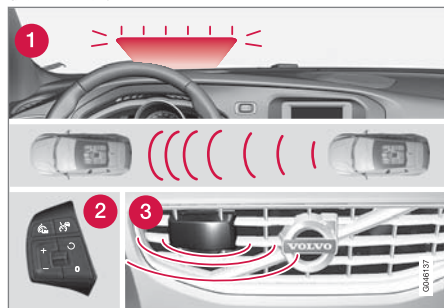
関連情報

- アダプティブクルーズコントロール* - 機能 (p. 242)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 245)
- アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定 (p. 246)
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 246)
- アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し (p. 248)
- アダプティブクルーズコントロール* - 解除 (p. 248)
- アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント (p. 249)
- アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える (p. 251)
- レーダーセンサー (p. 255)
- レーダーセンサー - 作動限界 (p. 255)
- アダプティブクルーズコントロール* - 故障点検および対処 (p. 252)
- アダプティブクルーズコントロール* - シンボルおよびメッセージ (p. 253)

アダプティブクルーズコントロール* ー 機能

アダプティブクルーズコントロールは、クルーズコントロールシステムおよび車間距離測定システムで構成されています。

機能の概要



機能の概要⁹

- ① 運転者にブレーキ操作を促す警告灯
- ② ステアリングホイール(p. 121)のステアリングリモコン
- ③ レーダーセンサー(p. 255)

アダプティブクルーズコントロールは、クルーズコントロールシステムおよび車間距離測定システムで構成されています。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールは、衝突を回避するシステムではありません。システムが前方を走行する車両を検知しない場合は、運転者が車両を操作しなければなりません。

アダプティブクルーズコントロールは、人や動物には反応しません。また、自転車やオートバイなどの小型車両にも対応していません。さらに、対向車、低速で走行している車両、または静止している車両に対して、ブレーキを作動させることもありません。

アダプティブクルーズコントロールは、市街地走行中、渋滞時、ジャンクション走行時、滑りやすい路面走行時、水溜りが多い路面や雪や泥に覆われている路面走行時、激しい雨や雪の中の走行時、視界が悪いとき、曲がりくねった道路走行中などは使用しないでください。

前方を走行している車両との距離は、主にレーダーセンサーにより測定されます。クルーズコントロール機能は、アクセルおよびブレーキにより速度を制御します。アダプティブクルーズコントロールがブレーキを作動させるとき、低い音が出る場合がありますが、異常ではありません。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールがブレーキを作動させるときは、ブレーキペダルが動きます。挟まれるおそれがあるので、ブレーキペダルの下に足を置かないでください。

アダプティブクルーズコントロールは、同じ車線上を走行する前方車両との車間時間(p. 246)を設定に従って維持することを目的としています。レーダーセンサーが前方の車両を検知できない場合、車両は運転者の設定した速度を維持します。前方を走行している車両が設定速度を超えた場合にも、運転者の設定した速度を維持して走行します。

アダプティブクルーズコントロールは、速度をスムーズに制御します。急ブレーキが必要な状況では、必ずご自分でブレーキをかけてください。速度差が大きく異なる場合や、前方の車両が急ブレーキをかけた場合などです。レーダーセンサーには限界がある(p. 255)ため、不意にブレーキがかかったり、あるいはまったくブレーキがかからないことがあります。

アダプティブクルーズコントロールを起動すると、車速が30 km/h¹⁰ (20 mph)から200 km/h (125 mph)までの別の車両に追従して走行できるようになります。車速が30 km/h (20 mph)未満になった場合や、エンジン回転数が低くなり

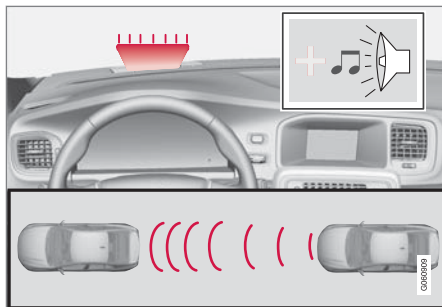
⁹ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

¹⁰ オートマチックトランスミッション車の渋滞アシスタント(p. 249)は、0~200 km/h (0~125 mph)の速度範囲で作動することができます。

すぎると、クルーズコントロールはスタンバイモードになり、オートブレーキが作動しなくなります。この場合、運転者自身で車両を制御して、前方車両との間に安全な距離を保つ必要があります。

運転者にブレーキ操作を促す警告灯

アダプティブクルーズコントロールのブレーキ能力は、車両のブレーキ能力の約 40%に相当します。



衝突の危険を知らせる警告音および警告灯¹¹

アダプティブクルーズコントロールのブレーキ能力以上のブレーキを必要とするときに、運転者がブレーキをかけない場合は、衝突警告システム (p. 268) の警告灯と警告音が作動して、ただちに運転者の介入が必要なことを警告します。

① 注意

陽射しが強いときや、運転者がサングラスを着用しているときは、警告灯が見えにくい場合があります。ご注意ください。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールは、レーダーセンサーが感知した車両に対してのみ警告を発します。したがって、警告が発動しない場合や、遅れて発動する場合があります。警告が出なくても、必要に応じてブレーキをかけてください。

急な坂道や重い荷物を積載しての走行

アダプティブクルーズコントロールは主に、平坦な路面走行時用に設計されています。重い荷物を積載したり、トレーラーをけん引しながら急な下り坂を走行する場合には、前方の車両と適切な距離を保つことがむずかしい場合があります。このような場合には、特に注意をはらい、いつでも減速できるようにしてください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

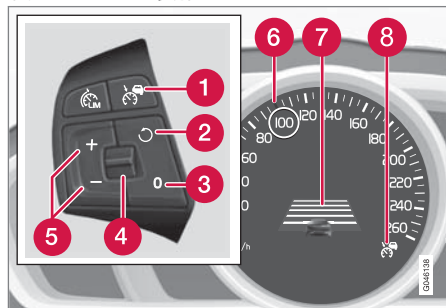
アダプティブクルーズコントロール* - 概要

アダプティブクルーズコントロール (p. 241)
とステアリングホイールのステアリングリモ

¹¹ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

- ◀ コンの操作は、速度リミッター (p. 229)¹² の有無によって異なります。

アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター装備

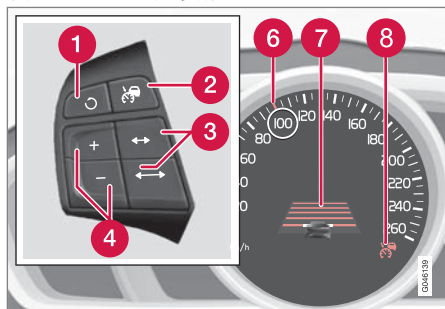


- ① クルーズコントロール - オン/オフ
- ② スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ③ スタンバイモード
- ④ 車間時間 - 増加/減少
- ⑤ 作動および速度調整
- ⑥ 記録されている速度の緑色のシンボル(白色 = スタンバイモード)

⑦ 車間時間

- ⑧ シンボルが緑色であれば ACC が作動しています(白色 = スタンバイモード)

アダプティブクルーズコントロール、速度リミッター非装備



- ① スタンバイモードが終了し、設定された速度に戻ります。
- ② クルーズコントロール - オン/オフまたはスタンバイモード
- ③ 車間時間 - 増加/減少
- ④ 作動および速度調整
- ⑤ (未使用)
- ⑥ 記録されている速度の緑色のシンボル(白色 = スタンバイモード)

⑦ 車間時間

- ⑧ シンボルが緑色であれば ACC が作動しています(白色 = スタンバイモード)

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理 (p. 245)
- アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定 (p. 246)
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 246)
- クルーズコントロール* (p. 232)

¹² 各市場に適用される最新情報は、ボルボディーラーにお問い合わせください。

アダプティブクルーズコントロール* - 速度の管理

ACC の起動：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。コンパインド・メーター・パネルに同様のシンボル(8)が白く点灯し、アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモード(p. 246)になっていることがわかります。

ACC を作動させるには：

- 設定したい車速に達したらステアリングホイールのボタン  または  を押します。
- 現在の速度がメモリーに記憶され、コンパインド・メーター・パネル上の記憶された速度の周りに「拡大鏡」(6)が数秒間表示されます。シンボルは白から緑に変わります。



このシンボルが白から緑に変わると、ACC がアクティブになり、車両は記憶された速度を維持します。



シンボルに別車両の画像が表示されている場合にのみ、先行車との車間距離が ACC により制御されます。



同時に速度範囲がマークされます：

- 緑のシンボルがついた高い速度があらかじめプログラミングされている速度です
- 低い方の速度が先行車両の速度です。

設定されている速度の変更

設定されている速度は、ステアリングホイールのボタン  または  を軽く押すか長押しすると変更できます。

+/- 5 km/h (+/- 5 mph) 調整するには：

- 短く押すと、押すたびに +/- 5 km/h (+/- 5 mph) ずつ変化します。

+/- 1 km/h (+/- 1 mph) 調整するには：

- ボタンを押したままにし、設定したい速度に達したら手を放します。

最後に押したときの速度がメモリーに記憶されます。

 ボタンを押す前にアクセルペダルによって車速が上昇した場合、記憶されるのは、ボタンが押された時点での車速です。

追いつきのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。

アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

注意

アダプティブクルーズコントロール用のボタンのいずれかを数分間押したままにすると、アダプティブクルーズコントロールがブロックされ無効になります。アダプティブクルーズコントロールを再起動するには、一度停車し、エンジンを再始動することが必要です。

状況によっては再起動できないことがあります。その場合、コンパインド・メーター・パネル(p. 253)に **アダプティブクルーズ コントロール は 利用できません** と表示されます。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

アダプティブクルーズコントロール* - 車間時間設定



先行車両との車間時間は増減させることができ、1～5本の横線によってコンパインド・メーター・パネルに表示することができます。線の数が多いほど、車間時間が長くなります。

横線が1本であれば、前方の車両まで約1秒であることを示し、横線が5本あれば、約3秒であることを示します。

車間時間を設定/変更するには：

- ステアリングホイールにあるステアリングリモコンのコントロールダイヤルを回します(または、速度リミッター非装備の車両では  ボタンを使用します)。

低速走行時、車間距離が短いときは、アダプティブクルーズコントロールが車間時間を若干増やします。

前方を走行している車両の後をスムーズかつ快適に走行できるように、状況によりアダプティブクルーズコントロールが、車間時間を大幅に変更する場合があります。

車間時間が短いと、走行中に万が一不測の事態が発生した場合、運転者が回避操作を行う反応時間が短くなることに注意してください。

車間警告機能 (p. 238) の作動中も同じシンボルが表示されます。

① 注意

各地の交通法規で許可されている車間時間のみを使用してください。

アダプティブクルーズコントロールを作動させても、反応しないように感じられる場合には、前方の車両との車間時間によって、車両の加速が妨げられていることが原因かもしれません。

車速が高くなるほど、一定車間時間に相当する計算上の距離(単位:メートル)が長くなります。

詳しくは、速度の管理 (p. 245) を確認してください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは一時的に解除し、スタンバイモードにすることができます。

一時的解除/スタンバイモード、速度リミッター装備

一時的にアダプティブクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。



このシンボルと保存されている速度のシンボルが緑から白に変わります。

一時的解除/スタンバイモード、速度リミッター非装備

一時的にアダプティブクルーズコントロールを解除し、スタンバイモードにするには：

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。

運転者の介入によるスタンバイモード

次のような場合には、アダプティブクルーズコントロールが一時的に解除され、自動的にスタンバイモードになります：

- フットブレーキが使用された
- クラッチペダルが 1 分以上踏み込まれたままになった¹³
- ギヤセレクターレバーが **N** 位置に動かされた(オートマチックトランスミッション)
- 運転者が、設定されている速度よりも速い速度を 1 分間以上維持した

このような場合、運転者は車速をご自分で制御しなければなりません。

追い越しのときなど、アクセルペダルを踏んで一時的に加速しても、設定には影響しません。アクセルペダルを離すと、車速はクルーズコントロールで設定した速度に戻ります。

詳しくは、速度の管理(p. 245)および追い越し(p. 248)のセクションを参照してください。

自動スタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールは、他のシステム(スタビリティ・システム ESC(p. 224)など)に依存します。これらのシステムのいずれかが作動を停止した場合、アダプティブクルーズコントロールは自動的に解除されます。

クルーズコントロールが自動的に解除されると、警告音が鳴り、コンパインド・メーター・パネルに **アダプティブクルーズ コントロールはキャンセルされました** メッセージが表示されます。運転者は

ただちに必要な運転操作を行い、前方を走行する車両との車間距離を維持してください。

次のようなときに、自動的に解除されます：

- 運転者がドアを開けたとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- エンジン回転数が低い、または高過ぎるとき
- 車速が約 30 km/h¹⁴ (20 mph)を下回ったとき
- タイヤのグリップ力が失われたとき
- ブレーキ温度が高温になったとき
- レーダーセンサーが雪や激しい雨などでブロックされているとき(レーダー波が遮られているとき)

シンボル、メッセージ、その意味についての詳細は、ディスプレイのシンボルおよびメッセージ(p. 253)のセクションを参照してください。

セットした速度に戻る

アダプティブクルーズコントロールがスタンバイモードであれば、ステアリングホイールの  ボタンを軽く押すと、クルーズコントロールが再開されます。車速は、メモリーに記録されている速度に設定されます。

① 注意

 を選択して再開すると、急加速する場合があります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

¹³ いったんクラッチを切って、別のギヤにシフトする場合には、スタンバイモードになりません。

¹⁴ 渋滞アシスタント装備車には適用されません。静止するまで作動します。

アダプティブクルーズコントロール* - 追い越し

ACCは追い越し時にも役立ちます。

車両が先行車の後を追っているときに運転者が方向指示器¹⁵を出して追い越しの意図を示すと、アダプティブクルーズコントロールは先行車両の方向への加速を補助します。

この機能は、車速が70 km/h (43 mph)を超えているときに作動します。

詳しくは、前方車両との車間時間 (p. 246)を確認してください。

詳しくは、速度の管理 (p. 245)を確認してください。

警告

状況により、警告距離を設定していても、警告が出るタイミングが遅いと感じる場合があります。(例えば、前方を走行している車両と自車の速度差が大きいときや、前方の車両が急ブレーキをかけたときなど。)

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)

- クルーズコントロール* (p. 232)

アダプティブクルーズコントロール* - 解除

速度リミッター装備のステアリングリモコン

アダプティブクルーズコントロールはステアリングホイールの  ボタンを軽く押すと解除されます。設定速度が消去され、 ボタンを押しても再開できなくなります。

速度リミッター非装備のステアリングリモコン

ステアリングホイールの  ボタンを軽く押すと、アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモードになります。もう一度短く押すと、解除されます。設定速度が消去され、 ボタンを押しても再開できなくなります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

¹⁵ 左ハンドル車では左側の、右ハンドル車では右側の方向指示器のみです。

アダプティブクルーズコントロール* - 渋滞アシスタント

車速が 30 km/h (20 mph) 未満の場合はアダプティブクルーズコントロールの拡張機能の渋滞アシスタントも機能します。

オートマチックトランスミッション車のアダプティブクルーズコントロールには、渋滞アシスタント(“Queue Assist”と呼ばれる場合もあります)が装備されています。

渋滞アシスタントには、次のような機能があります：

- 拡張速度範囲 - 30 km/h (20 mph) 未満および静止時
- 追従対象車両の変更
- 静止時にはオートブレーキは停止

アダプティブクルーズコントロールで設定できる最低速度は 30 km/h (20 mph) です。静止するまで先行車の追従が可能でも、設定可能な最低速度を下回る速度を選択することは**できません**。

詳しくは、速度の管理(p. 241)および前方車両との車間時間(p. 246)を参照してください。

対応速度範囲の拡張

① 注意

運転席ドアを閉め、運転者がシートベルトを着用するまで、クルーズコントロールは起動できません。

オートマチックトランスミッション車では、アダプティブクルーズコントロールは 0~200 km/h (0~125 mph) の速度範囲で先行車の追従が可能です。

① 注意

適切な距離で先行する車両がないと、クルーズコントロールを 30 km/h (20 mph) 未満で起動することはできません。

渋滞時や赤信号など、停止する時間が約 3 秒以内であれば、自動的に走行が再開します。前方車両が動き出すまでにそれ以上の時間がかかる場合には、クルーズコントロールはオートブレーキによりスタンバイモード(p. 246)になります。運転者は以下の方法のいずれかでクルーズコントロールを再開する必要があります。

- ステアリングホイールの  ボタンを押します。
- アクセルペダルを踏み込みます。

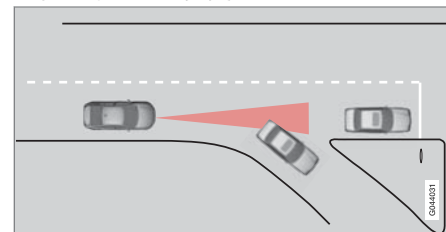
＞ これにより、クルーズコントロールによる前方の車両の追従が再開されます。

① 注意

渋滞アシスタント機能は、最大 4 分間車両を静止させておくことができます。それ以上経過すると、ブレーキが解除されます。

詳しくは、「静止時のオートブレーキの終了」の項を参照してください。

追従対象車両の変更



追従対象となっている先行車両が突然曲がった場合、前方の車両が停止していることに突然気づく場合があります。

アダプティブクルーズコントロールにより、30 km/h (20 mph) **未満** の速度で別の車両に追従している際に、目標車両が走行車両から静止車両に変わった場合、クルーズコントロールは静止車両に合わせてブレーキをかけます。



⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールにより、30 km/h (20 mph)を**超える**速度で先行車両に追従している際に、目標車両が先行車両から静止車両に変わった場合には、アダプティブクルーズコントロールは静止している車両を無視して、セットされている速度を維持します。

- 運転者は注意を怠らず、必要に応じてブレーキをかけてください。

追従対象車両の変更による自動スタンバイモード

アダプティブクルーズコントロールが解除され、スタンバイモードになります：

- 速度が 5 km/h (5 mph)未満で、クルーズコントロールが、追従対象が静止車両なのか別の障害物(減速帯など)なのかを判断できない場合。
- 速度が 5 km/h (5 mph)未満で、先行車が曲がったためクルーズコントロールが追従する車両がなくなった場合。

静止時のオートブレーキの終了

次のような状況では、渋滞アシスタントは静止時のオートブレーキを停止します。

- 運転者がドアを開けたとき
- 運転者がシートベルトを外したとき

このため、ブレーキが解除され、車両が動き出す場合があります。運転者はご自分でブレーキをかけ、適切な位置を保ってください。

⚠ 重要

渋滞アシスタントは最大 4 分間車両を静止させておくことができます。それ以上経過すると、ブレーキが解除されます。

何段階かの段階を追って運転者に注意が促されます。注意を促す信号は回を重ねるごとに強くなります。

1. ビーンという可聴アラームとディスプレイテキスト
2. コンパインド・メーター・パネル内の警告灯も点滅し始めます。
3. 断続的な強いブレーキがかかります。

シンボル、メッセージ、その意味についての詳細は、シンボルおよびディスプレイテキスト (p. 253)のセクションを参照してください。

このような状態においても、渋滞アシスタントがフットブレーキを解除し、スタンバイモードになります：

- 運転者がブレーキペダルに足を載せたとき
- ギヤセクターレバーが **P**、**N** または **R** 位置になったとき

- 運転者がクルーズコントロールをスタンバイモードにしたとき
- パーキングブレーキを作動したとき

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

アダプティブクルーズコントロール* - クルーズコントロール機能に切り替える

ACC から CC への切り替え

アクティブなクルーズコントロールのシンボルはコンパインド・メーター・パネルに表示されます。

CC Cruise Control	ACC Adaptive Cruise Control
	
クルーズコントロール	アダプティブクルーズコントロール

ボタンを 1 回押すとアダプティブクルーズコントロール (p. 241) のアダプティブな部分 (車間距離を保つシステム) が解除されます。この場合、車両は設定/記憶された速度を維持します。

- ステアリングホイールの  ボタンを **押しただままにすると**、コンパインド・メーター・パネルのシンボルが  から  に変わります。
- これによりクルーズコントロール(CC)が起動します。

⚠ 警告

ACC から CC に切り替えると、車両は自動的にブレーキを作動させません。設定した速度を保つだけです。

CC から ACC に戻す

 ボタンを 1~2 回押してクルーズコントロール(CC)を解除します。次回システムをオンにすると、アダプティブクルーズコントロール(ACC)が作動します。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- アダプティブクルーズコントロール* - 一時的解除およびスタンバイモード (p. 246)
- クルーズコントロール* (p. 232)

アダプティブクルーズコントロール* - 故障点検および対処

コンパインド・メーター・パネルに **レーダーが遮られています マニュアル参照** というメッセージが表示された場合、アダプティブクルーズコント

ロールのレーダーセンサー(p. 255)が前方に他の車両を検知できないことを意味しています。

このメッセージは、車間警告機能(p. 238)またはオートブレーキ機能付衝突警告システム

(p. 268)のいずれも作動していないことを示しています。

以下の表には、表示メッセージの考えられる原因と、その対処法の例が記載されています。

原因	対処
グリル内のレーダーセンサー前面が泥、氷、雪などに覆われている。	グリル内のレーダーセンサー前面の、泥、氷、雪などをきれいに取り除いてください。
激しい雨や雪で、レーダーシグナルが遮られている。	対処法なし。激しい雨や雪のときは、レーダーが機能しない場合があります。
路面から跳ね上がる水や雪により、レーダーシグナルが遮られている。	対処法なし。水たまりの多い道や雪道では、レーダーが機能しない場合があります。
レーダーセンサー前面を清掃した後もメッセージが消えない。	しばらくお待ちください。障害が解消されたことをレーダーが感知するまで、数分間かかる場合があります。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

アダプティブクルーズコントロール* - シンボルおよびメッセージ

アダプティブクルーズコントロールがシンボルとメッセージ、またはどちらか一方を表示する場合があります。例を以下に示します。必要に応じて表示される推奨事項に従ってください。

シンボル ^A	メッセージ	意味
	シンボルが白色	アダプティブクルーズコントロールはスタンバイモード (p. 246) になっています。
	シンボルが緑色	車両はセットされている速度を維持します。
		標準クルーズコントロールが手動で選択されています。
	クルーズコントロールを ON するには ESC をノーマルに設定 して下さい	アダプティブクルーズコントロールは、 ESC が通常モードに設定されるまで起動できません。スタビリティ・システム (p. 224) を参照してください。
	アダプティブクルーズコントロールはキャンセルされました	アダプティブクルーズコントロールが解除されています。運転者をご自分で車速を調節してください。
	アダプティブクルーズコントロールは 利用できません	アダプティブクルーズコントロールが作動できません。 次のような原因が考えられます： ● ブレーキ温度が高温になった ● レーダーセンサーが雪や雨などで遮られた 故障点検については、故障点検および対処 (p. 252) のセクションを参照してください。



シンボル ^A	メッセージ	意味
	レーダーが遮られて います マニュアル参照	アダプティブクルーズコントロールが一時的に解除されています。 激しい雨や泥などをレーダーセンサー前面に受けているため、レーダーセンサーが遮られ他の車両を感知することができません。 この場合、通常のクルーズコントロール(p. 232) (CC)に切り替えることができます。ディスプレイテキストにより適切な代替措置に関する情報が得られます。 詳しくは、レーダーセンサーの機能の限界(p. 255)を確認してください。
	アダプティブクルーズコントロール サービスが必要です	アダプティブクルーズコントロールが解除されています。 ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
	ブレーキを踏んで 車両を停止状態にして下さい + 可聴アラーム + コンパインド・メーター・パネル内の警告灯 + 断続的ブレーキ^B	車両が静止しており、アダプティブクルーズコントロールがフットブレーキを解除します。このため、車両が動き出すおそれがあります。 運転者をご自分でブレーキを操作することが必要です。運転者がブレーキペダルを踏むか、アクセルペダルを操作するまでメッセージが表示されたままとなり、アラーム音が鳴ります。
	30 km/h 未満 先行車両が必要ですよ^B	前方の起動距離内に車両がなく、30 km/h (20 mph) 未満で走行している際にアダプティブクルーズコントロールを起動しようとする则表示されます。

^A シンボルは概略図です。

^B 渋滞アシスタント装備車のみ。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- アダプティブクルーズコントロール* - 概要 (p. 243)
- クルーズコントロール* (p. 232)

レーダーセンサー

レーダーセンサーの役割は、同じ方向に同じ車線を走行している乗用車や大型車を感知することです。

レーダーセンサーは以下の機能に使用されません。

- 車間警告機能*
- アダプティブクルーズコントロール*
- オートブレーキ機能および歩行者検知機能付衝突警告システム*

❗ 重要

車両のグリルに目に見える損傷がある場合、もしくはレーダーセンサーへの損傷が疑われる場合には、

- ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

グリル、レーダーセンサーまたはそのブラケットが損傷を受けたり、ゆるんだりすると、この機能は全く機能しなくなるか、機能不良を起こす場合があります。

レーダーセンサーは、絶対に改造しないでください。改造して使用することは、違法行為です。

関連情報

- レーダーセンサー - 作動限界 (p. 255)
- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- 衝突警告システム* (p. 268)
- 車間警告機能* (p. 238)

レーダーセンサー - 作動限界

レーダーセンサー(p. 255)には、検知範囲などによる限界があります。

以下の場合、アダプティブクルーズコントロールの先行車検知能力が著しく低下します。

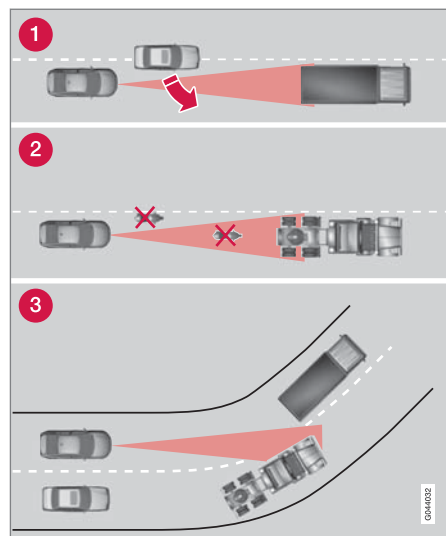
- 前方の車両の速度が自車の速度と大きく異なる。
- 激しい雨や泥、またはその他の障害物がレーダーセンサーの前方を塞いで、レーダーセンサーが遮られる。

❗ 注意

レーダーセンサーの前面は、つねにきれいにしておいてください。

検知範囲

レーダーセンサーの視界には限界があります。状況によっては別の車両を検知したり、検知が遅れたりする場合があります。



ACCの視野

- ① レーダーセンサーは、自車と前方を走行している車両との間に割り込んで来る車両など、至近距離の車両を検知するのに時間がかかります。
- ② オートバイなどの小型車や、車線の中央を走行していない車両を検知しない場合があります。
- ③ カーブで、検知していた車両とは異なる車両を検知したり、検知中の車両を見失う場合があります。

⚠ 警告

交通状況によく注意をはらい、アダプティブクルーズコントロールが車間距離や速度を正しく維持できないときは、運転者が車両を制御してください。

アダプティブクルーズコントロールは、運転状況、交通、天候、路面の状態などにより使用できない場合があります。

オーナーズマニュアル内のアダプティブクルーズコントロールに関するセクションすべてに目を通してください。この機能を使用するにあたって注意すべき作動限界が記載されています。

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときでも、車間距離や速度を正しく維持する責任は運転者にあります。

⚠ 警告

グリルの前に、補助ライトなどのアクセサリ類を絶対に取り付けけないでください。

⚠ 警告

アダプティブクルーズコントロールは、衝突を回避するシステムではありません。システムが前方を走行する車両を検知しない場合は、運転者が車両を操作しなければなりません。

アダプティブクルーズコントロールは、人や動物には反応しません。また、自転車やオートバイなどの小型車両にも対応していません。さらに、対向車、低速で走行している車両、または静止している車両に対して、ブレーキを作動させることもありません。

アダプティブクルーズコントロールは、市街地走行中、混雑した交通状況、ジャンクション走行時、滑りやすい路面走行時、水溜りが多い路面や雪や泥に覆われている路面走行時、激しい雨や雪の中の走行時、視界が悪いとき、曲がりくねった道路走行中などは使用しないでください。

関連情報

- アダプティブクルーズコントロール (ACC)* (p. 241)
- 衝突警告システム* (p. 268)
- 車間警告機能* (p. 238)

型式認定 - レーダーシステム

レーダーユニットの型式認定が次の表に記載されています。

市場	ACCA ^A	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) ^B	シンボル	型式認定
ブラジル	✓			Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito à proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Modelo: L2C0038TR 1071-10-3451 EAN: 07897843800248
		✓		Modelo: L2C0055TR 1500-15-8065 EAN: 07897843840978
ヨーロッパ	✓	✓		Hereby, Delphi Electronics & Safety declares that L2C0038TR / L2C0055TR are in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of Directive 1999/5/EC. The Declaration of Conformity may be consulted at Delphi Electronics & Safety / 2151 E. Lincoln Road / Kokomo, Indiana 46902 USA



市場	AGC ^A	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) ^B	シンボル	型式認定
アラブ首長国連邦	✓			TRA REGISTERED No: 0018923/09 DEALER No: DA37380/15
		✓		TRA REGISTERED No: ER37357/15 DEALER No: DA37380/15
インドネシア	✓			14785/POSTEL/2010 1982
		✓		38806/SDPPI/2015 4927
ヨルダン	✓			Type Approval No.: TRC/LPD/2009/87 Equipment type: Low Power Device (LPD)
		✓		Type Approval No.: TRC/LPD/2015/3 Equipment Type: Low Power Device (LPD)
韓国	✓			Certification No. DPH-L2C0038TR
		✓		Certification No. MSIP-CMI-DPH-L2C0055TR

市場	ACC ^A	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) ^B	シンボル	型式認定
モロッコ	✓			AGREE PAR L' ANRT MAROC Numero d' agreement : MR 4838 ANRT 2009 Date d' agreement : 22/05/2009
		✓		AGREE PAR L' ANRT MAROC NUMÉRO D' AGRÉMENT: MR 9929 ANRT 2014 DATE D' AGRÉMENT: 26/12/2014
シンガポール	✓	✓	Complies with IDA standards DA105753	Complies with IDA Standards DA105753
南アフリカ	✓			TA-2009/163 APPROVED
		✓		TA-2014/2390 APPROVED
台湾	✓			CCAB09LP4590T3
		✓		CCAB15LP0680T0

^A ACC = Adaptive Cruise Control

^B BLIS = Blind Spot Information

運転者サポート

◀◀ 関連情報

- レーダーセンサー (p. 255)

City Safety™

City Safety™ は、渋滞時の走行などで、前方の交通状況の変化や注意不足などによる衝突事故を回避するための補助機能です。

City Safety™ 機能は、50 km/h (30 mph)未満の速度で作動し、前方の車両と衝突する危険が差し迫っているにも関わらず、運転者がブレーキやステアリングにより早急に対応しない場合に、車両に自動的にブレーキをかけて運転者を補助します。

City Safety™ は、運転者がブレーキをかけ遅れたときに作動します。そのため、あらゆる状況で運転者の補助となるわけではありません。

不必要な介入を避けるため、City Safety™ は直前まで作動しないように設計されています。

City Safety™ が装備されているからといって、運転スタイルを変更しないでください。ブレーキの作動を City Safety™ のみに頼っていると、いずれ衝突事故が発生します。

City Safety™ が作動したことがわかるのは、通常、衝突寸前になったときのみです。

車両に オートブレーキ機能付衝突警告システム* (p. 268) が装備されている場合は、この2つのシステムは互いに補完し合います。

重要

City Safety™ コンポーネントのメンテナンスおよび交換は、ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

警告

City Safety™ は、走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

City Safety™ は、自車の進行方向と異なる方向に走行している車両、小型車両やオートバイ、人間や動物に対しては反応しません。

City Safety™ は速度差が 15 km/h (9 mph)未満のときに衝突を回避できます。速度差がこれ以上になると、衝突時の速度を減少させる効果のみとなります。最大のブレーキ力を得るには、運転者がブレーキペダルを踏むことが必要です。

必要なときは City Safety™ の作動を待たず、すみやかにブレーキをかけてください。走行中に適切な車間距離や速度を維持することは運転者の責任です。

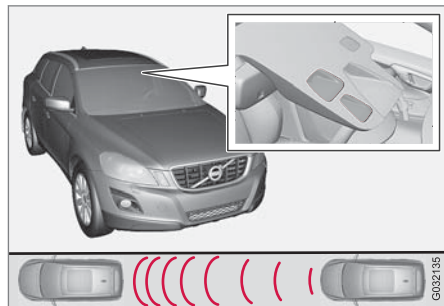
関連情報

- City Safety™ - 機能の限界 (p. 263)
- City Safety™ - 機能 (p. 262)
- City Safety™ - 操作 (p. 262)

- City Safety™ - レーザーセンサー (p. 265)
- City Safety™ - シンボルおよびメッセージ (p. 267)

City Safety™ - 機能

City Safety™ はウインドスクリーン上端に装着されたレーザーセンサー(p. 265)により、車両前方の交通を感知します。衝突の危険性が差し迫ると、City Safety™ が自動的にブレーキをかけます。これは、急ブレーキと感じられる場合があります。



レーザーセンサーの送信/受信ウィンドウ¹⁶

前方の車両との速度差が4~15 km/h (3~9 mph)であれば、City Safety™ により衝突が完全に回避できます。

City Safety™ により、短時間で鋭くブレーキがかけられ、通常の状態であれば、前方の車両のすぐ手前で車を停止させることができます。多くの運転者にとっては、これは通常の運転ス

タイルの範囲内ではないため、不快に感じられる場合があります。

速度差が15 km/h (9 mph)を超える場合、City Safety™ だけでは衝突を回避できないおそれがあります。フルブレーキをかけるためには、運転者がブレーキを踏む必要があります。フルブレーキをかけると、速度差が15 km/h (9 mph)より大きくても衝突が回避できる可能性があります。

この機能が作動してブレーキがかかると、その間、コンパインド・メーター・パネルにメッセージ(p. 267)が表示されます。

ⓘ 注意

City Safety™ によりブレーキが作動する際には、ブレーキランプが点灯します。

関連情報

- City Safety™ (p. 261)
- City Safety™ - 操作 (p. 262)
- City Safety™ - 機能の限界 (p. 263)

City Safety™ - 操作

City Safety™ は、渋滞時の走行などで、前方の交通状況の変化や注意不足などによる衝突事故を回避するための補助機能です。

オン/オフ

ⓘ 注意

City Safety™ 機能は、エンジンが始動すると自動的に作動します。

葉が茂った枝などがボンネットやウインドスクリーンにかかるようなオフロード走行時などには、City Safety™ を解除することをお薦めします。

City Safety™ はメニューシステム MY CAR (p. 147)で制御されます。エンジン始動後、この機能は以下の方法で解除することができます。

- MY CAR で **運転支援システム** を検索し、**シティーセーフティ** で OFF を選択してください。

ただし、次回エンジンを始動すると、機能は再び作動状態となります。エンジンを停止したときに機能が作動していたか解除されていたかは関係ありません。

¹⁶ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

⚠ 警告

レーザーセンサー(p. 265)は、City Safety™ を手動で解除した際も、レーザーセンサーはレーザー光線を発します。

City Safety™ を再びオンにするには：

- 解除時と同じ手順ですが、**ON** を選択します。

関連情報

- City Safety™ (p. 261)
- City Safety™ - 機能の限界 (p. 263)
- City Safety™ - シンボルおよびメッセージ (p. 267)

City Safety™ - 機能の限界

City Safety™ センサーは、昼夜を問わず前方の車両を感知するように設計されています。

ただし、機能には限界があります。

大雪や激しい降雨、濃霧、風塵、吹雪などでセンサーの機能が制限されると、City Safety™ は通常通り機能しない場合や、まったく機能しなくなる場合があります。ウインドスクリーンの曇り、汚れ、氷や雪により、機能が妨害される場合もあります。

積荷が突き出していることを示す布/テープなどの垂れ下がる物体や、補助ライトやブルバーなどボンネットより高い位置にあるアクセサリによって機能が制限されます。

City Safety™ 内のセンサーからのレーザー光線は、ライトの反射状況を測定するものです。センサーは反射作用の低い物体は検知できません。車両後部にはナンバープレートやリフレクターがあるため、通常は光を十分に反射させることができます。

路面が滑りやすいときには制動距離が長くなるため、City Safety™ が衝突を回避する能力が低下する場合があります。そのような状況では、ABS¹⁷ および ESC¹⁸ システムが、安定性を保ちながら、可能な範囲でもっとも優れた制動力を発揮します。

車両後退中は、City Safety™ は一時的に解除されます。

City Safety™ は 4 km/h (3 mph) 未満の低速では作動しません。駐車時など、非常に低速で前方の車両に接近している状況でこのシステムが作動しないのはそのためです。

運転者の操作がつねに優先されます。そのため、衝突が回避できない状態でも、運転者が明確にステアリングを操作したり、アクセルペダルを操作したりしているときには、City Safety™ は介入しません。

City Safety™ により静止している物体との衝突が回避された場合には、車両は、最大 1.5 秒間静止したままとなります。移動している前方車両のために車両にブレーキがかかった場合には、前方の車両が維持している車速と同じ速度に減速します。

マニュアルトランスミッション装備の車両では、City Safety™ により、車両が静止状態になると、事前に運転者がクラッチペダルを踏み込まない限り、エンジンが停止します。

¹⁷ (Anti-lock Braking System) - アンチロックブレーキシステム

¹⁸ (Electronic Stability Control) - スタビリティ・システム



注意

- カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。センサー位置の図については、City Safety™ - 機能 (p. 262) を参照してください。
- レーザーセンサー装着部のウインドスクリーンに、異物を貼り付けたり取り付けたらないでください。
- ボンネットから氷や雪を取り除いてください。雪や氷の高さが 5 cm を越えて超えないようにしてください。

故障点検および対処

コンバインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメッセージ (p. 267) の **ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照** が表示される場合、レーザーセンサーが遮られ前方車両を検知できないことを示しています。City Safety™ が機能していないことを表します。

レーザーセンサーが遮られている場合でも、**ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照** メッセージが表示されない場合もあります。運転者はレーザーセンサー前のエリアがつねにきれいであるように、注意してください。

以下の表は、表示するメッセージの考えられる原因と、対処方の例を示しています。

原因	対処
レーザーセンサー装着部のウインドスクリーン表面が汚れているか、氷または雪が付着している。	センサー装着部のウインドスクリーン表面の泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
レーザーセンサーの視界が妨害されている。	妨害している物体を取り除いてください。

重要

レーザーセンサーの「窓」の前面のウインドスクリーンに、ひび割れや擦り傷、飛び石による傷があり、その面積が約 0.5 x 3.0 mm (またはそれ以上) の場合はウインドスクリーンの交換をサービス工場に依頼してください。ボルボ指定のサービス工場の利用を推奨します。センサー位置の図については、City Safety™ - 機能 (p. 262) を参照してください。

処置を施さないと、City Safety™ の性能が十分発揮されなくなるおそれがあります。

City Safety™ の故障や機能低下を防ぐために、さらに以下が該当します。

- ボルボは、レーザーセンサーの前のエリアにあるひび割れ、擦り傷、飛び石による傷は**修復せず**に、ウインドスクリーン全体を交換することをお勧めします。
- ウインドスクリーンを交換する前にボルボ指定のサービス工場に連絡して、適切なウインドスクリーンが注文され、取り付けられるようにしてください。
- ウインドスクリーンワイパーを交換する際は、ボルボ社が承認している (または同等の) 製品を使用してください。

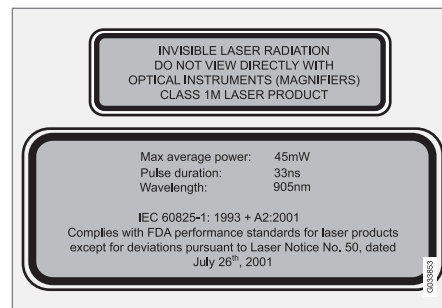
関連情報

- City Safety™ (p. 261)
- City Safety™ - 機能 (p. 262)
- City Safety™ - 操作 (p. 262)

City Safety™ - レーザーセンサー

City Safety™ 機能にはレーザー光線を放出するセンサーが使用されています。故障やレーザーセンサーへのサービスが必要な場合には、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。レーザーセンサーを操作する際は、指定の指示説明を遵守することが不可欠です。

次の 2 つの表示ラベルはレーザーセンサーに関するものです。



図の上のラベルは、レーザー光線の等級を説明するものです。

- レーザー光線 - 光学機器を使用してレーザー光線をのぞきこまないでください。クラス 1M レーザー製品。

図の下のラベルは、レーザー光線の物理的データを説明するものです。

- IEC 60825-1:1993 + A2:2001。
2001 年 7 月 26 日付けの Laser Notice No. 50 に準じた例外を除き、FDA (米国食品医薬品局) のレーザー製品性能基準に準拠。

レーザーセンサーの放射線データ

以下の表はレーザーセンサーの物理的データを特定しています。

最大パルスエネルギー	2.64 μ J
最大平均出力	45 mW
パルス幅	33 ns
発散角(水平 × 垂直)	28° × 12°



警告

これらの指示を遵守しない場合、目にケガをするおそれがあります。

- レーザーセンサーから 100 mm 以内の距離で、拡大鏡、顕微鏡、対物レンズなど、拡大機能のある光学機器を使ってレーザーセンサーをのぞき込んではいけません。（センサーは拡散性不可視レーザー光線を放出しています。）
- レーザーセンサースペアパーツのテスト、修理、取り外し、調節、交換は、資格のあるサービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。
- 有害な放射線に曝されることがないように、ここで指定されている以外の調整やメンテナンスは一切行わないでください。
- 修理者は、レーザーセンサー用に作成されたサービス工場インフォメーションを遵守しなければなりません。
- レーザーセンサーを取り外さないでください（これにはレンズの取り外しも含まれます）。取り外したレーザーセンサーは IEC 60825-1 の基準に基づいて、レーザークラス 3B に該当します。レーザークラス 3B は、目に安全ではありません。障害を与える危険があります。

- レーザーセンサーをウインドスクリーンから取り外す際には、その前にセンサーのコネクターを外す必要があります。
- レーザーセンサーをウインドスクリーンに装着する際は、必ず装着が終わってから、センサーのコネクターを接続してください。
- レーザーセンサーは、リモートコントロールキーがキー位置 II (p. 115) の場合、エンジンが停止していてもレーザー光線を発します。

関連情報

- City Safety™ (p. 261)

City Safety™ - シンボルおよびメッセージ

City Safety (p. 261)™システムによるオートブレーキ作動時に、コンパインド・メー

ター・パネルにシンボル(p. 267)が1つ以上点灯し、ディスプレイテキストが表示されることがあります。ディスプレイテキストは、方向指

示器レバーの **OK** ボタンを押して、確認できます。

シンボル ^A	メッセージ	意味/対処
	シティセーフティによる オートブレーキ	City Safety™ によりブレーキが自動的に作動しています/作動しました。
	ウインド・スクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	障害物があるため、レーザーセンサーが一時的に機能していません。 センサーをブロックしている障害物を取り除き、センサー前面のウインドスクリーンをきれいにしてください。 レーザーセンサーの(p. 263)機能限界について確認してください。
	シティセーフティ サービスが必要です	City Safety™ が機能していません。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です。

関連情報

- City Safety™ (p. 261)
- City Safety™ - 機能 (p. 262)

衝突警告システム*

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、歩行者やサイクリスト、自車の前方で停止している車両、あるいは同じ方向に走行している車両に衝突する危険があるときに運転者をサポートする機能です。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは、運転者がブレーキをかけ遅れたときに作動します。そのため、あらゆる状況で運転者の補助となるわけではありません。

不必要な介入を避けるため、オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは直前まで作動しないように設計されています。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムは、衝突を防止する、または衝突速度を低減することができます。

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムが装備されているからといって、運転スタイルを変更しないでください。ブレーキの作動をオートブレーキ機能付衝突警告システムのみに頼っていると、いざれ衝突事故につながる可能性があります。

2 段階のシステムレベル

車両の装備に応じて、オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムには以下の2つのタイプがあります。

レベル 1

障害物があっても、運転者への警告¹⁹には、可視信号や警告音のみが使用されます。オートブレーキは作動しないため、運転者はご自分でブレーキをかける必要があります。

レベル 2

障害物があれば、可視信号や警告音によって、運転者に警告が発せられます。妥当な時間内に運転者が反応しなければ、ブレーキが自動的に作動します。

! 重要

オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システムの内部コンポーネントのメンテナンスは、サービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場をお勧めします。

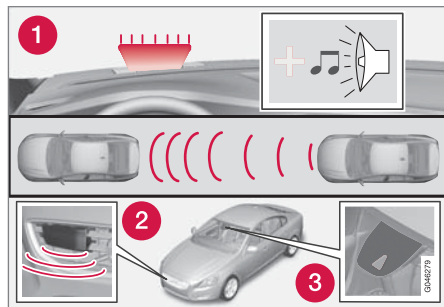
関連情報

- 衝突警告システム* - 機能 (p. 269)
- 衝突警告システム* - 歩行者の検知 (p. 271)

- 衝突警告システム* - サイクリストの検知 (p. 270)
- 衝突警告システム* - 操作 (p. 272)
- 衝突警告システム* - 機能の限界 (p. 274)
- 衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界 (p. 275)
- 衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ (p. 277)

¹⁹ 「レベル 1」の場合、サイクリスト用の警告はありません。

衝突警告システム* - 機能



機能の概要²⁰

- ① 衝突の危険を知らせる警告音および警告灯
- ② レーダーセンサー²¹
- ③ カメラセンサー

オートブレーキ機能付衝突警告システムでは、次の順に3段階の介入が行われます。

1. 衝突警告システム
2. ブレーキサポート²¹
3. オートブレーキ²¹

衝突警告システムと City Safety™ (p. 261) は互いに補完し合います。

1 - 衝突警告システム

まず運転者に衝突事故が切迫していることが警告されます。

衝突警告システムは、歩行者、サイクリストまたは車両が自車の前方を自車と同じ方向に移動している、または自車の前方で停止している場合に検知することができます。

歩行者やサイクリスト、車両との衝突の危険がある場合には、赤の警告灯(1)が点滅し、警告音が鳴って運転者に注意を促します。

2 - ブレーキサポート

警告の後もさらに衝突の危険が増した場合は、衝突警告システムによりブレーキサポートが作動します。

つまり、穏やかにブレーキシステムを作動させることで、急ブレーキの準備をします。このとき、わずかな衝撃を感じる場合があります。

運転者が素早くブレーキペダルを踏むと、フルブレーキがかかります。

システムが衝突を回避するのに不十分だと判断すると、ブレーキサポートが運転者のブレーキを補助します。

3 - オートブレーキ

オートブレーキ機能は最後に作動します。

この時点でも運転者が事故を回避するための行動を開始せず、衝突の危険が切迫した場合には、運転者がブレーキをかけるかどうかに関係なく、オートブレーキ機能が作動します。この場合、衝突時の速度を減少させるためにフルブレーキがかかります。もしくは、衝突を避けるのに十分であれば、制動力が制限されます。サイクリストに対しては、警告およびフルブレーキ介入が大きく遅れたり、同時に作動することがあります。

²⁰ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

²¹ システムレベル 2 のみ。



⚠ 警告

衝突警告システムは、走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。衝突警告システムは、自車の進行方向とは異なる方向に走行している車両やサイクリスト、または動物には反応しません。

衝突の危険が高くなったときにのみ、警告が出ます。この「機能」の項と「作動限界」の項には、機能の限界が説明されています。オートブレーキ機能付衝突警告システムを使用する前に必ずお読みください。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、車速が 80 km/h (50 mph) を超えると解除されます。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、街灯が点灯していても、暗がりやトンネル内では作動しません。

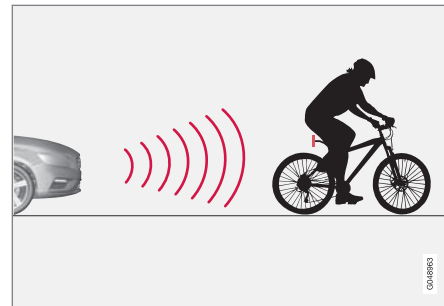
オートブレーキ機能により、衝突事故を回避、または衝突速度を低下させることができます。ブレーキの性能を最大限に発揮させるため、たとえ車両にオートブレーキがかかっている場合でも、運転者は必ずブレーキペダルを踏み込むようにしてください。

衝突警告システムが作動するまで待つことは絶対にしないでください。オートブレーキ付衝突警告システムが使用されているときでも、適切な距離と速度を維持する責任はつねに運転者にあります。

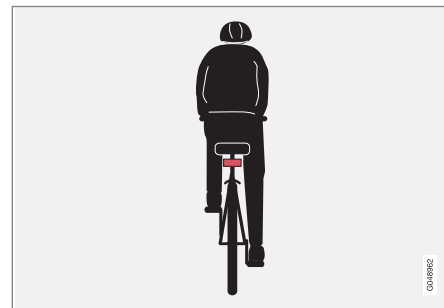
関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

衝突警告システム* - サイクリストの検知



システムは、同じ方向に進むサイクリストを後ろから捉えます。



システムがサイクリストだと認識できる最適な例 - 体と自転車の輪郭、真後ろおよび車両の中央ラインから

システムが最大限の性能を発揮するためには、サイクリスト検知機能が自転車と乗る人の体の輪郭に関するできるだけ明瞭な情報を得ることが必要です。すなわち、自転車、頭部、両腕、両肩、両脚、胴体に加え、人間のような動きのパターンが検知できることを意味します。

自転車と乗る人の体の大部分がカメラの視界に入っていない場合には、システムはサイクリストを検知することができません。

- システムは、大人用の自転車に大人が乗っている場合にサイクリストを検知することができます。
- システムは、同じ方向に進むサイクリストを真後ろからのみ検知することができます。斜め方向や横方向からは検知できません。
- その自転車には可視性の高い認定された²² 後方反射板が高さ 70 cm 以上の位置に取り付けられていることが必要です。
- 車両の左右サイドから伸ばした仮想上のライン上を進むサイクリストは、遅れて検知されたり、全く検知されないことがあります。
- 夜明けや夕暮れには、人間の目と同様にシステムがサイクリストを検知できる能力が低下します。
- 街灯が点灯していても、暗がりやトンネルの走行中は、システムのサイクリスト検知機能が解除されます。

- サイクリスト検知機能の効果を最大限に発揮させるためには、City Safety™ 機能を起動する必要があります。City Safety™ (p. 261) を参照してください。

警告

オートブレーキ機能およびサイクリスト検知機能付衝突警告システムは、運転操作を補助するものです。

この機能には次のような限界があります：

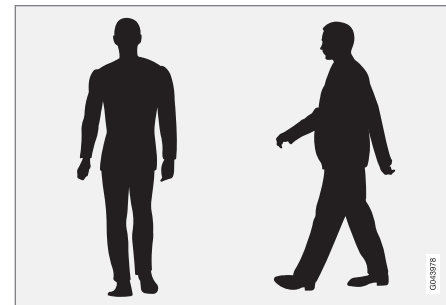
- あらゆる状況ですべてのサイクリストを検知できるわけではありません。例えば、一部が隠れているサイクリストなどは検知できません。
- 身体の輪郭がはっきりわからないような服装の人が乗っている自転車、あるいは側面から接近するサイクリストは検知できません。
- 後部に赤い反射板がついていない自転車は検知できません。
- 大きい荷物などを積んでいる自転車は検知できません。

車両を適切に運転し、速度に応じて安全な距離を保つことは、つねに運転者の責任です。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

衝突警告システム* - 歩行者の検知



体型が明確で、システムが歩行者であると認識できる最適な例

システムが最大限の性能を発揮するためには、歩行者を検知するシステム機能が、体型に関しできるだけ明瞭な情報を得ることが必要です。すなわち、頭部、両腕、両肩、両脚、胴体に加え、人間のような動きのパターンが検知できることを意味します。

体の大部分がカメラから見えない場合には、システムは歩行者を検知することができません。

²² 反射板は市場の交通当局の推奨および条件を満たしている必要があります。

- 歩行者が検知されるには、全身が見え、身長が 80 cm 以上であることが必要です。
- カメラセンサーが夜明けや夕暮れに歩行者を検知できる能力は、人間の目と同様に限界があります。
- 暗闇やトンネル走行中は、街灯が点灯している場合でも、カメラセンサーの歩行者検知機能が解除されます。

警告

「オートブレーキ機能およびサイクリスト・歩行者検知機能付衝突警告システム」は、運転操作を補助するものです。この機能はあらゆる状況でどのような歩行者でも検知できるわけではありません。例えば、以下のような場合は検知できません。

- 体の一部が隠れている歩行者、体の輪郭がわかりにくい衣服を着用している歩行者、または身長が 80 cm 未満の歩行者。
 - 大きな荷物などを運んでいる歩行者。
- 車両を適切に運転し、速度に応じて安全な距離を保つことは、つねに運転者の責任です。

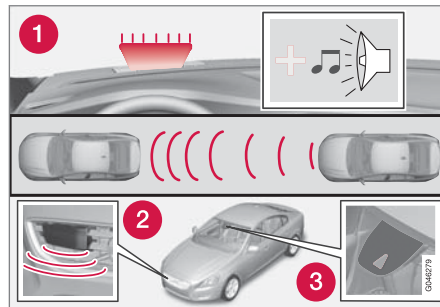
関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

衝突警告システム* - 操作

衝突警告システムは、センターコンソールの画面およびメニューシステム **MY CAR** から設定します。MY CAR (p. 147) を参照してください。

警告信号オン/オフ



1. 衝突の危険があるときの警告音および警告灯²³

衝突警告システムの警告音と警告灯はオンまたはオフに設定できます。

エンジンを停止したときの設定は記憶され、次回エンジンを始動したときに同じ設定になります。

注意

ブレーキサポートおよびオートブレーキ機能は、つねに作動可能状態になっています。非作動状態にすることはできません。

衝突警告システムは、センターコンソールの画面およびメニューシステム **MY CAR** (p. 147) を使用して設定します。

警告灯と警告音

衝突警告システムの警告灯および警告音が作動可能状態の場合、エンジンを始動させるたびに、警告灯(前の図の(1))の別々の光点を短く点灯させることにより警告灯がテストされます。

エンジンの始動後、警告灯と警告音はオフになります。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 147) の **運転支援システム** で **衝突警告** を検索し、機能のチェックを外します。

警告音

エンジンの始動後、警告音は単独でオン/オフにすることができます。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 147) の **衝突警告** で **警告音** を検索し、オンまたはオフを選択します。

その後、衝突警告システムは警告灯のみで表示されるようになります。

²³ 図は略図です。車両モデルおよび詳細は実際と異なる場合があります。

警告距離の設定

警告距離は、警告灯が点灯して警告音が鳴るまでの距離設定です。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 147) の **衝突警告** で **車間警告** を検索し、**長く**、**ノーマル**、または **短く** を選択します。

警告距離の設定によって、システムの感度が変化します。警告距離が **長く** のときは、警告が早く出ます。最初に **長く** を選択し、警告が出る回数が多く感じる場合は、警告距離を **ノーマル** に変更してください。

警告距離 **短く** は、ダイナミックな運転を行うときなど、例外的な場合にのみ使用してください。

① 注意

アダプティブクルーズコントロールを使用しているときは、衝突警告システムが解除されている場合でも、警告灯および警告音がクルーズコントロールにより作動します。

衝突警告システムは運転者に衝突の危険を警告しますが、運転者の反応時間を短くすることはできません。

衝突警告システムが効果を発揮できるよう、つねに車間警告システム (p. 238) の車間時間を 4-5 にセットして走行してください。

① 注意

状況により、警告距離**長く**を設定していても、警告が出るタイミングが遅いと感じる場合があります。(例えば、前方を走行している車両と自車の速度差が大きいときや、前方の車両が急ブレーキをかけたときなど。)

⚠ 警告

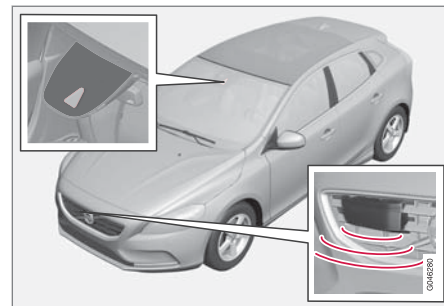
どのような自動システムであっても、あらゆる状況で 100%適切に機能するという保証はありません。このため、けっして他者や車両を対象にオートブレーキ機能付衝突警告システムをテストしないでください。重大な物損事故や人身事故、場合によっては死亡事故が発生するおそれがあります。

設定の確認

必要な設定は、センターコンソール画面で設定できます。

- メニューシステム **MY CAR** (p. 147) の **運転支援システム** で **衝突警告** を検索します。

メンテナンス



カメラおよびレーダーセンサー²⁴

センサーが正しく機能するように泥や氷、雪などをきれいに取り除き、洗車用洗剤と水で定期的に洗浄してください。

① 注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

²⁴ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

衝突警告システム* - 機能の限界

機能には限界があります。例えば、このシステムは車速が 4 km/h (3 mph) に達するまでは作動しません。

陽射しが強いとき、光の反射があるとき、運転者がサングラスを着用しているとき、運転者が前方をまっすぐ見ていないときなどは、衝突警告システムの警告灯が見えにくい場合があります。このため、警告音はつねに作動状態にしてください。

路面が滑りやすいときには、ブレーキ距離は長くなるため、衝突を回避する能力が低下する場合があります。そのような状況では、ABS および ESC (p. 224) システムが、安定性を保ちながら、可能な範囲でもっとも優れた制動力を発揮します。

① 注意

陽射しの強いときなどに車内の温度が上昇すると、衝突警告灯が一時的に非作動となる場合があります。このような場合は、メニューシステムで解除されていても警告音が作動します。

- 前方を走行する車両との距離が近いときや、ステアリングホイールやペダルの動きが大きいつき(スポーティなドライビングスタイルのとき)は、警告が出ない場合があります。

⚠ 警告

交通状況や外部環境の影響によって、レーダーまたはカメラセンサーが前方の歩行者、サイクリスト、車両を正しく検出できない場合には、警告やブレーキの介入が遅れたりまったく作動しない場合があります。

センサーシステムが歩行者やサイクリストを検知できる範囲は限られています²⁵。歩行者およびサイクリストが対象の場合、このシステムは車速が 50 km/h (30 mph) 以下のときに効果的な警告およびブレーキ介入を行うことができます。停止車両や低速の車両に対する警告およびブレーキ介入は、速度が 70 km/h (43 mph) 以下のときに効果を発揮します。

夜間や視界が悪いときには、停止している車両、あるいは低速で走行している車両に対する警告が出ない場合があります。

歩行者およびサイクリストに対する警告およびブレーキ介入は、車速が 80 km/h (50 mph) を超えると解除されます。

衝突警告システムは、アダプティブクルーズコントロール (p. 241) と同じレーダーセンサーを使用します。

警告が出る回数が多過ぎる、または警告が多く感じる場合は、警告距離を短くします。そうす

²⁵ サイクリストに対しては、警告およびフルブレーキ介入が大きく遅れたり、同時に作動することがあります。

ると、システムが警告を発するのが遅くなり、警告の回数が減少します。「衝突警告システム - 操作」(p. 272)を参照してください。

リバースギヤが作動すると、オートブレーキ機能付衝突警告システムは一時的に解除されます。

オートブレーキ機能付衝突警告システムは 4 km/h (3 mph) 未満の低速では作動しません。駐車時など、非常に低速で前方の車両に接近している状況でこのシステムが作動しないのはそのためです。

運転者が活発に運転を行っている状況では、衝突警告の発動がわずかに遅延されます。これは、不要な警告を最小限に抑えるためです。

オートブレーキにより静止している物体との衝突が回避された場合には、車両は、最大 1.5 秒間静止したままとなります。移動している前方車両のために車両にブレーキがかかった場合には、前方の車両が維持している車速と同じ速度に減速します。

マニュアルトランスミッション装備の車両では、オートブレーキにより車両が静止状態になると、事前に運転者がクラッチペダルを踏み込まない限り、エンジンが停止します。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界

この機能は車両のカメラセンサーを使用します。カメラセンサーには一部限界があります。

車両のカメラセンサーは、オートブレーキ機能付衝突警告システムだけでなく、以下の諸機能によっても使用されます。

- アクティブハイビーム (p. 126)
- ロード・サイン・インフォメーション (p. 284)
- Driver Alert Control - DAC (p. 288)
- レーン・キープ・アシスト (p. 291)

① 注意

カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面に付着した氷、雪、曇り、汚れなどはよく取り除き、きれいな状態を保ってください。

カメラセンサー前面のウインドスクリーンに、なにも貼り付けたり、取り付けたりしないでください。カメラの効力に支障が出て、カメラを使用している各システムが作動しなくなる原因となります。

カメラセンサーは、人間の目と同様に限界があります。例えば、暗闇、大雪や大雨、濃霧では、反応が鈍くなる場合があります。このような状況の下では、カメラに依存するシステムの機能が

が大幅に低下するか、一時的に解除される場合があります。

前方から強い光が射し込んでいるとき、路面からの反射光があるとき、路面に雪や氷があるとき、路面が汚れているとき、車線マーキングが見えにくいときなども、カメラセンサーの機能(例えば、車線のスキャンや他車を感知する機能)が著しく低下するおそれがあります。

カメラセンサーの視野には限界があります。このため、状況によっては歩行者、サイクリスト、車両が検知されないか、検知が遅れる場合があります。

気温が非常に高いときは、カメラの機能を保護するために、エンジン始動後約 15 分間、カメラが一時的にオフになる場合があります。

故障点検および対処

ディスプレイに **ウインドスクリーンセンサーが遮られています** マニュアル参照 のメッセージが表示される場合は、カメラセンサーが遮られているため、車両前方の歩行者、サイクリスト、他の車両、または路面標識を感知できないことを意味します。

同時に、この場合はオートブレーキ機能付衝突警告システムに加え、以下の機能も完全に機能を発揮しません。

- アクティブハイビーム
- Driver Alert Control

- ◀ ● レーン・キープ・エイド
● ロード・サイン・インフォメーション

以下の表は、表示するメッセージの考えられる原因と、対処方の例を示しています。

原因	対処
カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面が汚れているか、氷または雪が付着している。	カメラ前方のウインドスクリーン表面の泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
濃霧や激しい雨、雪などが原因で、カメラが正しく機能していない。	対処法なし。激しい雨や雪のときは、カメラが機能しない場合があります。
カメラ前方のウインドスクリーン表面を清掃した後もメッセージが消えない。	しばらくお待ちください。障害が解消されたことをカメラが感知するまで、数分間かかる場合があります。
ウインドスクリーンの内側とカメラの間に汚れが付着した。	ボルボ指定のサービス工場、ウインドスクリーン内側のカメラカバーを清掃してください。

関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

衝突警告システム* - シンボルおよびメッセージ

シンボル ^A	メッセージ	意味
	衝突警告システム OFF	衝突警告システムが解除されています。 エンジンを始動したときに表示されます。 約 5 秒後、または OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	衝突警告システムは 利用できません	衝突警告システムを作動できません。 運転者がシステムを起動するときに表示されます。 約 5 秒後、または OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	オートブレーキが 作動しました	オートブレーキが作動しました。 OK ボタンを 1 回押すと、メッセージが消えます。
	ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	カメラセンサー (p. 275) が一時的に解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 ● カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。
	レーダーが遮られています マニュアル参照	オートブレーキ機能付衝突警告システムが、一時的に解除されています。 雨が激しく降っている場合や、泥などがレーダーセンサーの前にたまると、レーダーセンサー (p. 255) が遮られ他の車両を検知することができません。
	衝突警告システム サービスが必要です	オートブレーキ機能付衝突警告システムが、完全または部分的に解除されています。 ● メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です - 車両モデルによって異なる場合があります。

◀◀ 関連情報

- 衝突警告システム* (p. 268)

BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)

BLIS (Blind Spot Information System) は、交通量の多い複数車線の道路で運転者をサポートする機能です。

BLIS は次のような車両の存在を警告して運転者をサポートします。

- 死角に入っている車両
- 右側および左側の車線を走行しながら急接近する車両

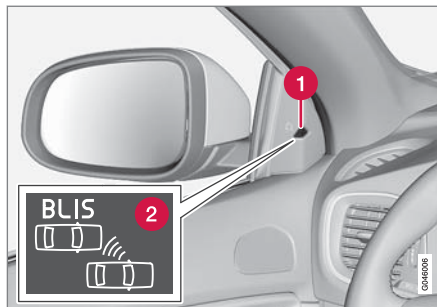
⚠ 警告

BLIS は補助機能です。あらゆる状況で機能するとは限りません。

BLIS は、安全運転やルームミラーやドアミラーの使用に代わるものではありません。

BLIS は運転者の責任および注意に代わるものではありません。安全を確認して車線変更を行うのはつねに運転者の責任です。

概要



BLIS ランプの場所 ²⁶

- 1 インジケータランプ
- 2 BLIS 表示

ⓘ 注意

他の車両を検知した側のインジケータランプが点灯します。車両が両側から追い越されている場合は、左右のインジケータランプが点灯します。

メンテナンス

BLIS 機能のセンサーは、車両の各隅のリアフェンダー/バンパーの内側にあります。



この表面はきれいな状態に保ってください。左側も同様です。

- もっとも効率的に作動するように、センサー前面の領域はつねにきれいにしておいてください。

関連情報

- BLIS - 操作 (p. 280)
- BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ (p. 283)
- CTA* (p. 281)

²⁶ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なっている場合があります。

BLIS - 操作

BLIS (Blind Spot Information System) は、交通量の多い複数車線の道路で運転者をサポートする機能です。

BLIS の起動/解除

BLIS はエンジンが始動すると起動します。これは、ドアパネルのインジケータランプが 1 回点滅することで確認できます。



オン/オフボタン

BLIS 機能は、センターコンソールの **BLIS** ボタンを押すことで解除/起動できます。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム MY CAR²⁷ で処理します。

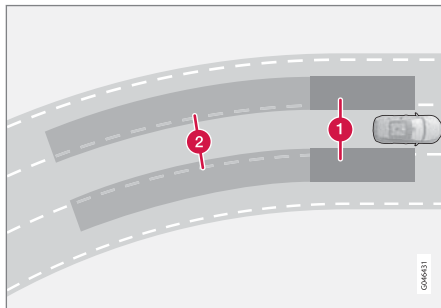
- **設定 → カー設定 → BLIS** で **On** または **Off** を選択します。

BLIS が解除/起動されると、ボタン内の LED が消灯/点灯し、コンパインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示されて、変更が確認できます。起動時には、ドアパネルのインジケータランプが 1 回点滅します。

メッセージを消去するには：

- 左側レバースイッチの **OK** ボタンを押してください。
- または
- 約 5 秒経過すると、メッセージが消えます。

BLIS の作動



BLIS の原理：1. 死角内のゾーン。2. 急速に接近する車両用のゾーン。

BLIS 機能は、車速が 10 km/h (6 mph) を超えているときに作動します。

このシステムは、次の場合に反応するように設計されています：

- 自車が他車によって追い越される
- 他車が自車に急速に接近している

BLIS がゾーン 1 内に車両を検知する、あるいはゾーン 2 内に急接近する車両を検知すると、ドアパネルの BLIS ランプが常時点灯します。この状況で運転者が警告が発せられている側の方向指示器を出すと、BLIS ランプが常時点灯から強い点滅に変わります。

警告

BLIS は、急カーブでは作動しません。

BLIS は、後退時には作動しません。

機能の限界

- 泥、氷、雪がセンサーを覆っていると機能が低下し、警告を発することができなくなります。その場合、BLIS は危険を検知できません。
- センサーがある領域に物体やテープ、ラベルなどを貼り付けないでください。
- 車両の電気系統にトレーラーが接続されると、BLIS が解除されます。

²⁷ メニューシステムについては、MY CAR (p. 147) を参照してください。

❗ 重要

BLIS および CTA 機能コンポーネントの修理またはバンパーの塗装修理はサービス工場で実施する必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

関連情報

- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) (p. 279)
- BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ (p. 283)

CTA*

BLIS 機能 CTA (Cross Traffic Alert) は、後退中に横方向の交通を警告して運転者をサポートします。CTA は BLIS (p. 279) の補助機能です。

CTA の起動/解除

CTA はエンジンが始動すると起動します。これは、ドアパネルのインジケータランプが 1 回点滅することで確認できます。



パークアシストおよび CTA 用センサーのオン/オフ
パークアシスト (p. 296) が搭載されている車両では、パークアシストのオン/オフボタンで CTA 機能を単独で作動/解除することができます。

パークアシストのボタンがない車両では、メニューシステム **MY CAR** (p. 147) で CTA 機能を操作することができます。次の手順に従ってください。

- **BLIS** で **Cross Traffic Alert** を検索し、チェックマークを外します。CTA 機能が解除されます。

ただし、CTA 機能が解除された後も BLIS 機能は作動し続けます。

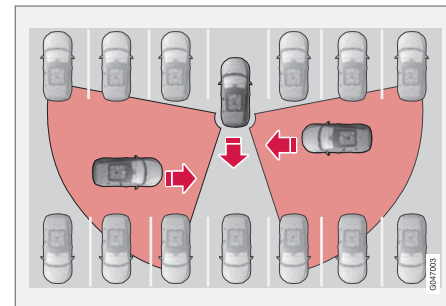
⚠ 警告

CTA は補助機能です。あらゆる状況で機能するとは限りません。

CTA は、安全運転やルームミラーやドアミラーの使用に代わるものではありません。

CTA は運転者の責任および注意に代わるものではありません。安全を確認して後退を行うのはつねに運転者の責任です。

CTA 作動時



CTA の原理

- ◀◀ 駐車位置から後退で出る場合など、後退中に横方向の通行を監視することで、BLIS 機能を補完します。

CTA はもともと車両を検知するようにデザインされていますが、条件が整っている場合には、サイクリストや歩行者など、小さな対象物も検知できる場合があります。

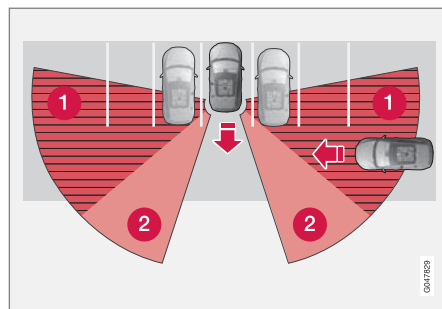
CTA は後退中のみアクティブになり、トランスミッションでリバースが選択されると自動的に起動します。

- 横方向から接近してくるものを CTA が感知すると、警告音が聞こえます。この警告音は、接近してくるものの方向に応じて、左または右のスピーカーから聞こえてきます。
- CTA は BLIS ランプも点灯させて、警告を発します。
- 画面の PAS グラフィック (p. 296) のアイコンが点灯してさらなる警告を発します。

作動限界

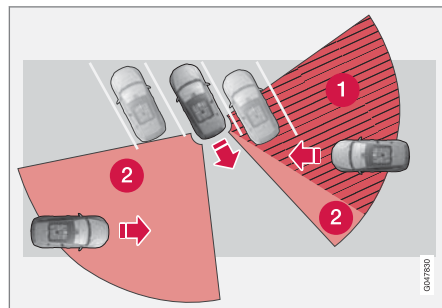
CTA の機能にはある程度の限界があり、すべての状況で正しく動作するとは限りません。例えば、障害物(他の駐車車両など)がある場合、CTA センサーが障害物を透視することは不可能です。

最初から CTA の「視野」が制限されて接近中の車両を直前まで検知できない状況としては、以下のような例が考えられます。



車両が駐車スペースの奥に駐車されている

- ① CTA の死角
- ② CTA の検知/「視認」可能範囲



角度のある駐車スペースでは、CTA の一方側は完全に死角になる可能性があります。

ただし、運転者が車両をゆっくり後退させると、車両と障害物との角度が変化して死角が急速に小さくなります。

その他の作動限界の例：

- 泥、氷、雪がセンサーを覆っていると機能が低下し、警告を発することができなくなります。その場合、CTA は危険を検知できません。
- 車両の電気系統にトレーラーが接続されると、CTA が解除されます。

❗ 重要

BLIS および CTA 機能コンポーネントの修理またはバンパーの塗装修理はサービス工場で行う必要があります。ボルボ指定のサービス工場にお任せください。

メンテナンス

BLIS および CTA 機能のセンサーは、車両の各隅のリアフェンダー/バンパーの内側にあります。



この表面はきれいな状態に保ってください。左側も同様です。

- もっとも効率的に作動するように、センサー前面の領域はつねにきれいにしておいてください。
- センサーがある領域に物体やテープ、ラベルなどを貼り付けないでください。

関連情報

- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) (p. 279)
- BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ (p. 283)

BLIS および CTA - シンボルおよびメッセージ

BLIS (Blind Spot Information System) (p. 279) および CTA (p. 281) の機能に不具合が生じたり、機能が中断した場合は、コンパインド・メーター・パネルにシンボルと説明のメッセージが表示されます。表示された指示に従ってください。

メッセージの例：

メッセージ	意味
CTA OFF	CTA は手動で解除されています。BLIS は作動しています。
BLIS および CTA OFF トレーラーあり	車両の電気系統にトレーラーが接続されたために、BLIS および CTA が一時的に無効になっています。
BLIS および CTA サービスが必要です	BLIS および CTA が作動していません。 ● メッセージが残る場合は、バルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

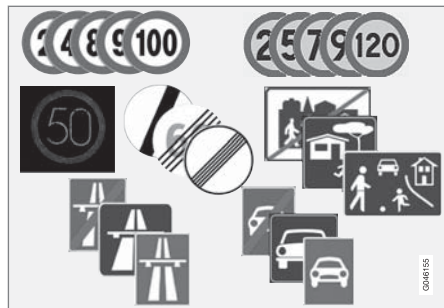
ディスプレイテキストは、方向指示器レバーの OK ボタンを押して、確認できます。

関連情報

- BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム) (p. 279)
- CTA* (p. 281)

ロード・サイン・インフォメーション (RSI)

ロード・サイン・インフォメーション (RSI - Road Sign Information) は、通過した道路標識を運転者に知らせる補助機能です。



読み取り可能な速度関連²⁸の標識の例

RSI の機能は、高速道路や幹線道路の起点/終点時の速度や、追い越禁止などの情報を運転者に知らせます。高速道路や公道に関する標識と制限速度の標識の両方を通過した場合は、RSI は制限速度のシンボルを表示します。

⚠ 警告

RSI はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

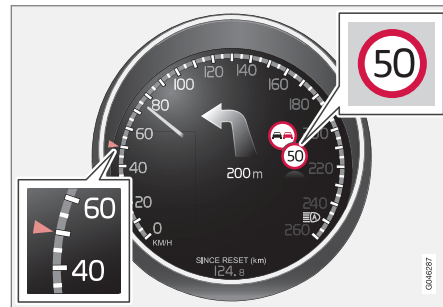
安全運転を行い、適用されている交通法規や規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 操作 (p. 284)
- ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 作動限界 (p. 287)

ロード・サイン・インフォメーション (RSI)* - 操作

ロード・サイン・インフォメーション (RSI - Road Sign Information) は、通過した道路標識を運転者に知らせる補助機能です。この機能の仕組みについては、以下で説明されています。



記録されている速度情報²⁹

RSI が制限速度と共に道路標識を記録している場合、この標識がコンパインド・メーター・パネルにシンボルで表示されます。

²⁸ コンパインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。図は例の一部です。

²⁹ コンパインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。図は例の一部です。

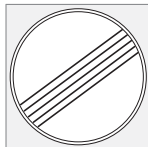


現在の制限速度に関するシンボルと共に、該当する場合には、追い越しが禁止されていることを示す標識が表示されることもあります。

制限区間または高速道路の終点

RSI が速度制限の終点や他の速度関連の情報(高速道路の終点など)に関連した標識を感知すると、対応する道路標識がコンパインド・メーター・パネルに 約 10 秒間表示されます。

そのような標識の例は:



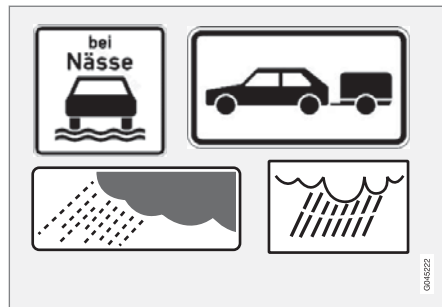
全制限の終点



高速道路の終点

その後、次の速度関連の標識を検知するまでロード・サイン・インフォメーションは非表示になります。

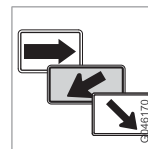
付加的標識



付加的標識の例²⁹

場合によっては、同一道路上であっても、異なる制限速度標識が掲示されている場合があります。このような場合には、付加的標識が表示されることで、複数の制限速度が適用されることがわかります。また、現在通行中の箇所は、雨や霧発生時には特に事故が発生しやすい場所であることもあります。

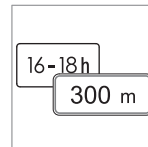
雨に関連した付加的標識はウインドスクリーンワイパーが作動しているときにのみ、表示されます。



市場によっては、出口に適用される速度が矢印を含む付加的標識で表示されます。

この種の付加的標識を含む速度標識は、運転者が方向指示器を使用している場合にのみ表

示されます。



制限速度の中には、特定の距離の走行後、または特定の時間帯のみ適用されるものがあります。このような状況では、制限速度を示すシンボルの下の付加的標識でドライバーの注意

を促します。

付加情報の表示



コンパインド・メーター・パネルの速度シンボルの下にある空フレームの付加的標識のシンボルは、RSI が現在の制限速度の補足となる付加的標識を検知したことを示しています。

²⁹ コンパインド・メーター・パネルに表示される道路標識は市場によって異なります。図は例の一部です。

◀◀ ロード・サイン・インフォメーションのオン/オフ

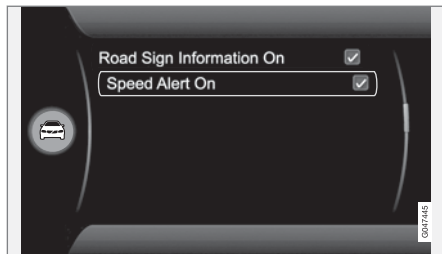


コンパインド・メーター・パネルの速度シンボルを非表示にすることができます。

RSI 機能を解除するには:

- メニューシステム **MY CAR**, MY CAR (p. 147) で機能を検索し、**道路標識情報** (Road Sign Information On) のチェックマークを外して、**EXIT** で終了します。

速度警告オン/オフ



適用されている制限速度を 5 km/h (3 mph) 以上上回ったときに、警告が発せられるよう選択することができます。警告は、適用されている制限速度を上回ったときに、制限時速を示すシンボルが一時的に点滅することで発せられます。

速度警告を起動するには:

- メニューシステム **MY CAR**, MY CAR (p. 147) で機能を検索し、**速度アラート** (Speed Alert) にチェックマークを付けて、**EXIT** で終了します。

Sensus Navigation

Sensus Navigation 装備車では、以下の場合にナビゲーション装置から速度情報が読み取られます。

- 制限速度を間接的に示す標識(自動車道路、高速道路の標識など)を検知した場合。³⁰
- 前に検知した標識の適用区間が終了したと仮定されるが、新しい標識が検知されていない場合。

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション(RSI) (p. 284)
- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 作動限界 (p. 287)
- MY CAR (p. 147)

³⁰ 作動状況は、市場により異なる場合があります。

ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 作動限界

ロード・サイン・インフォメーション (RSI - Road Sign Information) は、通過した道路標識を運転者に知らせる補助機能です。この機能には次のような限界があります。

RSI 機能のカメラセンサーには人間の目と同様に限界があります。詳しくは、カメラセンサーの作動限界(p. 275)を参照してください。

市町村や地域の名前の標識など、全般的な制限速度に関する情報を間接的に示す標識は、RSI 機能では記録されません。

また、次のような標識には機能しないことがあります：

- 色があせた標識
- カーブに設置された標識
- 向きが変えられた標識や損傷のある標識
- 隠れている標識や取り付け位置に問題がある標識
- 霜や雪、泥で完全にまたは部分的に覆われている標識

関連情報

- ロード・サイン・インフォメーション(RSI) (p. 284)
- ロード・サイン・インフォメーション(RSI)* - 操作 (p. 284)

ドライバー・アラート・システム*

Driver Alert System は、運転者の運転操作能力が低下している場合、または不注意により走行車線を逸脱した場合、運転者を補助するように設計されています。

Driver Alert System には異なる機能があり、これらの機能は同時にまたは個別に作動させることができます。

- ドライバー・アラート・コントロール - DAC(p. 288)
- レーン・キープ・エイド(p. 293)

オンになっている機能はスタンバイモードにセットされており、車速が 65 km/h (40 mph) を超えると自動的に作動します。

この機能は、車速が約 60 km/h (37 mph) を下回ると再び解除されます。

この機能もカメラを使用し、走行車線の両側の車線マークを感知することにより機能します。

警告

Driver Alert System はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

安全運転の責任は、つねに運転者にあります。

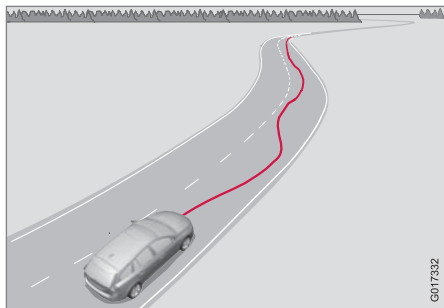
関連情報

- Driver Alert Control(DAC)* (p. 288)
- レーン・キープ・エイド* (p. 291)

Driver Alert Control (DAC)*

DAC は集中力の低下や居眠りが現れるなど運転者の運転が不安定になると、運転者の注意を促す機能です。

DAC の目的は幹線道路で徐々に運転能力が低下することを感知することです。



走行している車線の両側の車線マークをカメラが感知し、運転者がステアリングホイールを操作する動きと比較します。車両が車線マークに合わせて走行していない場合、運転者に警告を与えます。

運転者が疲労していても、運転能力に影響が出ない場合もあります。このような場合、運転者に警告を与えない場合があります。そのため、疲労の兆候が現れたら、DAC の警告の有無に関わらず、必ず停車して休憩をとるようにしてください。

① 注意

この機能があっても、長時間続けて運転することは避けてください。運転者は定期的に休憩し、十分休んでから運転してください。

作動限界

状況により、運転能力が低下していなくてもシステムが警告を発する場合があります。例えば：

- 強い横風が吹いているとき
- わだちが多い路面を走行しているとき

DAC は、市街地走行を意図したものではありません。

① 注意

カメラセンサーには限界があります。衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界 (p. 275)を参照してください。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム* (p. 287)
- Driver Alert Control (DAC)* - 操作 (p. 288)
- Driver Alert Control (DAC)* - シンボルおよびメッセージ (p. 290)
- レーン・キープ・エイド* (p. 291)

Driver Alert Control (DAC)* - 操作

センターコンソール画面のメニューシステムから設定します。

オン/オフ

Driver Alert 機能は、メニューシステム **MY CAR** (p. 147) を使用してスタンバイモードに設定することができます。

- チェックマークあり - 機能オン
- チェックマークなし - 機能オフ

機能

Driver Alert は車速が 65 km/h (40 mph) を超えると作動し、60 km/h (37 mph) を超過している間作動し続けます。



走行が不安定になると警告音が鳴り、ディスプレイテキスト (p. 290) の

ドライバーアラートコントロール 休憩してください

が表示されて、ドライバーに注意を促します。同時に、コンバインド・メーター・パネルに関連のシンボルが点灯します。それでも運転能力が向上しない場合、しばらくすると再警告されます。

警告表示はオフにすることができます。

- 左側レバースイッチの **OK** ボタンを押してください。

⚠ 警告

警告は必ず真剣に受け止め、対処してください。眠気に襲われている運転者は、自分のコンディションを自覚していない場合が多く見受けられます。

警告が出た、または運転者が疲労を感じた場合は、すみやかに安全な方法で停車し、休憩してください。

研究調査により、疲労時の運転は飲酒運転と同様の危険があることがわかっています。

関連情報

- ドライバー・アラート・システム* (p. 287)
- Driver Alert Control (DAC)* (p. 288)

Driver Alert Control (DAC)* - シンボルおよびメッセージ

ドライバー・アラート・コントロール - DAC
(p. 288) は、さまざまな状況で、コンパイン

ド・メーター・パネルまたはセンターコンソールの画面にシンボルとディスプレイテキストを表示することがあります。

それは、以下のような事例です：

シンボル ^A	メッセージ	意味
	ドライバー・アラートコントロール 休憩してください	車両の運転が不安定になっています。運転者は、警告音およびディスプレイテキストで警告を受けます。
	ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 ● カメラセンサー前面のウインドスクリーン表面を清掃してください。 カメラセンサーの制限事項については、衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界 (p. 275) を参照してください。
	ドライバー・アラートコントロール サービスが必要です	システムが解除されています。 ● メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

^A シンボルは概略図です。

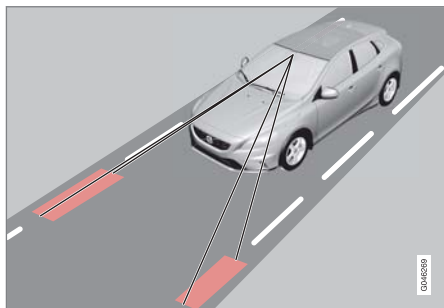
関連情報

- ドライバー・アラート・システム*
(p. 287)
- Driver Alert Control (DAC)* - 操作
(p. 288)
- レーン・キーピング・エイド* (p. 291)

レーン・キーピング・エイド*

レーン・キーピング・エイドは Driver Alert System の機能のひとつです。LKA (Lane Keeping Aid) と呼ばれることもあります。

この機能は、特定の状況で偶発的に車線から逸脱する危険を低減するために、高速道路や同様の主要道路で使うことが想定されています。



カメラが道路脇の線や車線マークを読み取ります。車両が境界線を越えそうになると、レーン・キーピング・エイドは軽度の操舵力を駆使して、自発的にステアリング操作を行い、車両を車線内に戻します。

車両が境界線を踏む、または越えると、レーン・キーピング・エイドがステアリングホイールを振動させて運転者に警告します。

⚠ 警告

LKA は、運転者を補助する機能に過ぎません。走行状況や交通、天候、路面の状態などにより作動しない場合があります。

安全運転を行い、適用されている法律や交通規則に従う責任は、つねに運転者にあります。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド - 機能 (p. 291)
- レーン・キーピング・エイド - 作動 (p. 293)
- レーン・キーピング・エイド - 機能の限界 (p. 294)
- レーン・キーピング・エイド - シンボルおよびメッセージ (p. 295)
- ドライバー・アラート・システム* (p. 287)

レーン・キーピング・エイド - 機能

レーン・キーピング・エイド (Lane Keeping Aid) 機能は、いくつかの設定が可能です。

オフおよびオン

レーン・キーピング・エイドは、車線境界線がはっきりと視認できる道路で速度が 65~200 km/h (40~125 mph) のときに作動します。車線の幅が 2.6 m 未満の狭い道路では、この機能は一時的に解除されます。



センターコンソールのボタンを押して、機能をオン/オフにします。機能がオンになると、ボタンのランプが点灯します。

選択した装備の組み合わせによっては、センターコンソールにオン/オフボタンを配置するスペースがない場合があります。その場合、この機能は車両のメニューシステム **MY CAR**

◀ (p. 147)で制御します。次の手順に従ってください：

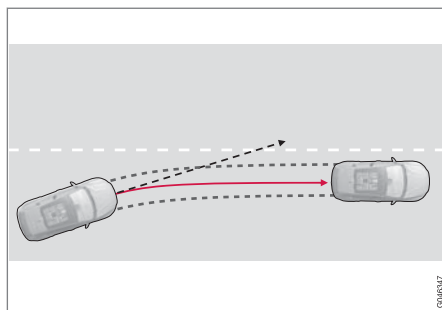
- **車線内走行維持補助** を検索し、オンまたはオフを選択します。

さらに、**MY CAR** では以下が選択できます：

- ステアリングホイールの振動による警告：**バイブレーションのみ** - オンまたはオフ。
- アクティブステアリング：**ハンドルアシストのみ** - オンまたはオフ。
- ステアリングホイール内の振動とアクティブステアリングの両方による警告：**全機能** - オンまたはオフ。

アクティブステアリング

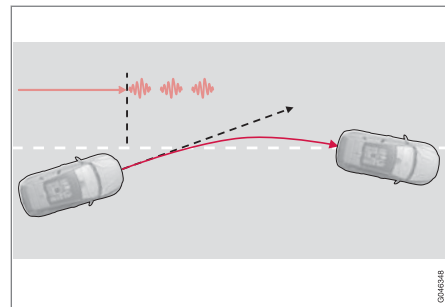
レーン・キーピング・エイドは、車両を車線境界線の内側に維持するように努めます。



LKA が介入し、反対方向に操舵しようとしています。

方向指示器の操作がない場合に車両が左右いずれかの車線に接近すると、システムが車両を車線内に戻します。

ステアリングホイールの振動による警告



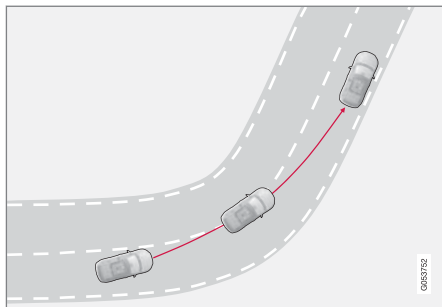
LKA はステアリング操作を行い、ステアリングホイールの振動で警告します。³¹

車両が境界線を越えると、レーン・キーピング・エイドはステアリングホイールを振動させて運転者に警告します。³² わずかなステアリングトルクの作動で車両が能動的に操舵されたとしても、この警告は発せられます。

³¹ 図は、境界線を越えたときの 3 種類の振動を示しています。

³² ステアリングホイールの振動は、状況により異なります。車両が境界線を越える時間が長いほど、振動が強くなります。

ダイナミックコーナリング



急な内向きカーブでは、LKA は作動しません。

状況により、レーンアシストは、ステアリング操作や警告を行うことなく、境界線からのみ出しを容認することがあります。視界が開けているときに隣接車線を使用して近回りをする場合などがその一例です。

関連情報

- レーン・キープ・エイド* (p. 291)

レーン・キープ・エイド - 作動

レーン・キープ・エイドは、さまざまな状況に応じてコンパインド・メーター・パネルに直感的なグラフィックでわかりやすく表示されます。それは、以下のような事例です：

① 注意

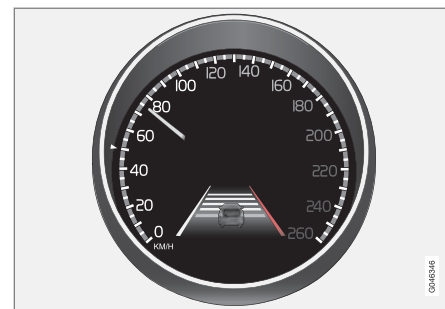
方向指示器が作動している間、LKA は一時的に解除されます。



LKA が以下のようなサイドラインを「検知」する

レーン・キープ・エイドが作動中に境界線を検知/認識すると、LKA シンボルが白い線でこれを表示します。

- グレーの境界線 - レーン・キープ・エイドは車両の当該側の線を認識していません。



LKA が右側で作動

レーン・キープ・エイドは介入して、当該側の境界線から離れるように操舵します。この状況は以下のように表示されます。

- 該当の側のラインが赤色で表示される。

関連情報

- レーン・キープ・エイド* (p. 291)

レーン・キーピング・エイド - 機能の限界

レーン・キーピング・エイドのカメラセンサーは人間の目と同様に限界があります。

詳しくは、衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界 (p. 275)および (p. 273)を参照してください。

注意

非常に過酷な状況では、レーンアシストにより運転者を正しく支援することが困難な場合があります。このような場合には、機能をオフにすることをお薦めします。

そのような状況の例は:

- 道路工事
- 冬季特有の道路状態
- 路面の状態が悪いとき
- 著しくスポーティーな走行スタイル
- 悪天候で視界が悪くなっているとき

運転者の手はステアリングホイールに
レーン・キーピング・エイドが作動するためには、運転者がステアリングホイールを握っている必要があります。LKAは手がステアリングホイールに接触しているかモニターし続けます。手の接触が検知されないと、運転者にステアリング操作を自発的に行うように促すディスプレイテキストが表示されます。

運転者がリクエストに従ってステアリング操作を開始しないと、レーン・キーピング・エイドがスタンバイモードになり、運転者が車両の操舵を再開するまでこのモードのままとなります。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド* (p. 291)

レーン・キーピング・エイド - シンボルおよびメッセージ

レーンアシスト機能がない場合は、コンパインド・メーター・パネルにシンボルと説明のメッ

セージが表示されることがあります。該当する場合は、その指示に従ってください。

メッセージの例：

シンボル	メッセージ	意味
	ウインドスクリーンセンサーが 遮られています マニュアル参照	カメラセンサーが一時解除されています。 雪、氷、泥がウインドスクリーンに付着しているときなどに表示されます。 カメラセンサーの前のウインドスクリーンをきれいに拭いてください。 カメラセンサーの機能の限界については、衝突警告システム* - カメラセンサー機能の限界 (p. 275) および (p. 273) を参照してください。
	レーンキーピングエイド サービスが必要です	システムが解除されています。 メッセージが残る場合は、ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。
	レーンキーピングエイド 中断されました	LKA がスタンバイモードになりました。この機能がまたアクティブになると、LKA シンボルのラインが表示されるようになります。

関連情報

- レーン・キーピング・エイド* (p. 291)

パークアシスト*

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンサーコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

パークアシストの音量は、継続的な警告音が聞こえている間に、センターコンソールの **VOL** ノブまたは車両のメニューシステム **MY CAR** で調節することが可能です。MY CAR (p. 147) を参照してください。

パークアシストには、2 種類のタイプがあります：

- リアのみ
- フロントおよびリア

i 注意

トウバーは車両の電気系統に設定されているため、この機能が車両後方の障害物までの距離を測定するとき、トウバーの突き出しは計算に含まれます。

! 警告

- パーキングアシスタンスは駐車時の補助システムに過ぎず、車両の操作の責任はつねに運転者にあります。
- このセンサーには死角があり、すべての物体を感知することはできません。
- 車両のそばに人間やペットなどがある場合がありますので、十分にご注意ください。

関連情報

- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 299)
- パークアシスト* - 機能 (p. 296)
- パークアシスト* - フロント (p. 298)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 299)
- パークアシスト* - リア (p. 297)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

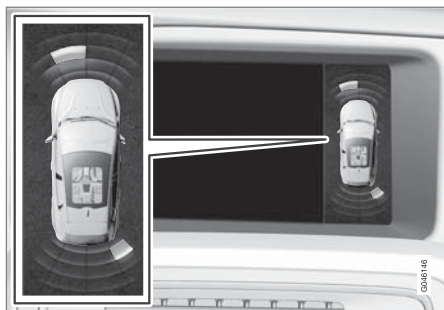
パークアシスト* - 機能

エンジンを始動するとパークアシストが自動的に起動し、スイッチのオン/オフライトが点灯します。ボタンでパークアシストを解除すると、LED は消灯します。



パークアシストおよび CTA³³ 用センサーのオン/オフセンターコンソールの画面に、車両と障害物の位置関係が表示されます。

³³ 左右からの交通の警告については、CTA (クロス・トラフィック・アラート) (p. 281) を参照



表示画面ビュー - 左フロントと右リアの障害物を示します。

4つのセンサーの内、どれが障害物を検知しているかシンボルで表示します。シンボルの表示が車両に近ければ近いほど、車両と検知された障害物の距離が短いことを示します。

車両前後の障害物に近づくと、確認音の間隔が短くなります。オーディオユニットからのサウンドなどは、自動的にミュート(消音)になります。

センサーと障害物の距離が 30 cm 以内になると、確認音が連続した音に変わり、アクティブなセンサーに一番近いフィールドが着色表示されます。車両の前後両方で、連続音が鳴る距離内に障害物が検知された場合には、ラウドスピーカーから交互に音が聞こえます。

重要

チェーンや光沢のある細いボール、低い柵などの物体が「信号遮蔽」領域に入ってきたために、センサーがこれらの物体を一時的に検知せず、本来なら途切れのないトーンに変わるはずのパルス音が、不意に停止する場合があります。

センサーはプラットフォームなどの高い物体を検知することはできません。

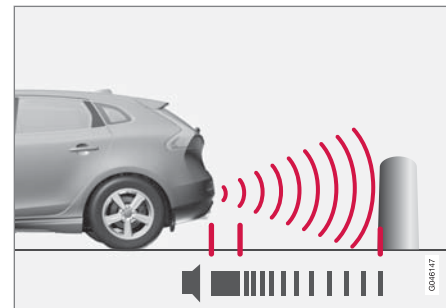
- このような場合には特に注意をはらって、車両の操縦/移動を極めてゆっくり実行するか、実行中の操作を完全に停止してください。センサーからの情報がつねに信頼できるとは限らない状況であるため、車両やその他の物体を破損させる危険があります。

関連情報

- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 299)
- パークアシスト* - フロント (p. 298)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 299)
- パークアシスト* - リア (p. 297)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

パークアシスト* - リア

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンサーコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。



車両後方の有効距離は、約 1.5 m です。確認音は、リアスピーカーから発信されます。

リアパークアシストは、リバースギヤにシフトしたときに作動します。

トレーラーなどをけん引バーに接続した状態で後退する際には、リアパークアシストが自動的に解除されます。センサーがトレーラーに反応するためです。

❗ 注意

ボルボ純正トレーラーケーブルを使用せずに、トウバーにトレーラーまたはバイクキャリアを取り付けて後退する際には、センサーがトレーラーやバイクキャリアに反応しないように、パークアシストを手動で解除することが必要になる場合があります。

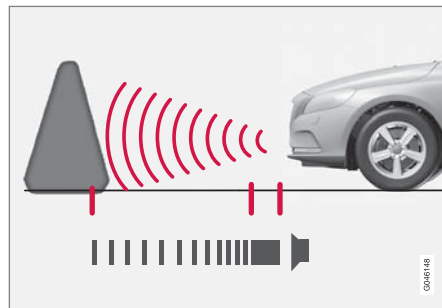
関連情報

- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 299)
- パークアシスト* - 機能 (p. 296)
- パークアシスト* - フロント (p. 298)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 299)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

パークアシスト* - フロント

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンターコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

エンジンを始動するとパークアシストが自動的に起動し、スイッチのオン/オフライトが点灯します。ボタンでパークアシストを解除すると、LEDは消灯します。



車両前方の有効距離は、約 0.8 m です。確認音は、フロントスピーカーから発信されます。

フロントパークアシストは車速が 10 km/h (6 mph) 以下のときに作動します。車速が速すぎる (11 km/h (7 mph) 以上) ためにパークアシストの作動が解除された場合、速度を 10 km/h (6 mph) 未満に下げると作動状態に戻ります。

❗ 重要

補助ライトなど装着時：センサーの邪魔にならないように注意してください。補助ライトを障害物として検知して、誤作動する場合があります。

関連情報

- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 299)
- パークアシスト* - 機能 (p. 296)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 299)
- パークアシスト* - リア (p. 297)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

パークアシスト* - 異常表示

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンサーコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

 コンバインド・メーター・パネルのインフォメーションシンボルが常時点灯し、ディスプレイテキスト **パーキングアシストシステムサービスが必要です** が表示された場合は、パークアシストが解除されています。

！ 重要

状況によっては、外部サウンドソースがシステムと同じ超音波周波数を放出しているために、パーキングセンサーから誤認の警報信号が発せられることがあります。

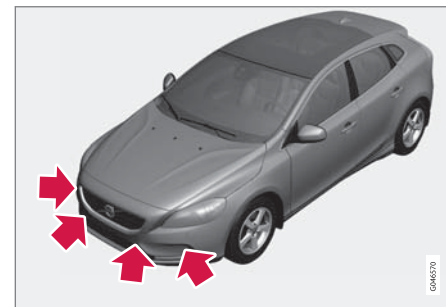
例えば、車のホーン、濡れたアスファルトの路面でのタイヤの音、エアブレーキ、およびオートバイの排気音などです。

- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

パークアシスト* - センサーの清掃

パークアシストは、駐車をする際のサポートとして使用してください。確認音およびセンサーコンソールの画面に表示されるシンボルが、障害物との距離を示します。

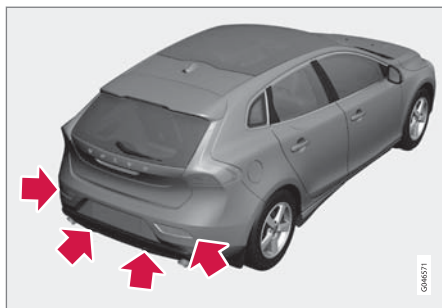
センサーを正しく機能させるため、水とカーシャンプー(洗車用洗剤)で定期的に洗浄してください。



センサーの位置(フロント)

関連情報

- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 299)
- パークアシスト* - 機能 (p. 296)
- パークアシスト* - フロント (p. 298)
- パークアシスト* - リア (p. 297)



センサーの位置(リア)

① 注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

関連情報

- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト* - 機能 (p. 296)
- パークアシスト* - フロント (p. 298)
- パークアシスト* - 異常表示 (p. 299)
- パークアシスト* - リア (p. 297)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 304)

パークアシスト・カメラ

パーキングカメラは、リバースギヤを選択したときに起動する補助システムです。

このカメラからの画像は、センターコンソールの画面に表示されます。

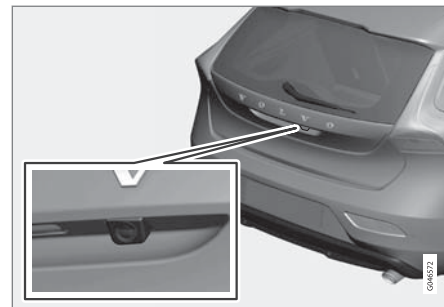
① 注意

トウバーは車両の電気系統に設定されているため、この機能が車両後方の障害物までの距離を測定するとき、トウバーの突き出しは計算に含まれます。

⚠ 警告

- パーキングカメラは補助装置であり、後退中の運転者の責任にとって代わるものではありません。
- カメラには死角があり、すべての物体を感知することはできません。
- 車両のそばに人間やペットなどがいる場合がありますので、十分にご注意ください。

機能と操作



カメラはテールゲート開閉用ハンドルの隣にあります。

カメラにより、車両後方の様子や、側面から現れるものを見ることができます。

カメラは、車両後方の広いエリアや、バンパーやトウバーの一部も表示します。

画面上の物体はわずかに傾いているように見えますが、これは異常ではありません。

① 注意

画面上の物体は、画面上の見かけより、車両に接近している可能性があります。

別の画像が表示されている場合には、パーキングカメラシステムが自動的に切り替わり、カメラ画像が画面に表示されます。

リバースギヤを選択すると、その時点でのステアリングホイールの角度に合わせ、後輪の予想進路が2本の実線で表示されます。このため、縦列駐車や狭い場所への後退、トレーラーのけん引が容易になります。車両のおおよその輪郭も点線で表示されます。ガイドラインは非表示にすることができます。設定(p. 303)のセクションを参照してください。

車両にパークアシストセンサー* (p. 296)も装備されている場合、検知された障害物との距離を示すために、センサーからの情報が色分けされてグラフィック表示されます。後述の「リバースセンサー装備車」を参照してください。

このカメラは、リバースギヤが解除された後約5秒間、または、車速が前進の場合は10 km/h (6 mph)、後退の場合は35 km/h (22 mph)を超えるまで作動し続けます。

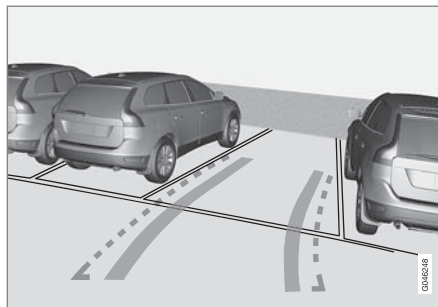
周囲の明るさ

カメラの画像は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。このため、画質と輝度は若干変化します。明りが乏しい状況では、画質がわずかに悪くなることがあります。

① 注意

もっとも効率的に作動するように、カメラのレンズに泥や雪、氷が付着していないように気をつけてください。これは、暗いときには特に重要です。

ガイドライン



パークアシストのラインが、運転者に表示される際の例

画面上のガイドラインは、車体後方の地面に引かれたように画面に表示され、ステアリング角に応じて変化します。運転者は、車両が旋回しているときでも、車両の進行方向を確認することができます。

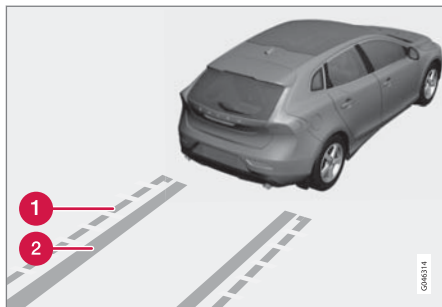
① 注意

- 車両に電氣的に接続されていないトレーラーをけん引中に後退する際には、ディスプレイに表示される線は車の経路で、トレーラーの経路ではありません。
- トレーラーが車両の電気システムに電氣的に接続されている場合には、画面には線は表示されません。
- ボルボ純正トレーラーケーブルを使用してトレーラーをけん引するときには、パーキングカメラは自動的に非作動状態になります。

① 重要

ディスプレイに表示されるのは、車両後方の様子のみであることにご注意ください。後退時には、車両の側面や前方にも注意をはらってください。

境界線



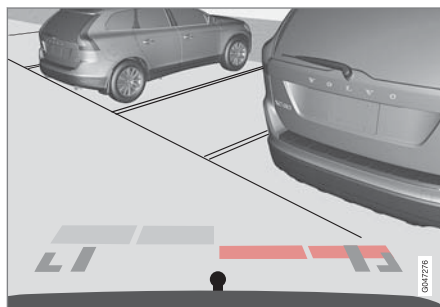
システム内の他のライン

- ① 車両軌道ガイドライン
- ② 後輪軌道ガイドライン

点線(1)フレームは、バンパー後方約 1.5 m のゾーンを示します。また、ドアミラーや車両の角など、車のもっとも突き出た部分の限界も示します(車両の旋回時も同様)。

サイドラインの間に表示される幅広の後輪軌道ガイドライン(2)は、後輪が通過する場所を示し、障害物がない場合には、バンパーから約 3.2 m 後方まで続きます。

リバースセンサー装備車*



色付きのフィールド(センサーごとに1つずつ、計4箇所)は、距離を示します。

車両にパークアシストセンサー(p. 296)も装備されている場合、障害物を検知したセンサーごとに領域が色分けされて表示されます。

障害物までの距離が減少すると、着色表示の色も薄黄色から黄色、オレンジ色を介して赤色へと変化します。

カラー/ペイント	距離(m)
薄い黄色	0.7-1.5
黄色	0.5-0.7
オレンジ	0.3-0.5
赤色	0-0.3

関連情報

- パークアシスト・カメラ - 設定 (p. 303)
- パークアシスト・カメラ - 作動限界 (p. 304)
- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* (p. 304)

パークアシスト・カメラ - 設定

オフのカメラをオンにする

リバースギヤが選択されているときにカメラ機能をオフにした場合、以下の方法でオンにすることができます。



メインソースメニュー 34

1. **EXIT** を1または2回長押しして、メインソースメニューにアクセスします。
2. **TUNE** を使用して「カメラ」オプションを選択し、**OK/MENU** を押します。
3. 以下のメニューで次の操作を行います。 - **TUNE** を使用して目的のカメラ画像を選択し、**OK/MENU** を押します。画面に現在のカメラ画像が表示されます。

オプション*

フロントカメラオプション装備車には、クライメートパネルに **CAM** ボタンがあります。



ボタンの場所は、他の装備のオプションに応じて異なることがあります。

- **CAM** を押してカメラをオンにします。画面に現在のカメラ画像が表示されます。
- リアカメラとフロントカメラの画像を切り替える方法：
- **CAM** を押すか、または **TUNE** を回します。

設定を変更する

初期設定では、リバースギヤを選択したときにカメラが起動します。

パーキングカメラの設定は、画面にカメラの画像が表示されているときに変更することができます。

1. カメラの画像が表示されているときに、**OK/MENU** を押します。画面にさまざまなオプションのメニューが表示されます。
2. **TUNE** を使用して、目的のオプションにします。
3. **OK/MENU** を1回押してオプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

トウバー

カメラはトレーラーけん引時にも便利です。トレーラー方向へのトウバーの予想軌跡に対応するガイドラインを、後輪軌道ガイドラインと同様に、画面に表示することができます。

後輪軌道ガイドラインの表示またはトウバーの軌跡の表示は切り替えることができます。両方を同時に表示することはできません。

1. カメラ画像が表示されているときに **OK/MENU** を押します。
2. **TUNE** を使用して、**トウバー軌道ガイドライン** オプションを選択します。
3. **OK/MENU** を1回押してオプションをハイライト表示し、**EXIT** を押して終了します。

34 メニューシステムについては、付録 Sensus Infotainment を参照してください。

◀ ズーム

正確な操作が必要な場合、カメラ画像を拡大表示することができます。

- **CAM** を押すか、**TUNE** を回します。繰り返し押す/回すと、通常ビューに戻ります。

利用可能なオプションが他にもある場合、ループで表示されます。目的のカメラ画像が表示されるまで、押して/回してください。

関連情報

- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・カメラ - 作動限界 (p. 304)
- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

パークアシスト・カメラ - 作動限界

① 注意

サイクルキャリアなどアクセサリを車両の後ろに取り付けるとカメラの視界を遮るおそれがあります。

注意事項

画面上では隠れている部分が比較的小さく見えていても、実際に視界から隠れているのは、相当大きな領域である場合がありますのでご注意ください。障害物の実際の大きさは、車両がかなり接近するまでわからない場合があります。

- カメラのレンズの泥や氷、雪などをきれいに取り除いてください。
- カメラレンズは、ぬるま湯と洗車用洗剤で定期的に洗浄してください。レンズを傷つけないように注意してください。

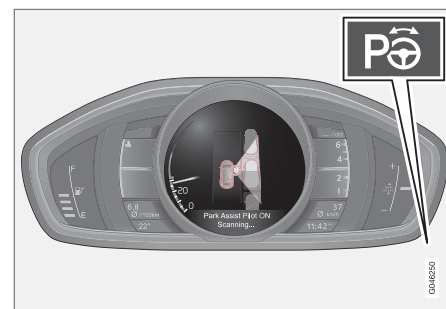
関連情報

- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト・カメラ - 設定 (p. 303)
- パークアシスト* (p. 296)
- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)

パークアシスト・パイロット (PAP)*

パークアシスト・パイロット (PAP - Park Assist Pilot) は、まず十分なスペースがあるかを確認し、その後ステアリングホイールを操作して、運転者が車両を一定のスペースに駐車する作業をサポートします。

コンパインド・メーター・パネルはエレメントの実行時にシンボル、画像およびテキストを表示します。



オン/オフボタンはセンターコンソール上にあります。

① 注意

トウバーは車両の電気系統に設定されているため、この機能が車両後方の障害物までの距離を測定するとき、トウバーの突き出しは計算に含まれます。

⚠ 警告

PAP はあらゆる状況で作動するわけではなく、補助機能に過ぎません。

車両を安全に運転し、駐車中、周囲の状況や接近または通過する他の道路使用者に注意をはらう最終責任はつねに運転者にあります。

関連情報

- パークアシスト・パイロット(PAP)* - 機能 (p. 305)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* - 操作 (p. 306)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* - 機能限界 (p. 308)
- パークアシスト・パイロット(PAP)* - シンボルおよびメッセージ (p. 310)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)

パークアシスト・パイロット(PAP)* - 機能

コンバインド・メーター・パネルはエレメントの実行時にシンボル、画像およびテキストを表示します。

ⓘ 注意

PAP 機能はスペースの寸法を測り、車両を操舵します。運転者の役割は以下の通りです。

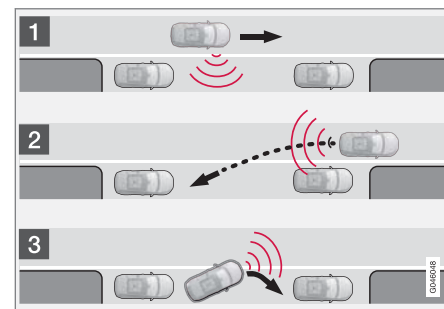
- 車両周辺に目を配ります
- コンバインド・メーター・パネルに表示される指示に従います
- ギヤシフトを行います(後退/前進)
- 安全速度の制御、維持を行います
- ブレーキを操作し、停止します

エンジンが始動し、以下の条件が満たされると、PAP が起動します。

- PAP 機能の作動中に ABS³⁵ または ESC³⁶ 機能が介入してはならない。これらの機能は急勾配や滑りやすい路面などで起動することがあります。詳しくは、フットブレーキ (p. 332) およびスタビリティ・システム

ESC(p. 224)のセクションを参照してください。

- トレーラーが車両に接続されていない。
- 速度が 50 km/h (30 mph) 未満であること。



PAP の原理

PAP 機能は以下の手順で駐車を行います。

1. システムが駐車スペースを探し、スペースを計測します。計測中の車速は 30 km/h (20 mph) 以下でなければなりません。
2. 後退中に、車両は駐車スペースに入るように操舵されます。
3. 車両を前進/後退させて、車両を駐車スペースに入れます。

³⁵ (Anti-lock Braking System) - アンチロックブレーキシステム

³⁶ (Electronic Stability Control) - スタビリティ・システム

◀ 関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)*
(p. 304)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)

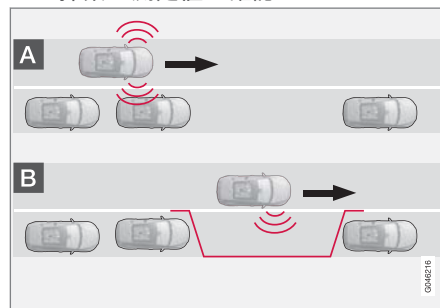
パークアシスト・パイロット (PAP)* - 操作

PAP が作動すると、画像とディスプレイテキスト画像とディスプレイテキスト (p. 310) の両方を使用した、シンプルでわかりやすい指示がコンバインド・メーター・パネルに表示されます。

① 注意

駐車中にステアリングホイールを操作する際、ステアリングホイールの位置によっては、メーター・パネルの指示が見えなくなることがありますのでご注意ください。

1 - 探索と測定値の確認



① 注意

PAP 機能はスペースの寸法を測り、車両を操舵します。運転者の役割は以下の通りです。

- 車両周辺に目を配ります
- コンバインド・メーター・パネルに表示される指示に従います
- ギヤシフトを行います(後退/前進)
- 安全速度の制御、維持を行います
- ブレーキを操作し、停止します

① 注意

PAP が駐車スペースを探しているときは、車両から駐車スペースまでの距離が 0.5~1.5 m である必要があります。

PAP 機能が駐車スペースを探し、十分なスペースがあるか確認します。次の手順に従ってください：



1. このボタンを押して PAP を起動させます。走行速度は 30 km/h (20 mph) 以下に維持してください。

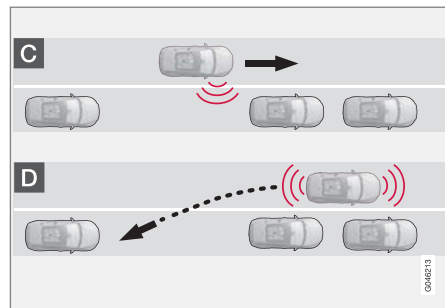
2. コンバインド・メーター・パネルに気を配り、画像とディスプレイテキストで指示があれば停車できるように準備してください。
3. 画像とテキストにより指示があれば、停車してください。

① 注意

PAP は車両の助手席側にある駐車スペースを探し、指示を表示して、車両を案内します。しかし、必要であれば、運転席側の路上に駐車させることもできます。

- 運転席側の方向指示器を作動させてください。システムは運転席側の駐車スペースを探します。

2 - 後退する



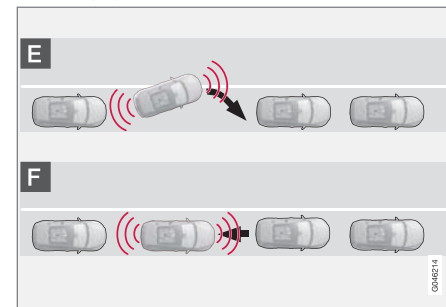
後退中に PAP が操舵を行い、車両を駐車スペースに誘導します。次の手順に従ってください：

1. 車両の後方になにもないことを確認し、リバースギヤを作動させてください。
2. ステアリングホイールにふれることなく、車両を 7 km/h (4 mph) 以下の速度で慎重に後退させます。
3. コンバインド・メーター・パネルに気を配り、画像とディスプレイテキストで指示があれば停車できるように準備してください。

① 注意

- PAP 機能が作動している間は、ステアリングホイールに手を触れないようにしてください。
- ステアリングホイールの動きが一切妨げられず、自由に回転できるようにしてください。
- 最適な結果を得るためには、ステアリングホイールが回転し終わるのを待ってから、前進/後進を始めてください。

3 - 位置調整



車両が駐車スペースに収まったら、まっすぐにして停車することが必要です。

1. 1 速ギヤか D 位置にし、ステアリングホイールが動きを止めるまで待ち、その後ゆっくり前進してください。
2. 画像とディスプレイテキストにより指示があれば、停車してください。
3. リバースギヤを選択し、画像とディスプレイテキストにより停車するよう指示されるまで、ゆっくり車両を後退させてください。

機能が自動的にオフになり、画像とメッセージにより、駐車が完了したことが表示されます。運転者が車両の位置を修正することが必要になる場合があります。車両が正しく駐車されているか判断できるのは、運転者のみです。



❗ 重要

パークアシストがセンサーを使用するときと比べ、PAPがセンサーを使用するときには、警告距離が短くなります。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)*
(p. 304)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)

パークアシスト・パイロット (PAP)* - 機能限界

以下の場合、PAP は動作を停止します。

- 車速が速すぎるとき (7 km/h (4 mph) 以上)
- 運転者がステアリングホイールに触れたとき
- ABS³⁷ または ESC³⁸ 機能がオンになったとき (滑りやすい路面でタイヤがグリップ力を失ったときなど)

PAP の手順が停止するとディスプレイテキストが表示されます。

❗ 注意

センサーが泥、氷、雪などに覆われているときは、センサーの機能が低下し、誤作動する場合があります。

❗ 重要

状況によっては、PAP が駐車スペースを見つけることができない場合があります。システムが使用するのと同じ超音波周波数を発信している外部サウンドソースによって、センサーが干渉を受けることがその理由の一つとして考えられます。

例えば、車のホーン、濡れたアスファルトの路面でのタイヤの音、エアブレーキ、およびオートバイの排気音などです。

注意事項

パークアシスト・パイロットは、補助機能に過ぎず、失敗のない全自動の機能ではないことを忘れないでください。したがって、運転者はいつでも介入できるように準備しておかなければなりません。他にも、駐車するときに留意しておかなければならないことがいくつかあります。

- PAP は既に駐車されている車両を基準に機能します。それらの車両が適切に駐車されていない場合、タイヤやホイールリムが縁石に当たって損傷する場合があります。
- PAP は、カーブなどのない、まっすぐな道路上に駐車することを想定して設計されています。このため、PAP が駐車スペースの広さ

³⁷ (Anti-lock Braking System) - アンチロックブレーキシステム

³⁸ (Electronic Stability Control) - エレクトロニック・スタビリティ・コントロールシステム

を測定するときには、車両が駐車スペースと平行になっていることを確認してください。

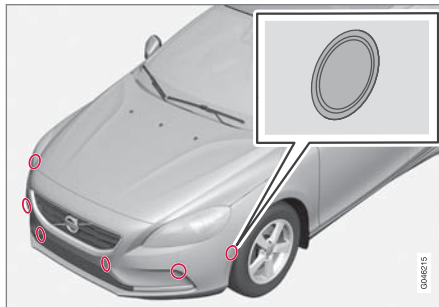
- 道幅の狭い道路では、操舵のための十分なスペースがないため、駐車スペースを見つけられないことがあります。このような場合は、道路の駐車したい側に車両をできるだけ近づけて運転すると、システムはスペースを見つけやすくなります。
- アシスト機能操作中には、車両の前部が対向車の方向に動く可能性があることに注意してください。
- センサーの検知エリアより高い場所にある物体は、アシスト機能操作に必要な計算を行うときに考慮されません。このため、PAP が駐車スペースに対してステアリングを切るタイミングが早くなりすぎることがあります。したがって、このような駐車スペースへの駐車は避けてください。
- PAP が選択したスペースが駐車に適しているかを判断する責任は運転者にあります。
- PAP の機能に影響するおそれがあるため、必ずタイヤ空気圧が適切で、承認されているタイヤ³⁹を使用してください。
- 大雨または雪のときには、システムが駐車スペースを正しく測定できないことがあります。

- スノーチェーンやスペアタイヤ装着時には、PAP を使用しないでください。
- 積荷が車両から突き出している場合には、PAP を使用しないでください。

！ 重要

別の承認済みホイールリムおよび/またはタイヤサイズに変更すると、タイヤの円周が変化するおそれがあるため、PAP システムのパラメータの更新が必要になることがあります。ボルボ指定のサービス工場にご相談ください。

メンテナンス



PAP センサーはバンパー⁴⁰に配置されており、フロントに 6 個、リアに 4 個取り付けられています。

PAP 機能が正常に作動するように、PAP センサーを水と洗車用洗剤で定期的に清掃してください (p. 299)。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)* (p. 304)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)
- パークアシスト* - センサーの清掃 (p. 299)

³⁹ 「承認されているタイヤ」とは、納車時に装着されていたのと同じメーカーの、同じタイプのタイヤを指します。

⁴⁰ 注意：図は概略図です。詳細は、車両モデルにより異なる場合があります。

パークアシスト・パイロット (PAP)* – シンボルおよびメッセージ

コンバインド・メーター・パネルは、シンボルおよびメッセージの組み合わせを変更して、さまざまな内容のメッセージを表示し、適切な処置に関して明確にアドバイスを伝えることがあります。

パークアシスト・パイロットが解除されていることを示すメッセージが表示された場合は、ボルボ指定のサービス工場に連絡してください。

関連情報

- パークアシスト・パイロット (PAP)*
(p. 304)
- パークアシスト・カメラ (p. 300)

運転操作の要領

エンジンの始動

エンジンは、リモートコントロールキーおよび **START/STOP ENGINE** ボタンで始動、停止します。



リモートコントロールキーが外された/挿入されたイグニッションスイッチと **START/STOP ENGINE** ボタン

❗ 重要

リモートコントロールキーを不適切な向きで押し込まないでください。脱着式キーブレードが付いた側を持つようにしてください。脱着式キーブレード - 取り外し/取り付け (p. 204) を参照してください。

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し、一番奥まで押し込みます。
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます¹。(オートマチックトランスミッション車の場合は、ブレーキペダルを踏み込みます。)
3. **START/STOP ENGINE** ボタンを押して放します。

スターターモーターはエンジンが始動するか、オーバーヒート保護機能が作動するまで作動します。

❗ 重要

3 回始動を試みてもエンジンが始動しない場合には、3 分待つてからもう一度試行してください。バッテリーが回復すると、始動できる可能性が高くなります。

⚠ 警告

車両から離れる際には、必ずリモートコントロールキーをイグニッションスイッチから取り出してください。また車内にお子様を残す場合は特に、キー位置が **0** になっていることを確認してください。機能については、キー位置 (p. 115) を参照してください。

❗ 注意

冷寒時、エンジン始動後のエンジン回転数が、通常よりも若干高くなる場合があります。これは、エミッションシステムをできるだけすみやかに正常な作動温度にして有害な排気ガスを抑え、環境を保護するためです。

キーレス始動(キーレスドライブ)*

ガソリンエンジンまたはディーゼルエンジンのキーレス (p. 206) 始動では、ステップ 2~3 に従ってください。

❗ 注意

エンジンを始動するには、キーレススタートおよびロック機能内蔵のリモートコントロールキーが車内またはカーゴスペース内にあることが前提です。

¹ 車両が動いているときは、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すだけでエンジンが始動します。

⚠ 警告

走行中やけん引中は、リモートコントロールキーを車両から**絶対**に取り出さないでください。

関連情報

- キー位置 (p. 115)

エンジンを切る

エンジンを切る場合は **START/STOP ENGINE** ボタンを使用します。

エンジンを停止するには：

- **START/STOP ENGINE** ボタンを押すと、エンジンが停止します。
- オートマチックトランスミッション装備の車両でギヤセクターレバーが **P** 位置ではない場合や、車両が静止していない場合には、**START/STOP ENGINE** ボタンを2度押すか、エンジンが停止するまで押したままにしてください。

関連情報

- キー位置 (p. 115)

ステアリングホイールロック

ステアリングホイールロックは、盗難時などに車両の操舵を困難にします。ステアリングホイールロックが作動または解除されるときには、機械的なノイズが聞こえる場合があります。

機能

- エンジンが停止した後、運転席ドアが開くと、ステアリングホイールロックが起動します。
- リモートコントロールキーがイグニッションスイッチ²内にある状態で、**START/STOP ENGINE** ボタンを押すと、ステアリングホイールロックは解除されます。

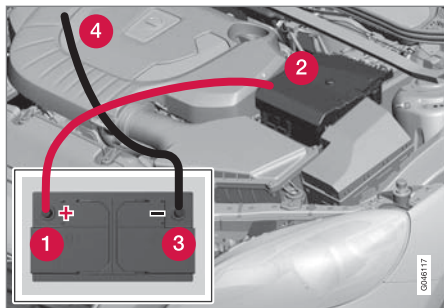
関連情報

- エンジンの始動 (p. 312)
- キー位置 (p. 115)
- ステアリングホイール (p. 121)

² キーレス始動およびロックシステム装備車の場合、リモートコントロールキーを車内に置いておくだけで十分です。

ジャンプスタート

メインバッテリー (p. 404) が放電した場合は、他のバッテリーにジャンパーケーブルなどを接続してエンジンを始動することができます。



車両をジャンプスタートする際には、ショートなどの損傷を防ぐため、次の手順を厳守してください。

1. 車両の電気系統をキー位置 **0** にします。
キー位置 (p. 115) を参照してください。
2. 電気を供給する側のバッテリーが 12V であることを確認してください。
3. 電気を供給する側のバッテリーが他車に取り付けられている場合には、その車両のエンジンを切り、2 台の車が接触していないことを確認してください。
4. 赤いリード線の一方のクランプを他車のバッテリーのプラス端子 (1) に接続します。
5. 自車のバッテリーのフロントカバーのクリップを開けて、カバーを取り外します。
6. 赤いリード線の他方のクランプを車両のプラス端子 (2) に接続します。
7. 黒いリード線の一方のクランプを他車のバッテリーのマイナス端子 (3) に接続します。
8. 黒いジャンパーケーブルの反対側のクランプをアースポイント (右側エンジンマウンティング上部、アウターボルト頭部 (4)) に接続します。
9. 始動を試みたときに火花が発生することを防ぐため、ジャンパーケーブルのクランプは確実に接続してください。
10. 「電気を供給する側の車両」のエンジンを始動し、アイドリングよりも若干高い回転数 (約 1,500 rpm) で数分間回転させます。

重要

エンジンルーム内の部品とショートしないように、ジャンパーケーブルは慎重に接続してください。

11. バッテリーが放電した車両のエンジンを始動させます。

重要

始動時にはケーブルと車両との接続部に触れないでください。火花が発生するおそれがあります。

12. リード線を逆の順序で外します。先に黒いジャンパーケーブルを外し、次に赤いジャンパーケーブルを外してください。
 > 黒いブースターケーブルのクランプがバッテリーのプラス端子や、赤いブースターケーブルのクランプに接触しないよう注意してください。

警告

- バッテリーからは、非常に引火性の高い、酸素と水素の混合ガスが発生します。ジャンパーケーブルを正しく接続しないと、火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリー液には、腐食性の強い希硫酸が使用されており、触れると重度のヤケドを負うおそれがあります。
- 電解液が目、皮膚または衣服に付着した場合は、ただちに大量の水で洗い流してください。目に入った場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

関連情報

- エンジンの始動 (p. 312)

トランスミッション

マニュアルとオートマチックの2つのトランスミッションタイプがあります。

- マニュアルトランスミッション (p. 315)
- オートマチックトランスミッション、ギヤトロニック (p. 317)

! 重要

駆動システムのコンポーネントへの損傷を防止するために、トランスミッションの作動温度が点検されます。オーバーヒートのおそれがある場合には、コンバインド・インストルメント・パネルの警告灯が点灯し、ディスプレイテキストが表示されます。この場合、指示に従ってください。

マニュアルトランスミッション

トランスミッションの機能はギヤレシオを速度と必要な出力に応じて変化させます。



ギヤシフトパターン

マニュアルトランスミッションには6つのギヤがあり、シフトパターンがギヤセクターレバーに記されています。

- ギヤチェンジをしている間は、クラッチペダルを奥まで踏み込みます。
- ギヤチェンジをしているとき以外は、クラッチペダルから足を離してください。

⚠ 警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキを使用してください。ギヤに入れておくだけでは、不十分な場合があります。

リバースギヤインヒビター

リバースギヤインヒビターは、前進時に誤ってリバースギヤにシフトしないように、誤操作を防止します。

- セレクターレバーに印刷されているギヤシフトパターンに従います。ギヤセレクターレバーを **R** 位置に動かす際には、ニュートラルポジション **N** から始めてください。
- リバースギヤへのシフトは、車両が完全に停止してから行ってください。

関連情報

- トランスミッションフルード - グレードおよび容量 (p. 443)
- トランスミッション (p. 315)

ギヤシフトインジケーター*

ギヤシフトインジケーターは、最良の燃費を得るために適切なギヤチェンジのタイミングを表示します。

環境に優しい走行を心がける上で大切な点は、適切なギヤで走行し、余裕を持ってギヤを変更することです。

モデルによっては補助として GSI (Gear Shift Indicator) インジケーターがついているものもあります。これは最良の燃費を得るためにいつギヤチェンジを行えばよいか表示する機能です。しかし、パフォーマンスや振動のない走行といった特性を考慮すると、高めのエンジン回転数でギヤ変更を行う方がよい場合があります。

マニュアルトランスミッション



マニュアルトランスミッション用のギヤシフトインジケーターです。一度に点灯するのはマーカー 1 つだけです。通常の走行時のみ、中央で点灯します。

シフトアップが推奨されるときはカーソルが「+」を点灯させ、シフトダウンが推奨されるときはカーソルが「-」を点灯させます(図の赤印)。

オートマチックトランスミッション



液晶デジタル式コンパインド・メーター・パネル、ギヤシフトインジケーターあり

フレーム内に表示されている数字は、現在のギヤを示しています。



アナログ式コンパインド・メーター・パネルでは、中央にギヤポジションとインジケーター矢印が表示されます。

関連情報

- マニュアルトランスミッション (p. 315)
- オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 317)

オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)*

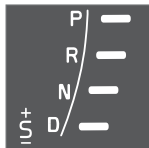
オートマチックトランスミッション、Geartronic(ギヤトロニック)には、エンジンからトランスミッションに駆動力を伝える油圧式トルクコンバーターが搭載されています。オートマチックとマニュアルの2つのギヤモードがあります。



D：オートマチックギヤポジション。+/-：マニュアルギヤポジション。**S**：スポーツモード*。3

ギヤセクターレバーの位置が、コンパインド・メーター・パネルに次のように表示されます：
P、R、N、D、S*、1、2、3など。

ギヤポジション



オートマチックギヤポジションはコンパインド・メーター・パネルの右側に表示されます。(一度にひとつのマーカークランプします。現在のギヤセクターレバーの位置のみを示し

ます。)

スポーツモードのシンボル「**S**」は、このモードが作動するとオレンジ色になります。

P - パーキングポジション

エンジンを始動するときまたは駐車するときは、**P** 位置を選択してください。

ギヤセクターレバーを **P** 位置から動かす場合は、ブレーキペダルを踏み込み、キー位置 (p. 115) を **II** にする必要があります。

P 位置では、トランスミッションが機械的にロック状態になります。駐車するときには、パーキングブレーキもかけてください。パーキングブレーキ (p. 334) を参照してください。

① 注意

車両をロックしてアラームをセットするには、ギヤセクターレバーが **P** 位置であることが条件になります。

① 重要

車両が必ず停止してから、**P** 位置に入れてください。

⚠ 警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキをかけてください。状況によっては、オートマチックトランスミッション車の **P** 位置に入れておくだけでは、不十分な場合があります。

R - リバース

車両が必ず停止してから、**R** 位置に入れてください。

N - ニュートラル

トランスミッションが、どのギヤにも入っていない状態です。エンジンを始動することができます。ギヤセクターレバーが **N** 位置にあり、車両が停止しているときは、パーキングブレーキをかけてください。

ギヤセクターレバーを **N** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏み込み、キー位置 (p. 115) を **II** にする必要があります。

D - ドライブ

D 位置は、通常走行時に使用する位置です。加速に応じて、すべての前進ギヤ間で自動的にシ

* ギヤセクターレバーのギヤシフトパターンは、エンジンオプションによって異なります。

- ◀ フトアップ、シフトダウンが行われます。ギヤセクターレバーを **R** 位置から **D** 位置に動かすときは、必ず車両が停止してから行ってください。

Geartronic(ギヤトロニック) - マニュアルギヤポジション(+/-)

運転者は Geartronic(ギヤトロニック)オートマチックトランスミッションを使用して、手動でギヤチェンジすることもできます。アクセルペダルを放すと、エンジンブレーキがかかります。

レバーを **D** から横の「**+/-**」に動かすとマニュアルギヤポジションになります。コンパインド・メーター・パネルのシンボル「**+/-**」の色が白からオレンジに変わり、選択されたギヤに対応する数字 **1**、**2**、**3** がボックス内に表示されます。

- レバーを前方 **+**(プラス側)に移動するとギヤが一段シフトアップし、レバーを放すと「**+**」と「**-**」の間の中立位置に戻ります。

または：

- レバーを「**-**」(マイナス)側に引いてシフトダウンして放します。

マニュアルギヤシフトモード「**+/-**」は、走行中いつでも選択することができます。

Geartronic(ギヤトロニック)では、車速が選択しているギヤの速度設定範囲を下回ると、自動的にシフトダウンしてノッキングやストールを防ぎます。

オートマチックモードに戻るには：

- レバーを **D** のエンドポジションまで横方向に動かします。

① 注意

スポーツプログラムを装備したトランスミッションの場合、セクターレバーを「**+/-**」位置で前後に動かした後にのみ、マニュアル選択になります。コンパインド・メーター・パネルの表示が、**S** から選択されたギヤポジション(**1**、**2**、**3** など)に変わります。

パドル*

ギヤセクターレバーを使用するマニュアルギヤチェンジに加えて、ステアリングホイールに「パドル」と呼ばれるコントロールがあります。

ステアリングホイールのパドルを使用してギヤチェンジを行うには、まずこれを作動可能状態にする必要があります。これは、パドルのひとつをステアリングホイール側に引いて行います。コンパインド・メーター・パネルの表示が「**D**」から現在のギヤを表す数字へと変わります。

ギヤを一段変更するには：

- パドルのひとつを後方(ステアリングホイール側)に引いて放します。



両方のステアリングホイールパドル

① 「**-**」：ひとつ下のギヤを選択します。

② 「**+**」：ひとつ上のギヤを選択します。

エンジン回転速度が許容範囲内の場合、パドルを引くとギヤチェンジが実行されます。

ギヤチェンジの度に、コンパインド・メーター・パネルの数字が変わり、現在のギヤを表示します。

① 注意

自動解除

ステアリングホイールのパドルが使用されていないとこの機能はしばらくしてから解除されます。コンパインド・メーター・パネルの表示が現在のギヤの表示から「D」へ戻ります。

エンジンブレーキの使用中は例外です。エンジンブレーキの使用中はパドルは作動可能です。

手動解除

ステアリングホイールパドルシフターは手動で解除することもできます。

- 両側のパドルをステアリングホイール方向に引いたまま保持し、コンパインド・メーター・パネルの表示が現在のギヤの数字から「D」に変わった時点で手を離します。

スポーツモード*でもパドルをギヤセクターと共に使用することができます。その場合、パドルは解除されずつねに作動します。

Geartronic(ギヤトロニック) - スポーツモード(S)



スポーツモードでは車両がスポーティな反応を示すようになり、エンジン回転数が高めになります。同時に、アクセルの反応が敏感になります。

アクティブなドライビングでは低めのギヤを優先し、シフトアップのタイミングを遅らせます。

スポーツモードを作動させるには：

- ギヤセクターレバーを **D** から横へ「+S-」まで動かします。コンパインド・メーター・パネルの表示が **D** から **S** へ変わります。

スポーツモードは、走行中いつでも選択することができます。

Geartronic(ギヤトロニック) - ウインターモード

滑りやすい路面では、手動で3速ギヤを選択すると、発進しやすくなる場合があります。

1. ブレーキペダルを踏み、ギヤセクターレバーを **D** から「+/-」(エンドポジション)に動かします。コンパインド・メーター・パネルの表示が、**D** から **1⁴** になります。
2. ギヤレバーを前方「+」(プラス)側に2回押して、3速ギヤを選択します。コンパインド・メーター・パネルの表示が、**1** から **3** になります。

3. ブレーキペダルを放して、注意してアクセルを踏みます。

「ウインターモード」は、低いエンジン回転で駆動輪のエンジンパワーを抑えて発進します。

キックダウン

アクセルペダルをフロアまでいっぱい(通常、フルアクセルと思う位置よりもさらに深く)踏み込むと、自動的に低いギヤにシフトダウンします。これをキックダウンと呼びます。

アクセルペダルをキックダウン位置から戻すと、トランスミッションは再び自動的にシフトアップします。

キックダウンは追い越しなど、最大加速が必要なときに使用してください。

安全機能

エンジンのオーバーレブを防止するために、トランスミッションコントロールプログラムには、ダウンシフトインヒビターが装備されており、キックダウン機能を制限しています。

Geartronic(ギヤトロニック)は、エンジン回転数が高いために、エンジンに損傷を与えるおそれがあるようなダウンシフト/キックダウンは許可しません。エンジン回転速度が高い状態では、この方法でシフトダウンしても、なにも起こりません。もともとギヤがかみ合ったままとなります。

* 車両にスポーツモード*が装備されている場合は、「S」がまず表示されます。

- ◀◀ キックダウンすると、エンジン回転速度に応じて、ギヤ位置が1つ以上シフトダウンします。車速がそのギヤでの最高速度に達すると、エンジンを損傷させないように自動的にシフトアップします。

けん引

車両をけん引する必要がある場合 - けん引 (p. 353) のセクションの重要情報を参照してください。

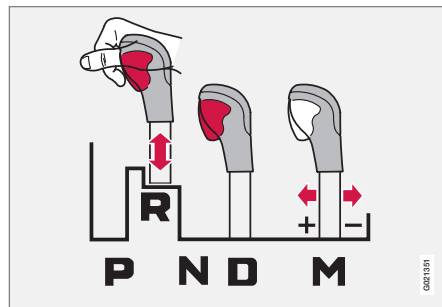
関連情報

- トランスミッションフルード - グレードおよび容量 (p. 443)
- トランスミッション (p. 315)

ギヤセレクターインヒビター

ギヤセレクターインヒビターには、メカニカル式とオートマチック式の2つのタイプがあります。

メカニカルギヤセレクターインヒビター



ギヤセレクターレバーは、**N** 位置と **D** 位置の間で前後に自由に動かすことができます。それ以外の位置はロックされており、レバーにあるインヒビターボタンを押してロックラッチを解除します。

インヒビターボタンを押すと、レバーは **P** 位置、**R** 位置、**N** 位置、**D** 位置の間で前後に自由に動かすことができます。

オートマチックギヤセレクターインヒビター

オートマチックトランスミッションは、特殊な安全装置を備えています：

パーキングポジション(P)

エンジン作動、車両停止：

- ギヤセレクターレバーを他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏みながら動かします。

エレクトリックギヤインヒビター - シフトロックパーキングポジション(P)

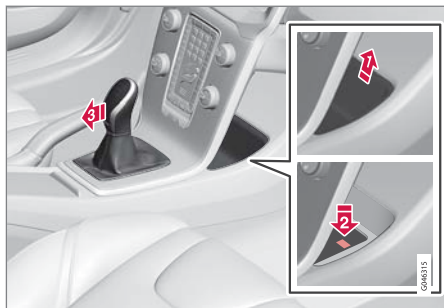
ギヤセレクターレバーを **P** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏み込み、キー位置 (p. 115) を **II** にする必要があります。

シフトロック - ニュートラル(N)

ギヤセレクターレバーが **N** 位置で、車両が約3秒以上停止(エンジン回転とは関係なく)している場合、レバーは固定されます。

ギヤセレクターレバーを **N** 位置から他の位置に動かす場合は、ブレーキペダルを踏み込み、キー位置 (p. 115) を **II** にする必要があります。

オートマチックギヤセレクトアーインヒビターを解除する



バッテリーの放電などが原因で車両を運転できない場合、車両を移動させるためには、ギヤセレクトアーレバーを **P** 位置から動かすことが必要です。

- 1 センターコンソール後方の収納ボックスインサートを持ち上げ、収納ボックスの底部にあるパネ式ボタンを確認します。
- 2 ボタンを押し、そのまま保持します。
- 3 ギヤセレクトアーレバーを **P** 位置から動かし、ボタンから指を離します。
4. 収納ボックスインサートを元通りに取り付けます。

関連情報

- オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 317)

坂道発進支援機能(HSA)*

上り坂で走行または後退を始める前に、フットブレーキを放すことができます。HSA (Hill Start Assist)機能は、坂道発進時に車両が後退するのを防止します。

この機能では、足をブレーキペダルからアクセルペダルへ動かす間の数秒間、ブレーキシテム内の圧力が保持されます。

一時的に保持されるブレーキ効果は、数秒経過するか、運転者が加速すると、解除します。

関連情報

- エンジンの始動 (p. 312)

Start/Stop*

エンジンとトランスミッションの組み合わせによっては、交通渋滞で静止した場合や信号待ちで停止した場合に作動する Start/Stop 機能が装備されています。この機能の働きにより、渋滞や信号待ちのときにはエンジンが自動的に一時停止し、走行が再開できるようになったらエンジンが自動的に再始動します。

環境への配慮は、ボルボ・カー・コーポレーションの全活動を導くコア・バリューです。この目標志向により、いくつかのエネルギー節約機能が生まれましたが、Start/Stop もその一つです。これらはすべて燃費を向上させるための課題を集大成したもので、その結果排気ガスのエミッションも抑えることができました。

Start/Stop について



エンジンが停止します。より静かでクリーンになります。

- Start/Stop 機能では、適時にエンジンをオートストップさせることができるため、能動的に環境に配慮した走行を心がけることができます。

車両のメニューシステム MY CAR (p. 147) の Drive-E には、ボルボの Start/Stop システムの情報と、経済走行のための推奨事項が含まれています。

マニュアルトランスミッションまたはオートマチックトランスミッション

トランスミッションがマニュアルかオートマチックかで Start/Stop 機能は異なりますのでご注意ください。

関連情報

- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 322)
- エンジンの始動 (p. 312)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない (p. 326)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする (p. 325)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 324)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 327)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 328)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)

Start/Stop* - 機能と操作

Start/Stop 機能は、キーを使用してエンジンを始動すると自動的に作動します。



Start/Stop 機能は、キーを使用してエンジンを始動すると自動的に作動します。運転者にこの機能への注意を促すために、コンパインド・メーター・パネルのオン/オフボタンのシンボルが点灯し、オン/オフボタン⁵内のランプが点灯します。

エアコンディショナーシステムのファンを高速で使用している場合や、極端な大音量でオーディオシステムを使用している場合などでは、こうした機能が一時的に軽減される場合がありますが、照明やラジオなど車両の通常のシステムは、エンジンオートストップ中も通常通り機能します。

エンジンのオートストップ

エンジンのオートストップが機能するには、以下の条件が整っている必要があります。

条件	M/A A
クラッチペダルを踏んで、セレクトアーレバーをニュートラル位置に動かして、クラッチペダルから足を離してください。エンジンが自動的に停止します。	M
フットブレーキを使用して車両を停止し、足をペダルに乗せたままにしてください。エンジンがオートストップします。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。



ECO 機能が作動している場合、車両が完全に静止する前にエンジンがオートストップすることがあります。

エンジンタイプによっては、ECO 機能の作動有無に関わらず、車両が静止する前にエンジンがオートストップすることがあります。



エンジンがオートストップした場合は、Start/Stop 機能用のコンパインド・メーター・パネルのシンボルが点灯します。

⁵ ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

エンジンのオートスタート

条件	M/ A ^A
セレクターレバーがニュートラル位置にあるときに： - クラッチペダルを踏み込むか、アクセルペダルを踏んでください。エンジンが始動します。 - 適切なギヤに入れ、走行してください。	M
フットブレーキをゆるめてください。エンジンがオートスタートし、走行を再開することができます。	A
フットブレーキを踏んだまま、アクセルペダルを踏み込んでください。エンジンがオートスタートします。	A
下り坂走行時には、以下のオプションも利用できます。 フットブレーキをゆるめ、車両を発進させてください。通常の歩行速度を上回ると、エンジンが始動します。	M + A

^A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

Start/Stop 機能の解除



状況によっては、オート Start/Stop 機能を一時的にオフにした方がよい場合があります。これは、このボタンを押すことで実行できます⁵。



機能が解除されると、コンパインド・メーター・パネルの Start/Stop シンボルとボタンのランプが消灯します。



Start/Stop 機能は、ボタンを押して再起動するか、次回キーを使ってエンジンが始動されるまで解除されたままとなります。

スタートアシスタンス HSA

上り坂で停止している場合に、フットブレーキを放すとエンジンをオートスタートすることができます。HSA (p. 321) (Hill Start Assist) 機能が車両が後退するのを防ぎます。

HSA 機能は、エンジンがオートストップした状態から走行を再開する際に、足をブレーキペダルからアクセルペダルへ動かす間の数秒間、ブレーキシステム内の圧力を保持する機能です。一時的に保持されるブレーキ効果は、数秒経過するか、運転者が加速すると、解除されます。

関連情報

- Start/Stop* (p. 321)
- エンジンの始動 (p. 312)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない (p. 326)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする (p. 325)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 324)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 327)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 328)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)

⁵ ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

Start/Stop* – エンジンが停止しない

Start/Stop 機能が起動していても、エンジンは必ずしも自動的に停止するとは限りません。

次の場合にはエンジンはオートストップしません。

条件	M/A A
キーで始動した後、または直前のオートストップの後、車速が約 10 km/h (6 mph) に達していないとき。	M + A
運転者がシートベルトのバックルを外したとき。	M + A
バッテリーの容量が最低許容レベルを下回っているとき。	M + A
エンジンが通常の作動温度に達していないとき。	M + A
外気温が氷点前後または約 30 °C を超えているとき。	M + A
ウインドスクリーンの電熱機能が作動しているとき。	M + A
空調が事前に設定されている値 ^B と異なります。換気ファンが高速で回転していることで示されます。	M + A

条件	M/A A
車両が後退しているとき。	M + A
メインバッテリーの温度が氷点下か、高すぎる時。	M + A
運転者がより大きくステアリングホイールを操作したとき。	M + A
エキゾーストシステムの粒子フィルターがいっぱいになったとき。一時的に非作動になった Start/Stop 機能は、自動クリーニングサイクル が実行されるとすぐに再起動されます (ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF) (p. 344) 参照)。	M + A
道路の勾配が非常に急なとき。	M + A
車両の電気系統にトレーラーが電氣的に接続されているとき。	M + A
ボンネットが開いているとき ^C 。	M + A
トランスミッションが通常の作動温度に達していないとき。	A

条件	M/A A
大気圧が海拔 1,500～2,500 m に相当する気圧以下であるとき。大気圧は周囲の気象条件により変化します。	A
アダプティブクルーズコントロール渋滞アシスタントが起動しているとき。	A
ギヤセレクターレバーが D の位置から R 、 S の位置 ^D 、 ^E または「+/-」の位置になったとき ^E 。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

B ECC 搭載車両

C 一部のエンジンのみ。

D スポーツモード

E ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。

関連情報

- Start/Stop* (p. 321)
- Start/Stop* – 機能と操作 (p. 322)
- エンジンの始動 (p. 312)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートしない (p. 326)
- Start/Stop* – エンジンがオートスタートする (p. 325)
- Start/Stop* – 不意の停止 (マニュアルトランスミッション) (p. 327)

- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 328)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)

Start/Stop* - エンジンがオートスタートする

運転者が走行を継続する意思がなくても、オートストップしたエンジンが再始動する場合があります。

以下のような状況では、運転者がクラッチペダルを踏み込んでいない場合(マニュアルトランスミッション)や、ブレーキペダルから足を離した場合(オートマチックトランスミッション)に、エンジンがオートスタートします：

条件	M/A ^A
ウインドが曇ったとき。	M + A
空調が事前に設定されている値 ^B と異なっているとき。	M + A
一時的に電流消費量が増加しているときや、バッテリー容量が最低許容レベルを下回ったとき。	M + A
ブレーキペダルを何度も踏み込んだとき。	M + A
ボンネットが開いているとき ^C 。	M + A

条件	M/A ^A
車両が動き始めたとき、または、車両が完全に静止することなくオートストップした場合に速度が少し上昇したとき。	M + A
ギヤセクターレバーが D または N の位置のときに運転席ベルトロックが外されたとき。	A
ステアリングホイールを操作しているとき ^C 。	A
ギヤセクターレバーが D の位置から S の位置 ^{DE} 、 R または「+/-」の位置になったとき ^E 。	A
ギヤセクターレバーが D の位置のときに運転席ドアが開かれたとき。「ピーン」という音とディスプレイテキストにより、Start/Stop 機能がアクティブであることがわかります。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。
 B ECC 搭載車両
 C 一部のエンジンのみ。
 D スポーツモード
 E ガソリンエンジン搭載車にのみ適用されます。





警告

エンジンがオートストップした際には、ボンネットを開けないでください。エンジンが突然オートスタートする場合があります。ボンネットを開ける前に、**START/STOP ENGINE** ボタンを使用して通常通りエンジンを停止してください。

関連情報

- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 322)
- エンジンの始動 (p. 312)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない (p. 326)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 324)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 327)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 328)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)
- Start/Stop* (p. 321)

Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない

エンジンは、オートストップの後、オートスタートしないことがあります。

以下の状況では、オートストップ後もエンジンがオートスタートしません。

条件	M/ A ^A
クラッチを切らずにギヤがかみ合っているとき。オートスタートさせるには、セレクターレバーをニュートラル位置に入れるようディスプレイテキストが表示されます。	M
運転者がシートベルトを着用していません。	M
運転者がシートベルトを着用しておらず、ギヤセレクターレバーが P 位置で運転席ドアが開いているとき。この場合通常のエンジン始動手順を実施することが必要です。	A

^A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

関連情報

- Start/Stop* (p. 321)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 322)
- エンジンの始動 (p. 312)

- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする (p. 325)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 324)
- Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション) (p. 327)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 328)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)

Start/Stop* - 不意の停止(マニュアルトランスミッション)

始動に失敗し、エンジンが停止した場合には、以下の手順に従ってください。

1. 運転席のシートベルトがシートベルトバックルに固定されているか確認してください。
2. クラッチペダルをもう一度踏み込んでください。エンジンが自動的に始動します。
3. 場合によっては、セクターレバーをニュートラル位置にすることが必要です。この場合、コンパインド・メーター・パネルには、テキスト **ギアをニュートラルにする** が表示されます。

関連情報

- Start/Stop* (p. 321)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 322)
- エンジンの始動 (p. 312)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない (p. 326)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする (p. 325)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 324)
- Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ (p. 328)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)

Start/Stop* - シンボルおよびメッセージ

Start/Stop 機能は、コンパインド・メーター・パネルにディスプレイテキストを表示することができます。

ディスプレイテキスト

 このインジケータランプとともに、Start/Stop 機能によりコンパインド・メーター・パネルにディスプレイテキストが表示する場合があります。このような場合に

は、実施すべき推奨手順があります。いくつかの例が以下の表に示されています。

シンボル	メッセージ	情報/処置	M/A*
	オートスタート/ストップ サービスが必要です	Start/Stop が機能していません。ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。	M + A
	オートスタート エンジン回転中 + 警告音	エンジンがオートストップした状態およびギヤセクターレバーが D 位置の状態では運転席ドアを開けると作動します。	A
	スタートボタンを押して下さい	エンジンはオートスタートしません。通常通り START/STOP ENGINE ボタンで始動してください。	M + A
	クラッチペダルを踏んで 始動して下さい	エンジンはオートスタートの準備が整っており、クラッチペダルが踏み込まれるのを待っています。	M
	ブレーキとクラッチを踏んで 始動して下さい	エンジンはオートスタートの準備が整っており、ブレーキまたはクラッチペダルが踏み込まれるのを待っています。	M
	ギヤをニュートラルに 入れて始動して下さい	クラッチを解除せずにギヤがかみ合っています。ギヤを解除して、セクターレバーをニュートラル位置に入れてください。	M

* オプション/アクセサリ。

シンボル	メッセージ	情報/処置	M/A ^A
	ポジションを P または N に入れてから始動して下さい	Start/Stop 機能は解除されています。ギヤセクターレバーを N または P 位置にし、 START/STOP ENGINE ボタンを押して、通常通りにエンジンを始動してください。	A
	スタートボタンを押して下さい	エンジンはオートスタートしません。 START/STOP ENGINE ボタンを押し、ギヤセクターレバーを P または N 位置にしてエンジンを通常通り始動してください。	A

A M = マニュアルトランスミッション、A = オートマチックトランスミッション。

処置をおこなってもメッセージが消えない場合には、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場を推奨します。

関連情報

- Start/Stop* (p. 321)
- Start/Stop* - 機能と操作 (p. 322)
- エンジンの始動 (p. 312)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートしない (p. 326)
- Start/Stop* - エンジンがオートスタートする (p. 325)
- Start/Stop* - エンジンが停止しない (p. 324)
- Start/Stop* - 不意の停止 (マニュアルトランスミッション) (p. 327)
- バッテリー - Start/Stop (p. 407)

ECO ドライブモード*

ECO⁶ はオートマチックトランスミッション車向けの画期的な機能で、燃料消費量を、運転スタイルに応じて、最大 5%削減できます。この機能を使用すると、運転者は環境に優しい運転を一層積極的に行うことができます。

概要



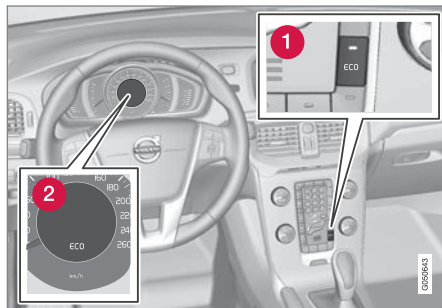
ECO 機能をオンにすると、以下の点に変化が生じます。

- トランスミッションでのシフトポイント
- エンジンマネジメントおよびアクセルペダルのレスポンス
- Start/Stop 機能 - 車両が完全に静止する前にエンジンオートストップが可能。
- Eco Coast 機能がオンになる - エンジンブレーキが解除される。
- エアコンディショナーシステムの設定 - 一部の電力消費機器が解除されるか、または出力制限付き作動する。

注意

ECO 機能をオンにすると、エアコンディショナーシステムの設定のいくつかのパラメーターが変更され、一部の電力消費機器の機能が制限されます。一部の設定は手動でリセットできますが、すべての機能を回復させるには、ECO 機能をオフする必要があります。

ECO - 操作



① ECO オン/オフ

② ECO シンボル

エンジンを切ると、ECO 機能は解除されます。したがって、エンジンの始動後、毎回作動させる必要があります。一部のエンジンは例外ですが、この機能が作動しているときには、コンパ

インド・メーター・パネルの ECO シンボルと ECO ボタンのランプの点灯で簡単に確認することができます。

ECO 機能オンまたはオフ



ECO 機能が解除されると、コンパインド・メーター・パネルの ECO シンボルと ECO ボタンのランプが消灯します。この機能は、ECO ボタンをもう一度押すまでオフのままになります。



Eco Coast - 機能

Eco Coast サブ機能では、エンジンブレーキが解除され、代わりに車両の運動エネルギーを惰性走行に使用して、惰性走行の距離を伸ばします。運転者がアクセルペダルから足を離すと、トランスミッションとエンジンの接続が自動的に切り離され、エンジン回転数は最小限の燃料消費でアイドリング回転数まで低下します。

この機能は、制限速度の低い区間に入るときなど、減速が予想されている状況での使用が想定されています。

Eco Coast は先を見越した運転を可能にし、運転者はいわゆる「Pulse & Glide」技術を用いて、ブレーキの使用を最小限に抑えることができます。

⁶ V40 CROSS COUNTRY (AWD 車) には装備不可。

Eco Coast と一時的な ECO 機能解除を組み合わせた場合も、全体として燃料消費量の低減に役立ちます。したがって以下のようになります：

- Eco Coast オン：エンジンブレーキなしで長距離の惰性走行 = 低燃料消費

および

- ECO 機能解除：エンジンブレーキ使用で短距離の惰性走行 = 最小燃料消費

① 注意

ただし、最適な低燃費を実現するために、使用距離が短い場合には Eco Coast の使用を避けてください。

Eco Coast の起動

以下の条件が満たされているときに、アクセルペダルから完全に足を離すと、機能が起動します。

- ECO ボタンがオン
- ギヤセクターレバーが **D** 位置
- 速度が約 65-140 km/h (40-87 mph) の範囲内
- 下り坂の場合、勾配が約 6%以下

Eco Coast を解除する

状況により、Eco Coast 機能を解除することが望ましい場合があります。例えば、以下のような状況が該当します。

- 急勾配の下り坂 - エンジンブレーキの使用が必要になるため。
- 追い越し操作が迫っている場合 - 可能な限り安全に追い越しを完了できるようにするため。

Eco Coast の解除とエンジンブレーキの使用再開は、以下の手順で行うことができます。

- **ECO** ボタンを押してください。
- セクターレバーをマニュアル「**S+/-**」位置にします。
- ステアリングホイールパドルシフターを使用して、ギヤチェンジを行います。
- アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み込みます。

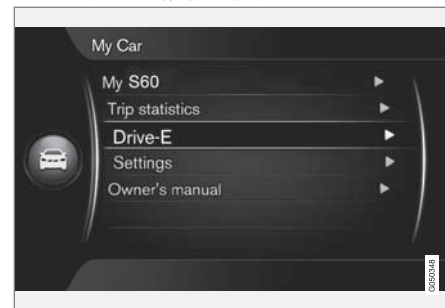
Eco Coast - 機能の限界

以下の場合、この機能は使用できません。

- クルーズコントロールが作動している
- 下り坂で勾配が約 6%を超えている
- ステアリングホイールパドルシフター*を使用して、マニュアルギヤチェンジを行った
- エンジンとトランスミッションの両方、またはどちらか一方が通常作動温度ではない

- ギヤセクターレバーを **D** から「**S+/-**」位置に動かし
- 速度が約 65-140 km/h (40-87 mph) の範囲から外れている

さらに詳しい情報と設定



車両のメニューシステム **MY CAR** には、ECO コンセプトに関する詳細情報が含まれています。MY CAR (p. 147)を参照してください。

関連情報

- エアコンディショナーご使用にあたって (p. 162)

フットブレーキ

フットブレーキは、走行速度を減速するために使用します。

車両には、2つのブレーキ回路があります。一方のブレーキ回路が損傷すると、ブレーキペダルのストロークが長くなり、通常よりも強い力でペダルを踏み込まなければ正常な制動効果が得られない状態になります。

ブレーキサーボは、ブレーキペダルの踏力を補助する働きをします。

警告

ブレーキサーボは、エンジン作動時にのみ作動します。

エンジンが停止しているときにブレーキペダルを踏むと、エンジン回転時と比べてペダルが硬く感じられ、車両の制動にいつもより大きな力を必要とします。

坂道や起伏のある場所に駐車している場合、坂道発進支援機能(HSA)* (p. 321)*機能装備車両は、ペダルが普段よりもゆっくりと通常的位置に戻ります。

起伏の激しい地域や、重い荷物を積載して走行するときは、エンジンブレーキを使用してください。長い下り坂を走行するときは、上りのときと同じギヤを使用すると、エンジンブレーキをもっとも効率的に活用することができます。

重い荷物を積載したときについては、エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 439)を参照してください。

濡れた路面におけるブレーキ作動

大雨の中をブレーキを踏むことなく長時間に渡り走行した場合、その後ブレーキを使用した際にブレーキの効きがわずかに遅れる場合があります。この現象は、洗車後にも起こる場合があります。こういった場合は、強めにブレーキを踏み込む必要があります。このような場合に備え、先行車両との距離は十分にとるようにしてください。

濡れた路面を走行後、および洗車後は、ブレーキをしっかりと踏み込みます。これによりブレーキディスクが温まり、より素早く乾燥し、腐食から保護します。ブレーキをかけるときは、そのときどきの交通状況を考慮してください。

融雪剤が散布された路面におけるブレーキ作動

融雪剤が散布された路面を走行すると、塩分の層がブレーキディスクとブレーキパッドに形成される場合があります。これにより、制動距離が長くなることがあります。そのため、先行車両との安全距離を通常よりも長くするようにしてください。また、以下の点についても注意が必要です。

- 何度かブレーキをかけ、塩分の層を取り除きます。ブレーキをかけることにより、他の道路利用者に危険がおよばないようにします。
- 走行を終了する際、および次の走行を開始する前に、ゆっくりとブレーキペダルを踏みま

メンテナンス

信頼できる安全性能を維持するため、整備手帳・保証書に記載されているボルボメンテナンスサービス間隔に従って、定期点検を行って下さい。

交換したばかりの新品のブレーキパッドおよびブレーキディスクは、数百キロメートル走行して部品が馴染むまでは本来の制動効果を発揮しません。制動効果の不足分を補うために、ブレーキペダルを通常よりも強めに踏み込んでください。ボルボでは、認定されたブレーキパッドの使用を推奨しています。

重要

ブレーキシステム構成部品の摩耗状況を定期的に点検してください。

手順に関する情報をサービス工場にお問い合わせいただくか、サービス工場に点検を依頼してください。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

コンパインド・メーター・パネル内のシンボル

シンボル	意味
	警告灯が点灯したままの場合は、ブレーキフルードレベルを点検してください。ブレーキフルードレベルが低いときは補充し、ブレーキフルードが減った原因を確認してください。
	エンジン始動時に2秒間点灯します。これは自動機能点検です。

⚠ 警告

 と  が両方同時に点灯している場合は、ブレーキシステムに不具合があるおそれがあります。

リザーバータンクのブレーキフルードレベルが正常であるにも関わらず警告灯が点灯し続ける場合は、最寄りのボスが指定のサービス工場まで慎重に走行し、ブレーキシステムの点検を受けてください。

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。

ブレーキフルードが減った原因を確認してください。

関連情報

- パーキングブレーキ (p. 334)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 334)
- フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 334)
- フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム (p. 333)

フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム

アンチロックブレーキシステム ABS (Anti-lock Braking System) は、ブレーキ時にホイールがロックされるのを防ぎます。

この機能は、操舵が可能な状態を保ち、ハンドル操作で衝突を回避できるようにします。ABS が作動すると、ブレーキペダルに振動が感じられる場合がありますが、これは異常ではありません。

エンジン始動後、ブレーキペダルから足を放したときに、ABS の自己診断機能が短時間作動します。低速走行時に、ABS システムの自動テストがさらに行われることがあります。このテスト中には、ブレーキペダルで振動が感じられることがあります。

関連情報

- フットブレーキ (p. 332)
- パーキングブレーキ (p. 334)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 334)
- フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 334)

フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯

アダプティブブレーキランプは、急ブレーキをかけた際、後続車にそれを知らせて注意を促すためのものです。このライトは通常のブレーキランプ(点灯)と異なり、点滅を繰り返します。

アダプティブブレーキランプは、50 km/h (31 mph) を超える速度で走行中に ABS が作動しているとき、および/または急ブレーキをかけたときに作動します。車速が 10 km/h (6 mph) を下回ると、ブレーキランプは点滅から通常の点灯に戻ります。同時に、非常点滅灯 (p. 133) が作動し、運転者が加速して車速が 20 km/h (12 mph) 以上になるかボタンで解除されるまで点滅を続けます。

関連情報

- フットブレーキ (p. 332)
- パーキングブレーキ (p. 334)
- フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス (p. 334)
- フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム (p. 333)

フットブレーキ - エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス

エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス EBA (Emergency Brake Assist) は、ブレーキ力を強めて制動距離を短めます。

EBA は、運転者のブレーキ操作の傾向を感知して必要に応じてブレーキ力を強めます。ブレーキ圧力は、ABS システムが作動するレベルまで増大します。EBA 機能は、ブレーキペダルの踏力が弱まると一時停止します。

注意

EBA 機能が作動し、フルブレーキ効果を発揮している間は、ブレーキペダルが通常よりも少し奥に入りますが、ブレーキペダルは離さずに踏み続けてください。ブレーキペダルを離すと、ブレーキの作動が止まります。

関連情報

- フットブレーキ (p. 332)
- パーキングブレーキ (p. 334)
- フットブレーキ - アダプティブブレーキランプおよび自動非常点滅灯 (p. 334)
- フットブレーキ - アンチロックブレーキシステム (p. 333)

パーキングブレーキ

パーキングブレーキは、ホイール 2 輪を機械的にロック/ブロックして、静止状態の車両が動き出すことを防止します。

警告

坂道に駐車する際には、必ずパーキングブレーキを使用してください。状況によっては、ギヤ(オートマチックトランスミッション車の場合は **P**) に入れておくだけでは、不十分な場合があります。



コンパインド・メーター・パネルの警告灯

パーキングブレーキの作動

1. フットブレーキペダルを踏み込みます。

2. パーキングブレーキレバーを確実に引きます。
 > コンパインド・メーター・パネルに警告灯  が点灯します。警告灯はパーキングブレーキをかける強さに関係なく点灯します。
3. フットブレーキペダルをゆるめて、車両が静止したままであることを確認します。
4. 車両が動く場合は、パーキングブレーキレバーをさらに強く引く必要があります。

駐車時はつねに、1 速ギヤをかみ合わせておく(マニュアルトランスミッション)か、またはギヤセクターレバーを **P** 位置(オートマチックトランスミッション)に入れます。

坂道での駐車

上り坂で駐車する場合：

- ステアリングホイールを**車道側**に若干回します。

下り坂で駐車する場合：

- ステアリングホイールを**歩道側**に若干回します。

パーキングブレーキの解除

1. フットブレーキペダルを踏み込みます。

2. レバーを若干持ち上げ、ボタンを押しながらレバーを解放し、ボタンから手を離します。
 > コンパインド・メーター・パネルの警告灯が消灯します。

運転者がパーキングブレーキを解除し忘れたまま車速が 10 km/h (6 mph) を超えると、警告灯の点灯に加え、警告音が鳴り、コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されて運転者に注意を促します。

関連情報

- フットブレーキ (p. 332)

水たまりでの運転

水たまりでの運転とは、冠水した道路上の深い水たまりを通る走行を意味します。その際は、十分な注意が必要です。

水深が 25 cm 以下の場合、歩行速度未満で走行することが可能です。水の流れがある場合は、十分に注意して走行してください。

水たまりを走行するときは、低速を維持し、車両を停止させないでください。水たまり通過後、ブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキの効き具合を確認してください。ブレーキライニングが濡れたり泥が付着すると、ブレーキが効くまでの時間が長くなるおそれがあります。

- 水たまりなどを走行した後は、必要に応じてエレクトリックヒーターおよびトレーラーカップリングのコネクターを清掃してください。
- ドアシルに届くほどの深い水たまりに、長い間停車しないでください。電気装置の故障の原因となるおそれがあります。

❗ 重要

エアフィルターに水が入ると、エンジンが損傷するおそれがあります。

水深 25 cm 以上の水たまりを走行すると、トランスミッション内部に水が入るおそれがあります。システム内のフルードを混濁させて、システムの耐用年数が短くなるおそれがあります。

コンポーネント、エンジン、トランスミッション、ターボチャージャー、ディファレンシャル、またはその内部コンポーネントが洪水、静水ロック、またはオイル不足により損傷した場合、保証は適用されません。

深い水たまりの中でストールしたときは、エンジンを再始動しないでください。車両をけん引して、水たまりから外に出して、ボルボ指定のサービス工場に搬送してください。エンジン故障の危険があります。

関連情報

- 車両移動 (p. 355)
- けん引 (p. 353)

オーバーヒート

起伏の激しい地域や気温が高いときなど特殊な条件では、エンジンや駆動システムがオーバーヒートする場合があります。特に重い荷物を積載しているときは、ご注意ください。

トレーラーけん引時にオーバーヒートが発生した場合の情報は、トレーラーなどのけん引 (p. 346) を参照してください。

- 気温の高い状況下で走行するときは、グリルの前に補助ライトなどを取り付けしないでください。
- エンジンのクーリングシステムの温度が異常に高くなると、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイに警告灯が点灯して、ディスプレイテキスト **エンジン高温 安全に停車して下さい** が表示されます。安全な場所に停車して、エンジンを数分間アイドリングさせて温度を下げてください。
- ディスプレイテキスト **エンジン高温 エンジンを停止して下さい** または **クーラントレベル低下 安全に停車して下さい** が表示された場合は、停車してエンジンを止めてください。
- トランスミッションのオーバーヒートのおそれがある場合には、内蔵の保護機能が作動し、コンパインド・メーター・パネルの警告灯が点灯し、ディスプレイテキスト **トランスミッション高温 減速して下さい** または **トランスミッション高温 安全に停車し 冷却するまで待機** が表示されます。表示された指示に従って減速

し、安全な場所に停車して、エンジンを数分間アイドリングさせ、トランスミッションの温度を下げてください。

- 車両がオーバーヒートすると、冷暖房が一時的に停止する場合があります。
- 長時間過酷な条件下で走行した後は、停車直後にエンジンを停止しないでください。

① 注意

エンジン停止後も、エンジンクーリングファンがしばらく回転を続ける場合がありますが、これは異常ではありません。

関連情報

- トレーラーを使用した走行 - マニュアルトランスミッション (p. 347)
- トレーラーを使用した走行 - オートマチックトランスミッション (p. 347)

テールゲートを開けたままの走行

テールゲートを開けたまま走行する際に、有害な排気ガスがカーゴスペースから車内へ入ることがあります。

警告

テールゲートを開けたまま、走行しないでください。テールゲート開口部から、有害な排気ガスを車内に引き込んでしまうおそれがあります。

関連情報

- 荷物の積み込み (p. 189)

過負荷 - メインバッテリー

車内のさまざまな電気機器により、バッテリーにさまざまな負荷が加わります。エンジン停止時のキー位置 II は避けるようにしてください。代わりに、I モードを使用すると、電力の消費を抑えることができます。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。

電気系統に負担をかけるような、各種アクセサリにも注意してください。エンジンを停止しているときに、電力を大量に消費するような機能を使用しないでください。そのような機能の例は：

- ベンチレーションファン
- ヘッドライト
- ウインドスクリーンワイパー
- オーディオシステム(大音量)

バッテリー電圧が低下すると、インフォメーション・ディスプレイに**バッテリー電圧低下 パワーセーブモード**のメッセージが表示されます。バッテリーの負担を軽減するために節電機能が働いて、ベンチレーションファンやオーディオシステムなど、一部の機能を解除または制限します。

- この場合には、エンジンを始動し、走行するなど、エンジンを最低 15 分回転させたままにして、バッテリーを充電してください。バッテリーは、車両が静止したままエンジンをアイドリングさせるよりも、走行時の方が効率よく充電できます。

関連情報

- メインバッテリー - 概要 (p. 404)

長距離走行の前に

長距離走行の前には、以下の点検を行いましょ
う。

- エンジンの作動状態や燃料消費量(p. 447)
が正常かどうか確認してください。
- 燃料、オイル、その他のフルードなどが漏れ
ていないか確認してください。
- すべてのバルブ(電球)の機能、およびタイヤ
のトレッドの深さを点検してください。
- 一部の国では、三角警告板(停止表示板)
(p. 370)の装備が法律により義務付けられ
ています。

関連情報

- エンジンオイル - 点検および補充
(p. 390)
- スペアタイヤ* (p. 364)
- ランプ交換 - 一般 (p. 393)

冬季の運転

冬季の運転では、安全に走行するためいくつ
かの点検を行うことが重要です。

注意事項:

冷寒時は、特に次の点にご注意してください。

- グリコールを 50%含むエンジnakラント
(p. 442)を必ず使用してください。この
クーラントは約 -35℃までエンジンを凍結
から保護します。健康を害する危険を避け
るため、異なる種類のクーラントを混合しな
いでください。
- 凝結水が発生しないように、燃料タンクを満
タンにしてください。
- エンジンオイルの粘度は非常に重要です。
粘度の低いオイル(やわらかいオイル)を使
用すると冷寒時にエンジンが始動しやす
くなり、またエンジンが暖機されるまでの燃料
消費量が低減されます。適切なオイルにつ
いての詳細は、エンジンオイル - 過酷な走
行条件 (p. 439)を参照してください。

❗ 重要

過酷な条件下で走行するときや、気温が高い
ときは、粘度の低いオイルは絶対に使用しな
いでください。

- バッテリーの状態および充電レベルを、必ず
点検してください。冷寒時はバッテリーに
大きな負担がかかり、容量が低下します。
- リザーバータンクの凍結を防ぐため、不凍性
のウォッシャー液(p. 403)を使用してくだ
さい。

降雪や路面凍結のおそれがあるときは、ロード
ホールディングを最適化するため、ボルボ社で
は全輪へのウインタータイヤの装着をお薦めし
ます。

① 注意

一部の国では、ウインタータイヤの使用が法
律によって義務付けられています。一部の
国では、スタッドタイヤの使用が禁止されて
います。

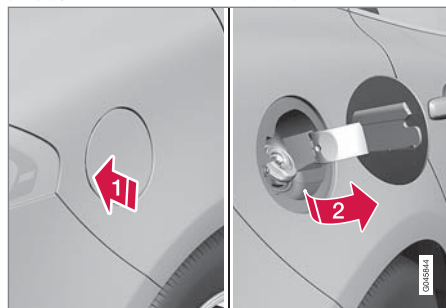
スリップしやすい路面での運転

スリップしやすい路面での運転を体験してくだ
さい。安全で、なおかつスリップしやすい場所
を選んで運転し、車両がどのような動きをする
か体験してください。

燃料給油口フラップ - 開閉

燃料給油口フラップは次のように開閉します。

燃料給油口フラップの開閉



1 ハッチの後ろ側を軽く押して、燃料給油口フラップを開けます。

2 フラップを外します。

燃料補給が終わったらフラップを閉じます。

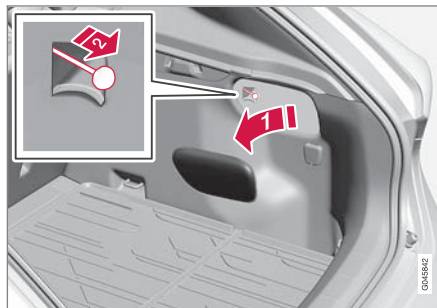
燃料給油口フラップのロック/ロック解除については、ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ (p. 215)を参照してください。また、燃料給油口フラップのロック機能は、キーレスシステムおよびセントラルロックシステムのロック/ロック解除と連動します。

関連情報

- 適切な給油方法 (p. 339)

燃料給油口フラップ - 手動

燃料給油口フラップを外側から開けることができれば、手動で開けることができます。



1 カーゴスペースのサイドハッチを開き、取り外します(燃料給油口フラップと同じ側)。

2 ラインをまっすぐ後ろ向きに引きます。フラップは外側から開けることができます。

重要

ワイヤーは丁寧に引てください。ハッチロックを解除するのに、ほとんど力は要りません。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ (p. 215)
- 適切な給油方法 (p. 339)

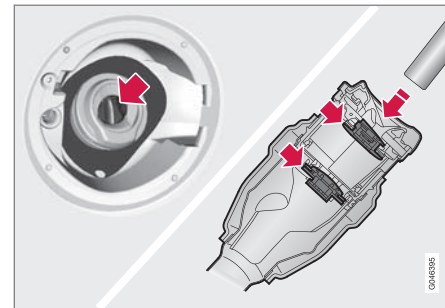
適切な給油方法

燃料タンクには、給油キャップのない燃料給油口システムが取り付けられています。給油は次の手順で行います。

重要

- ディーゼルエンジン搭載車にディーゼル以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- ガソリンエンジン搭載車にガソリン以外の燃料を補給しては絶対にいけません。
- 指定グレードの燃料を使用してください。

誤った燃料を少量でも使用すると、燃料系統やエンジンが損傷するおそれがあります。



- ◀ 1. 燃料給油口フラップを開けます。
2. 車両への使用が承認されている燃料を使用してください。
- 承認されている燃料の詳細については、ガソリン (p. 341) およびディーゼル (p. 342) のそれぞれの項を参照してください。
3. ポンプのノズルを燃料給油口に差し込みます。注意しながらノズルを**確実に**フィルターパイプに挿入してください。フィルターパイプは、開く 2 つのフラップで構成されています。必ず両方のフラップの奥までノズルを押し入れてから、給油を開始してください。
4. 燃料タンクに燃料を入れ過ぎないようにご注意ください。給油機が最初に自動停止した時点で、給油をやめてください。

① 注意

過度に給油すると、気温の高いときはタンク内の燃料が膨張して漏れ出すおそれがあります。

① 注意

燃料がこぼれないように、燃料補給完了後約 5～8 秒待つてからノズルを外すようにしてください。

関連情報

- 燃料容器での給油 (p. 344)
- 燃料給油口フラップ - 開閉 (p. 339)

燃料 - 取り扱い

エンジン出力が低下したり燃費が悪化するおそれがありますので、ボルボ社が指定するグレードに満たない燃料は使用しないでください。

⚠ 警告

燃料の蒸気を吸い込んだり、燃料の飛沫が目に入ったりしないように、つねに注意してください。

万が一、燃料の飛沫が目に入った場合、コンタクトレンズを使用している際はコンタクトレンズを取り出して、十分な流水で最低 15 分間目を濯いだ後、医師による診察を受けてください。

燃料は絶対に誤飲しないでください。ガソリンやディーゼルなどの燃料は毒性が非常に強く、飲み込んだ場合、永久的な障害、あるいは死にいたるおそれがあります。万が一、燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

地面にこぼれた燃料が、引火するおそれがあります。

燃料を補給する前に、フューエルドリブンヒーターのスイッチを必ずオフにしてください。(該当車両)

絶対に電源の入った携帯電話を携帯して燃料を補給しないでください。受発信の際の微弱な電流から出る火花により燃料蒸気に引火して、火災やヤケドを負うおそれがあります。

❗ 重要

異なるタイプの燃料を混合した場合や、推奨されていない燃料を使用した場合には、ボルボの保証およびその他のサービス契約はすべて無効になります。これは、どのエンジンにも当てはまります。

ⓘ 注意

悪天候、トレーラーをけん引しながらあるいは標高の高い地域での走行、不適切な燃料の使用などが組み合わせると、車両が本来の性能を発揮できない場合があります。

関連情報

- 経済走行 (p. 345)

燃料 - ガソリン

ガソリンはガソリンエンジン搭載車用のエンジン燃料です。

大手メーカーのガソリンのみを使用してください。品質が疑われるような燃料は、絶対に使用しないでください。ガソリンは、EN 228 または JIS K 2202 規格に適合している必要があります。

❗ 重要

- エタノール含有量が体積パーセントで 10%以下の燃料が使用できます。
- JIS K2202 E3、JIS K2202 E10 および EN 228 E10 ガソリン(体積パーセントで 10%以下のエタノール混合)は使用が許可されています。
- エタノールの混合率が E10(体積パーセントで 10%以下のエタノール混合)よりも高い燃料(例：E85)は使用が禁止されています。

オクタン価

- 通常の走行条件では、95 RON 以上のガソリンを使用することができます。
- 性能を最適化し、燃料消費量を低減するため、98 RON の使用をお勧めします。

外気温が+38 °C以上の天候下で走行する場合は、性能を最適化して燃費をよくするため、で

きるだけ高いオクタン価のガソリンを使用してください。

❗ 重要

- 触媒コンバーターが損なわれないよう、必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- 金属添加物の含まれている燃料は使用しないでください。
- ボルボ社が推奨していない燃料添加剤は一切使用しないでください。

関連情報

- 経済走行 (p. 345)
- 燃料 - 取り扱い (p. 340)
- 適切な給油方法 (p. 339)

燃料 - ディーゼル

ディーゼルはディーゼルエンジン搭載車用のエンジン燃料です。

大手メーカーのディーゼル燃料のみを使用してください。品質が疑われるような燃料は、絶対に使用しないでください。EN 590、SS 155435、または JIS K 2204 規格に適合しているディーゼル燃料のみ使用してください。ディーゼルエンジンは、燃料の汚染(過剰な量の硫黄や金属など)に敏感です。

寒冷時(0℃未満)は、ディーゼル燃料の中にパラフィンが析出して、着火不良の原因となることがあります。販売されている燃料の品質は季節および気候帯により調整されていますが、極端な気象条件や古い燃料、異なる気候帯の移動が原因でパラフィンが析出することがあります。

タンク内の燃料の量が多ければ、凝結水の発生が防止できます。給油時はフューエルフィルターパイプの周囲が汚れていないか点検してください。塗装面に燃料をこぼさないように注意してください。塗装面にこぼれた燃料は、洗剤と水を使用して洗い流してください。

❗ 重要

ディーゼル燃料の条件：

- EN 590、SS 155435 または JIS K 2204 規格に適合している
- 硫黄含有量が 10 mg/kg 以下である
- FAME⁷ (B7) が 7 vol %以下である

❗ 重要

次のようなディーゼル燃料は、絶対に使用しないでください：

- 特殊な燃料添加剤
- 船舶用ディーゼル燃料
- 暖房用の油
- FAME⁸ および植物油

これらの燃料はボルボ社の推奨基準に達しておらず、摩耗を早め、エンジンが損傷する原因になります。不正な燃料を使用した場合が原因で発生した損傷には、ボルボ社の保証は適用されません。

燃料切れ

燃料切れでエンジンがストールした場合には、燃料システムを点検する必要があります。燃料タンクにディーゼル燃料を注入した後、エンジ

ンを始動する前に以下の手順に従ってください。

1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し、奥まで押し込みます。キー位置(p. 115)を参照してください。
2. ブレーキやクラッチペダルを踏み込まずに **START** ボタンを押してください。
3. 約 1 分間待ちます。
4. エンジンを始動します。ブレーキとクラッチペダルの両方、またはどちらか一方を踏み込み、もう一度 **START** ボタンを押します。

❗ 注意

燃料が切れて、燃料を補給する前に：

- できる限り平坦な地面に停車してください。車両が傾いていると、燃料供給部分にエアポケットができる可能性が高くなります。

フューエルフィルターのサービス間隔

最適な性能を維持するために、指定のサービス間隔に従ってフューエルフィルターを交換することと、この用途向けに開発された純正パーツを使用することが重要です。

⁷ 脂肪酸メチルエステル

⁸ FAME (B7) が 7 vol %以下のディーゼル燃料を使用できます。

関連情報

- ディーゼル微粒子除去フィルター(DPF)
(p. 344)
- 燃料 - 取り扱い (p. 340)
- 経済走行 (p. 345)

触媒コンバーター

触媒コンバーターは、排気ガスを浄化する働きがあります。短時間で作動温度に達するように、エンジンの近くの排気系統に装着されています。

触媒コンバーターは、モノリスタイプ(セラミックまたは金属製)です。表面に金属(白金、ロジウムおよびパラジウム)が吸着されており、これらの金属が触媒として作用し、排気ガス中の有害物質の化学反応(酸化・還元)を促進します。

ラムダソンドTM ヒーター付き酸素センサー

ラムダソンドは有害な排気ガスを低減し、燃焼効率を向上させるためのエンジンコントロールシステムの一部です。詳しくは、燃料消費量およびCO₂排出量 (p. 447)を参照してください。

酸素センサーが排気ガスに含まれる酸素の濃度を絶えずモニターします。その結果をエンジンの燃料噴射をコントロールする電子装置に送ります。空燃比は継続的に調節されます。調節機能は、効率のよい燃焼のために最適な条件を生み出すだけでなく、三元触媒コンバーターと共に、有害物質(炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物)の排出量を低減する働きをします。

関連情報

- 経済走行 (p. 345)
- 燃料 - ガソリン (p. 341)

- 燃料 - ディーゼル (p. 342)

燃料容器での給油

燃料容器から給油する (p. 339) 際には、カーゴスペースのフロアハッチの下にある漏斗を使用してください。

❗ 重要

車内での予備燃料容器の保管については、国ごとに法律が異なります。適用される法律や規則を確認してください。

注意しながら、漏斗を**確実に**フィルターパイプに挿入してください。フィルターパイプには開閉式のフラップが2つあります。必ず両方のフラップの奥まで漏斗を押し入れてから、給油を始めてください。

関連情報

- ロック/ロック解除 - 燃料給油口フラップ (p. 215)
- 燃料給油口フラップ - 手動 (p. 339)

ディーゼル微粒子除去フィルター (DPF)

ディーゼルエンジン搭載車は、より効率のよいエミッションコントロールのため、ディーゼル微粒子除去フィルターが装着されています。

通常の走行時、排気ガス中の粒子状物質はフィルターに集められます。いわゆる「再生」が開始されると、フィルターに吸着した微粒子が燃焼され、フィルターが空になります。再生を開始するためには、エンジンが通常の作動温度に達している必要があります。

フィルターの再生は自動で行われ、通常 10～20 分かかります。平均速度が低い場合、再生時間が多少長くなる場合があります。再生中は、燃料消費量が若干増える場合があります。

冷寒時の再生

低温時に短距離を頻繁に運転する場合には、エンジンは通常の作動温度に到達しません。このため、ディーゼル微粒子除去フィルターの再生が実施されず、フィルターは空になりません。

フィルターの約 80% まで黒煙の微粒子が詰まると、コンパインド・メーター・パネルに黄色の三角警告灯が点灯し、インフォメーション・ディスプレイに **ディーゼル微粒子フィルターが一杯です。リセットを参照して下さい** メッセージが表示されます。

エンジンが暖機されるまで (可能であれば高速道路や主要幹線で) 走行して、フィルターの再生

を開始させます。約 20 分以上、走行を続けてください。

❗ 注意

再生中は、以下のような状況が発生する場合があります。

- 一時的にエンジン出力のわずかな減少が感じられる
- 燃費が一時的に上昇する
- 焦げたような臭いがする

再生が完了すると、警告メッセージは自動的に消えます。

冷寒時にパーキングヒーター*を使用すると、エンジンをより早く正常な作動温度にすることができます。

❗ 重要

フィルターに微粒子が詰まると、エンジンの始動が困難になる場合や、フィルターが機能しなくなる場合があります。この結果、フィルターの交換が必要になる場合があります。

関連情報

- 燃料 - ディーゼル (p. 342)
- 経済走行 (p. 345)

経済走行

先を予測して、運転スタイルと速度をその時々
の交通状況に合わせながらスムーズに運転する
ことで、環境に優しい、経済的な走行をする
ことができます。

- ECO Guide^{*}(p. 102) を使用してください。
車両がどれくらい効率的に運転されている
かを確認できます。
- 燃料消費量をさらに低く抑えるために、ECO
ドライブモード⁹ をオンにしてください。
- Eco Coast¹⁰ フリーホイール機能を使用し
てください。エンジンブレーキが解除され、車
両の運動エネルギーを使用して、惰性走行の
距離を伸ばすことができます。
- 走行条件に合わせ、できるだけ高いギヤで走
行してください。エンジン回転が低ければ、
燃料消費も小さくなります。ギヤシフトイン
ジケーター(p. 316)¹¹ を使用してくださ
い。
- 一定の速度で走行し、他の車両や障害物との
間に十分な距離を確保して、ブレーキ操作を
最小限に抑えてください。
- 高速走行では、燃料消費量が増加します。速
度が速くなると、空気抵抗が大きくなりま
す。

- エンジンが暖機されるまでアイドリングを
続けるより、始動後すみやかに発進し、通常
の負荷で運転してください。エンジンは、冷
えているときの方が温まっているときより
も多くの燃料を消費します。
- 正しいタイヤ空気圧で走行し、空気圧は定期
的に点検してください。最適な効果を得る
ために、ECO タイヤプレッシャーを選択して
ください。タイヤ - 承認された空気圧
(p. 449)を参照してください。
- 使用するタイヤにより、燃費が変わります。
適切なタイヤに関する情報は、ディーラーに
お問い合わせください。
- 不必要な荷物は車から取り出してください。
荷物が多いほど、燃料消費も多くなります。
- 他の道路使用者に支障を与えない場合は、エ
ンジンブレーキを有効に使用して減速して
ください。
- ルーフ上にスペースボックスや荷物などを
載せて走行すると、燃料消費量が増加しま
す。使用していないロードキャリアは取り
外してください。
- 不必要に、パワーウィンドを開けて走行しな
いください。

詳しくは、環境理念 (p. 23)および燃料消費量
およびCO₂ 排出量 (p. 447)を参照してくださ
い。

⚠ 警告

下り坂走行時などであっても、車が動いてい
る間はけっしてエンジンを停止しないでく
ださい。パワーステアリングやブレーキ
サーボといった重要なシステムが作動しな
くなります。

⁹ オートマチックトランスミッション車に適用されます。

¹⁰ 「ECO ドライブモード」を参照してください。

¹¹ マニュアルトランスミッション車に適用されます。

トレーラーなどのけん引

トレーラーを使用した走行では、トーイングブラケットやトレーラー、トレーラー内の荷物の配置など、考慮すべき重要なポイントがいくつかあります。

最大許容重量は、車両重量により異なります。乗員およびトウバーなど車両に装着されているアクセサリーの総重量の分だけ、最大許容重量が小さくなります。詳しくは、重量 (p. 434) を参照してください。

ボルボ指定のサービス工場にてトーイングブラケットを取り付けた場合は、トレーラーけん引に必要な装備が整っています。

- 認定されたタイプのトーイングブラケットをご使用ください。
- トウバーを後付けする場合は、トレーラーけん引のために必要な装備が整っているか、ボルボ指定のディーラーで確認してください。
- トウボールにかかる荷重が最大荷重を超えないように、トレーラー内の重量を配分してください。
- タイヤの空気圧は、定員乗車時の推奨空気圧に調節してください。タイヤ空気圧については、タイヤ - 承認された空気圧 (p. 449) を参照してください。
- トレーラーなどのけん引時は、エンジンに通常の場合よりも大きい負荷がかかります。

- 新車時は、重いトレーラーなどのけん引をひかえてください。少なくとも 1,000 km 走行するまで、お待ちください。
- 長い急な下り坂では、ブレーキに通常よりも大きな負荷がかかります。シフトダウンして、速度を調節してください。
- 安全のため、トレーラーけん引中の車両用の速度規制を上回らないようにしてください。速度と重量に関する規則を厳守してください。
- トレーラーをけん引して勾配の急な長い坂道を上るときは、低速で走行してください。
- 道路の勾配が 12% を超える場合は、トレーラーなどのけん引を行わないでください。

トレーラーケーブル

車両のトーイングブラケットのコネクターが 13 ピンコネクターで、トレーラーのコネクターが 7 ピンコネクターの場合は、アダプターが必要です。ボルボ社が認可したアダプターを使用してください。ケーブルが地面にふれていないことを確認してください。

トレーラーの方向指示器とブレーキランプ

トレーラーの方向指示器が故障している場合は、コンパインド・メーター・パネル内の方向指示器用表示灯が通常よりも速く点滅し、インフォメーション・ディスプレイにテキスト **ブレーキ故障** が表示されます。

トレーラーのブレーキランプのいずれかに不具合が生じると、**ブレーキランプ故障** というテキストが表示されます。

オートレベライザー*

車両の搭載重量に関係なく (ただし、最大許容重量以下)、走行中にリアサスペンションが適正な高さに調節されます。停車時は、リアサスペンションが少し下がりますが、これは異常ではありません。

トレーラーの重量

ボルボ社の最大許容トレーラー重量については、けん引重量およびトウボール荷重 (p. 435) を参照してください。

① 注意

このマニュアルに記載されたトレーラーの最大許容重量は、ボルボ社が指定した重量です。各国の法律によって、トレーラーの最大許容重量やトレーラーけん引時の最高速度が厳しく制限されている場合があります。トウバーによっては、車両が実際にけん引できる重量よりも大きい最大許容荷重が認定されているものもあります。

⚠ 警告

けん引に関する重量の注意事項を厳守してください。緊急回避操作や急ブレーキ時に、車両が操縦不能となるおそれがあります。

関連情報

- トーイングブラケット (p. 348)
- ランプ交換 - 一般 (p. 393)

トレーラーを使用した走行 - マニュアルトランスミッション

気温が高いときに丘陵地帯をトレーラーなどをけん引 (p. 346) して走行すると、オーバーヒートのおそれがあります。

- エンジン回転速度が 4,500 rpm (ディーゼルエンジンでは 3,500 rpm) を超えない範囲で走行してください。エンジンオイルの温度が異常に高くなるおそれがあります。

関連情報

- マニュアルトランスミッション (p. 315)

トレーラーを使用した走行 - オートマチックトランスミッション

起伏の激しい地域や気温が高いときにトレーラーをけん引して走行すると、車両がオーバーヒートするおそれがあります。

- オートマチックトランスミッションは、負荷とエンジン回転速度に合った適切なギヤを選択します。
- オーバーヒートが発生した場合、コンバインド・メーター・パネルに警告灯が点灯し、インフォメーション・ディスプレイにディスプレイテキストが表示されます。指示に従ってください。

急勾配の坂

- オートマチックトランスミッションをエンジンに無理な負荷がかかるような高いギヤに選択しないでください。つねに高いギヤでエンジン回転速度を低めに保つことがよいとは限りません。

坂道での駐車

1. フットブレーキを踏みます。
 2. パーキングブレーキをかけます。
 3. ギヤセクターレバーを **P** 位置に入れます。
 4. フットブレーキを離します。
- トレーラーなどをけん引して駐車するときは、ギヤセクターレバーを **P** 位置に入れ

- ◀◀ てください。必ずパーキングブレーキをかけてください。
- トレーラーを接続した状態でやむをえず坂道に駐車する場合は、必ず輪止めを使用してください。

坂道発進：

1. フットブレーキを踏みます。
2. ギヤセクターレバードライブポジション **D** に入れます。
3. パーキングブレーキを解除します。
4. フットブレーキを離し、走行を開始します。

関連情報

- オートマチックトランスミッション - Geartronic(ギヤトロニック)* (p. 317)

トーイングブラケット

トーイングブラケットは車両にトレーラーを連結して走行できるようにするためのものです。

脱着式トウバー装着車では、脱着セクションの取り付け指示に注意深く従ってください。脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し (p. 350)を参照してください。

⚠ 警告

ボルボ純正脱着式トウバー装着車の場合：

- 指示に従って慎重に取り付けてください。
- 走行前に、脱着式セクションを必ずキーでロックしてください。
- インジケーターウインドが緑になっていることを確認してください。

重要な点検

- トウバーのトウボールはつねに清掃し、定期的にグリースを塗ってください。

⚠ 警告

脱着式トウバーの可動部分は、絶対に潤滑剤やオイルを塗布しないでください。安全性が損なわれるおそれがあります。

ⓘ 注意

振動ダンパー付きのヒッチを使用する際には、トウボールは絶対にグリースを塗らないでください。

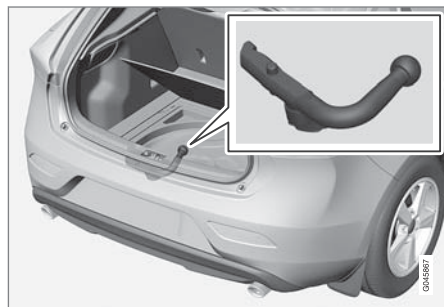
トウボールにクランプ固定するタイプのサイクルキャリアを取り付ける場合も同様です。

関連情報

- トレーラーなどのけん引 (p. 346)
- 脱着式トウバー* - 仕様 (p. 349)
- 脱着式トウバー* - 保管 (p. 349)

脱着式トウバー* - 保管

脱着式トウバーはカーゴスペースに保管してください。



使用しない場合、脱着式トウバーはカーゴスペースフロア下のフォームブロック¹²の中に保管してください。

！ 重要

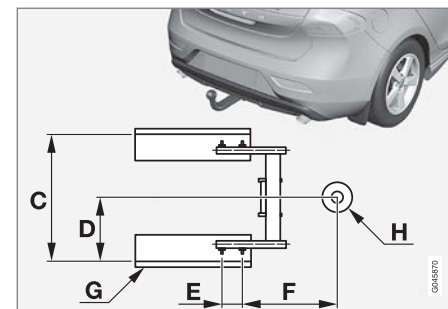
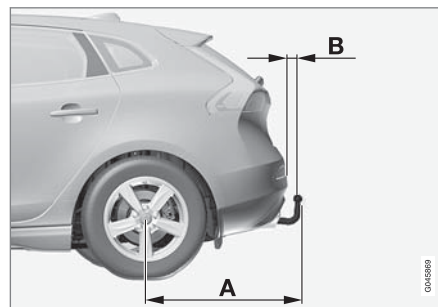
脱着式トウバーは、使用後に必ず取り外して車両の所定位置に保管してください。

関連情報

- 脱着式トウバー* - 仕様 (p. 349)
- 脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し (p. 350)
- トレーラーなどのけん引 (p. 346)

脱着式トウバー* - 仕様

脱着式トウバーの仕様



マウンティングポイントの寸法 (mm)

A	887
B	79
C	881
D	441
E	109
F	306
G	サイドメンバー
H	ボールセンター

¹² 図は概略図です。フォームブロックの外観は車両の装備により異なることがあります。

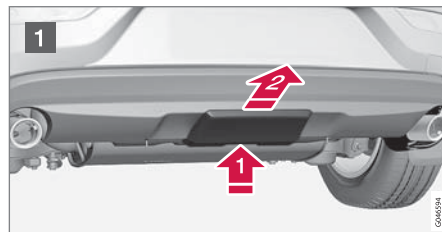
◀ 関連情報

- 脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し (p. 350)
- 脱着式トウバー* - 保管 (p. 349)
- トレーラーなどのけん引 (p. 346)

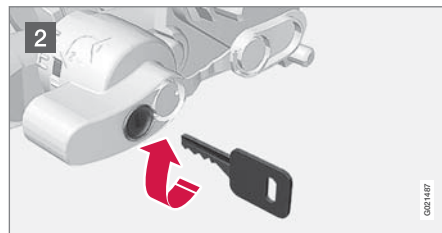
脱着式トウバー* - 取り付け/取り外し

脱着式トウバーの取り付け/取り外しは次のように行います。

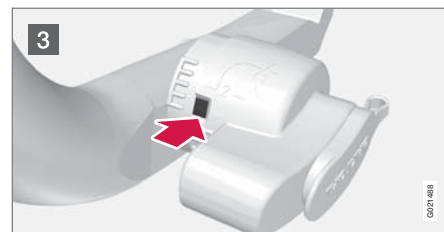
取り付け



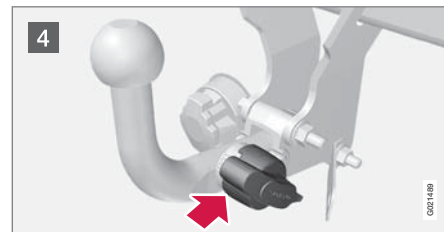
- 1 最初にキャッチ  を押し、プロテクティブカバーをまっすぐ後方  に引いて取り外します。



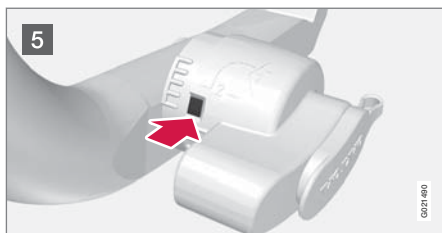
- 2 キーを右に回して、ロック解除位置になっていることを確認します。



- 3 インジケーターウインドが赤になっていることを確認します。



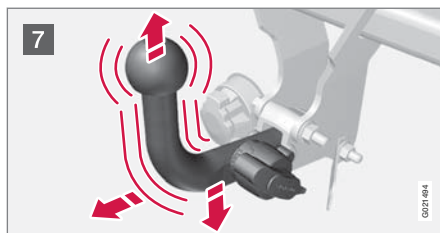
- 4 カチッと音がするまで、トウボールセクションを差し込みます。



- 5 インジケータウインドが緑になっていることを確認します。



- 6 ロック位置までキーを左に回します。ロックからキーを抜きます。



- 7 トウボールセクションを上下および後方に引いて、確実に固定されているか確認します。

⚠ 警告

トウボールが正しく装着されていない場合は、必ず一度取り外してから、前項の指示に従って装着し直してください。

❗ 重要

トウボールのボール部分にのみグリースを塗り、トウバーの他の部分は、必ずきれいで乾燥した状態に保ってください。

ℹ 注意

振動ダンパー付きのヒッチを使用する際にはトウボールは絶対にグリースを塗らないでください。

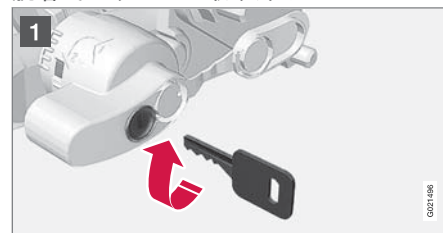


- 8 セーフティケーブル

⚠ 警告

トレーラーのセーフティケーブルは必ず適切なブラケットに接続してください。

脱着式トウバーの取り外し

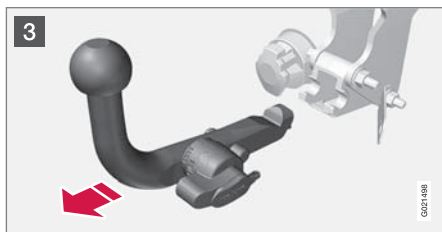


- 1 キーを差し込んで右に回し、ロックを解除します。

◀



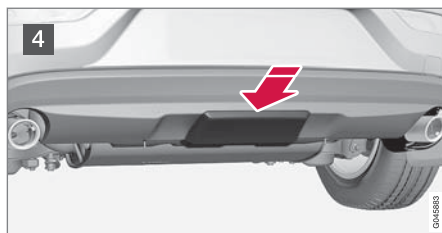
- 2 ロッキングホイール **1** を押し込み、カチッと音がするまで左に **2** 回します。



- 3 ロッキングホイールを下に向けて、止まるまで回します。この位置で保持したまま、トウボールを後方に引き上げます。

警告

脱着式トウボールを車両内に保管する場合は、確実に固定してください(脱着式トウバー* - 保管 (p. 349)参照)。



- 4 プロテクティブカバーをカチッと音がするまで押し込みます。

関連情報

- 脱着式トウバー* - 保管 (p. 349)
- 脱着式トウバー* - 仕様 (p. 349)
- トレーラーなどのけん引 (p. 346)

トレーラー・スタビリティ・アシスト - TSA¹³

トレーラー・スタビリティ・アシスト TSA (Trailer Stability Assist) 機能は、車両とトレーラーが蛇行を始めた場合に安定化を図るものです。

TSA は スタビリティ・システム (p. 224)ESC¹⁴に含まれています。

機能

蛇行は、どのような車両とトレーラーの組み合わせでも発生します。通常、蛇行は高速走行時に発生します。しかし、トレーラーに過剰な負荷がかかっている場合や、積荷の配分が不適切(後に偏っている)な場合、低めの走行速度でも発生するおそれがあります。

蛇行が発生する要因として、次のようなものがあります。

- トレーラーをけん引している車両が、強い突風を横から受けた場合。
- 起伏のある道や、穴の上を走行した場合。
- 急なハンドル操作。

操作

いったん蛇行が発生してしまうと抑制するのは非常に難しく、抑制できない場合もあります。こうなると車両およびトレーラーの運転操作が困難になり、別車線にはみ出したり、車道を逸脱するおそれがあります。

* オプション/アクセサリ。

トレーラー・スタビリティ・アシスト機能は、車両の動き(特に横方向の動き)を連続的に監視します。蛇行を感知すると前輪の左右個別にブレーキをかけ、車両およびトレーラーの安定化を図ります。多くの場合、この段階で車両の制御が回復します。

TSA の初期制御で回復しない場合は、車両およびトレーラーのすべての車輪にブレーキをかけ、エンジン出力を低下させます。蛇行が徐々に解除され、車両およびトレーラーが安定すると、TSA システムは停止します。運転者は車両を再び完全に制御できるようになります。詳しくは、エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 224)を参照してください。

その他

TSA システムは高速走行時に作動することがあります。

① 注意

運転者が **Sport** モードを選択すると、TSA 機能が解除されます(エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 224)を参照してください)。

運転者が蛇行を修正しようとして、ハンドルを激しく操作すると、TSA が作動しない場合があります。

ます。蛇行を引き起こしているのが、トレーラーか運転者か、TSA では判断できないためです。



TSA が作動しているときには、コンパインド・メーター・パネルの ESC¹⁴ シンボルが点滅します。

関連情報

- エレクトロニック・スタビリティ・コントロール(ESC) - 概要 (p. 224)

けん引

けん引では、けん引ロープを使用して 1 台の車両をもう 1 台の車両がけん引します。

けん引を行う前に、必ず法律で定められている制限速度などを確認してください。

1. 車両の非常点滅灯を作動させます。
2. けん引ロープをけん引フックに取り付けます。
3. イグニッションスイッチにリモートコントロールキーを差し込み、**START/STOP ENGINE** ボタンを長押ししてステアリングホイールロック (p. 313) のロックを解除します。キー位置 **II** (p. 115) が有効になります。
4. けん引中は、リモートコントロールキーを絶対に抜かないでください。
5. けん引車の速度が低下した場合には、不必要な急な引きを避けるために、ブレーキペダルを軽く踏み、ロープが張った状態を保ちます。
6. 足は必ずブレーキペダルに置いて、いつでも踏める状態にしてください。

¹³ ボルボ純正トウバーの取り付けに含まれます。

¹⁴ (Electronic Stability Control) - エレクトロニック・スタビリティ・コントロール



⚠ 警告

- けん引を開始する前に、ステアリングホイールロックが解除されていることを確認してください。
- リモートコントロールキーを必ず **II** 位置にしてください。I 位置では、全エアバッグが非作動状態になります。
- けん引中は、リモートコントロールキーをイグニッションスイッチから絶対に抜かないでください。

⚠ 警告

エンジンが停止しているとブレーキサーボやパワーステアリングが機能しません。ブレーキペダルを踏み込むには約 5 倍の力が必要となり、ステアリングも通常よりかなり重く感じられます。

マニュアルトランスミッション

けん引を始める前に：

- － ギヤセクターレバーをニュートラルに入れ、パーキングブレーキを解除します。

オートマチックトランスミッション Geartronic(ギヤトロニック)

⚠ 重要

必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。

- オートマチックトランスミッション車
はけん引時の走行速度 80 km/h
(50 mph) 以下、けん引距離 80 km 以内を
厳守してください。

けん引を始める前に：

- － ギヤセクターレバーを **N** に入れ、パーキングブレーキを解除します。

ジャンプスタート

けん引によって、エンジンを始動させないでください。バッテリーが放電し、エンジンが始動しない場合は、他車のバッテリーを使用してください。ジャンプスタート (p. 314) を参照してください。

⚠ 重要

エンジンをけん引始動しようとする、触媒コンバーターに損傷が発生するおそれがあります。

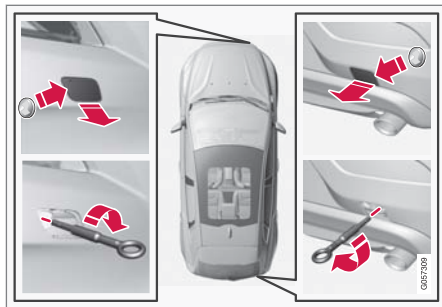
関連情報

- 非常点滅灯 (p. 133)
- けん引フック (p. 355)

けん引フック

別の車両をけん引するときは、けん引フックを使用します。けん引フックは、フロントまたはリアバンパーの右側にある、カバーがついたネジ式のソケットに取り付けます。

けん引フックの取り付け



1. カーゴスペースフロアの下フォームブロックに収納されているけん引フックを取り出します。
2. けん引フック取付け部のカバーは以下の通りに開きます：
 - カバーには、片側または角に印が付いています。この印を指で押しながら、反対側/角を引き出します。カバーは軸の周りを回転するように開き、取り外すことができます。

3. けん引フックを、フランジが当たるまでねじ込みます。ホイールレンチ* を使用するなどして、けん引フックを確実に取り付けてください。

❗ 重要

けん引フックは、路面での車両のけん引専用です。溝に落ちた車両の引き上げなどには**使用しないでください**。けん引が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

取り外し

1. 使用後は、けん引フックを回して取り外します。けん引フックをフォームブロック内の元の位置に戻します。
2. バンパーのカバーも元通りに取り付けてください。

関連情報

- けん引 (p. 353)
- 車両移動 (p. 355)

車両移動

車両移動とは他の車両によって自車を輸送することを指します。

車両移動が必要な場合は、レッカーサービスに連絡して救援を求めてください。

❗ 重要

必ず車両の前進方向にのみ、けん引してください。

関連情報

- けん引 (p. 353)

ホイールおよびタイヤ

タイヤ - メンテナンス

特にタイヤには、荷重を支え、路面のグリップ力を提供し、振動を抑制して、ホイールを摩耗から保護する機能があります。

走行特性

タイヤは、車両の走行特性に大きく影響します。タイヤの種類、サイズ、タイヤ空気圧、速度記号は、車両の性能に大きな意味を持ちます。

タイヤの耐用年数

製造日から6年以上経過したタイヤは、摩耗していても必ず専門家による点検が必要です。ほとんど使用されていない場合や、一切使用されていない場合でも、タイヤは経年劣化し、変質します。そのため、機能が低下します。これは、将来使用するために保管しておくタイヤすべてに当てはまります。亀裂や変色などがあるタイヤは、絶対に使用しないでください。

新しいタイヤ



タイヤは消耗品です。製造後数年が経過すると、タイヤは次第に硬くなり、接地性が悪くなります(経年劣化)。タイヤを交換するときは、できるだけ製造年が新しいタイヤと交換してください。特に、ウインタータイヤの場合は重要です。最後の4桁の数字は、そのタイヤの製造週と製造年を表しています。これはタイヤのDOTマーク(Department of Transportation)と呼ばれ、例えば1510のように表示されます。図中のタイヤは2010年第15週に製造されたものです。

サマータイヤおよびウインタータイヤ

サマータイヤとウインタータイヤを交換するときなどは、タイヤをどこから取り外したかわかるように、例えば、左前輪なら「左前」、右後輪なら「右後」のように、各タイヤに必ずマークを付けてください。

摩耗とメンテナンス

タイヤ空気圧(p. 360)が適正であれば、タイヤは均一に磨耗します。タイヤの寿命および摩耗は、運転スタイル、タイヤ空気圧、気候および路面状況などに影響されます。前輪と後輪のタイヤをローテーションすると、タイヤの片減りや不均一なタイヤの摩耗(p. 360)を防ぐことができます。初回は約5,000 km走行後、その後10,000 kmの走行毎に実施してください。トレッド溝の深さについてご不明な点は、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。タイヤ間で摩耗の度合いが著しく異なる(トレッドの深さの差が> 1 mmより大きい)場合には、一番摩耗が少ないタイヤを必ず後輪に装着してください。アンダーステア時は、車両後部が片側に横滑りするよりまっすぐ前進するため、オーバーステア時より修正しやすいのが普通です。後輪が横滑りすると、車両の制御を完全に失う可能性がありますので、後輪が前輪より早くグリップ力を失うことがないようにすることが重要です。

タイヤにホイールを取り付けた状態で保管するときは、横に寝かせるか吊るすかをしてください。立てかけた状態で保管しないでください。

警告

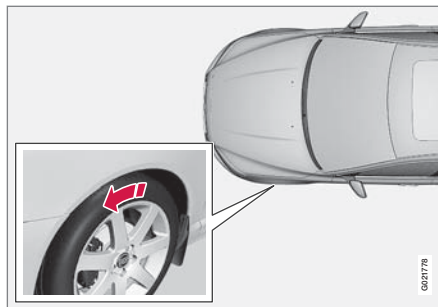
タイヤが損傷していると、車両を制御できなくなるおそれがあります。

関連情報

- タイヤ - サイズ (p. 362)
- タイヤ - 速度記号 (p. 362)
- タイヤ - 回転方向 (p. 359)

タイヤ - 回転方向

トレッドパターンが一方方向にのみ回転するようにデザインされているタイヤは、サイドウォール部にタイヤの回転方向が矢印で表示されています。



矢印は、タイヤの前進回転方向を示します。

タイヤの使用期間中、前進時の回転方向がつねに同じになるように装着してください。タイヤは前後の入れ替えはできますが、絶対に左右を入れ替えないでください。タイヤが正しく装着されていない場合、降雨時などでブレーキ性能が低下する原因になります。摩耗が少ない(トレッド溝が深い)タイヤをリアに装着すると、スリップしにくくなります。

① 注意

同じタイプ、同じサイズで、同じメーカーのものを装着するよう徹底してください。

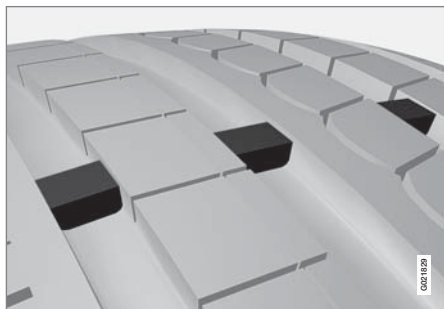
タイヤ空気圧一覧表に記載されている推奨のタイヤ空気圧 (p. 360) を使用してください。

関連情報

- タイヤ - サイズ (p. 362)
- タイヤ - 速度記号 (p. 362)
- タイヤ - メンテナンス (p. 358)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケーター (p. 360)

タイヤ - トレッド摩耗インジケーター

タイヤの摩耗インジケーターはタイヤのトレッドの深さの状態を示します。



タイヤの摩耗インジケーター

トレッド摩耗インジケーターは、タイヤのトレッドパターンの縦溝を横切るように埋め込まれている細い隆起物です。タイヤの側面に TWI (Tread Wear Indicator) の文字が表示されています。トレッド溝の深さが 1.6 mm になると、トレッドはトレッド摩耗インジケーターと同じ高さになります。すみやかに新しいタイヤと交換してください。摩耗したタイヤは、雨や雪で濡れた路面などでグリップ力が非常に悪くなり、スリップの原因になります。

関連情報

- タイヤ - 速度記号 (p. 362)
- タイヤ - 空気圧 (p. 360)

- タイヤ - 回転方向 (p. 359)

タイヤ - 空気圧

タイヤの空気圧はそれぞれ異なる場合があります。空気圧の測定単位はバール (bar) です。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧は毎月点検する必要があります。空気圧の点検はタイヤが冷えた状態で行ってください。「冷えたタイヤ」とは、外気温と同じ温度のタイヤを指します。タイヤは数 km 走行しただけで温まり、内部の空気圧が上がります。

タイヤ空気圧が不十分であれば、燃料消費が増加し、タイヤの寿命が短くなり、車両の走行特性に悪影響をおよぼします。タイヤ空気圧が低すぎると、走行中にタイヤが過熱して損傷するおそれがあります。タイヤ空気圧は、走行快適性やロードノイズ、走行特性に影響します。

注意

タイヤ空気圧は時間と共に低下しますが、これは異常ではありません。タイヤ空気圧は、外気温によっても変化します。

タイヤ空気圧表示ラベル



運転席側ドアピラー(フレームとリアドアの間)にタイヤ空気圧表示ラベルがあり、異なる荷重および走行速度におけるタイヤの適正空気圧が表示されています。これはタイヤ空気圧一覧表にも記載されています。

車両の推奨タイヤサイズに適した空気圧と、燃費向上につながる ECO プレッシャーの情報は、印刷版オーナーズマニュアルに記載されています。

① 注意

タイヤの空気圧は、温度によって変化します。

燃費、ECO プレッシャー

荷重が軽く(3人以下)、走行速度が 160 km/h (100 mph) 以下の場合、ECO プレッシャーを選択

すると燃費を最大限に向上させることができます。ロードノイズをできるだけ抑えて走行快適性を最大限に高めたい場合、さらに低い快適空気圧の使用をお勧めします。

(タイヤ - 承認された空気圧 (p. 449) を参照してください。)

関連情報

- タイヤ - 速度記号 (p. 362)
- タイヤ - 回転方向 (p. 359)
- タイヤ - メンテナンス (p. 358)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケーター (p. 360)
- タイヤ - 承認された空気圧 (p. 449)

ホイールおよびホイールリムサイズ

ホイールおよびリムのサイズは以下の表内の例のように設計されています。

車両全体が認定されています。つまり、この車両で使用されるホイール(ホイールリム)およびタイヤの組み合わせが認定されています。

ホイール(リム)には、7Jx16x50 のようにホイールサイズが記されています。

7	ホイールリム幅(単位：インチ)
J	リムフランジプロファイル
16	ホイールリム径(単位：インチ)
50	オフセット(単位：mm、ホイールの中央から、ホイールのハブとの接触面までの距離)

関連情報

- ホイールナット (p. 363)

タイヤ - サイズ

車両のタイヤのサイズは指定されています。以下の表の例を参照してください。

タイヤの規格は、タイヤの側面に表示されています。表示例：215/55R16 97W

205	タイヤ幅 (mm)
50	断面の高さと幅の比を、百分率で表した値 (扁平率)
R	ラジアルタイヤ表示
17	ホイールリム径 (単位：インチ)
93	最大許容タイヤ負荷能力の指数、ロードインデックス (p. 362) (LI)
W	制限速度の速度記号 (SS) 速度記号 (p. 362) (この場合 270 km/h (168 mph) まで使用可能であることを示す)。

車両は特定のホイールリムおよびタイヤの組み合わせで車両全体の認定を受けています。

関連情報

- タイヤ - 空気圧 (p. 360)
- タイヤ - 回転方向 (p. 359)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケーター (p. 360)

タイヤ - ロードインデックス

ロードインデックスはタイヤの耐荷重を示す指標です。

各タイヤには最大負荷能力を示すロードインデックス (LI) が指定されています。タイヤの最大積載重量は、車両の重量により異なります。

関連情報

- タイヤ - サイズ (p. 362)
- タイヤ - 速度記号 (p. 362)
- タイヤ - 空気圧 (p. 360)
- タイヤ - トレッド磨耗インジケーター (p. 360)

タイヤ - 速度記号

タイヤには、それぞれ走行が可能な最高速度が指定されており、速度記号 (SS - Speed Symbol) が付いています。

タイヤの速度記号は、少なくとも車両の最高速度と対応していることが必要です。下の表は各速度記号 (SS) の速度制限を示しています。ただし、ウインタータイヤ (p. 364) だけは (メタルスタッドの有無に関わらず) 例外です。それ以下の速度記号のものを使用してもかまいません。そのようなタイヤを選択した場合、タイヤの速度記号で示されている速度よりも速く走行しないでください (例：Q の場合、走行可能な最高速度は 160 km/h (100 mph) です)。車両の制限速度は、道路交通法規に準じます。タイヤの速度記号により決定されるものではありませんので、ご注意ください。

i 注意
制限速度が一覧表に示されています。

Q	160 km/h (100 mph) (ウインタータイヤのみ)
T	190 km/h (118 mph)
H	210 km/h (130 mph)
V	240 km/h (149 mph)

W	270 km/h (168 mph)
Y	300 km/h (186 mph)

警告

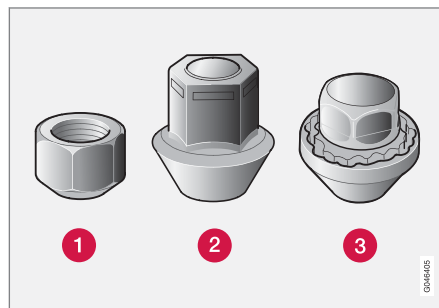
車両には、ロードインデックス (p. 362) (LI) および速度記号 (SS) が同じか、それ以上のタイヤを装着してください。ロードインデックスや速度記号が低すぎるタイヤを使用すると、タイヤがオーバーヒートするおそれがあります。

関連情報

- タイヤ - サイズ (p. 362)
- タイヤ - 空気圧 (p. 360)
- タイヤ - 回転方向 (p. 359)

ホイールナット

ホイールナットはホイールをハブに固定するために使用されます。各種揃っています。



- ① 標準ホイールナット
- ② バルジエイコーンホイールナット
- ③ ロックホイールナット

締め付けトルク

- **タイプ1 標準ホイールナット**(スチール製ホイール) : 110 Nm
- **タイプ2 バルジエイコーンホイールナット**(アルミ製ホイール) : 130 Nm
- **タイプ3 ロックホイールナット**(スチール/アルミ製ホイール) : 110 Nm

ボルボ社の認定を受けた、ボルボ純正品、または純正アクセサリーパーツのみを使用してください。

さい。トルクレンチを使用して、締め付けトルクを確認してください。

ロックホイールナット*

ロックホイールナットは、アルミホイールおよびスチールホイールの両方に使用することができます。カーゴスペースのフロア下には、ロックホイールナット用スリーブを収納するスペースがあります。

関連情報

- ホイールおよびホイールリムサイズ (p. 361)

ウィンタータイヤ

ウィンタータイヤは冬季の道路条件に適したタイヤです。

ウィンタータイヤ

ウィンタータイヤは、ボルボ社が推奨するタイヤサイズを装着してください。タイヤサイズは、エンジンタイプにより異なります。ウィンタータイヤで走行する際には、必ずすべての車輪に正しいタイプのタイヤを装着してください。

❗ 注意

もっとも適したホイールリムとタイヤタイプに関しては、ボルボディーラーにご相談ください。

スタッド付きタイヤ

スタッド付きのウィンタータイヤ装着車は、スタッドがタイヤに適正にはまるように、500～1,000 km の距離を穏やかに慣らし走行してください。タイヤ(特にスタッド)の耐用年数を長くすることができます。

❗ 注意

スタッド付きタイヤの使用に関する規則は、国により異なります。

トレッド溝の深さ

冬期は、凍った路面、道路の雪、低い気温などが原因で、暖かい季節よりもタイヤに大きな負荷がかかります。ボルボ社は、溝の深さが 4 mm 以上のウィンタータイヤの使用をお薦めします。

タイヤチェーンについて！

タイヤチェーンは、前輪のみに装着してください(全輪駆動車(AWD)も同様です)。タイヤチェーンを装着しているときは、絶対に 50 km/h (30 mph) を超える速度で走行しないでください。また、タイヤチェーンおよびタイヤの両方が著しく摩耗するため、タイヤチェーンを装着したまま雪のない道路を走行しないでください。

⚠ 警告

ボルボ純正タイヤチェーン、または車両モデル、タイヤサイズ、ホイールリムサイズに適合した同等品を使用してください。ご不明な点があれば、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。不適切なチェーンを使用すると、車両への深刻な損傷や事故の原因となります。

関連情報

- タイヤの交換 - タイヤを取り外す (p. 366)

スペアタイヤ*

スペアタイヤ(テンポラリースペアタイヤ)は、通常のタイヤがパンクしたときに一時的に使用します。

テンポラリースペアタイヤは、パンクしたときに通常のタイヤに交換するまで一時的に、短時間のみ装着する応急用のタイヤです。テンポラリースペアタイヤを装着したときは、すみやかに通常のタイヤに交換してください。テンポラリースペアタイヤを装着すると、車両の走行特性が変わる場合がありますのでご注意ください。このスペアタイヤは通常のホイールより小さくなっています。このため、車両の地上高が低くなります。高めの縁石に注意し、自動洗車機は使用しないでください。フロントアクスルにスペアタイヤが取り付けられている場合には、同時にタイヤチェーンを装着することはできません。全輪駆動の車両では、リアアクスルの駆動を解除することができます。スペアタイヤは修理しないでください。スペアタイヤの正しい空気圧はタイヤ空気圧一覧表に記載されています。タイヤ - 空気圧 (p. 360) を参照してください。

❗ 重要

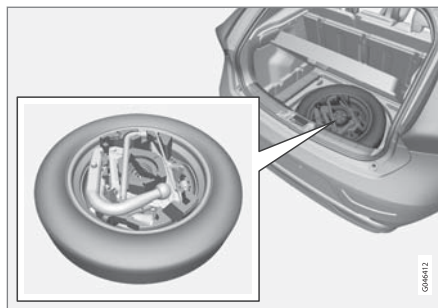
- スペアタイヤ装着時は、必ず 80 km/h (50 mph) 未満で走行してください。
- 「テンポラリースペアタイヤ」(応急用)タイプのスペアタイヤを同時に 2 本以上装着して走行しないでください。

関連情報

- タイヤの交換 - タイヤを取り外す (p. 366)
- タイヤの交換 - 取り付け (p. 368)
- タイヤの交換 - スペアタイヤの取り出し* (p. 365)
- ジャッキ* (p. 370)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 370)
- ホイールナット (p. 363)

タイヤの交換 - スペアタイヤの取り出し*

スペアタイヤ*、ジャッキ*、ホイールレンチ*は、カーゴスペースフロアの下にあります。



1. カーゴスペースフロアの後端を持ち上げます(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルでは、カーゴスペースフロアのハンドルを握り、持ち上げるようにフロアの後部を前方に動かします)。
2. 収納ボックス*を引き出します(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルのみ)。
3. 下側のフロアを引き上げます(カーゴスペースのフロアがつながっているモデルのみ)。
4. 取り付け用スクリューを外し、ジャッキとツールが入ったフォームブロックを取り出します。

5. スペアタイヤの反対側の端をつかみ、引き上げます。スペアタイヤを若干前方に押し、収納ボックスから引き上げます。

関連情報

- タイヤの交換 - タイヤを取り外す (p. 366)
- タイヤの交換 - 取り付け (p. 368)
- ジャッキ* (p. 370)
- スペアタイヤ* (p. 364)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 370)
- ホイールナット (p. 363)

タイヤの交換 - タイヤを取り外す

車両のホイールは、ウインタータイヤやスペアタイヤなどに交換することができます。

やむをえず交通量の多い場所でタイヤ交換する場合は、三角警告板(停止表示板) (p. 370)を設置してください。車両およびジャッキ (p. 370)*が、水平で固い地面の上にあることを確認してください。

1. パーキングブレーキ (p. 334) をかけて、ギヤをリバースに入れます。オートマチックトランスミッション車の場合は、ギヤセレクターレバーを **P** 位置に入れます。

⚠ 警告

ジャッキが損傷していないか、すべてのネジ山がよく潤滑されているか、泥などが付着していないか確認してください。

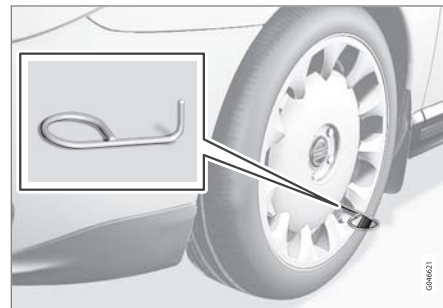
ⓘ 注意

ボルボ社は、車両搭載ジャッキ*のみの使用を推奨しています。ジャッキを使用できる車種名が、ジャッキのラベルに記されています。

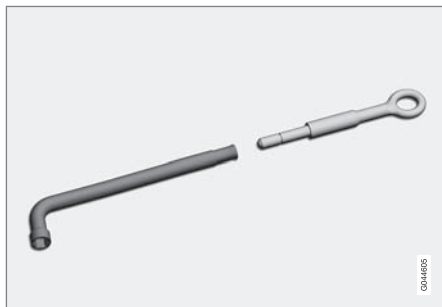
ラベルには、指定リフト位置におけるジャッキの最大リフト力も記されています。

2. 装着するタイヤとツールを取り出します。スペアタイヤを取り付ける場合、パンクしたタイヤ用のビニール袋と手袋の入ったパッケージがスペアタイヤの場所にあります。
3. 地面に接しているタイヤの前後に輪止めをします。重い木片や、大きな石などで代用しても構いません。

4. スチールホイール装着車には、脱着式のホイールカバーが付いています。取り外しツールをホイールカバーに引っ掛け、引っ張って外します。ホイールカバーは手で取り外すこともできます。



5. けん引フックが止まるまでねじ込んでホイールレンチ*とつなぎ合わせます。



ホイールレンチとけん引フック

！ 重要

けん引フックは、ホイールレンチの奥まで必ず完全にねじ込んでください。

6. 適切なツールを使用して、ホイールナットからプラスチックキャップを取り外します。

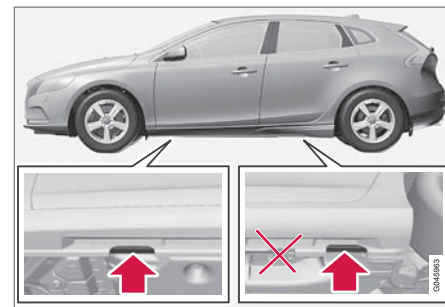


7. ホイールレンチ* を使用して、ホイールナットを反時計回りに $\frac{1}{2}$ ～1 回転ゆるめます。

！ 警告

地面とジャッキの間、およびジャッキポイントとジャッキの間に、なにも挟まないでください。

8. ジャッキポイントは、車両の両側に2箇所ずつあります。ボディワークのフランジがジャッキの頭部の刻み目に当たるようにジャッキ* を巻き上げます。



！ 重要

ジャッキの下の地面が平坦かつ水平で、安定していることを確認してください。

9. パンクしたタイヤが地面から離れるまで、車体をジャッキアップします。ホイールナットを取り外し、ホイールを外します。





⚠ 警告

ジャッキで車を持ち上げているときは、絶対に車の下に入らないでください。

車両をジャッキで持ち上げる前に、乗員は全員車の外に出てください。交通量の多い場所でタイヤを交換せざるを得ない場合、乗員は安全な場所に退避しておく必要があります。

関連情報

- タイヤの交換 - 取り付け (p. 368)
- タイヤの交換 - スペアタイヤの取り出し* (p. 365)
- スペアタイヤ* (p. 364)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 370)
- ホイールナット (p. 363)

タイヤの交換 - 取り付け

スペアタイヤの取り付けは正しい順序に従って行うことが重要です。

取り付け

⚠ 警告

ジャッキで車を持ち上げているときは、絶対に車の下に入らないでください。

車両をジャッキで持ち上げる前に、乗員は全員車の外に出てください。交通量の多い場所でタイヤを交換せざるを得ない場合、乗員は安全な場所に退避しておく必要があります。

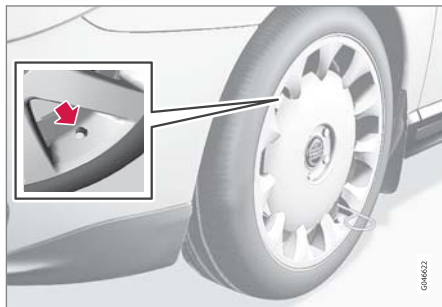
1. ホイールとハブの接合面をきれいにします。
2. タイヤを取り付けます。ホイールナットを確実に締め付けます。

3. タイヤが回らなくなる位置まで車体を下げます。



4. ホイールナットを、対角線順に締め付けます。ホイールナットは必ず正しいトルクで締め付けてください。トルクレンチを使用して、締め付けトルクを確認してください。
5. ホイールナットにプラスチックキャップを取り付けます。

6.



ホイールカバーを取り外した場合には付け直してください。

① 注意

ホイールカバーを取り付ける際には、ホイールカバーのバルブ用の穴が、必ずホイールリムのバルブ上にかぶさるようにしてください。

ツールを元の場所に戻す

使用後は、ツールを必ずフォームブロック内の元の場所に戻してください。

スペアタイヤを使用した場合、パンクしたタイヤは手袋と一緒にパッケージに入っていたビニール袋に入れることができます。フォームブ

ロックを元の場所に戻し、固定ボルトを収納ボックスのフロアに押し込みます。

❗ 重要

ツールおよびジャッキ*を使用しないときは、車両のカーゴスペースの所定位置に収納してください。

① 注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して緩めにくくなることがあります。

サイズの異なるタイヤに変更する場合

タイヤサイズの変更ごとに、ソフトウェアのアップデートについて、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。サイズの異なるタイヤ(大または小)に変更する場合や、サマータイヤとウインタータイヤを交換する場合には、ソフトウェアのダウンロードが必要になることがあります。

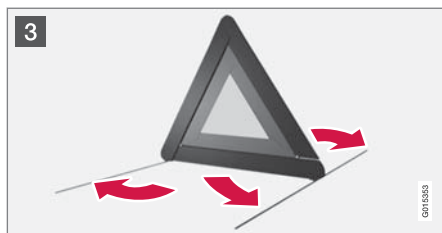
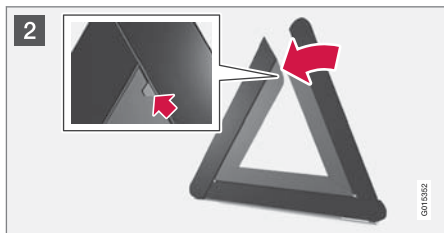
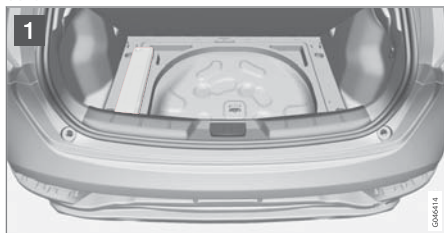
関連情報

- タイヤの交換 - スペアタイヤの取り出し* (p. 365)
- タイヤの交換 - タイヤを取り外す (p. 366)
- スペアタイヤ* (p. 364)
- 三角警告板(停止表示板) (p. 370)
- ホイールナット (p. 363)

三角警告板(停止表示板)

三角警告板は他の道路利用者に停止車両の存在を知らせるために使用します。

保管および収納



1 フロアハッチを持ち上げ(もしくは、フロアがジョイント式のモデルでは、カーゴスペースフロアの後部を押して下側のフロアを持ち上げ)、三角警告板(停止表示板)を取り出します。

2 ケースから三角警告板を取り出して広げ、2箇所の開いている端を合わせて組み立てます。

3 三角警告板のサポートレッグを広げます。

三角警告板の使用に関する規則を厳守してください。三角警告板は、通行の邪魔にならない所定の位置に置いてください。

使用後は、三角警告板をケースに収納して、カーゴスペースに確実に固定してください。

関連情報

- スペアタイヤ* (p. 364)

ジャッキ*

ジャッキは、タイヤの交換時に車両を持ち上げるために使用します。

車両に付属のジャッキは、スペアタイヤへの交換時またはサマータイヤとウインタータイヤの交換時にのみ使用してください。ジャッキのネジ部には、グリスをよく塗っておいてください。

重要

ツールおよびジャッキ*を使用しないときは、車両のカーゴスペースの所定位置に収納してください。

注意

通常のカージャッキは、パンクしたタイヤの交換時やウインタータイヤ/サマータイヤの取り換え時など、短時間で使用することだけを想定したものです。車両をジャッキアップするときには、特定の車両モデル専用のジャッキを使用する必要があります。ジャッキをより頻繁に使用する場合や、単純なタイヤ交換より長い時間使用する場合には、修理工場用のジャッキの使用をお勧めします。この場合、そのジャッキに添付の取扱指示に従ってください。

関連情報

- 三角警告板(停止表示板) (p. 370)
- 緊急パンクリペアー* (p. 373)

救急用品キット*

救急箱には救急用品キットが入っています。



救急用品キットが入ったケースはカーゴスペースの左側にあります。

タイヤ・モニタリング(TM)*¹

TM (Tyre Monitor) システムはタイヤの回転速度を感知して、タイヤ空気が適切か判断します。

システムの概要

タイヤ空気が低すぎる場合、タイヤの直径が変化するため、回転速度にも変化が生じます。各タイヤを比較することにより、システムは空気の低すぎるタイヤの有無を特定することができます。

TPMS システムが機能している場合でも、タイヤのメンテナンスは実施してください。

メッセージ

タイヤ空気が低すぎると、コンパインド・メーター・パネルの表示灯 (U) が点灯し、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **タイヤ空気圧低下** 点検して調整して下さい
- **タイヤ空気圧モニター サービスが必要**です
- **タイヤ空気圧モニター** 現在利用できません

¹ 一部市場では標準装備。



❗ 重要

TM システムに不具合が発生した場合、コンパインド・メーター・パネルの表示灯 (⚠) が約 1 分間点滅した後、点灯に変わります。コンパインド・メーター・パネルにはメッセージも表示されます。

メッセージの削除

1. タイヤプレッシャーゲージを使用して、指示通りに全タイヤの空気圧を点検します。
2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、タイヤを適切な空気圧に調節します。
3. **MY CAR** で TM システムを再校正します。

ⓘ 注意

タイヤ空気圧を正しく調節するには、タイヤが冷えた状態で空気圧を点検する必要があります。「タイヤが冷えた状態」とは、タイヤが外気温と同じ温度である状態です(車両の停止から約 3 時間後)。数キロ走行するだけでタイヤ温度が上昇し、タイヤ空気圧も上昇します。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧が正しくないと、タイヤに不具合が発生し、運転者が車両を制御できなくなるおそれがあります。
- システムはタイヤの突然の損傷を事前に予測することはできません。

TM 校正

TM システムが正しく機能するには、タイヤ空気圧の基準値を決定する必要があります。この作業は、タイヤ交換後またはタイヤ空気圧の調節後に、**MY CAR** でシステムを再校正することにより毎回行う必要があります。

例えば、積載物が重いときや高速走行(160 km/h (100 mph) 超過)するときには、タイヤ空気圧の調節が必要です。そして、調節の後にシステムを再校正する必要があります。

再校正

設定は、センターコンソールのコントロールで行います。**MY CAR** (p. 147)を参照してください。

1. エンジンを止めます。

2. 運転席側ドアピラー(フロントドアとリアドアの間)のタイヤ空気圧表示ラベルに従って、すべてのタイヤを必要な空気圧に調節します。

または、タイヤ空気圧表を参照してください。

3. エンジンを始動し、車両を静止状態のまま維持します。
4. メニューシステム **MY CAR** を開き、**タイヤモニター** メニューを選択します。
5. **校正を開始** を選択して、OK をタップします。
6. すべてのタイヤの点検と調節が完了した後、OK をタップして校正を開始します。
7. 走行を開始します。

＞ 再校正は車両の走行中に自動的に行われ、いつでも中断することができます。再校正の実施中にエンジンを停止した場合、次の走行時に再開されます。校正が完了しても、システムからの確認通知はありません。

新しい基準値は上記のステップ 1~7 を再度行うまで適用されます。

① 注意

TM システムは、タイヤ空気圧を調節した場合、またはタイヤ交換のたびに校正し直す必要があります。新しい基準値が記憶されないと、システムは正しく機能できません。

① 注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して緩めにくくなることがあります。

システムおよびタイヤの状態

システムおよびタイヤの現在の状態は、センターコンソールの画面で確認することができます。

1. メニューシステム **MY CAR** を開きます。
2. **タイヤモニター** メニューを選択します。
 - ＞ タイヤ空気圧の状態が色で区別されて表示されます。

状態は以下のようにタイヤごとに色分けされます。

- すべて緑色:システムは正常に作動しています。タイヤ空気圧はすべてのタイヤで推奨レベルを少し上回っている状態です。
- 黄色のホイール:該当するタイヤの空気圧が低すぎます。
- 全ホイールが黄色:複数のタイヤの空気圧が低すぎる状態です。
- 全ホイールがグレーでメッセージ **タイヤ空気圧モニター 現在利用できません**: タイヤ空気圧システムが一時的に無効な状態です。システムを再びオンにするには、30 km/h (20 mph) を超える速度で短時間走行することが必要になる場合があります。
- 全ホイールがグレーおよびメッセージ **タイヤ空気圧モニター サービスが必要です**:システムにエラーが発生しました。ボルボディーラーまたはサービス工場にご連絡ください。

関連情報

- タイヤ - 空気圧 (p. 360)

緊急パンクリペアー*

緊急パンクリペアーでは、緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK) を使用して、パンクの穴を塞ぎ、空気圧の点検、調整を行います。

緊急パンクリペアーキットには、コンプレッサーとシーリング剤ボトルが入っています。このキットは応急修理用です。シーリング剤は、トレッド部のパンクした箇所を効果的にシールします。

緊急パンクリペアーキットは、タイヤのサイドウォール部のパンク修理には使用しないでください。裂け、亀裂などの損傷が大きいタイヤには、パンク修理キットを使用しないでください。

① 注意

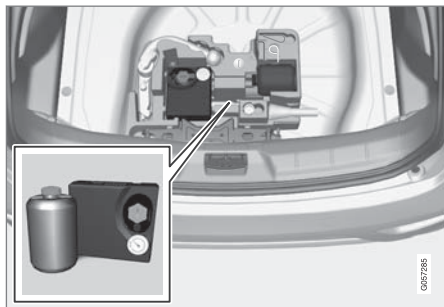
緊急パンクリペアーキットは、タイヤのトレッド部のパンクした部分をシールすることのみを目的としています。

① 注意

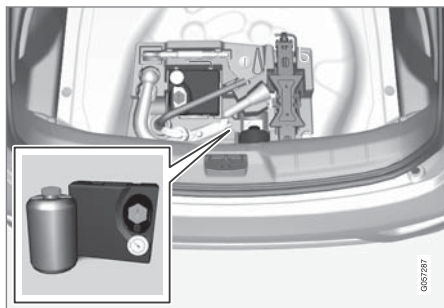
緊急パンクリペアーキット用コンプレッサーはボルボによりテストされ、承認されています。

◀ 位置

緊急パンクリペアーキットは、カーゴスペースフロアの下のフォームブロック²に収納されています。



バージョン 1



バージョン 2

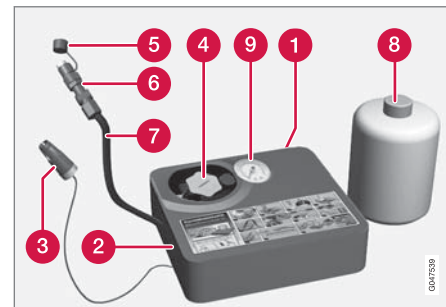
関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* - 操作 (p. 375)
- 緊急パンクリペアー* - 再点検 (p. 378)
- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 374)

緊急パンクリペアーキット* - 概要

緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK)の構成部品の概要

パーツはカーゴスペースのフロアの下に収納されています。



- 1 制限速度の表示ラベル
- 2 スイッチ
- 3 電源コード
- 4 ボトルホルダー(オレンジ色キャップ)
- 5 プロテクティブキャップ
- 6 プレッシャーリリースバルブ
- 7 エアホース

² フォームブロックの外観は車両の装備により異なることがあります。

⑧ シーリング剤ボトル

⑨ プレッシャーゲージ

シーリング剤ボトル

使用期限が切れる前に、または使用後には、シーリング剤ボトルを中身ごと交換してください。取り外した容器は、危険ゴミとして廃棄してください。

⚠ 警告

ボトルには、1,2 エタノールおよびナチュラルラバーラテックスが入っています。

誤飲すると危険です。皮膚に触れると、アレルギー反応を起こすおそれがあります。

皮膚に触れたり、目に入らないようにご注意ください。

お子様の手の届かない場所に保管してください。

⚠ 警告

- シーリング剤が皮膚に付着した場合、石けんと大量の水ですぐに洗い流してください。
- シーリング剤が目に入った場合、洗眼液または大量の水ですぐに洗い流してください。違和感が解消されない場合、医師の診察を受けてください。

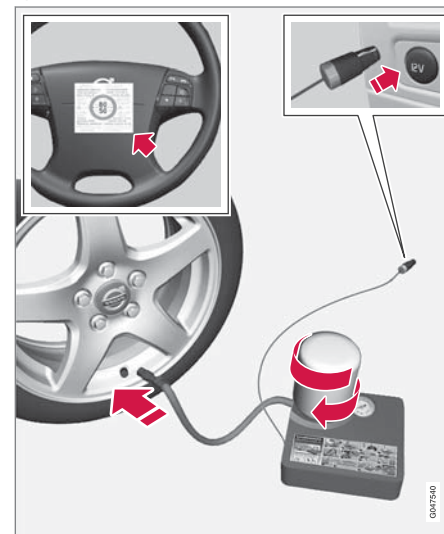
関連情報

- 緊急パンクリペアー* (p. 373)

緊急パンクリペアーキット* - 操作

緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK) でパンクを塞ぎます。

緊急パンクリペアーキット



各パーツの機能については、緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 374) を参照してください。

- ◀ 1. 車が往来する場所で作業する場合は、必ず三角警告板(停止表示板)を立てて、非常点滅灯を作動させてください。
- 釘などが刺さってパンクした場合、刺さっているものをタイヤに残したままにしてください。穴を塞ぐのに役立ちます。
2. 制限速度の表示ラベル(コンプレッサーの片側にあります)を外して、ステアリングホイール部の運転者の見やすい位置に貼ります。緊急パンクリペアーキット使用後は、絶対に 80 km/h (50 mph) を超える速度で走行しないでください。
3. スイッチが **0** 位置にあることを確認し、電源コードおよびエアホースを取り出します。
4. オレンジ色のキャップをコンプレッサーから外し、ボトルのコルクを外します。

i 注意

ご使用前にボトルのシールを開けないでください。ボトルを締め込むと、シールが自動的に開封されます。

5. ボトルをボトルホルダーの下までねじ込みます。
- ＞ ボトルおよびボトルホルダーにはシーリング剤の漏れ防止のために戻り止めが装備されています。一旦ねじ込むと、ボトルはボトルホルダーから外すことができません。ボトルの取り外しは、ボルボ指定のサービス工場で行う必要があります。

⚠ 警告

- シーリング剤が皮膚に付着した場合、石けんと大量の水ですぐに洗い流してください。
- シーリング剤が目に入った場合、洗眼液または大量の水ですぐに洗い流してください。違和感が解消されない場合、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

使用後は、ボトルをホルダーから外さないでください。ボトルには、液漏れを防ぐためのリバースキャッチが付いています。

6. タイヤのダストキャップを外します。
- エアホースにプレッシャーリリーフバルブが完全にねじ込まれていることを確認し、エアホースのバルブコネクターをタイヤのエアバルブにネジ部の下までねじ込みます。

7. 電源コードをもっとも近くの 12V 電源ソケットに接続して、車両を始動します。

i 注意

コンプレッサーの作動中には、その他の 12V 電源ソケットを一切使用しないでください。

⚠ 警告

エンジン作動中、お子様だけを車内に残したまま、車両から絶対に離れないでください。

8. スイッチを **I** 位置にして、コンプレッサーを起動させます。

警告

コンプレッサーでタイヤに空気を充填している間は、タイヤの横に立たないでください。タイヤにヒビ割れ、ふくらみなどの異常が認められた場合は、ただちにコンプレッサーを停止してください。このような場合は、走行しないでください。タイヤ販売店、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

注意

コンプレッサーが作動すると圧力は6 バール程度まで上昇しますが、約 30 秒後に圧力は低下します。

9. 7 分間タイヤに空気を充填します。

重要

コンプレッサーは 10 分以上作動させないでください。過熱するおそれがあります。

10. コンプレッサーのスイッチを切り、プレッシャーゲージの圧力を確認します。タイヤ空気圧が 1.8 ~ 3.5 バールであれば正常です。(タイヤ空気圧が高すぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。)

警告

タイヤ空気圧が 1.8 バール以下の場合、タイヤのパンク穴が大き過ぎることを意味します。このような場合は、走行しないでください。タイヤ販売店、またはボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

11. コンプレッサーをオフにして、電気コードを外します。
12. エアホースをタイヤのエアバルブから外して、ダストキャップをタイヤに元通りに取り付けます。
13. 残りのシーリング剤の漏れ防止のため、エアホースに保護キャップを取り付けます。

14. シーリング剤でパンク穴が確実に塞がれるように、すみやかに 80 km/h (50 mph) 以下の速度で 3 km 以上走行します。

注意

最初の数回転ではタイヤのパンク穴からシーリング剤が噴き出します。

警告

車両を発進させるときには、車両の近くに誰もいないこと、シーリング剤が誰にもかからないことを確認してください。少なくとも 2 m 以上離れる必要があります。

15. 事後点検：

エアホースをタイヤのエアバルブに接続し、プレッシャーゲージを使用してタイヤ空気圧を点検します。緊急パンクリペアー* – 再点検 (p. 378)を参照してください。

関連情報

- 緊急パンクリペアー* (p. 373)
- 緊急パンクリペアー* – 再点検 (p. 378)
- 緊急パンクリペアーキット* – 概要 (p. 374)

緊急パンクリペアー* - 再点検

緊急パンクリペアーキット、Temporary Mobility Kit (TMK) でタイヤの処置をした場合は、約 3 km 走行した後に、再点検を行う必要があります。

空気圧の点検

タイヤシーリング用品を取り出します。コンプレッサーのスイッチをオフにします。

1. タイヤのダストキャップを外します。
エアホースを取り出し、バルブコネクターをタイヤのエアバルブにネジ部の下までねじ込みます。
2. プレッシュャーゲージの圧力を読み取ります。
 - タイヤ空気圧が 1.3 バール未満の場合は、タイヤのパンク穴が十分に塞がっていません。このような場合は、走行しないでください。タイヤ販売店にご連絡ください。
 - タイヤ空気圧が 1.3 バール以上ある場合は、運転席側ドアピラーのタイヤ空気圧ラベルに記載されている適正な空気圧に達するまで、空気を充填します (1 バール = 100 kPa)。
 - タイヤ空気圧が高すぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。

3. タイヤに空気を注入する必要がある場合：
 1. 電源コードをもっとも近くの 12V 電源ソケットに接続して、車両を始動します。
 2. コンプレッサーをオンにして、運転席側ドアピラーのタイヤ空気圧ラベルに表示されている数値まで、タイヤに空気を充填します。
 3. コンプレッサーを止めます。
4. タイヤシーリング用品を取り外し、エアホースに保護キャップを取り付けて、ホースを箱に収納します。

警告

使用後は、ボトルをホルダーから外さないでください。ボトルには、液漏れを防ぐためのリバースキャッチが付いています。

5. ダストキャップをタイヤに元通りに取り付けます。

注意

- タイヤに空気を充填した後は、砂利や土によるバルブの損傷を防ぐため、必ずダストキャップを取り付けてください。
- 必ずプラスチック製ダストキャップを使用してください。金属製のダストキャップは腐食して緩めにくくなる場合があります。

注意

シーリング剤ボトルおよびホースを使用した後は、必ず新品と交換してください。交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼してください。

警告

タイヤ空気圧は、定期的に点検してください。

最寄りのボルボ指定のサービス工場で、パンクしたタイヤを交換または修理してください。サービス工場に、シーリング剤でタイヤを修理したことを伝えてください。

⚠ 警告

緊急パンクリペアーキット使用後は、絶対に 80 km/h (50 mph) を超える速度で走行しないでください。応急修理をしたタイヤは、ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください(最高許容走行距離: 200 km)。専門知識のあるスタッフが、そのタイヤは修理可能か、あるいは新しいタイヤと交換する必要があるか判断します。

関連情報

- 緊急パンクリペアーキット* - 操作 (p. 375)

緊急パンクリペアーキット*のコンプレッサーを使用してタイヤに空気を入れる

車両の純正のタイヤは、緊急パンクリペアーキット(p. 374)に入っているコンプレッサーを使用して空気を入れることができます。

1. コンプレッサーのスイッチをオフにします。スイッチが **0** 位置にあることを確認し、電源コードおよびエアホースを取り出します。
2. タイヤのダストキャップを外し、エアホースのバルブコネクターをタイヤのエアバルブにネジ部の下までねじ込みます。
3. 電源コードをもっとも近くの 12V 電源ソケットに接続して、車両を始動します。

⚠ 警告

車の排気ガスを吸入すると、生命に関わるおそれがあります。ガレージなどの密閉された場所や、十分な換気設備のない場所では、絶対にエンジンを始動しないでください。

⚠ 警告

エンジン作動中、お子様だけを車内に残したまま、車両から絶対に離れないでください。

4. スwitchを **I** 位置にして、コンプレッサーを起動させます。

❗ 重要

コンプレッサーは 10 分以上作動させないでください。過熱するおそれがあります。

5. 運転席側ドアピラーのタイヤ空気圧ラベルに表示されている数値まで、タイヤに空気を充填します。タイヤ空気圧が高すぎる場合は、プレッシャーリリーフバルブを使用して圧力を下げます。
6. コンプレッサーを止めます。エアホースおよび電源コードを外します。
7. ダストキャップをタイヤに元通りに取り付けます。

関連情報

- 緊急パンクリペアー* (p. 373)
- 緊急パンクリペアーキット* - 概要 (p. 374)

保守点検

ボルボサービスプログラム

信頼できる安全性能を維持するため、メンテナンスノート(整備手帳)に記載されているボルボ点検整備要領に従って、点検整備をおこなってください。

点検整備は、ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。ボルボ指定のサービス工場にはボルボ車を熟知したメカニックがおり、専用工具やサービス資料も完備していますので、クオリティの高い点検整備をご提供することができます。

❗ 重要

ボルボ社の保証が適用されるためには、メンテナンスノート(整備手帳)の指示に従った点検を実施する必要があります。

関連情報

- エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理 (p. 393)

サービスと修理の予約*¹

インターネット接続車両では、サービス、修理、予約情報を直接管理できます。

この方法¹を利用すると、車内からサービスおよびサービス工場への入庫を直接予約できます。ご利用のディーラーに車両情報が送信され、ディーラーはサービス工場への入庫準備を行うことができます。ディーラーはお客様に連絡して、入庫予約の日時を決定します。一部の市場では、予約日時が近づくと、システムからお客様に予約情報が通知され、入庫予定日になると、ナビゲーションシステム²がサービス工場までお客様を案内することもできます。

サービスを使用する前に

Volvo ID およびマイプロフィール

- Volvo ID を登録します。詳しい情報および Volvo ID の作成方法については、Volvo ID (p. 22)を参照してください。
 - オーナーポータル My Volvo にログインして、お客様のプロフィールに進み、以下を行ってください。
1. 車両がお客様のプロフィールに接続されていることを確認します。
 2. お客様の連絡先が正しいことを確認します。

3. サービスおよび修理の件で連絡するボルボディーラーを選択します。
4. ご希望の通信手段(電話)を選択します。予約情報は必ず車両とお客様にメールで送信されます。

車両から予約する場合の必須条件

- 車両から予約情報を送受信するには、車両がインターネットに接続されている必要があります。車両をインターネットに接続する方法については、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。
- 予約情報はお客様の電話回線で送信されるため、情報の送信許可が求められます。質問は1回だけです。その後、選択した接続に対して時間制限付きで適用されます。
- サービスを利用可能にし、システムが車両の画面を介して通信できるようにするには、通知/ポップアップメッセージを許可する必要があります。MY CAR ソースの通常ビューで、OK/MENU をタップし、サービス & 修理 → サービス & 修理の通知設定の順に選択します。

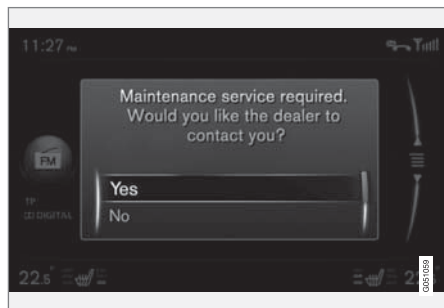
サービスの使用

OK/MENU、サービス & 修理 の順にタップすると、MY CAR の通常ビューからすべてのメニューおよび設定にアクセスできます。

¹ 特定市場に適用

² Sensus Navigation に適用されます。

サービス時期や車両の修理が必要な場合に、コンパインド・メーター・パネル(p. 98)と画面のポップアップメニューで通知が入ります。



画面のサービスメッセージ

画面のポップアップメニューに表示される回答選択肢の意味：

- **はい** - 予約照会がディーラーに送信され、予約提案と合わせて返答が入ります。コンパインド・メーター・パネルのサービスランプおよびサービスメッセージが消えます。
- **いいえ** - 画面にポップアップメッセージが表示されなくなります。コンパインド・メーター・パネルのメッセージは残ります。この選択肢を選択した後も、車内から手動予約を

行うことができます。以下を参照してください。

- **あとで確認する** - 次回の車両始動時にポップアップメニューが表示されます。

サービスまたは修理の手動予約¹

1. センターコンソールの **MY CAR** ボタンをタップして、**サービス & 修理 → ディーラー情報 → サービスまたは修理を申し込む**を選択します。
 > 車両データが自動的にお客様のディーラーに送信されます。
2. ディーラーが車両に予約日程案を送信します。
3. 予約日程案を受け入れるか、新しい予約日程案を要求します。

予約を受け入れると、予約情報が車両に保存されます。「My bookings」を参照してください。車両は画面を通じて、自動的に予約のリマインダーをお客様に通知し、サービス工場への入庫まで案内します。

サービス工場への入庫は、My Volvo 経由でも予約することができます。「My bookings」に移動し、「Update」(更新)を選択して、My Volvo から予約にアクセスしてください。

My bookings¹

車両の画面に予約情報を表示します。予約日程案を受け入れるか、新しい予約日程案を要求します。

- **サービス & 修理 → サービス & 修理の予約リストの順**に選択します。

ディーラーに電話する¹

車両に接続されている Bluetooth® 電話を使用して、ディーラーに電話することができます。電話の接続については、付録「Sensus Infotainment」を参照してください。

- **サービス & 修理 → ディーラー情報 → ディーラーに電話するの順**に選択します。

ナビゲーションシステム^{1, 2}の使用

ご利用のサービス工場を目的地または中継地としてナビゲーションシステムに入力してください。

- **サービス & 修理 → ディーラー情報 → 目的地に設定の順**に選択します。
- **サービス & 修理 → ディーラー情報 → 経由地として追加の順**に選択します。

¹ 特定市場に適用

² Sensus Navigation に適用されます。

◀ 車両データの送信¹

車両データは本社のボルボデータベース(ご利用のディーラーではありません)に送信され、ボルボディーラーは車両の車台番号(VIN³)を使用してそのデータベースから車両情報を読み出します。車台番号(VIN)は車両のメンテナンスノート(整備手帳)に印刷されています。また、ウインドスクリーンの左下隅にも表示されています。

- サービス & 修理 → 車両データを送信の順に選択します。

予約情報および車両データ

車内からサービスの予約を行うときには、予約情報と車両データが送信されます。車両データは以下の情報で構成されます。

- サービス要件
- 機能の状態
- フルードレベル
- メーター値
- 車台番号(VIN³)
- 車両のソフトウェアバージョン

関連情報

- Volvo ID (p. 22)

¹ 特定市場に適用

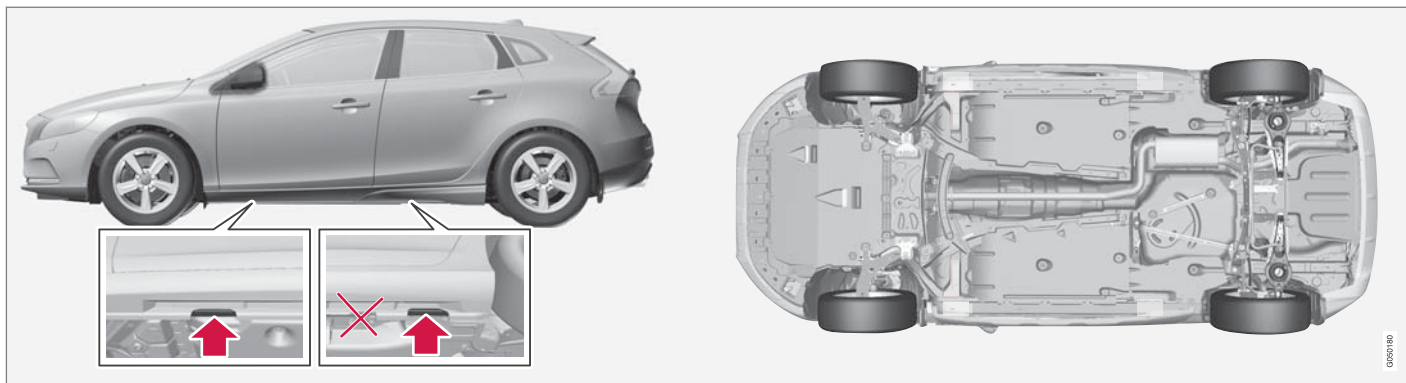
³ Vehicle identification number

車両リフトアップ

車両をリフトする場合は、ジャッキまたはリフティングアームを車両のアンダーボディの取り付けポイントに正しく取り付けることが重要です。

注意

ボルボ社は、車両搭載ジャッキのみの使用を推奨しています。ボルボ純正以外のジャッキを使用する場合には、ジャッキに添付されている指示に従ってください。



車両付属ジャッキ用のジャッキポイント(矢印)とリフティングポイント(赤印)

車両をフロントガレージジャッキで持ち上げる場合、車両下のもっとも内側のリフティングポイント 2 箇所のいずれか 1 つの下に配置する必要があります。車両をリアガレージジャッキで持ち上げる場合、リフティングポイントのいずれか 1 つの下に配置する必要があります。車両がガレージジャッキから外れないように、注意してジャッキを配置してください。必ずアクスルスタンドなどを使用してください。

車両を 2 柱リフトで持ち上げる場合、フロントおよびリアリフティングアームを外側のリフティングポイント(ジャッキポイント)の下に配置することができます。別の方法として、フロントでは内側のリフティングポイントを使用することもできます。

関連情報

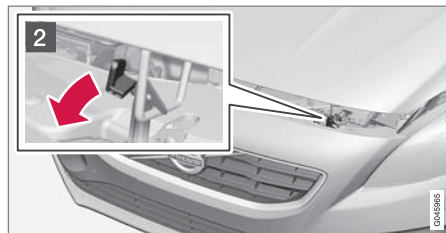
- タイヤの交換 - タイヤを取り外す
(p. 366)

ボンネット - 開閉

ボンネットは、車内のハンドルを時計回りに回し、ラジエーターグリル横のロックを左に押すと開きます。



ボンネットを開くためのハンドルは、左側にあります。



- 1 ハンドルを 20～25 度時計回りに回します。
キャッチが解除されると、音がします。

- 2 キャッチを左に押して、ボンネットを開けます。
(キャッチフックは、ヘッドライトとラジエーターグリルの間にあります。図を参照してください。)

警告

ボンネットを閉めたときは、完全にロックしているか確認してください。

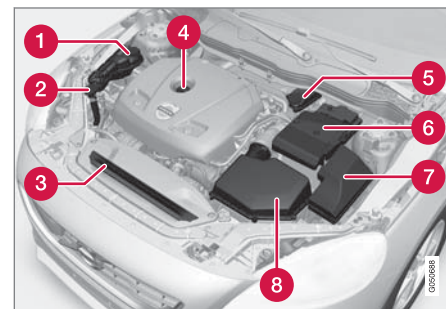
関連情報

- エンジンルーム - 点検 (p. 388)
- エンジンルーム - 概要 (p. 387)

エンジンルーム - 概要

この概要では、サービスと関係のあるコンポーネントをいくつか示します。

エンジンルーム



モデルおよびエンジンタイプにより、エンジンルームの外観が図と異なる場合があります。

- 1 エキスパンションタンク (冷却水)
- 2 ウォッシュャー液フィルターパイプ
- 3 ラジエーター
- 4 エンジンオイルフィルターパイプ
- 5 ブレーキおよびクラッチフルード用リザーバータンク (運転席側に配置)
- 6 バッテリー
- 7 リレーおよびヒューズボックス
- 8 エアフィルター



⚠ 警告

イグニッションシステムには、高電圧がかかり、出力も大きくなっています。イグニッションシステムの電圧は非常に高く危険です。エンジンルーム内でなんらかの作業をする場合には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。

車両の電気系統がキー位置 **II** のとき、あるいはエンジンが高温のときには、スパークプラグやイグニッションコイルに触れないでください。

関連情報

- ボンネット - 開閉 (p. 387)
- エンジンルーム - 点検 (p. 388)

エンジンルーム - 点検

オイルおよびフルードには定期的な点検が必要な場合があります。

定期点検

次に挙げるオイルおよびフルードは、定期的(燃料補給時など)に点検してください：

- クーラント
- エンジンオイル
- ウォッシュャー液

⚠ 警告

ラジエーターファン(エンジンルームのフロント部分、ラジエーターの後方に配置)は、エンジンを停止した後しばらくしてからでも自動的に回転を開始する場合がありますのでご注意ください。

エンジンの洗浄は必ずサービス工場で実施してもらってください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお薦めします。エンジンが高温のときは、火災につながるおそれがあります。

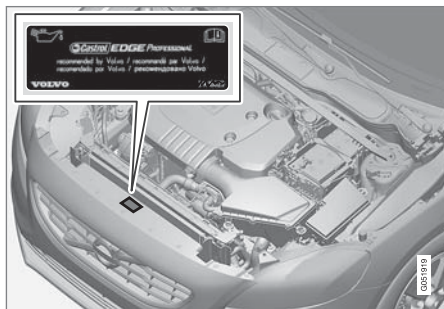
関連情報

- ボンネット - 開閉 (p. 387)
- エンジンルーム - 概要 (p. 387)
- クーラント - レベル (p. 391)

- エンジンオイル - 点検および補充 (p. 390)
- ウォッシュャー液 - 補充 (p. 403)

エンジンオイル - 概要

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。



ボルボ社の推奨品：



過酷な条件下で走行する場合は、エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 439) を参照してください。

！ 重要

エンジンのサービスインターバルに適応できるように、工場で特別な合成エンジンオイルがエンジンに充填されています。このオイルは、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全を十分考慮して選定されています。

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。オイルの補充および交換時には、指定グレードのオイル以外使用しないでください。異なるオイルを使用すると、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全に悪影響を与えます。

指定グレードおよび粘度以外のオイルを使用した場合、ボルボ社の保証も適用されなくなります。

オイル交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼されることをお勧めします。

ボルボでは、オイルレベル上昇/低下警告システムや油圧低下警告システムに、異なるシステムを使用しています。一部のエンジンタイプの車両には、油圧センサーが装備されています。その場合、コンパインド・メーター・パネルの油

圧低下警告灯  が使用されます。その他の車両には、オイルレベルセンサーが装備されています。メーター・パネルの警告灯  およびディスプレイテキストで運転者に警告します。また、両方のシステムを搭載しているモデルもあります。詳しくは、ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください。

エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換時期は、別冊のメンテナンスノート(整備手帳)を参照してください。

ボルボ社が指定するオイルグレードよりも高いグレードのオイルは、使用が認められています。過酷な状況下で走行する際には、指定のオイルよりもグレードの高いオイルの使用をお勧めします。エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 439) を参照してください。

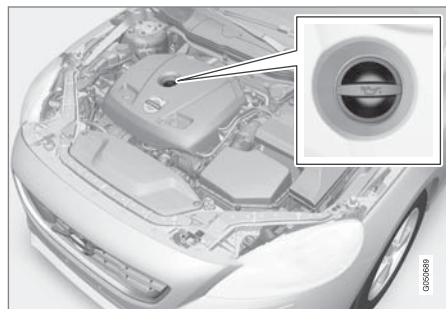
容量については、エンジンオイル - グレードおよび容量 (p. 440) を参照してください。

関連情報

- エンジンオイル - 点検および補充 (p. 390)

エンジンオイル - 点検および補充

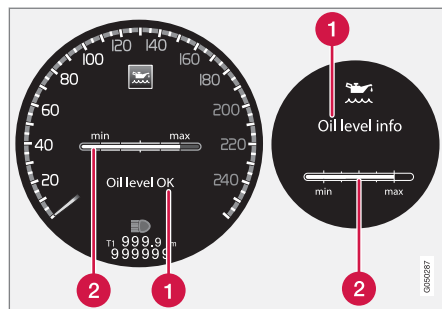
オイルレベルは、電子式オイルレベルセンサーによって感知されます。



フィラーパイプ⁴

場合によっては、次のサービスまでの間にオイルを補充する必要があります。

コンパインド・メーター・パネルにメッセージが表示されるまで、エンジンオイルレベルユニットに対する処置は不要です。以下の図を参照してください。



メッセージとグラフィックがディスプレイに表示されます。左側のディスプレイは液晶デジタルコンパインド・メーター、右側のディスプレイはアナログ式です。

① メッセージ

② エンジンオイルレベル

オイルレベルは、エンジンが停止しているときに、コントロールダイヤルで電子式オイルレベルゲージを使用して点検します。メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 144) を参照してください。

⚠ 警告

メッセージ **オイル点検して下さい** が表示された場合、サービス工場で点検を受けてください。ボルボ指定のサービス工場のご利用をお勧めします。オイルレベルが異常に高くなっている場合があります。

❗ 重要

オイルレベルの低下が表示された場合、必ず指定された量 (例 : 0.5 L) だけを補充してください。

ⓘ 注意

オイルが補充または排出されても、システムは変化を直接検出することができません。オイルレベルが正しく表示されるためには、車両を約 30 km 走行させ、その後、エンジン停止状態で水平な場所に 5 分間静止させておく必要があります。

⚠ 警告

高温のエキゾーストパイプの上に、オイルをこぼさないでください。火災につながるおそれがあります。

⁴ 電子式オイルレベルセンサー付きエンジンには、オイルレベルゲージがありません。

オイルレベルの測定

オイルレベルの点検が必要であれば、以下の手順通りに実施してください。

1. キー位置 **II** にします。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。
2. 左側レバースイッチのコントロールダイヤルを **オイルレベル** 位置まで回します。
 - ＞ エンジンオイルレベルに関する情報が表示されます。

メニューナビゲーションについては、メニューナビゲーション - コンパインド・メーター・パネル (p. 144) を参照してください。

ⓘ 注意

オイルレベルの適切な測定条件(エンジン停止からの経過時間、車両の傾き、外気温など)が満たされていないと、メッセージ **利用できません** が表示されます。これは車両のシステムに問題があることを示すものではありません。

関連情報

- エンジンオイル - 概要 (p. 389)
- キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115)

クーラント - レベル

クーラントは内燃エンジンを冷却して正しい動作温度を維持させます。エンジンからクーラントに伝わった熱は車内ヒーターに使用されることがあります。

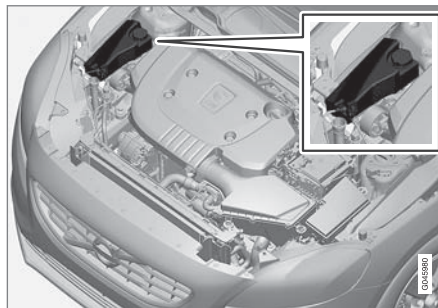
レベルの点検

クーラントレベルは、エキスパンションタンクの **MIN** と **MAX** のマークの間でなければなりません。冷却水の量が不足するとエンジンが過度に高温になり、損傷するおそれがあります。

ⓘ 注意

クーラントレベルは定期的に点検する必要があります。エンジンが冷えているときに点検してください。

補充



冷却水を補充するときは、容器に記載されている説明に従ってください。絶対に水だけを補充しないでください。冷却水の混合比が不適切な場合、凍結してエンジンが損傷するおそれがあります。

車両の下に冷却水が漏れいている場合、冷却水から煙が発生している場合、または 2 リットル以上の冷却水を補充してしまった場合は、必ず修理を依頼してください。クーリングシステムに不具合がある状態でエンジンを始動すると、エンジンが損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

クーラントは、非常に高温になります。エンジンが暖まったときにクーラントを補充する場合は、エキスパンションタンクのキャップを少しずつゆわめて、タンク内の圧力を逃がしてください。

❗ 重要

- 塩素、塩化物、およびその他の塩類は、クーリングシステムに錆が発生する原因となります。
- ボルボ社が推奨する、防錆剤入りの冷却水(クーラント)を使用してください。
- 冷却水の混合比は、水 50%、クーラント 50%になるようにしてください。
- クーラントと混合する水は、飲料水を使用してください。水質に問題がある場合は、ボルボ社が推奨する混合済みクーラントを使用してください。
- クーラント/クーリングシステムの部品交換の際は、飲料水または混合済みクーラントでクーリングシステムを洗浄してください。
- エンジンに、十分な量の冷却水が必要で
す。冷却が十分ではないと、温度が異常に
上昇し、シリンダーヘッドに損傷(亀裂)
が発生するおそれがあります。

容量や水質基準に関しては、クーラント - グレードおよび容量 (p. 442)を参照してください。

ブレーキおよびクラッチフルード - レベル

ブレーキおよびクラッチフルードのレベルは、リザーバータンクの **MIN** と **MAX** のマークの間でなければなりません。

レベルの点検

ブレーキフルードおよびクラッチフルードは、リザーバータンクを共用しています。レベルは、リザーバータンクの内側にある **MIN** と **MAX** マークの間でなければなりません。このレベルは、定期的に点検してください。

ブレーキフルードは必ず2年ごと、または定期点検2回に付き1回交換してください。

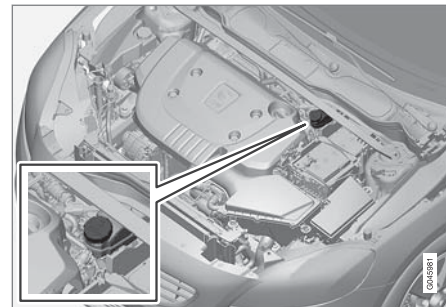
山道のような急ブレーキを頻繁に使用するような条件下や、高温多湿地域で使用する場合は、ブレーキフルードを必ず毎年交換してください。

ブレーキフルードの容量および推奨グレードについては、ブレーキフルード - グレードおよび容量 (p. 444)を参照してください。

⚠ 警告

ブレーキフルードレベルがリザーバータンクの **MIN** マークより低い場合は、ブレーキフルードを補充するまで絶対に運転しないでください。ブレーキフルードが減った原因を、ボルボ指定のサービス工場で点検する必要があります。

補充



リザーバータンクの位置(運転席側)

リザーバーキャップを外して、フルードを補充します。このレベルは、必ずリザーバータンク内側の **MIN** と **MAX** のマークの範囲内になるようにしてください。

❗ 重要

キャップを忘れず元通りに取り付けてください。

エアコンディショナーシステム – トラブルシューティングと修理

エアコンディショナーシステムは、必ずボルボ指定のサービス工場で点検整備および修理を行ってください。

トラブルシューティングと修理

エアコンディショナーシステムには、蛍光性の透写剤が含まれています。漏れ検知作業の際には、UV ライトを使用する必要があります。

ボルボ指定のサービス工場にご連絡ください。

R134a 冷媒仕様車

警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R134a が加圧充填されています。このシステムの保守や修理は、必ずボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

R1234yf 冷媒仕様車

警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R1234yf が加圧充填されています。SAE J2845(自動車用 A/C システムに使用される冷媒の安全な点検整備および格納のための技術トレーニング)に従い、冷媒システムの点検整備および修理は、必ず資格および技能を有する技術者が行い、システムの安全を確保する必要があります。

関連情報

- ボルボサービスプログラム (p. 382)

ランプ交換 – 一般

車両のバルブの中には、運転者が交換できるものがあります。LED ランプの交換については、サービス工場にご連絡ください。

バルブは指定 (p. 400) されています。以下のリストには、バルブの位置や、LED⁵ などの指定品を使用する光源、またはサービス工場⁶ 以外での交換には適さない光源の位置が記載されています。

- LED ヘッドライト
- ポジションランプ⁷
- サイド方向指示器、ドアミラー⁷
- アプローチライト、ドアミラー
- ルームランプおよびカーゴスペースランプ
- グローブボックスランプ
- テールランプ
- リアサイドマーカーランプ
- ハイマウントストップランプ
- ナンバープレートランプ

⁵ LED (Light Emitting Diode)

⁶ ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

⁷ 特定モデルのみ。



⚠ 警告

バルブ交換時には、車両の電気系統を必ずキー位置 **0** にしてください。キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115)を参照してください。

❗ 重要

バルブのガラス部分は、絶対に触らないでください。指などで触れると、付いた脂がバルブ点灯中に熱で蒸発してリフレクターに付着し、リフレクターが劣化します。

i 注意

不具合のあるバルブを交換した後でも、エラーメッセージが消えない場合には、車両をボルボ指定のサービス工場にお持ちください。

i 注意

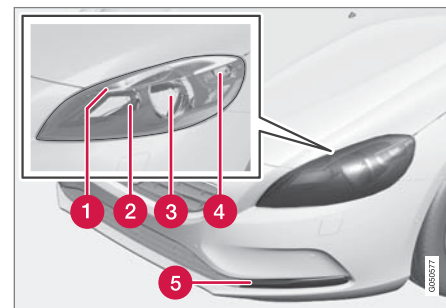
ヘッドライトやリアランプなどのエクステリアランプでは、レンズの内側が一時的に曇る場合があります。これは異常ではありません。エクステリアランプは、このような曇りに耐えるように設計されています。ライトをしばらく点灯させると、曇りは自然に解消します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)
- ランプ交換 - フロントランプの位置 (p. 394)
- ランプ交換 - リアランプの位置 (p. 398)
- ランプ交換 - メイクアップミラーランプ (p. 400)

ランプ交換 - フロントランプの位置

概観図は、ハロゲンヘッドライト装備車の前部にあるランプの位置を示しています。



- 1 ポジションランプ (p. 398)
- 2 ハイビーム (p. 397)
- 3 ロービーム (p. 396)
- 4 方向指示器 (p. 398)
- 5 (未使用)

関連情報

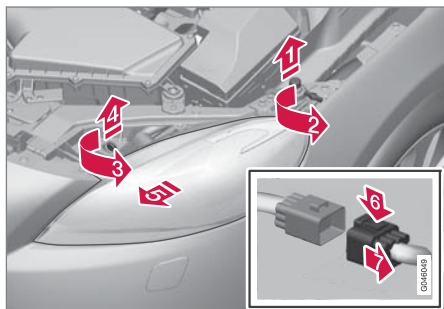
- ランプ交換 - 一般 (p. 393)
- ランプ交換 - ヘッドライト (p. 395)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - ヘッドライト

ヘッドライトのすべてのバルブは、エンジンルームからヘッドライト全体を取り外して交換します。

① 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されません。



1. **1** ボンネットストップを引き上げます。
2. **2** トルクスツール(T30 サイズ)を使用して、スクリューをゆるめます。
3. **3** ロッキングピンを反時計回りに回します。
4. **4** ロッキングピンを引き抜いてください。

4. **5** ヘッドライトを交互に傾けてゆるめ、引き出します。

❗ 重要

ヘッドライトを取り付ける際には、いずれの部分にも傷を付けないよう十分注意してください。

5. **6** キャッチを押し下げます。

7 コネクターを外します。

レンズに傷をつけないように、ヘッドライトを柔らかい布などの上に置きます。

❗ 重要

ケーブルを引っ張らないでください。必ず、コネクターを引いてください。

6. 該当のバルブを交換します。

ライトの点灯やキー位置の変更を行う前に、必ずヘッドライトと接点が正しく取り付けられていることを確認してください。

関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 393)
- ランプ交換 - フロントランプの位置 (p. 394)
- ランプ交換 - ハイ/ロービームバルブ用カバー (p. 396)

- ランプ交換 - フロント方向指示器 (p. 398)
- ランプ交換 - ポジションランプ (p. 398)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

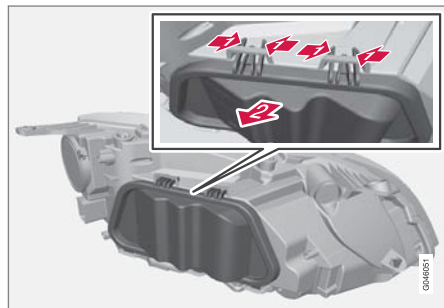
ランプ交換 - ハイ/ロービームバルブ用カバー

ハイ/ロービームのバルブへアクセスするには、ヘッドライトの大きい方のカバーを外します。

① 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。

大きい方のカバーを外すには、まずヘッドライトを取り外す必要があります。ランプ交換 - ヘッドライト (p. 395)を参照してください。



1. **1** フックを押し合わせます。
2 カバーを傾けて外します。
2. 該当のバルブを交換します。

関連情報

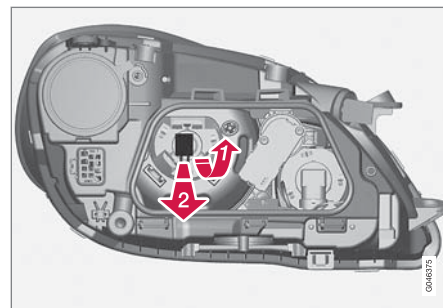
- ランプ交換 - ロービーム (p. 396)
- ランプ交換 - ハイビーム (p. 397)

ランプ交換 - ロービーム

ロービームバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

① 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。



1. ヘッドライト (p. 395)を外します。
2. カバー (p. 396)を外します。
3. **1** 外れるまでバルブホルダーを押し上げます。
2 バルブホルダーを引き抜いてください。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

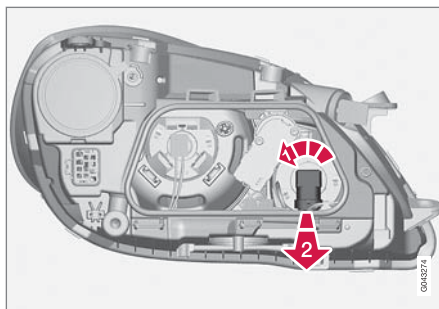
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - ハイビーム

ハイビームバルブはヘッドライトの大きい方のカバーの下に取り付けられています。

i 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。



1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. カバー (p. 396) を外します。
3.  バルブホルダーを反時計回りに回します。
4.  バルブホルダーを引き抜いてください。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

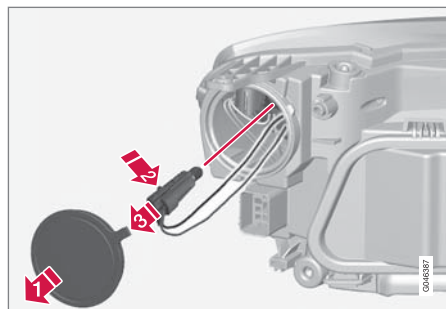
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - フロント方向指示器

方向指示器のランプはヘッドライトの小さい方のカバーの下に取り付けられています。

① 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。



1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. **1** カバーを外します。
3. **2** キャッチを押し入れます。
3 バルブホルダーを引き抜いてください。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

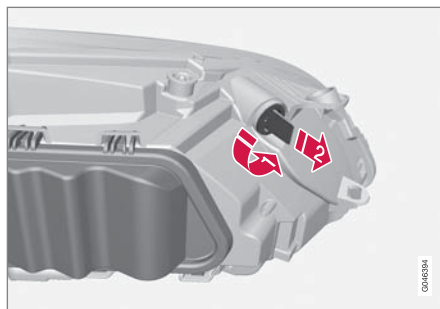
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - ポジションランプ

ポジションランプのバルブホルダーはヘッドライトの側面にあります。

① 注意

ハロゲンヘッドライト装備車に適用されます。



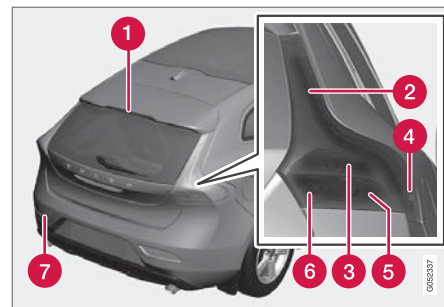
1. ヘッドライト (p. 395) を外します。
2. **1** バルブホルダーを反時計回りに回します。
2 バルブホルダーを引き抜いてください。
3. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - リアランプの位置

リアのランプの位置が示されています。



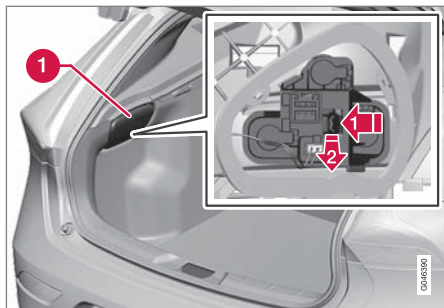
- 1** ブレーキランプ (LED)
- 2** テールランプ (LED)
- 3** ブレーキランプ (p. 399)
- 4** サイドマーカーランプ (LED)
- 5** 方向指示器 (p. 399)
- 6** 後退灯 (p. 399)
- 7** フォグランプ (運転席側) (p. 399)

関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 393)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - リア方向指示器、ブレーキランプ、後退灯

リア方向指示器、ブレーキランプ、後退灯のバルブは、カーゴスペースの内側から交換します。



1. 不具合のあるバルブと同じ側の内装にあるハッチ(1)を外します。
2. **1** キャッチを横方向に押します。
2 バルブホルダーを引き抜いてください。
3. 切れたバルブを押し込んで反時計回りに回し、取り外します。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

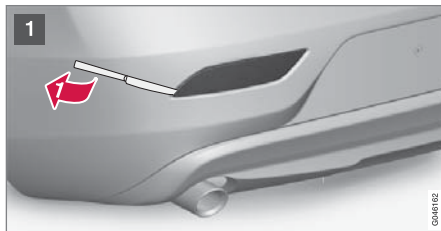
関連情報

- ランプ交換 - リアランプの位置 (p. 398)
- ランプ - 仕様 (p. 400)

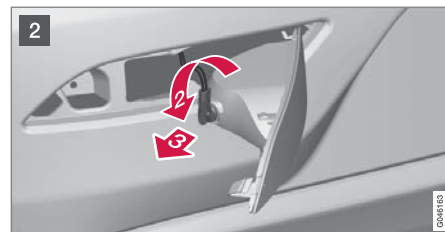
ランプ交換 - リアフォグランプ

リアフォグランプのバルブはバンパーのバルブホルダーに取り付けられています。

フォグランプは、左ハンドル車には左側に、右ハンドル車には右側にあります。



左側のランプハウジング



1. あまり鋭くない、刃状のもの(テーブルナイフなど)を三角形の部分に約 20 mm 挿入します。
1 ラグが外れるまで、慎重に押し開きます。

重要

いずれのパーツも傷付けないよう注意してください。

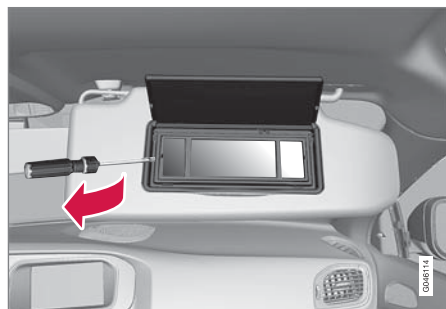
2. **2** バルブホルダーを反時計回りに回します。
3 バルブホルダーを引き抜いてください。
3. ランプを押し込んで反時計回りに回します。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ交換 - メイクアップミラーランプ

メイクアップミラーランプはランプレnzの内側に取り付けられています。



1. ランプレnzの下にドライバーを差し込み、ゆっくり押し開き、端のロックラグを外します。
2. 注意してランプレnzを外します。
3. ラジオペンチを使用して、バルブをまっすぐ横向きに引き出します。バルブをペンチで強く挟まないでください。バルブのガラスが破損するおそれがあります。
4. バルブを交換し、各パーツを逆の順序で元に戻します。

関連情報

- ランプ - 仕様 (p. 400)

ランプ - 仕様

この仕様はバルブに該当します。LED ランプの交換については、サービス工場にご連絡ください。

ライト	W ^A	タイプ
ロービーム ^B	55	H7 LL
ハイビーム ^B	65	H9
フロント方向指示器	21	HY21W
ポジションランプ ^B	5	W5W LL
サイド方向指示器、ドアミラー ^C	5	WY5W LL
リア方向指示器	21	PY21W LL
ブレーキランプ	21	H21W LL
後退灯	21	H21W LL
リアフォグランプ	21	H21W LL
メイクアップミラーランプ	1.2	T5 ソケット W2x4. 6d

A ワット

B ハロゲンライト装着車

C 特定モデルのみ。

関連情報

- ランプ交換 - 一般 (p. 393)
- ランプ交換 - フロントランプの位置 (p. 394)
- ランプ交換 - リアランプの位置 (p. 398)
- ランプ交換 - メイクアップミラーランプ (p. 400)

ワイパーブレード

ワイパーブレードはウインドスクリーンやリアウインドの水滴を取り除きます。ウォッシャー液を同時に使用してウインドを洗浄すると良好な視界を保つことができます。

ウインドスクリーンのワイパーブレードを交換する際は、サービスポジションにする必要があります。

サービスポジション



サービスポジションのワイパーブレード

ワイパーブレードの交換、清掃、持ち上げなどを行うため(例えば、ウインドスクリーン上の凍結した水を除去するため)には、必ずサービスポジションにしてください。

❗ 重要

ワイパーブレードをサービスポジションにする前に、凍結していないことを確認してください。

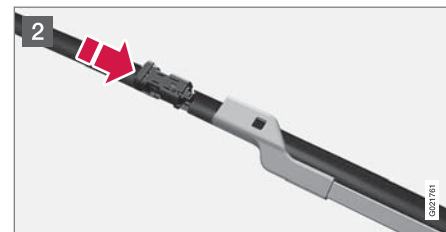
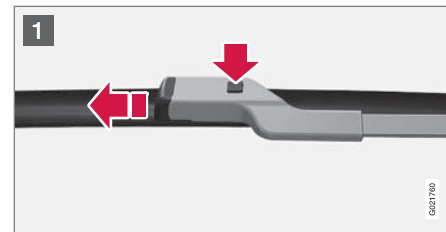
1. リモートコントロールキーをイグニッションスイッチに挿入し⁸、**START/STOP ENGINE** ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にします。キー位置についての詳細は、キー位置 - 各レベルでの機能 (p. 115) を参照してください。
2. **START/STOP ENGINE** ボタンをもう一度軽く押し、車両の電気系統をキー位置 **0** にセットしてください。
3. 3秒以内に右側レパースイッチを押し上げ、約1秒間その位置に保ってください。
 > ワイパーはまっすぐ立ち上がります。

START/STOP ENGINE ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にすると(もしくは、エンジンを始動すると)、ワイパーは初動位置に戻ります。

❗ 重要

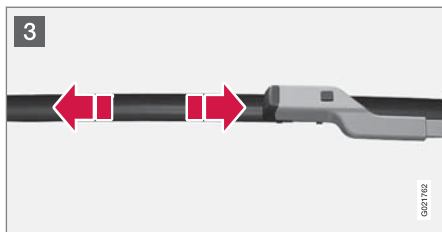
ウインドスクリーンからサービスポジションでワイパーアームが起こしてある場合には、ワイパーを始動する前に、ウインドスクリーンの方に倒して元の位置に戻してください。これは、ボンネットの塗装に傷を付けないようにするためです。

ワイパーブレードの交換



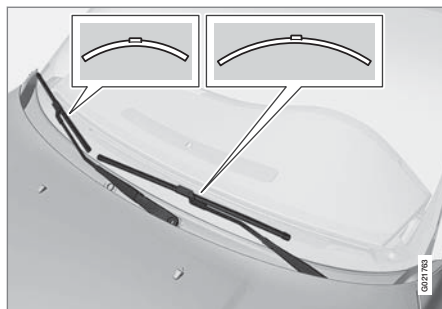
⁸ キーレス始動およびロックシステム装備車の場合は不要。

◀



- 1 サービスポジションのときにはワイパーアームを折りたたんでください。ワイパーブレードのマウンティングにあるボタンを押しながら、ワイパーブレードをワイパーアームと並行方向にまっすぐ引き抜きます。
- 2 カチッと音がするまで、新しいワイパーブレードを差し込みます。
- 3 ワイパーブレードが確実に固定されているか確認します。
4. ワイパーアームをウインドスクリーンの方に倒して戻します。

START/STOP ENGINE ボタンを軽く押して車両の電気系統をキー位置 **I** にすると(もしくは、エンジンを始動すると)、ワイパーはサービスポジションから初動位置に戻ります。



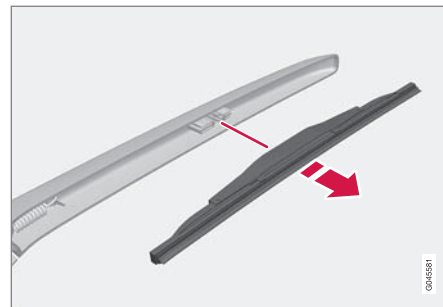
① 注意

ワイパーブレードは、長さが異なります。運転席側のワイパーブレードの方が、助手席側のワイパーブレードよりも長くなっています。

⚠ 警告

車両にエアバッグ Pedestrian Airbag が装着されているため、ボルボでは、純正ワイパーアームの使用を推奨しています。ワイパーアームの部品も必ず純正部品をご使用ください。

リアウインドワイパーブレードの交換



1. ワイパーアームを起こします。
2. ワイパーブレードの内側部分(矢印の位置)をつかみます。
3. 反時計回りに回します。てこの応用でワイパーブレードの端部をワイパーアームに押し付けながら回すと、ブレードが外れやすくなります。
4. 新しいワイパーブレードを、所定位置に差し込みます。確実に取り付けられているか確認してください。
5. ワイパーアームを下げます。

清掃

ワイパーブレードおよびウインドスクリーンの清掃については、洗車 (p. 420)を参照してください。

❗ 重要

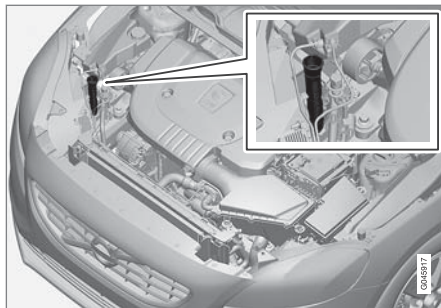
ワイパーブレードは定期的に点検してください。メンテナンスを怠ると、ワイパーブレードの耐用年数が短くなります。

関連情報

- ウォッシャー液 - 補充 (p. 403)

ウォッシャー液 - 補充

ウォッシャー液はヘッドライトとウインドの洗浄に使用します。気温が氷点下の場合は、凍結防止剤を含むウォッシャー液を必ず使用してください。



ブルーのキャップを開けて、ウォッシャー液を補充します。

ウインドスクリーンウォッシャーとヘッドライトウォッシャーは、ウォッシャー液リザーバータンクを共用しています。

❗ 注意

リザーバータンク内のウォッシャー液の残量が約 1 リットルになると、ウォッシャー液の補充を促すメッセージと  シンボルがコンパインド・メーター・パネルに表示されます。

指定グレード： ボルボ純正ウォッシャー液 - 寒冷時の氷点下の気温でも凍結から保護します。

❗ 重要

ボルボ純正ウォッシャー液、または推奨 pH (6 ~ 8) の同等品を適切に希釈 (例: 中性水と 1:1 の割合で希釈) して使用してください。

❗ 重要

ポンプやリザーバータンク、ホース内で凍結しないように、温度が氷点下のときは、凍結防止効果のあるウォッシャー液を使用してください。

容量：

- ヘッドライトウォッシャー**装備**の車両：5.5 リットル
- ヘッドライトウォッシャー**装備なし**の車両：3.2 リットル

◀ 関連情報

- ワイパーブレード (p. 401)
- ワイパーおよびウォッシャー (p. 136)
- ボンネット - 開閉 (p. 387)

メインバッテリー - 概要

メインバッテリーは、車両のスターターモーターとその他の電気装備の駆動に使用されます。

メインバッテリーは、従来の 12V バッテリーです。

メインバッテリーの耐用年数および性能は、エンジンの始動回数、車両の使用状況、運転方法、および天候など、色々な要素に影響されます。

- エンジン作動中は、絶対にメインバッテリーの接続を外さないでください。
- メインバッテリーの配線が正しく、確実に接続されているか確認してください。

次表には、メインバッテリーの仕様が記載されています。

電圧 (V)	12
冷寒始動電流 (コールドスタートキャパシティ) ^A - CCA ^B (A)	720
寸法、L×W×H (mm)	278×175×190
容量 (Ah)	70

^A EN 規格準拠

^B Cold Cranking Amperes

⚠ 重要

Start/Stop 機能装備車のメインバッテリーを交換する場合、EFB⁹ タイプ以上のバッテリーを取り付ける必要があります。

補助バッテリーを交換する場合、AGM¹⁰ タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

⚠ 重要

メインバッテリーを交換する場合は、既存のバッテリーと冷間始動性能およびタイプ (バッテリーのラベルを参照) が同じバッテリーと交換してください。

ⓘ 注意

- バッテリーを交換する場合、新しいバッテリーのサイズが元のバッテリーの寸法と一致する必要があります。

⁹ Enhanced Flooded Battery

¹⁰ Absorbed Glass Mat

⚠ 警告

- バッテリーからは、非常に引火性の高い、酸素と水素の混合ガスが発生します。ジャンパーケーブルを正しく接続しないと、火花が発生し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- バッテリー液には、腐食性の強い希硫酸が使用されており、触れると重度のヤケドを負うおそれがあります。
- 電解液が目、皮膚または衣服に付着した場合は、ただちに大量の水で洗い流してください。目に入った場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

⚠ 重要

メインバッテリーまたは補助バッテリー (p. 407) を充電する場合、必ず充電電圧制御機能付きの最新バッテリーチャージャーを使用してください。高速充電機能は使用しないでください。バッテリーが損傷するおそれがあります。

⚠ 重要

以下の指示に従わないと、外付けバッテリーやバッテリーチャージャーを接続した後、インフォテイメントシステムの節電機能が一時的に解除されたり、コンパインド・メーター・パネルのインフォメーション・ディスプレイにメインバッテリーの充電状態に関するメッセージが一時的に表示されないことがあります。

- 外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを接続する際、車両のメインバッテリーのマイナス端子は**絶対に使用しないでください。車両シャシのみがアースポイントとして使用できます。**

ケーブルクランプの取り付け方については、ジャンプスタート (p. 314) を参照してください。

ⓘ 注意

放電/充電を頻繁に繰り返すと、バッテリーの耐用年数が短くなります。

バッテリーの寿命は走行状況や気候などさまざまな要因の影響を受けます。バッテリーの始動能力は時間が経つにつれて徐々に低下しますので、長時間使用しなかった場合や、短距離の運転を繰り返した場合には、充電が必要になります。極端に気温が低い場合にも始動能力が低下します。

バッテリーを良好な状態に保つために、車両を毎週少なくとも 15 分程度運転するか、自動トリクル充電機能の付いたバッテリー充電器を接続しておくことをお勧めします。

バッテリーはつねにフルに充電された状態にしておくと、耐用年数をもっとも長くすることができます。

関連情報

- バッテリー - シンボル (p. 406)
- メインバッテリー - 交換 (p. 406)

バッテリー – シンボル

バッテリーには重要な情報と警告シンボルが表示されています。

バッテリーに表示されているシンボル

	安全ゴーグルを着用してください。
	詳しくは、車両のオーナーズマニュアルを参照してください。
	お子様の手の届かない場所に保管してください。
	腐食性の強い希硫酸が入っています。

	火花、火気禁止。
	爆発の危険。
	リサイクルに出す必要があります。

i 注意 バッテリーには鉛が含まれているため、使用済みのメインバッテリーや補助バッテリーは、環境に配慮した適切な方法でリサイクル処理してください。	

関連情報

- メインバッテリー – 概要 (p. 404)
- バッテリー – Start/Stop (p. 407)

メインバッテリー – 交換

メインバッテリーは認定サービス工場で交換してください。

ボルボではバッテリーの交換は指定のサービス工場に依頼されることを推奨します。ボルボ指定のサービス工場をご利用ください。

車両のメインバッテリーについては、メインバッテリー – 概要 (p. 404)およびジャンプスタート (p. 314)を参照してください。

バッテリー – Start/Stop

Start/Stop 機能を装備した車両には、メインバッテリーと補助バッテリーが備えられています。

Start/Stop 機能を装備した車両には、12V バッテリーが2個装着されています。始動時用の非常にパワフルなバッテリーと、Start/Stop 機能の始動手順を補佐する補助バッテリーの2つです。

Start/Stop 機能については、Start/Stop* (p. 321)を参照してください。

車両のメインバッテリーに関する詳細はジャンプスタート (p. 314)を参照してください。

次表には、補助バッテリーの仕様が記載されています。

電圧 (V)	12
冷寒始動電流(コールドスタートキャパシティ) ^A – CCA ^B (A)	120 ^C 170 ^D

寸法、L×W×H(mm)	150×90×106 ^C 150×90×130 ^D
容量 (Ah)	8 ^C 10 ^D

^A EN 規格準拠

^B Cold Cranking Amperes

^C マニュアルトランスミッションと Start/Stop 機能の組み合わせでは、車両が完全に静止したときにのみオートストップします。

^D その他

！ 重要

Start/Stop 機能装備車のメインバッテリーを交換する場合、EFB¹¹ タイプ以上のバッテリーを取り付ける必要があります。

補助バッテリーを交換する場合、AGM¹² タイプのバッテリーを取り付ける必要があります。

① 注意

- 車両の電流消費量が多いほど、オルタネーターの作動量が増し、さらにバッテリーの充電量を増やす必要があるため、燃料消費量の増加につながります。
- バッテリー容量が許容最低レベルを下回ると、Start/Stop 機能が解除されず。

電流消費量が多いために一時的に Start/Stop 機能が低下した場合には：

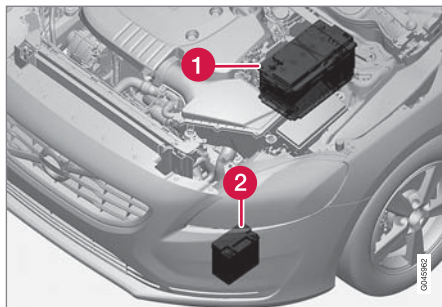
- 運転者がクラッチペダルを踏み込まなくてもエンジンがオートスタート¹³します(マニュアルトランスミッション)。
- 運転者がブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンがオートスタートします(オートマチックトランスミッション)。

¹¹ Enhanced Flooded Battery

¹² Absorbed Glass Mat

¹³ オートスタートは、セレクトアーレバーがニュートラル位置にあるときにしか実施されません。

44 バッテリーの位置



① メインバッテリー 14

② 補助バッテリー

通常、補助バッテリーが始動時に使用するメインバッテリーより頻繁に点検整備を必要とすることはありません。ご質問や不具合があれば、サービス工場にご連絡ください。ボルボ指定のサービス工場をお薦めします。

❗ 重要

以下の指示に従わない場合には、外付けバッテリーやバッテリーチャージャーを接続した後、Start/Stop 機能が一時的に機能しないことがあります。

- 外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを接続する際、車両のメインバッテリーのマイナス端子は**絶対に使用しないでください。車両シャシのみがアースポイントとして使用できます。**

ケーブルクランプの取り付け方については、ジャンプスタート (p. 314)を参照してください。

i 注意

車両の通常の電気機能が使用できないほどメインバッテリーが放電してしまい、外付けバッテリーまたはバッテリーチャージャーを使用してエンジンをジャンプスタートした場合でも、Start/Stop 機能は作動し続けます。その後間もなく Start/Stop 機能がエンジンをオートストップさせた場合、バッテリーの充電時間を確保できなかったためにバッテリー容量が不足し、エンジンオートスタートが機能しないおそれがあります。

車両をジャンプスタートした場合、またはバッテリーチャージャーでバッテリーを充電する時間が十分にない場合、車両によるバッテリーの充電が完了するまで Start/Stop 機能を一時的に無効にしておくことをお薦めします。外気温が+15 °Cの場合、車両でバッテリーを少なくとも1時間充電する必要があります。外気温がさらに低い場合、3~4時間の充電時間が必要になることがあります。バッテリーの充電には、外付けバッテリーチャージャーの使用をお薦めします。

メインバッテリーの充電については、メインバッテリー - 概要 (p. 404)を参照してください。

14 メインバッテリーについての詳細は、メインバッテリー - 概要 (p. 404)を参照してください。

関連情報

- バッテリー - シンボル (p. 406)

電気系統

電気系統は単極で、シャシおよびエンジンをアースとして使用します。

車両には、電圧安定化オルタネーターが装備されています。

メインバッテリーのサイズ、タイプ、性能は車両の装備および機能によって異なります。

❗ 重要

メインバッテリーを交換する場合は、既存のバッテリーと冷間始動性能およびタイプ (バッテリーのラベルを参照) が同じバッテリーと交換してください。

関連情報

- メインバッテリー - 交換 (p. 406)
- メインバッテリー - 概要 (p. 404)

ヒューズ - 概要

車両の電装品は、多くのヒューズによりショートや過負荷から保護されています。

電装品または電気機能が作動しない場合、電気回路に一時的に過剰な負荷がかかったため、ヒューズが切れたおそれがあります。同じ箇所のヒューズが繰返し切れる場合は、該当するヒューズの電気系統が故障しているおそれがあります。ボルボ指定のサービス工場で点検を受けてください。

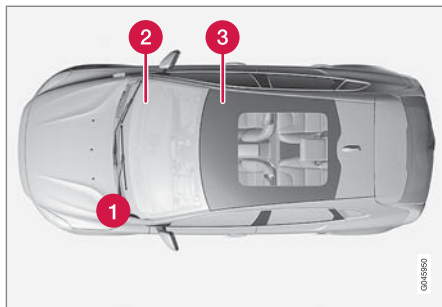
交換

1. ヒューズ表を参照して、該当するヒューズを探します。
2. ヒューズを取り外して、中央の曲がったワイヤーが焼き切れているか、側面から見て点検します。
3. 切れていたら、必ず同じ色、同じアンペアのヒューズと交換します。

⚠ 警告

ヒューズを交換する際、絶対に異なるヒューズまたは高アンペアのヒューズを使用しないでください。高アンペアのヒューズを使用すると、過大な電流が流れてもヒューズが切れず、配線を損傷させて発火し、火災を起こしたり、電装品を損傷させるおそれがあります。

◀ セントラルエレクトリカルユニットの場所



左ハンドル車のヒューズボックス位置。右ハンドル車の場合、グローブボックス下のヒューズボックスは左右が逆になります。

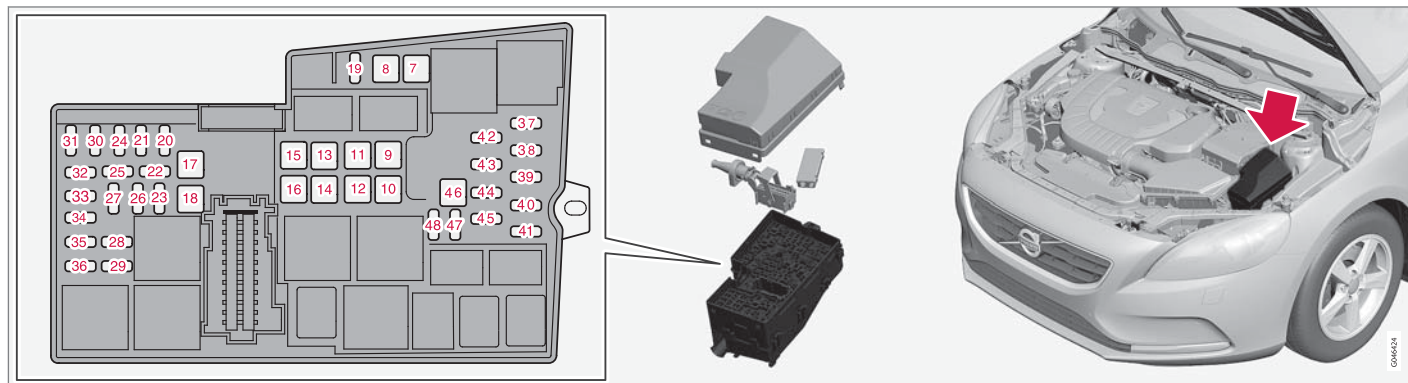
- ① エンジンルーム
- ② グローブボックス下
- ③ 右側フロントシート下

関連情報

- ヒューズ - エンジンルーム (p. 411)
- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 414)
- ヒューズ - 右側フロントシート下 (p. 417)

ヒューズ - エンジンルーム

エンジンルーム内のヒューズは、主にエンジンとブレーキシステムを保護します。



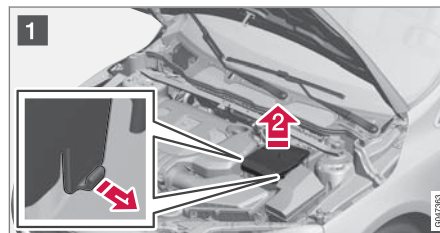
カバーの内側に、ヒューズを交換するときに使用するヒューズプライヤーがあります。

このヒューズボックスには、スペアヒューズを保管するスペースもあります。

ヒューズの交換

メインバッテリーのカバーと配電ユニットのカバーを外すと、ヒューズにアクセスできます。

カバーの取り外し

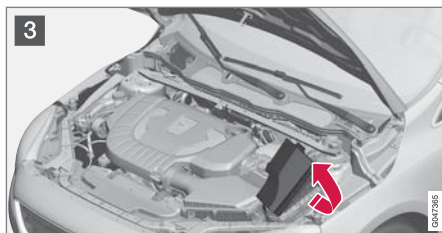


- 1 **1**➡ メインバッテリーのカバーの側面に取り付けられているロックキャッチを引き出します。
- 2 **2**➡ カバーをまっすぐ上に引き上げます。



2 1 配電ユニットの側面に取り付けられているロックキャッチを引き出します。

2 ロックラグ(1)が外れるまで、カバーを上方向に回転させます。



3 カバーをエンジンの方向に折り曲げて、ヒューズにアクセスしてください。

カバーの再取り付け

逆の順序で部品を元の位置に取り付けます。

位置

カバーの内側のラベルには、ヒューズの位置が表示されています。

- 7～18 および 46 のヒューズは、「JCASE」タイプです。交換は必ずサービス工場¹⁵にご依頼ください。
- 19～45 および 47～48 のヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A ^A
7	ABS ポンプ	40
8	ABS パルプ	30
9	ヘッドライトウォッシャー*	20
10	ベンチレーションファン	40
11	-	-
12	ヒューズ用のプライマリーヒューズ 32～36	30
13	-	-
14	ヒーターウインドスクリーン、右側*	40
15	-	-

	機能	A ^A
16	ヒーターウインドスクリーン、左側*	40
17	パーキングヒーター*	20
18	ウインドスクリーンワイパー	20
19	セントラルエレクトロニックモジュール、基準電圧、補助バッテリー	5
20	ホーン	15
21	ブレーキランプ	5
22	-	-
23	ライトスイッチ	5
24	内部リレーコイル	5
25	12V 電源ソケット、トンネルコンソールフロント	15
26	トランスミッションコントロールモジュール	15
27	-	-
28	12V 電源ソケット、トンネルコンソールリア	15

¹⁵ ボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

* オプション/アクセサリ。

	機能	A ^A
29	-	-
30	エンジンコントロールモジュール (ECM)	5
31	パワーシート、右側*	20
32	ラムダソンド(ヒーター付き酸素センサー)、クーリングファンリレーのリレーコイル	15
33	バキュームレギュレーター、バルブ、ラジエーターローラーカバーコントロールモジュール、スポイラーローラーカバーコントロールモジュール(ディーゼル)、A/Cコンプレッサー、エンジンオイルポンプ用ソレノイド、エアコンディショナーシステム用クーリングバルブ(ディーゼル)、グローコントロールモジュール(ディーゼル)、Start/Stop 機能用リレーのリレーコイル	10
34	EGR バルブ(ディーゼル)、EVAP バルブ(ガソリン)、エンジンコントロールモジュール、エンジンクーリングシステム用サーモスタット(ガソリン)、EGR 用クーリングポンプ(ディーゼル)	15

	機能	A ^A
35	イグニッションコイル(ガソリン)	15
	ディーゼルフィルターヒーター(ディーゼル)	25
36	エンジンコントロールモジュール (ECM)	15
37	ABS	5
38	エンジンコントロールモジュール、トランスミッションコントロールモジュール、エアバッグ	7.5
39	ライト高さコントロール*	10
40	電気制御サーボ	5
41	セントラルエレクトロニックモジュール	15
42	-	-
43	-	-
44	衝突警告システム	5
45	アクセルペダルセンサー	5
46	-	-

	機能	A ^A
47	-	-
48	クーラントポンプ(利用できるパーキングヒーターがない場合)	10

A アンペア

関連情報

- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 414)
- ヒューズ - 右側フロントシート下 (p. 417)

ヒューズ - グローブボックス下

グローブボックスの下にあるヒューズは、主にエアバッグおよびルームランプの機能などを保護します。



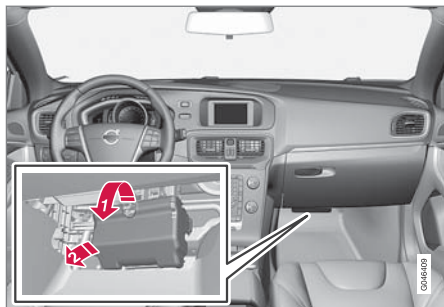
エンジンルーム内のヒューズボックス用カバーの内側に、ヒューズを交換するときに使用するヒューズプライヤーがあります。

エンジンルーム内のヒューズボックスには、スペアヒューズを保管するスペースもあります。

ヒューズの交換

ヒューズボックスからプロテクションカバーが取り除かれると、ヒューズにアクセスできます。

カバーの取り外し

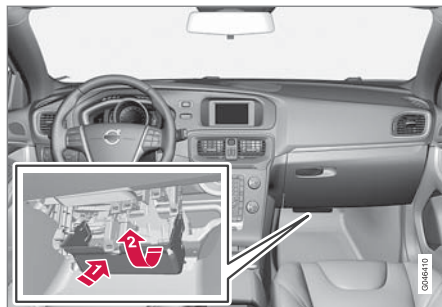


- 1 窪みをつかんで、カバーの下端のロックングラグがヒューズボックスから外れるまで引きます。
- 2 カバーを外します。

① 注意

配電ユニットからカバー上端のロックングラグを外すには、かなり大きな張力が必要となります。

カバーの取り付け



- 1 下側ラグを取り付けます。
- 2 上側ラグが噛み合うまでカバーを上向きに回します。

① 注意

上部ロックングラグが、配電ユニットの溝にしっかりとまっていることを確認してください。

位置

これらのヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A ^A
56	フューエルポンプ	20
57	-	-

	機能	A ^A
58	リアウインドワイパー	15
59	ルーフコンソールのディスプレイ (助手席のエアバッグ表示灯/シートベルトリマインダー)	5
60	ルームランプ、フロント読書灯および ルームランプ用ルーフコンソールの コントロール、パワーシート*	7.5
61	電動スライドカーテン、パノラマ・ ガラスルーフ*用	10
62	レインセンサー*、バックミラー防眩機能*、 湿気センサー*	5
63	衝突警告システム*	5
64	-	-
65	テールゲートのロック解除 ^B	10
66	-	-
67	リザーブ位置3、定電圧	5
68	ステアリングホイールロック	15
69	コンパインド・メーター・パネル	5



	機能	A ^A
70	セントラルロックシステム、燃料給油口フラップ ^C	10
71	クライメートパネル	7.5
72	ステアリングホイールモジュール	7.5
73	サイレン*、データリンクコネクター OBDII	5
74	ハイビーム	15
75	-	-
76	後退灯	7.5
77	ウインドスクリーンワイパー ^D 、リアウインドスクリーンワイパー ^D	20
78	イモビライザー	5
79	リザーブ位置 1、定電圧	15
80	リザーブ位置 2、定電圧	20
81	アラーム用ムーブメントセンサー*、リモートレシーバー	5
82	ウインドスクリーンワイパー ^E 、リアウインドスクリーンワイパー ^E	20

	機能	A ^A
83	セントラルロックシステム、燃料給油口フラップ ^F	10
84	テールゲートのロック解除 ^G	10
85	電気アディショナルヒーター*、リアシートヒーターボタン*	7.5
86	エアバッグ、歩行者エアバッグ*	7.5
87	リザーブ位置 4、定電圧	7.5
88	-	-
89	-	-

A アンペア

B ヒューズ 84 も参照。

C ヒューズ 83 も参照。

D ヒューズ 82 も参照。

E ヒューズ 77 も参照。

F ヒューズ 70 も参照。

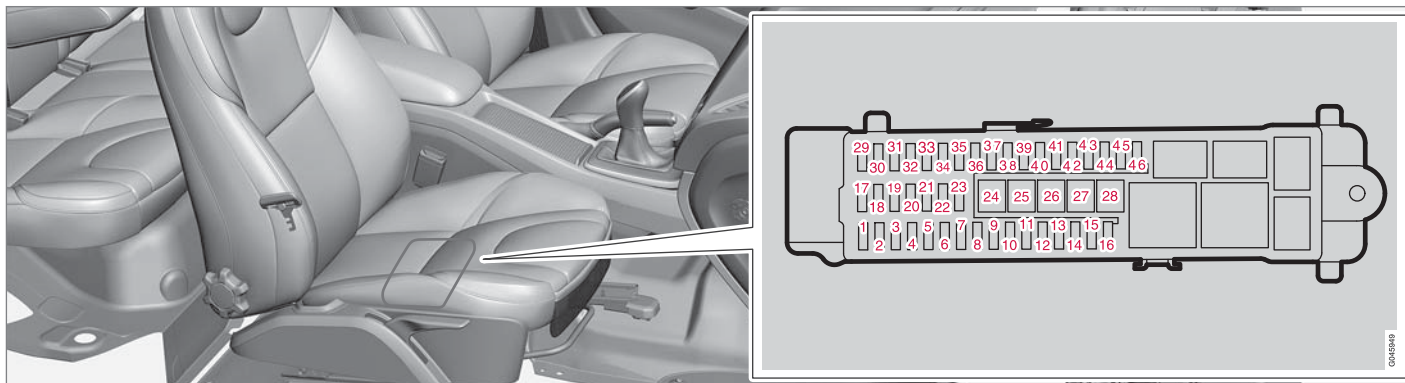
G ヒューズ 65 も参照。

関連情報

- ヒューズ - エンジンルーム (p. 411)
- ヒューズ - 右側フロントシート下 (p. 417)

ヒューズ - 右側フロントシート下

右側フロントシート下にあるヒューズは、主にインフォテインメントシステムやシートヒーターを保護します。



エンジンルーム内のヒューズボックス用カバーの内側に、ヒューズを交換するときに使用するヒューズブライヤーがあります。

エンジンルーム内のヒューズボックスには、スペアヒューズを保管するスペースもあります。

位置

- ヒューズ 24～28 は「JCASE」タイプです。交換はサービス工場¹⁶にご依頼ください。
- 1～23 および 29～46 のヒューズは「Mini Fuse」タイプです。

	機能	A ^A
①	-	-
②	キーレスシステム*	10
③	ドアハンドル、キーレスシステム*	5
④	コントロールパネル、左側フロントドア	25

¹⁶ ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。



	機能	AA
5	コントロールパネル、右フロントドア	25
6	コントロールパネル、左リアドア	25
7	コントロールパネル、右リアドア	25
8	ヒューズ用のプライマリーヒューズ 12~16 : インフォテインメント	25
9	パワーシート、左側*	20
10	-	-
11	内部リレーコイル	5
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-
16	-	-
17	カーゴスペースの 12V 電源ソケット	15
18	-	-
19	-	-

	機能	AA
20	-	-
21	-	-
22	-	-
23	トレーラーソケット 2*	20
24	オーディオコントロールモジュール(アンプ)*	30
25	-	-
26	トレーラーソケット 1*	40
27	リアウインドデフロスター	30
28	-	-
29	BLIS(ブラインド・スポット・インフォメーション・システム)*	5
30	パークアシスト*	5
31	パーキングカメラ*	5
32	DSRC(Dedicated Short Range Communications)用コントロールモジュール	5
33	-	-

	機能	AA
34	運転席シートヒーター	15
35	助手席シートヒーター	15
36	-	-
37	-	-
38	-	-
39	右リアシートヒーター*	15
40	左リアシートヒーター*	15
41	-	-
42	-	-
43	-	-
44	-	-

	機能	A ^A
45	オーディオコントロールモジュール(アンプ)* (診断用信号)、オーディオコントロールモジュールまたはコントロールモジュール Sensus ^B 、インフォテイメントコントロールモジュールまたは画面 ^B 、デジタルラジオ*、TV*	15
46	テレマチックス*、Bluetooth*	5

A アンペア
B 一部モデル

関連情報

- ヒューズ - エンジンルーム (p. 411)
- ヒューズ - グローブボックス下 (p. 414)

洗車

車両が汚れたらすぐに洗車してください。油水分離装置のある自動洗車機で洗車してください。カーシャンプー（洗車用洗剤）を使用してください。

手洗い

- 塗装面に付着した鳥のフンは、すみやかに取り除いてください。鳥のフンに含まれている成分が塗装を急速に変色させます。変色の除去については、ボルボ指定のサービス工場にお問い合わせください。
- 車体の下面の汚れは、水でよく洗い落としてください。
- 泥を含む水がすべて洗い落されるまで車両全体を洗い流してください。洗浄中に引っかき傷ができるのを防止するためです。キーシリンダーなどには直接水をかけないでください。
- 汚れが取れにくい場合は、脱脂剤を温めないで使用してください。この場合、表面が日光によって熱くなっていないように、注意してください。
- 十分な量のぬるま湯と、カーシャンプー（洗車用洗剤）およびスポンジを使用して洗車してください。
- ワイパーブレードは、洗剤を入れたぬるま湯、またはカーシャンプー（洗車用洗剤）で洗ってください。

- きれいで柔らかいセーム皮またはスクレーパーなどを使用して、車体から水分を拭き取ってください。直射日光によって水滴が乾いてしまわないように注意すれば、水滴によってシミがつく可能性が低くなります。シミができると、場合によっては磨いてとることが必要になります。

警告

エンジンの洗浄は、サービス工場にお問い合わせください。エンジンが高温のときは、火災につながるおそれがあります。

重要

ヘッドライトに汚れが付着していると、機能に影響します。定期的（燃料補給時など）に、ヘッドライトの清掃を行ってください。
腐食性の洗浄剤や pH 値が 3.5 未満または 11.5 以上の洗浄剤は使用しないでください。水とノンスクラッチスポンジを使用してください。

注意

ヘッドライトやリアランプなどのエクステリアランプでは、レンズの内側が一時的に曇る場合があります。これは異常ではありません。エクステリアランプは、このような曇りに耐えるように設計されています。ライトをしばらく点灯させると、曇りは自然に解消します。

自動洗車機

自動洗車機を使用すると簡単に早く洗車することができますが、自動洗車機のブラシでは完全に洗浄できない箇所が多数あります。できるだけ、手で洗車されることをお勧めします。

注意

最初の数カ月間は、自動洗車機の使用は避け、洗車は必ず手で行ってください。新車のうちは、塗装面がまだ完全に硬化していないためです。

重要

マットクリアコートが施されている車両には、ホットワックス処理で仕上げる洗車プログラムを絶対に使用しないでください。

高圧洗浄

高圧の水をかけるときは、広い範囲を動かすような動きで、ノズルの先端をボディ面（すべての

外装部品に該当)から 30 cm 以上離してください。キーシリンダーなどには直接水をかけないでください。

ブレーキのテスト

⚠ 警告

洗車後は、パーキングブレーキも含め、ブレーキのテストを必ず行ってください。水分や錆がブレーキパッドに悪影響を与えていないか、ブレーキの制動効果が劣っていないか確認してください。

雨や雪の中を長時間走行しているときは、ブレーキペダルを数回軽く踏むようにしてください。摩擦熱により、ブレーキライニングを温めて水分を取り除くことができます。非常に湿度が高いときや冷寒時に発進したときにも、この方法が有効です。

ワイパーブレード

ワイパーブレードにアスファルト、埃、または融雪剤が付着していたり、ウインドスクリーンに虫や氷などが付着していると、ワイパーブレードの耐用年数が短くなります。

清掃に関して：

- ワイパーブレードはサービスポジションにしてください。ワイパーブレード (p. 401) を参照してください。

ⓘ 注意

ワイパーブレードおよびウインドスクリーンは、洗剤を入れたぬるま湯、またはカーシャンプー(洗車用洗剤)で定期的に洗ってください。

強い溶剤を使用しないでください。

外装プラスチック、ラバー、およびトリムコンポーネント

カラープラスチックパーツやラバー、トリムコンポーネント(光沢のあるトリムモールディングなど)を清掃および手入れするときは、ボルボ純正専用クリーナー(ボルボ・ディーラーでお求めになれます)のご使用をお薦めします。クリーナーの使用説明書の指示に従ってください。

サイドウインド周辺のフレーム、車両のルーフレール、ウインドのドアフレーム*には陽極酸化アルミニウムが使用されています。したがって、これらのパーツを洗うときには、変色防止のため、pH 値が 3.5~11.5 の範囲内のクリーナーのみを使用してください。



pH 値が 3.5~11.5 のクリーナーを使用して洗う必要のあるパーツ

ⓘ 重要

プラスチック部分、ラバー部分、つや消しまたは半つや消し塗装のパーツにはワックスがけおよびポリッシュ加工を行わないでください。

脱脂剤をプラスチックおよびラバー部分に使用する必要がある場合は、軽くこするようにしてください。柔らかい洗浄用スポンジを使用してください。

光沢のあるトリムモールディングを、磨かないでください。表面に傷が付いたり、光沢が失われたりする場合があります。

研磨剤の入った艶出し剤は使用しないでください。



❗ 重要

洗車するときには、pH 値が 3.5 未満または 11.5 以上の洗剤は使用しないでください。使用した場合、パワーウインドの周辺部やルーフラックなどの陽極酸化アルミニウムパーツが変色する可能性があります。

陽極酸化アルミニウムパーツには、絶対に金属研磨剤を使用しないでください。変色して表面処理が損なわれる可能性があります。

ホイール

ボルボ社が推奨するクリーナー以外使用しないでください。

洗車後も、ホイールの塗装に付着したブレーキディスクからの金属粉じんが原因でスポークの根元に変色が残ることがあります。多くの場合、やわらかい布とペイントクリーナーを使用してきめ細やかに磨くと取り除くことができます。

特にクロームメッキされたアルミホイールの場合、強力なホイールクリーナーを使用すると、表面にキズやシミが付くおそれがあります。

関連情報

- 磨きおよびワックスがけ (p. 422)
- 内装の清掃 (p. 424)
- 撥水/防塵加工コーティング (p. 423)

磨きおよびワックスがけ

車体の塗装面の艶が失われてきたときや、特に外装を保護したいときは、磨きとワックスがけを行ってください。

新車購入後約 1 年間はポリッシュの必要はありませんが、ワックスがけをすることはできません。直射日光が当たる場所での磨き、またはワックスがけは避けてください。

磨きやワックスがけは、車両をよく洗い、完全に乾かしてから行ってください。車両に付着したアスファルトやタールなどは、タール用クリーナーやホワイトガソリンを使用して取り除いてください。取れにくいシミなどは、車体塗装面専用の研磨コンパウンドを使用して取り除いてください。

磨き剤で磨いてから、液体または固形ワックスを使用してワックスがけを行ってください。使用する製品に記載されている使用説明書に、必ず従ってください。磨き剤とワックスが、一緒になったタイプもあります。

❗ 重要

プラスチック部分、ラバー部分、つや消しまたは半つや消し塗装のパーツにはワックスがけおよびポリッシュ加工を行わないでください。

脱脂剤をプラスチックおよびラバー部分に使用する必要がある場合は、軽くこするようにしてください。柔らかい洗浄用スポンジを使用してください。

光沢のあるトリムモールディングを、磨かないでください。表面に傷が付いたり、光沢が失われたりする場合があります。

研磨剤の入った艶出し剤は使用しないでください。

❗ 重要

ボルボ純正のペイントトリートメントしか使用しないでください。他のペイントトリートメントなどのシーリング、プロテクション、光沢シーリングなど、その他の処置によって、塗装面が損傷を受けるおそれがあります。ペイントトリートメントなどで生じた損傷は、ボルボ社の保証が適用されません。

マットクリアコート

車両にマットクリアコートが施されている場合、不適切な取り扱いによる塗装の損傷を防止するため、以下の点にご注意ください。

❗ 重要

マットクリアコートは絶対に磨かないでください。磨くと、塗装にテカリが発生します。

ペイントクリーナー、研磨材、つや出し製品、光沢保護材(ワックスなど)は使用しないでください。このような製品は光沢面専用です。つや消し塗装面に使用すると、表面に著しい損傷(光沢染み)が発生します。

❗ 重要

- つや消し塗装面にワックスが付着した場合、標準タイプのホワイトベンゼンを使用してすぐに取り除いてください。
- 車両の塗装面に樹脂、グリースまたはオイルを付着させないように注意してください。跡が残る可能性があります。標準タイプのホワイトベンゼンを使用して、すぐに取り除いてください。

慎重に作業を続け、塗装面を強く押しすぎないように注意してください。

関連情報

- 洗車 (p. 420)

撥水/防塵加工コーティング

ウインド表面には、悪天候下でも良好な視界が確保できるようにコーティングが施されています。

撥水/防塵加工コーティング*



撥水/防塵加工コーティングは、経年劣化します。

メンテナンス：

- カーワックス、脱脂剤などは、撥水/防塵加工に影響を与えるおそれがあるので、ガラス表面に絶対に使用しないでください。
- ガラス面を清掃する際は、表層に傷を付けないよう、十分に注意してください。
- 雪や氷などを取り除く際は、ガラス表面加工を傷付けないように、プラスチック製のアイスクレーパーのみを使用してください。
- パワーウインドの撥水効果を維持するために、専用表面処理溶剤(ボルボ指定ディーラーでお買い求めいただけます)のご使用をお薦めします。新車登録後約3年目以降は、補修加工を必ず毎年実施してください。

❗ 重要

ウインドの氷を除去するときに、金属製のアイスクレーパーを使用しないでください。ミラーの氷は、デフロスター機能を使用して除去してください。ウインドおよびドアミラー - ヒーター (p. 141)を参照してください。

関連情報

- 洗車 (p. 420)

防錆

ボルボ車には、工場で入念な防錆処置が施されています。車体各部は、亜鉛メッキ処理されたシートメタルが使用されています。車体下部は防錆剤で保護されています。車体メンバー、ビーム類、およびサイドドアなどには、浸透性の防錆剤で薄いコーティングが施されています。

点検とメンテナンス

車両の防腐保護は、通常メンテナンスの必要はありませんが、車両をつねにきれいに保つことで錆のリスクを低減することができます。光沢のあるトリムコンポーネントには、強アルカリ洗剤や酸性洗剤は使用しないでください。飛び石傷を見つけた場合は、すみやかに修復を行ってください。

関連情報

- 塗装の損傷 (p. 425)

内装の清掃

ボルボ社が推奨するクリーナーおよびカーケア製品のみを使用して、定期的に清掃してください。汚れがついた場合はすぐに対処することが重要です。洗剤を使用する前に、掃除機をかけてください。

！ 重要

- 濃い色のジーンズやスウェードなど、衣類の素材によっては、色落として内装を変色させるおそれがありますのでご注意ください。内装が変色した場合、すみやかに内装の汚れた箇所を清掃して、適切に対処することが重要です。
- 車内の清掃には、強力な溶剤(ウォッシュャー液、ガソリン、ホワイトガソリンなど)を絶対に使用しないでください。内装やその他のインテリア用品を損傷するおそれがあります。
- 電気を扱うボタンおよびコントロールのあるコンポーネントには、絶対に洗剤を直接吹き付けしないでください。代わりに、洗剤で湿らせた布を使用して、コンポーネントを拭いてください。
- 清掃時に尖った物やマジックテープなどを使用しないでください。内装布地に損傷を与えるおそれがあります。

布地内装および天井内装

ボルボ社は、布地内装および天井内装のお手入れのために、総合的な布地手入れ用品をご用意しています。説明書の指示通りに使用すると、内装の状態を良好に保つことができます。布地手入れ用品は、ボルボディーラーで買い求めいただけます。

レザー製内装

ボルボ車のレザー製内装は、本来の外観が長続きするように処理されています。

レザー製内装は、時間の経過とともに変化して美しい風合いが生まれる、天然皮革の製品です。レザー特有の色や性質を保つためには、定期的な清掃とトリートメントが必要です。ボルボ社は、レザー製内装の清掃およびトリートメントのために、ボルボレザーケアキットという総合的なお手入れ用品をご用意しています。説明書の指示通りに使用すると、レザー表面の保護コーティングを良好な状態に保つことができます。

レザー特有の柔らかさと感触を保つため、年に1~4回清掃を行い、保護クリームを使用してお手入れされることをお勧めします(必要に応じて、お手入れの回数を増やしてください)。ボルボレザーケアキットは、ボルボディーラーで買い求めいただけます。

レザーステアリングホイール

レザーは呼吸します。レザー製ステアリングホイールにビニールのカバーをかけないでください。

い。レザーステアリングホイールの清掃には、ボルボレザーケアキットをお薦めします。

プラスチック製、金属製および木製インテリアパーツ

マイクロファイバークロス(ボルボ指定のディーラーにお問い合わせください)などのご使用をお薦めします。マイクロファイバークロスを水を湿らせ、内装各部を拭いて清掃してください。

汚れをとるために、強く擦ったり、削らないでください。強いシミ抜き溶剤は、絶対に使用しないでください。取れにくい汚れには、ボルボ純正専用クリーナー(ボルボ指定のディーラーでお求めになれます)のご使用をお薦めします。

シートベルト

水および中性洗剤を使用してください。テキスタイル専用洗剤は、ボルボディーラーでお買い求めいただけます。シートベルトは、完全に乾かしてから巻き戻してください。

フロアマット

フロアカーペットを清掃するときは、フロアマットやカゴスペースのマットを取り外してください。埃や汚れは、掃除機で吸い取ってください。各フロアマットはピンで固定されています。

フロアマットを各ピンの部分でつかみ、まっすぐに持ち上げて取り外してください。

フロアマットを所定位置に装着する際には、各ピンの場所を押してください。

警告

各シートではフロアマットを1枚だけ使用してください。また、運転席のマットがペダルの横や下に引っかかることがないように、運転する前に、マットがピンに確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットにシミができた場合には、掃除機をかけて掃除した後、特殊テキスタイルクリーナーをご使用ください。フロアマットの清掃には、必ずボルボディーラーが推奨する洗剤をご利用ください。

関連情報

- 洗車 (p. 420)

塗装の損傷

塗装は車両を錆から守るために重要な役割を果たしていますので、定期的に点検してください。塗装面にもっとも多く見られる損傷は、飛石による傷、引っかき傷、フェンダーおよびドア、バンパーの傷などです。

重要

車両にマットクリアコートが施されている場合：

塗装の修理は必ず指定のサービス工場で行ってください。ボルボ指定のサービス工場にご用命ください。

塗装面の小さな損傷の補修

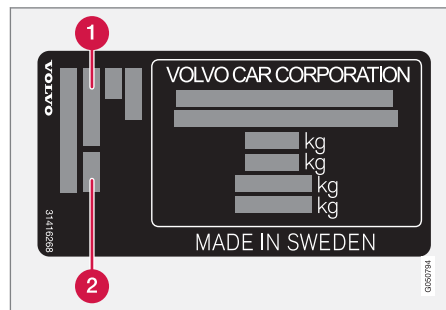
ボディーの傷をそのままにしておくと、塗装面ばかりではなくボディーそのものを腐食させてしまいます。

必要となる可能性のある製品

- プライマー¹⁷ - 例えばプラスチック加工のバンパーなどには、スプレー缶入りの癒着性プライマーが利用できます。
- 下塗りとクリアコート - スプレー缶入りやタッチアップペン/スティックタイプ¹⁸ のものが利用できます。
- マスキングテープ
- 目の細かいサンドペーパー¹⁷

カラーコード

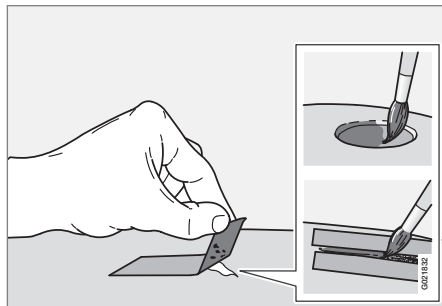
カラーコードの表示ラベルは、ドアピラーに貼付されています。右側リアドアを開けたときに確認できます。



- ① エクステリアカラーコード
- ② 準エクステリアカラーコード

必ず正しい色の塗料を使用してください。製品ラベルの位置については、タイプの表示(p. 430)を参照してください。

小石などによる傷や引っかき傷など塗装面の小さな損傷の修理



塗装面の補修は、車体をよく洗って乾燥させ、気温が 15 °C 以上のときに行ってください。

1. 損傷のある表面にマスキングテープを貼ります。剥がれかけた塗装の薄片が取り除けるようにテープを剥がします。

損傷が金属部分に達している場合には、プライマーを使って補修してください。損傷がプラスチック部分に達している場合には、癒着性プライマーを使用するとよりよい結果が得られます。スプレー缶の蓋にスプレーを吹きかけて、薄くブラシで伸ばします。

2. 塗装の前に、非常に目の細かい研磨材を使用して、必要な場所だけ慎重に研磨します(端が一樣ではない場合など)。表面をよく洗浄して、乾くまでお待ちください。
3. プライマーをよく混ぜて、細い筆かマッチ棒などで損傷部分に塗ります。プライマーが乾いたら、下塗りとクリアコートで仕上げます。
4. 引っかき傷の場合も小石による傷と同様に補修しますが、必要に応じてマスキングテープを使用して、傷のない部分を保護します。

① 注意

小石などによる傷で、金属部分に達しておらず、塗装に損傷のない部分が残っている場合には、清掃後すぐ下塗りとクリアコートで処理してください。

¹⁷ 必要時。

¹⁸ タッチアップペンのパッケージに含まれているインストラクションに従ってください。

関連情報

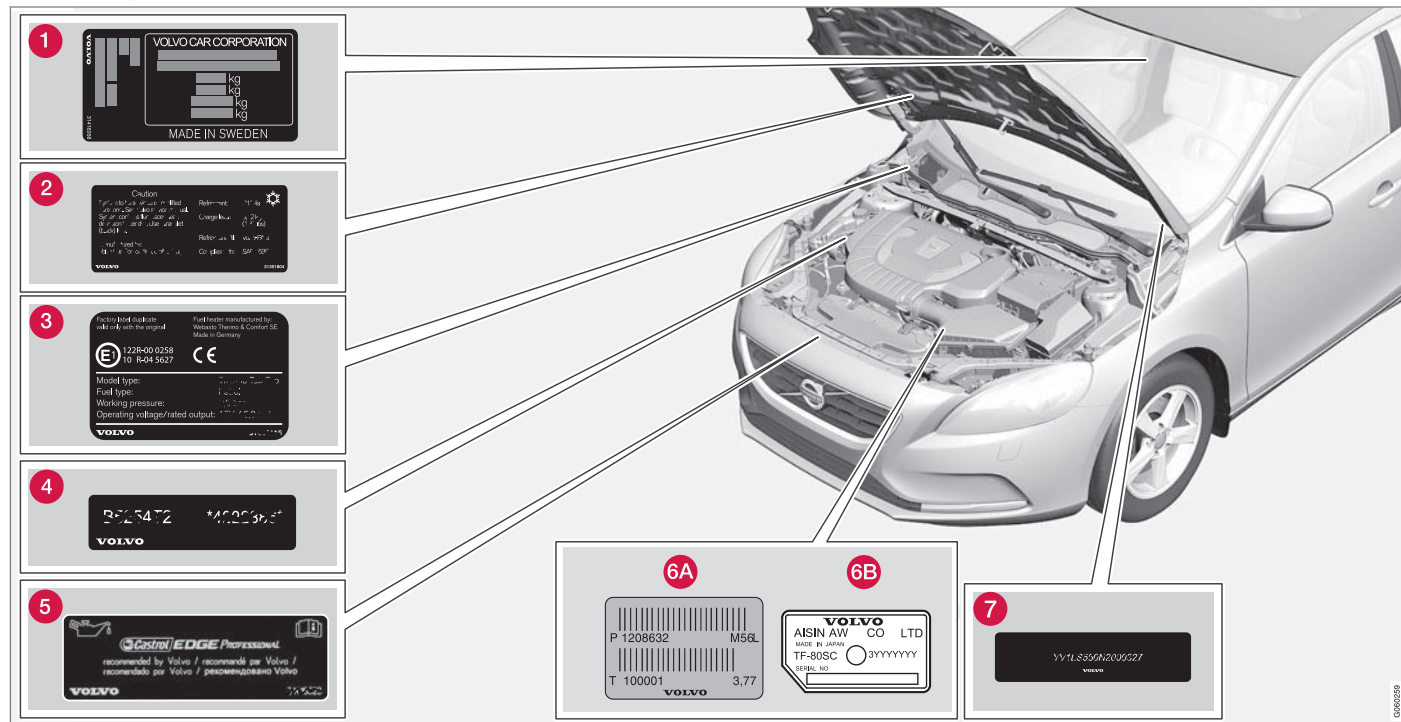
- 防錆 (p. 424)

仕様

タイプの表示

タイプの表示や車両識別番号など、車両固有の情報は車両のラベルに記載されています。

ラベルの位置



図は概略図です。詳細は、市場および車両モデルにより異なる場合があります。

ボルボ指定のディーラーに車両についてのお問い合わせや、パーツあるいはアクセサリのご注文をいただくときは、車両のシャシ(車台)番号(VIN)およびエンジンタイプをお知らせください。

- ① タイプの表示、車台番号(VIN)、最大許容重量、エクステリアカラーコードおよび型式指定番号の表示ラベル。表示ラベルはドアピラーに貼付されています。右リアドアを開けたときに確認できます。
- ② A/C システム用ラベル
- ③ パーキングヒーターラベル
- ④ エンジンコードおよびエンジンのシリアルナンバーの表示ラベル
- ⑤ エンジンオイル用ラベル
- ⑥ トランスミッション型式およびシリアルナンバーの表示ラベル
 - A マニュアルトランスミッション
 - B オートマチックトランスミッション
- ⑦ 車両の車台番号(VIN)の表示ラベル

実際の車両の各諸元値は、車検証記載の数値を参照してください。

① 注意

オーナーズマニュアルに掲載されている表示ラベルは、車両の表示ラベルと若干異なっている場合があります。ラベル掲載の目的は、ラベルの概観と車両に貼られている位置を示すことです。お客様の車両に関する情報は、車両内の各ラベルに記載されています。

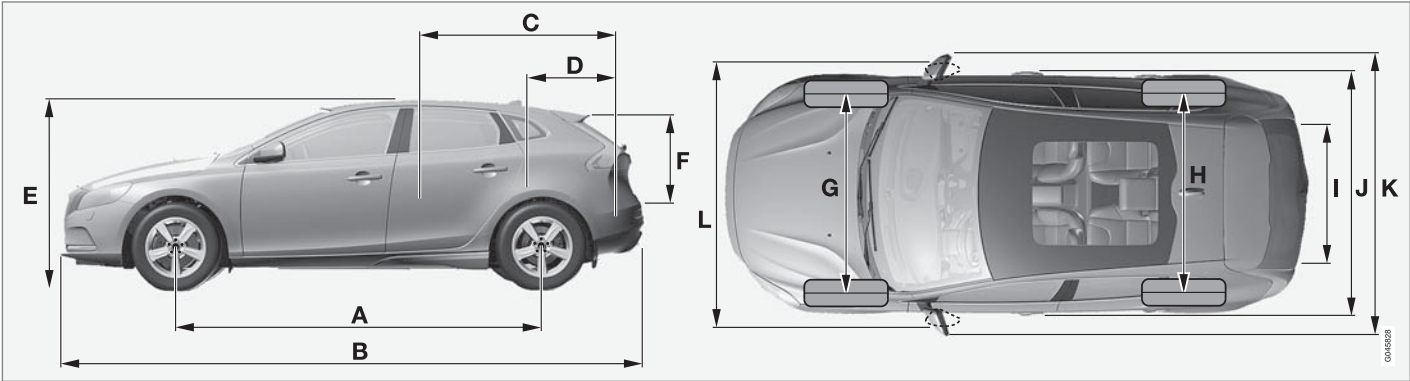
関連情報

- 重量 (p. 434)
- エンジンの仕様 (p. 437)

仕様

寸法

車両の全長や高さなどの寸法が表内に記載されています。



V40

	寸法	mm
A	ホイールベース	2647
B	全長	4370
C	荷室の長さ(フロア上の寸法、バックレストを倒した状態)	1508
D	荷室の長さ(フロア上の寸法)	684

	寸法	mm
E	全高	1420
F	荷室の高さ	532
G	トレッド(フロント)	1546 ^A 1551 ^B 1559 ^C

	寸法	mm
H	トレッド(リア)	1533 ^A 1538 ^B 1546 ^C
I	荷室の幅(フロア上の寸法)	960
J	全幅	1783(1802 ^D)

	寸法	mm
K	全幅(ドアミラーを含む)	2041
L	全幅(格納式ドアミラーを含む)	1857

- A オフセット 52.5 mm
- B オフセット 50 mm
- C オフセット 46 mm
- D キーレスドライブ*装備

重量

最大車両総重量などは車両のラベルに記載されています。

車両重量には、運転者、燃料タンク (90%給油状態)、全フルードが含まれます。

乗員やアクセサリーの重量、トウボール荷重 (p. 435) (トレーラーけん引時) によって積載量は左右します。これらは車両重量には含まれていません。

最大許容重量 = 車両総重量 - 車両重量

① 注意

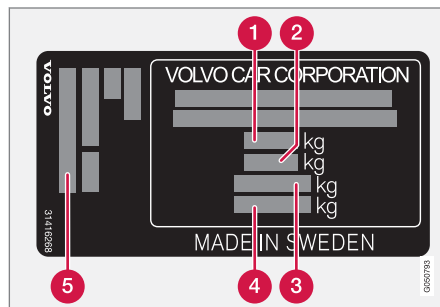
本書に記載の車両重量は、追加装備やアクセサリーのない、標準装備の車両に当てはまります。つまり、最大許容重量は、追加されたアクセサリーの重量だけ、減少します。

最大積載重量を減少させるアクセサリーの例としては、キネティック (Kinetic)、モメントム (Momentum)、およびスンム (Sumnum) の各レベルのオプション装備、さらに、トウバー、ロードキャリア、スペースボックス、オーディオシステム、補助ライト、GPS、フューエルドリブンヒーター、スチールガードネット、カーペット、ラゲッジカバー、パワーシートなどがあります。

車両重量を確実に知るための方法は、実際に量ってみることです。

⚠ 警告

車両走行性能は、搭載荷物の重量や、荷物を積む位置に影響を受けます。



ラベルの位置については、タイプの表示 (p. 430) を参照してください。

- ① 最大車両総重量
- ② 最大けん引重量 (車両+トレーラー)
- ③ 最大許容前軸荷重
- ④ 最大許容後軸荷重
- ⑤ 装備レベル

最大荷重: 車検証をご覧ください。

最大ルーフ荷量: 75 kg

関連情報

- けん引重量およびトウボール荷重 (p. 435)

けん引重量およびトウボール荷重

トレーラーを使用して走行する際のけん引重量およびトウボール荷重が表内に記載されています。

最大重量、ブレーキ付きトレーラー

① 注意

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V40 エンジン	エンジンコード ^A	トランスミッション	最大重量、ブレーキ付きトレーラー (kg)	最大トウボール荷重 (kg)
T2	B4204T38	マニュアル、M76	1500	75
T2	B4154T5	オートマチック、TF-71SC	1500	75
T3	B4204T37	マニュアル、M76	1500	75
T3	B4154T4	オートマチック、TF-71SC	1500	75
T3	B4154T6	オートマチック、TF-71SC	1500	75
T4	B4204T19	マニュアル、M76	1500	75
T4	B4204T19	オートマチック、TF-71SC	1500	75
T4	B4204T41	オートマチック、TG-81SC	1500	75
T5	B4204T11	オートマチック、TG-81SC	1500	75
D2	D4204T8	マニュアル、M76	1500	75
D2	D4204T8	オートマチック、TF-71SC	1500	75
D3	D4204T9	マニュアル、M76	1500	75
D3	D4204T9	オートマチック、TF-71SC	1500	75



V40 エンジン	エンジンコード ^A	トランスミッション	最大重量、ブレーキ付きトレーラー (kg)	最大トウボール荷重 (kg)
D4	D4204T14	マニュアル、M66	1500	75
D4	D4204T14	オートマチック、TG-81SC	1500	75

^A エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 430)を参照してください。

最大重量、ブレーキのないトレーラー

V40 エンジン	最大重量、ブレーキのないトレーラー (kg)	最大トウボール荷重 (kg)
D2 (D4204T8) 搭載のマニュアルトランスミッション車	650	50
その他	700	50

関連情報

- 重量 (p. 434)
- トレーラーなどのけん引 (p. 346)
- トレーラー・スタビリティ・アシスト - TSA (p. 352)

エンジンの仕様

各エンジンタイプの仕様 (出力など) が表内に記載されています。

① 注意

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V40 エンジン	エンジンコード ^A	最高出力 (kW/ rpm)	最高出力 (hp/ rpm)	最大トルク (Nm/rpm)	気筒数	シリンダー 内径 (mm)	シリンダー 行程 (mm)	総排気量 (リットル)	圧縮比
T2	B4154T5	90/5000	122/5000	220/1600-3500	4	82.0	70.9	1.498	10.5 : 1
T2	B4204T38	90/5000	122/5000	220/1100-3500	4	82.0	93.2	1.969	11.3 : 1
T3	B4154T4	112/5000	152/5000	250/1700-4000	4	82.0	70.9	1.498	10.5 : 1
T3	B4204T37	112/5000	152/5000	250/1300-4000	4	82.0	93.2	1.969	11.3 : 1
T3	B4154T6	112/5000	152/5000	250/1700-4000	4	82.0	70.9	1.498	8.8 : 1
T4	B4204T19	140/4700	190/4700	300/1300-4000	4	82.0	93.2	1.969	11.3 : 1
T4	B4204T41	180/5500	245/5500	350/1500-4800	4	82.0	93.2	1.969	8.6 : 1
T5	B4204T11	180/5500	245/5500	350/1500-4800	4	82.0	93.2	1.969	10.8 : 1
D2	D4204T8	88/3750	120/3750	280/1500-2250	4	82.0	93.2	1.969	16.0 : 1
D3	D4204T9	110/3750	150/3750	320/1750-3000	4	82.0	93.2	1.969	16.0 : 1
D4	D4204T14	140/4250	190/4250	400/1750-2500	4	82.0	93.2	1.969	15.8 : 1

^A エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 430) を参照してください。

仕様

◀◀ 関連情報

- クーラント - グレードおよび容量
(p. 442)
- エンジンオイル - グレードおよび容量
(p. 440)

エンジンオイル - 過酷な走行条件

過酷な走行条件では、通常よりも油温が上昇したり、オイル消費量が増加する場合があります。以下に過酷な走行条件をいくつか挙げます。

次のような状況で長時間走行する場合は、通常よりも頻繁にオイルレベルを点検(p. 390)してください。

- キャラバンやトレーラーけん引時
- 山道走行時
- 高速走行時
- 外気温が-30℃以下、または+40℃以上の環境で走行する場合

上述の項目は、低温で短距離を走行する際にも当てはまります。

過酷な条件下で走行する場合は、100%化学合成オイルの使用を推奨しています。エンジンにさらなる保護を提供します。

ボルボ社の推奨品：



❗ 重要

エンジンのサービスインターバルに適応できるように、工場で特別な合成エンジンオイルがエンジンに充填されています。このオイルは、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全を十分考慮して選定されています。

エンジンのサービスインターバルに適応するため、指定されたエンジンオイルを使用してください。オイルの補充および交換時には、指定グレードのオイル以外使用しないでください。異なるオイルを使用すると、エンジンの寿命、始動性能、燃費および環境保全に悪影響を与えます。

指定グレードおよび粘度以外のオイルを使用した場合、ボルボ社の保証も適用されなくなります。

オイル交換は、ボルボ指定のサービス工場に依頼されることをお勧めします。

関連情報

- エンジンオイル - グレードおよび容量 (p. 440)
- エンジンオイル - 概要 (p. 389)

エンジンオイル - グレードおよび容量

各エンジンタイプに対する推奨のエンジンオイルグレードおよび容量が表内に記載されています。

ボルボ社の推奨品：



① 注意

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V40 エンジン	エンジンコード ^A	オイルグレード	オイルフィルターを含む容量 (リットル)
T2	B4204T38	カストロール エッジ Professional V 0W-20 または VCC RBS0-2AE 0W-20	約 5.9
T2	B4154T5		約 5.9
T3	B4154T4		約 5.9
T3	B4154T6		約 5.9
T3	B4204T37	カストロール エッジ Professional V 0W-20 または VCC RBS0-2AE 0W-20	約 5.9
T4	B4204T19		約 5.9
T4	B4204T41		約 5.9
T5	B4204T11		約 5.9

V40 エンジン	エンジンコード ^A	オイルグレード	オイルフィルターを含む容量 (リットル)
D2	D4204T8	カストロール エッジ Professional V 0W-20 または VCC RBS0-2AE 0W-20	約 5.2
D3	D4204T9		約 5.2
D4	D4204T14		約 5.2

^A エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 430)を参照してください。

関連情報

- エンジンオイル - 過酷な走行条件
(p. 439)
- エンジンオイル - 点検および補充
(p. 390)

クーラント - グレードおよび容量

各エンジンタイプに対する認定のクーラント容量が表内に記載されています。

指定グレード： ボルボ純正クーラントと水¹を50%ずつ混ぜたもの。パッケージを参照してください。

 **注意**

搭載されているエンジンの仕様は市場ごとに異なっていますので、あらかじめご了承ください。

V40 エンジン ^A		容量 (リットル)
T2	B4154T5	7.5 (7.8 ^B)
T2	B4204T38	
T3	B4154T4	
T3	B4154T6	
T3	B4204T37	
T4	B4204T19	
T4	B4204T41	
T5	B4204T11	

¹ 水質は、基準 STD 1285.1 を満たしていなければなりません。

V40 エンジン ^A		容量 (リットル)
D2	D4204T8	8.0 (8.4 ^B)
D3	D4204T9	
D4	D4204T14	

^A エンジンコード、コンポーネントおよびシリアルナンバーは、エンジンに打刻されています。タイプの表示 (p. 430) を参照してください。
^B フューエルドリブンヒーター装備車に適用されます。

関連情報

- クーラント - レベル (p. 391)

トランスミッションフルード - グレードおよび容量

各トランスミッションタイプの指定トランスミッションフルードおよび容量が表に記載されています。

マニュアルトランスミッション

マニュアルトランスミッション	容量(リットル)	指定されたトランスミッションフルード
M66	約 1.45	BOT 350M3
M76	約 1.6	BOT 352 B1

オートマチックトランスミッション

オートマチックトランスミッション	容量(リットル)	指定されたトランスミッションフルード
TF-71SC	約 6.8	AW1
TG-81SC	約 6.6 ^A 約 7.5 ^B	AW1

A ガソリンエンジン

B ディーゼルエンジン

① 注意

通常の走行条件下では、トランスミッションフルードの交換は不要です。ただし、過酷な走行条件下では、交換が必要になる場合があります。

関連情報

- エンジンオイル - 過酷な走行条件 (p. 439)
- タイプの表示 (p. 430)

ブレーキフルード - グレードおよび容量

ブレーキフルードとは、油圧ブレーキシステムでマスターブレーキシリンダーから機械式ブレーキに圧力を伝達する媒体のことです。

指定グレード： ボルボ純正 Dot 4 6 等級 または同等のブレーキフルード

容量： 0.6 リットル

関連情報

- ブレーキおよびクラッチフルード - レベル (p. 392)

燃料タンク - 容量

各エンジンタイプに対する認定の燃料タンクの容量が表内に記載されています。

V40 エンジン	容量(リットル)	指定グレード
ガソリン	約 62	燃料 - ガソリン (p. 341)
ディーゼル	約 62 ^A (約 40 ^B)	燃料 - ディーゼル (p. 342)

^A D2 (D4204T8) 搭載のマニュアルトランスミッション車向けオプション。

^B D2 (D4204T8) 搭載のマニュアルトランスミッション車に適用。

関連情報

- 適切な給油方法 (p. 339)
- エンジンの仕様 (p. 437)

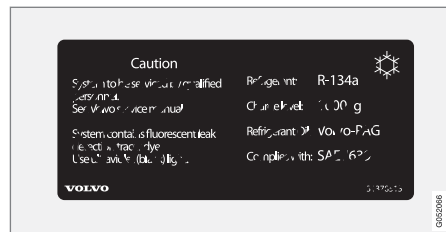
エアコンディショナー、フルード容量およびグレード

車両のエアコンディショナーシステムは、市場に応じて、R1234yf または R134a のいずれかの冷媒を使用します。どちらの冷媒が使用されているかに関する情報は、ボンネットの内側に貼付されている表示ラベルで確認することができます。

エアコンディショナーシステムで使用するフルードおよび潤滑剤の指定グレードおよび容量は以下の表に記載されています。

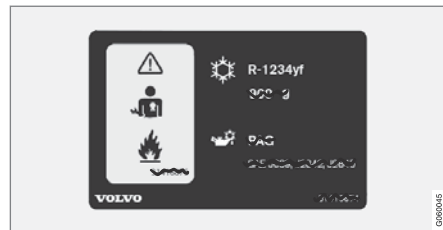
A/C ラベル

R134a 用ラベル



ラベルはボンネットの内側に貼付されています。

R1234yf 用ラベル



ラベルはボンネットの内側に貼付されています。

R1234yf のシンボル説明

シンボル	意味
	注記
	移動式エアコンディショナーシステム (MAC)
	潤滑剤タイプ

シンボル	意味
	移動式エアコンディショナーシステム (MAC) の整備は、資格および技能を有するメカニックが行う必要があります。
	可燃性冷媒

冷媒

R134a 冷媒仕様車

重量	指定グレード
625 g	R134a

警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R134a が加圧充填されています。このシステムの保守や修理は、必ずボルボ指定のサービス工場にご依頼ください。

R1234yf 冷媒仕様車

重量	指定グレード
575 g	R1234yf

⚠ 警告

エアコンディショナーシステムには、冷媒 R1234yf が加圧充填されています。SAE J2845(自動車用 A/C システムに使用される冷媒の安全な点検整備および格納のための技術トレーニング)に従い、冷媒システムの点検整備および修理は、必ず資格および技能を有する技術者が行い、システムの安全を確保する必要があります。

コンプレッサーオイル

容量	指定グレード
60 ml	PAG オイル

エバポレーター

❗ 重要

A/C システムのエバポレーターは、絶対に修理したり、以前に使用していたエバポレーターと交換したりしないでください。新しいエバポレーターは、SAE J2842 に基づいて認証および表示されている必要があります。

関連情報

- エアコンディショナーシステム - トラブルシューティングと修理 (p. 393)

燃料消費量および CO2 排出量

燃料消費量と CO2 排出量は、さまざまな原因で悪化することがあります。

燃費の増加には以下のような原因が考えられます。

- 車両に追加装備があり、車両の重量が増加している場合。
- 運転者の走行スタイル。
- モデルの基本バージョンに標準装備されているホイールよりも大きいホイールが装着されており、転がり抵抗が増加している場合。
- 高速で走行し、風抵抗が増加している場合。
- 燃料の品質、道路および交通の状況、天候、車両の状態。

前述の例が組み合わさると、燃料消費量が大幅に増加することがあります。

オクタン価 91 RON のガソリンを使用すると燃費が悪化して、エンジン出力が低下します。

❗ 注意

悪天候、トレーラーをけん引しながらの走行、あるいは標高の高い地域での走行と不適切な燃料の使用などが組み合わさると、車両の燃料消費量が大幅に増加します。

仕様

◀◀ 関連情報

- 経済走行 (p. 345)
- 燃料 - ガソリン (p. 341)
- 燃料 - ディーゼル (p. 342)
- 重量 (p. 434)

タイヤ - 承認された空気圧

各エンジンタイプに対する認定のタイヤ空気圧が表内に記載されています。

V40 エンジン	タイヤサイズ	速度 (km/h)	重量、1～3 名乗車		最大荷重		ECO プレッシャー ^A
			フロント (kPa) ^B	リア (kPa)	フロント (kPa)	リア (kPa)	フロント/リア (kPa)
すべてのエンジン	205/55 R16	0 - 160 ^C	230	230	260	260	260 (280 ^D)
	205/50 R17	160 ^E	250	250	300	280	-
	225/45 R17						
	225/40 R18	0 - 160 ^C	230	230	260	260	260
	235/35 R19	160 ^E	270	270	320	300	-
テンポラリースペアタイヤ		80 以下 ^F	420	420	420	420	-

^A 経済走行

^B 国によっては、SI 単位であるパスカル (pascal, Pa) の他に、バール (bar) が使用されます。1 bar = 100 kPa。

^C 0 - 100 mph

^D D2/D4 マニュアル、低排出ガスモデルの 16 インチホイールのみに適用されます。

^E 100+ mph

^F 最高 50 mph

① 注意

提供されているエンジンとタイヤ、またその組み合わせは、市場により異なっており、ご利用いただけないものもございますので、あらかじめご了承ください。

関連情報

- タイヤ - サイズ (p. 362)
- タイヤ - 空気圧 (p. 360)
- タイプの表示 (p. 430)

50 音順索引

あ

アクティブ・ヨー・コントロール.....	224
アクティブハイビーム.....	126
アクティブベンディングライト.....	128
アダプティブクルーズコントロール.....	241
一時的解除.....	246
追い越し.....	248
解除する.....	248
概要.....	243
機能.....	242
クルーズコントロール機能の変更.....	251
故障診断.....	252
車間時間の設定.....	246
スタンバイモード.....	246
速度の管理.....	245
レーダーセンサー.....	255
アダプショナルヒーター	
電気式.....	181, 182
フューエルドリブン.....	181, 182
アプローチライト.....	136, 200
アラーム.....	218, 220, 221
アラームインジケーター.....	220
アラームシグナル.....	221
アラームの機能解除.....	221
アラームの点検.....	202
自動作動.....	220
リモートコントロールキーが作動し ない.....	221

アレルギーおよび喘息を誘発する物質..	164
アンビエントライト.....	135

い

イモビライザー.....	199
インジケーターランプ、PCC.....	202
インストルメントの概要	
左ハンドル車.....	92
右ハンドル車.....	95
インテリア・エア・クオリティ・システ ム (IAQS)	
空気清浄.....	164
インフォメーション・ディスプレイ.....	98, 99
インフォメーションディスプレイのメッ セージ.....	146
インフォメーションボタン、PCC.....	202
インフレータブルカーテン.....	71

う

ウインタータイヤ.....	364
ウインターホイール.....	364
ウインド/ルームミラー/ドアミラー.....	423

ウインドスクリーン	
ヒーター.....	141, 172
ウインドスクリーンウォッシャー.....	137
ウォッシャー	
ウインドスクリーン.....	137
ウォッシャー液、補充.....	403
リアウインド.....	138
ウォッシャー液.....	403

え

エアコンディショナー.....	172
温度コントロール.....	171
概要.....	162
実際の温度.....	163
自動調節.....	171
センサー.....	163
パーソナル選択.....	165
エアコンディショナー、フルード	
容量およびグレード.....	446
エアコンディショナーシステム	
修理.....	393
エアディストリビューション.....	165
一覧表.....	174
リサーキュレーション.....	173
エアバッグ.....	66, 67
運転席側.....	66

作動/非作動、PACOS.....	68
助手席側.....	67, 68
エアバッグシステム.....	65
警告灯.....	64
エコラベル、FSC、オーナーズマニュアル	26
エタノール含有量	
体積に対し 10 %以下.....	341
エラーメッセージ	
アダプティブクルーズコントロール.....	253
ドライバー・アラート・コントロール	290
メッセージおよびシンボル参照.....	253
LKA.....	295
エレクトロニック・テンプレチャー・コ ントロール - ETC.....	168
エンジン	
オーバーヒート.....	336
解除する.....	313
始動.....	312
Start/Stop.....	321
エンジン・ドラッグ・コントロール.....	225
エンジンオイル.....	389, 439
過酷な走行条件.....	439
グレードおよび容量.....	440
フィルター.....	389
エンジンオイル、注入.....	390
エンジンオイルレベルの点検.....	390
エンジン高温.....	336

エンジンの仕様.....	437
エンジンブロックヒーター.....	177
エンジンブロックヒーターおよび車内 ヒーター	
即時停止.....	179
タイマー.....	179
ダイレクトスタート.....	178
メッセージ.....	180
エンジンルーム	
エンジンオイル.....	389
概要.....	387
クーラント.....	391
点検.....	388
ブレーキおよびクラッチフルード... ..	392
エンジンを停止する.....	313

お

オイル、エンジンオイルも参照... ..	439, 440
オイルレベルゲージ.....	390
オイルレベル低下.....	390
応急手当.....	371
オートブレーキ機能付衝突警告システム	268
オートマチック・エアコンディショナー (ECC).....	167
オートマチックトランスミッション....	317

けん引および車両の回収.....	354
トレーラー.....	347
マニュアルギヤポジション(ギヤトロ ニック).....	318
オートリロック機能.....	211
オーナーズマニュアル、エコラベル....	26
オーバーヒート.....	336, 346
オクタン値.....	341
お子様	
車内の位置.....	85
セーフティ.....	78
チャイルドシートおよびエアバッグ..	85
チャイルドシートとサイドエアバッグ	70
チャイルドロック.....	78
オプション/アクセサリ.....	17

温度

実際の温度.....	163
温度コントロール.....	171
オンライン車両	
コネクテッド・サービス予約.....	382

か

カーキーメモリー.....	197
カーゴスペース	
カーゴネット.....	193

固定ポイント.....	191
荷物の積み込み.....	189
パーセルシェルフ.....	194
ライト.....	135
外気温度計.....	108
外寸.....	432
回転方向.....	359
各種計器および操作ボタン.....	92, 95
ガソリンのグレード.....	341
型式認定	
リモートコントロールキーシステム.....	222
レーダーシステム.....	257
カメラセンサー.....	263, 275
カメラセンサーの故障診断.....	264
カラーコード、塗装.....	426
カラーコード、ペイント.....	426
ガラス	
ラミネーテッド/強化.....	26
間欠ワイパー.....	136

き

キー.....	196, 198
キー位置.....	115
キーブレード.....	203, 204
キーブレードによるドアロック解除....	209

キーレス - ロック.....	208
キーレス - ロック解除.....	209
キーレス始動(キーレスドライブ)..	206, 207, 208, 209, 210, 312
キーレスドライブ.206, 207, 208, 209,	210, 312
ギヤシフトインジケーター.....	316
ギヤセクターインヒビター.....	320
ギヤセクターインヒビター、機械的に解除.....	320
ギヤセクターインヒビターの解除....	320
ギヤトロニック.....	318
救急用品キット.....	371
救急用品キット.....	371
三角警告板(停止表示板).....	370
給油.....	215, 344
燃料給油口フラップ、ロック.....	215
燃料給油口フラップ.....	339
燃料給油口フラップ、手動で開く...	339
補充.....	339
予備の燃料容器の充填.....	344
緊急パンクリペアーキット.....	373
位置.....	373
概要.....	374
再点検.....	378
シーリングリキッド.....	374
対処.....	375

タイヤへの空気注入.....	379

く

空気清浄

車内.....	163, 164, 165
素材.....	165
空気清浄システム IAQS.....	164

クーラント

容量およびグレード.....	442
クーラント、点検および補充.....	391
クーリングシステム.....	336
オーバーヒート.....	336

曇り

ウインドの手入れ.....	162
ヘッドライト内の凝結水.....	420
クリーン・ゾーン・インテリア・パkkerジ(CZIP).....	164
クリーンエアフィルター.....	164
クルーズコントロール.....	232
一時的解除.....	235
解除する.....	237
セットした速度に戻る.....	236
速度の管理.....	233
グローバルオープニング機能....	162, 213
グローブボックス.....	187

ロック..... 213

け

計器

スピードメーター..... 98, 99

タコメーター..... 98, 99

燃料計..... 98, 99

警告音

衝突警告システム..... 272

警告灯..... 99, 102, 106

アダプティブクルーズコントロール..... 242

エアバッグ - SRS..... 106

警告..... 106

シートベルトリマインダー..... 63, 106

充電不良..... 106

衝突警告システム..... 272

スタビリティ&トラクション・コントロール・システム..... 224

パークキングブレーキ作動..... 106

ブレーキシステムの不具合..... 106

油圧低下..... 106

経済走行..... 345

けん引..... 353

けん引フック..... 355

けん引重量およびトウボール荷重..... 435

けん引フック..... 355

こ

小石などによる傷および引っかき傷.... 425

高圧ヘッドライトウォッシャー..... 137

コーナー・トラクション・コントロール 225

コンパインド・メーター・パネル... 98, 99

コンパス..... 143

校正..... 144

さ

サービスと修理の予約..... 382

サービスプログラム..... 382

サービスポジション..... 401

サイクリストの検知..... 270

再生..... 344

最大ルーフ荷重..... 434

サイドエアバッグ SIPS..... 70

座席、シート参照..... 117

サポート..... 16

三角警告板(停止表示板)..... 370

し

シート..... 117

パワーシート..... 118

ヒーター..... 169

フロントシートのバックレストを倒す..... 117

ヘッドレスト、リア..... 119

リアシートバックレストを倒す..... 120

シートのメモリー機能..... 118

シートベルト..... 60

シートベルトテンショナー..... 63

シートベルトリマインダー..... 63

着用..... 61

妊婦の方..... 62

ゆるめる..... 62

リアシート..... 63

シートベルトテンショナー..... 63

シートベルトリマインダー..... 63

シーリングリキッド..... 374

自動洗車機..... 420

シミや汚れ..... 424

車間警告機能..... 238

機能の限界..... 239

シンボルおよびメッセージ..... 240

車間時間の設定..... 238

ジャッキ..... 370

車内小物入れなど..... 184

車内ヒーター..... 177

車両移動..... 355

車両重量.....	434
車両総重量.....	434
車両通行帯ヘッドライト照射パターン..	129
車両リフトアップ.....	385
ジャンプスタート.....	314
渋滞アシスタント.....	249
収納スペース	
運転席側.....	186
グローブボックス.....	187
トンネルコンソール.....	186
重量	
車両重量.....	434
出力.....	437
衝突、衝突事故を参照.....	74
衝突警告システム.....	268, 269
一般的機能の限界.....	274
機能.....	269
操作.....	272
歩行者保護.....	271
レーダーセンサー.....	255, 262
衝突事故.....	74
照明スイッチ.....	124
触媒コンバーター	343
けん引.....	354
シンボルおよびメッセージ	
アダプティブクルーズコントロール..	253

オートブレーキ機能付衝突警告シス テム.....	267, 277
ドライパー・アラート・コントロール290 LKA.....	295
シンボルマーク	
警告灯.....	99, 102
表示灯.....	99, 102, 104

す

推奨チャイルドシート	
一覧表.....	79
スキッド.....	338
煤フィルター.....	344
煤フィルターがいっぱい.....	344
スタビリティ・システム.....	224
スタビリティ&トラクション・コント ロール・システム.....	224
ステアリングフォースレベル、ステアリ ングフォース参照.....	224
ステアリングホイール.....	121
ステアリングホイールの調節.....	121
ステアリングリモコン.....	122
ステアリングホイールのステアリングリ モコン.....	122
ステアリングホイールの調節.....	121

ステアリングホイールフォース、車速感 応式.....	224
ステアリングホイールロック.....	313
スピンコントロール.....	224
スペアタイヤ.....	364, 365
取り出し.....	365
取り付け.....	368
滑りやすい路面での運転.....	338
寸法.....	432

せ

清掃	
シートベルト.....	425
自動洗車機.....	420
洗車.....	420
内装.....	424
ホイールリム.....	422
セーフティモード.....	74
始動の試行.....	75
車両の移動.....	76
セーフティロック	
お子様.....	78
洗車.....	420

そ

走行.....	338
クーリングシステム.....	336
テールゲートを開けたまま.....	337
走行距離.....	149
走行中にご注意いただきたいこと.....	338
走行統計.....	159
走行特性の最適化.....	224
速度記号、タイヤ.....	362
速度リミッター.....	229
一時的解除.....	231
開始.....	229, 230
解除.....	232
速度超過時のアラーム.....	232

た

タイプの表示.....	430
タイヤ	
圧力.....	360, 449
ウインタータイヤ.....	364
回転方向.....	359
仕様.....	449
タイヤプレッシャーモニタリング..	371
トレッド溝の深さ.....	364
トレッド磨耗インジケーター.....	360

パンク修理.....	373
メンテナンス.....	358
タイヤ・プレッシャー・モニタリング..	371
タイヤ空気圧表示ラベル.....	360
タイヤ交換.....	365
タイヤサイズ.....	362
タイヤモニタリング.....	371
脱着式トウバー	
保管.....	349

ち

チャイルドシート.....	78
推奨.....	79
タイプ.....	88
チャイルドシート用のアッパーマウ ンティングポイント.....	90
チャイルドシート用 ISOFIX 対応ア タッチメントシステム.....	86
ISOFIX 対応アタッチメント付きチャ イルドシートのサイズ等級.....	87
チャイルドロック.....	217, 218

て

ディーゼル.....	342

燃料切れ.....	342
ディーゼル微粒子除去フィルター.....	344
ディスプレイ照度.....	124
テールゲート	
ロック/ロック解除.....	214
デッドロック.....	216
一時的解除.....	216
解除.....	216
デフロスター.....	172
電気系統.....	409
電源ソケット.....	188
カーゴスペース.....	192
電動格納式ドアミラー.....	141

と

ドアミラー.....	140
リセット.....	141
ドアミラーのリセット.....	141
冬季の運転.....	338
トウバー	
脱着式、アタッチメント.....	350
脱着式、取り外し.....	351
トウバー、トーイングブラケット参照..	348
トウバー - 脱着式	
取り付け/取り外し.....	350, 351

トレーシングブラケット.....	348, 349
仕様.....	349
時計、調節.....	109
塗装	
カラーコード.....	426
塗装面の損傷と補修.....	425
ドライバー・アラート・コントロール..	288
操作.....	288
ドライバー・アラート・システム - DAC	287
トラクション・コントロール.....	224
トラブルシューティング	
アダプティブクルーズコントロール..	252
トランスポンダー.....	21
トランスミッション.....	315
オートマチック.....	317
マニュアル.....	315
トランスミッションオイル	
容量およびグレード.....	443
トリップコンピューター....	149, 155, 159
アナログ式メーター・パネル.....	151
トリップメーター、リセット.....	152, 156
トリップメーター(走行距離計)...	109, 149
トレーラー.....	346
ケーブル.....	346
蛇行.....	352
トレーラーなどのけん引.....	346

トレーラー・スタビリティ・アシスト225,	352
トレーラーなどのけん引.....	346
けん引重量.....	435
トウボール荷重.....	435
トレッド溝の深さ.....	364
トレッド磨耗インジケーター.....	360
トンネルコンソール.....	186
12V 電源ソケット.....	188
アームレスト.....	186
シガレットライターおよび灰皿.....	187
トンネルの検知.....	125

な

内装.....	424

に

二酸化炭素の排出.....	447
日常の手入れ.....	420
レザー製内装.....	424
荷物の固定 (荷物の積み込み).....	191
荷物の積み込み	
カーゴスペース	189, 191
概要.....	189, 191

固定ポイント.....	191
長尺物.....	190
ルーフの荷物.....	190

ね

熱を反射するウインドスクリーン.....	21
燃料	
燃費.....	360
燃料タンク	
容量.....	445

は

パーキングブレーキ.....	334
パークアシスト.....	296
機能.....	296
後方.....	297
パークアシスト・センサー.....	299
不具合インジケーター.....	299
パークアシスト・カメラ	300
設定.....	303
パークアシスト・パイロット.....	304
機能.....	305
機能の限界.....	308
シンボルおよびメッセージ.....	310

操作.....	306
パークアシスト・パイロット - PAP.....	304
パーセルシェルフ.....	194
パーソナル・カー・コミュニケーター.....	203
ハイ/ロービーム.....	125
ハイビーム、自動起動.....	126
バイブレーションダンパー.....	348
バッグホルダー.....	191
折りたたみ式.....	191
バックレスト.....	117
フロントシートを倒す.....	117
リアシート、折りたたみ.....	120
撥水/防塵加工コーティング.....	423
撥水加工コーティング、清掃.....	423
バッテリー.....	314, 337, 404
過負荷.....	337
警告灯.....	406
交換.....	406
ジャンプスタート.....	314
バッテリーに表示されているシンボル.....	406
補助.....	407
メイン.....	404
メンテナンス.....	404
リモートコントロールキー/PCC.....	205
パニックアラーム機能.....	200

パノラマ・ガラスルーフ、電動スライドカーテン.....	143
パノラマ・ガラスルーフ用電動スライドカーテン.....	143
バルブ、仕様.....	400
パワーウインド.....	138
リセット.....	140
パワーウインドのリセット.....	140
パワーシート.....	118
パンク.....	373
ハンドブレーキ.....	334

ひ

ヒーター	
ウインドスクリーン.....	141
シート.....	169
リアウインド.....	141
ルームミラー/ドアミラー.....	141
非常点滅灯.....	133
ヒューズ	
エンジンルーム内.....	411
概要.....	409
グローブボックス下.....	414
交換.....	409
右側フロントシート下.....	417
ヒューズボックス.....	410

表示灯.....	99, 102, 104
表示ラベル.....	430
ヒル・スタート・アシスト.....	321

ふ

ファン	
ECC.....	170
ETC.....	170
フォグランプ	
リア.....	132
フットブレーキ.....	332, 333, 334
フューエル.....	340, 341, 342
燃費.....	447
フューエルフィルター.....	342
フューエルドリブンヒーター	
タイマー.....	179
フルード、容量... 403, 442, 443, 444, 445, 446	
フルードおよびオイル. 442, 443, 444, 446	
ブレーキ.....	332, 334
アンチロックブレーキシステム、ABS 333	
コンバインド・メーター・パネル内のシンボル.....	333
ハンドブレーキ.....	334
ブレーキシステム.....	332, 333, 334
ブレーキフルードの補充.....	392

ブレーキランプ.....	132
EBA(エマージェンシー・ブレーキ・アシスタンス)	334
ブレーキおよびクラッチフルード.....	392
ブレーキフルード	
グレードおよび容量.....	444
ブレーキランプ.....	132
フロアマット.....	187
フロントシート	
ヘッドレスト.....	117
フロントパルプ	
位置.....	394
フロントワイパー.....	136
レインセンサー.....	137

へ

ヘッドライト.....	395
ヘッドライト光軸調整.....	124
ヘッドライト制御.....	122
ヘッドライト内の凝結水.....	420
ヘッドライトパターン、調整.....	129
ヘッドライトビーム	
車高調節.....	124
適応.....	129
ヘッドライトビームの適応.....	129

ヘッドレスト	
下げる.....	120
フロントシート.....	117
リアセンターシート.....	119
ベンチレーション.....	165

ほ

ホイール	
スペアタイヤ.....	364
清掃.....	422
タイヤチェーン.....	364
取り外し.....	366
ホイールおよびタイヤ.....	364
ホイール交換.....	366
ホイールボルト.....	363
ロック可能.....	363
ホイールリム、寸法.....	361
方向指示器.....	133
防錆.....	424
ホームセーフライト点灯時間.....	135
ホーン.....	122
歩行者エアバッグ.....	76
車両の移動.....	77
収納.....	77
歩行者保護.....	268

ポジションランプ.....	124
保守	
防錆.....	424
補助バッテリー.....	407
ボルボ・センサス.....	114
ボンネット、開ける.....	387

ま

マニュアルギヤポジション(ギヤトロニック).....	318
マニュアルトランスミッション.....	315
けん引および車両の回収.....	354
トレーラー.....	347
GSI(ギヤセレクトターレバースタンス).....	316

み

磨き.....	422
水たまりでの運転.....	335

む

むち打ち症、WHIPS.....	72

め

メイクアップミラー.....	188
ライト.....	135
メーター・パネルライト.....	124
メッセージおよびシンボル	
アダプティブクルーズコントロール.....	253
エンジンブロックヒーターおよび車	
内ヒーター.....	180
オートブレーキ機能付衝突警告シス	
テム.....	267, 277
ドライパー・アラート・コントロール	290
LKA.....	295
メッセージ.....	147
メニュー	
コンバインド・メーター・パネル...	144
メニュー概要、アナログ.....	145
メニュー概要、デジタル.....	145

ら

ライト	
アクティブハイビーム.....	126
アクティブベンディングライト.....	128
アプローチライト.....	136, 200
コントロール.....	122, 134
自動点灯機能、車内.....	135
車内.....	134

照明スイッチ.....	124
ディスプレイ照度.....	124
トンネルの検知.....	125
ハイ/ロービーム.....	125
バルブ、仕様.....	400
ヘッドライト光軸補正.....	124
ホームセーフライト.....	135
ポジションランプ.....	124
メーター・パネルライト.....	124
リアフォグランプ.....	132
ラベル.....	430
ラミネーテッドガラス.....	26
ランプ.....	393
ランプ、バルブ交換.....	393
ハイビーム(ハロゲンヘッドライト装	
備車).....	397
方向指示器、フロント.....	398
ポジションランプ.....	398
メイクアップミラー.....	400
リアバルブホルダー: 方向指示器、ブ	
レーキランプおよび後退灯.....	399
リアフォグランプ.....	399
ロービーム(ハロゲンヘッドライト装	
備車).....	396

り

リアウインド	
ヒーター.....	141
リアシート	
ヒーター.....	169
リアバルブ	
位置.....	398
リセット、トリップメーター.....	152, 156
リバースギヤインヒビター.....	316
リフティングツール.....	370
リモートコントロールリモビライザー..	199
リモートコントロールキー..	196, 197, 198
機能.....	200
作動範囲.....	201, 207
損失.....	196
脱着式キーブレード.....	203, 204
電池の交換.....	205
リモートコントロールキーシステム、型	
式認定.....	222

る

ルーフ荷重、最大重量.....	434
ルームミラー.....	142
自動防眩機能.....	142

ルームミラー/ドアミラー	
インテリア.....	142
コンパス.....	143
電動格納式.....	141
ドア.....	140
ルームミラーおよびドアミラー	
ヒーター.....	141
ルームランプ.....	134
オートマチック.....	135

れ

冷媒.....	393
レインセンサー.....	137
レーザーセンサー.....	265
レーダーセンサー.....	242
機能の限界.....	255
レーン・キープング・エイド(LKA).....	291
レーンアシスト	
操作.....	293, 294
レザー製内装、清掃方法.....	424

ろ

ロード・サイン・インフォメーション..	284
機能の限界.....	287

操作.....	284
ロードインデックス.....	362
ロック	
手動ロック.....	211
ロック.....	211
ロック解除.....	211, 212
ロック/ロック解除	
車内から.....	212
テールゲート.....	214
ロックインジケーター.....	198, 220
ロック解除	
車外から.....	211
車内から.....	212
ロック確認	198
ロックホイールボルト.....	363

わ

ワイパー/ウォッシャー.....	136
ワイパーブレード.....	401
交換.....	401
サービスポジション.....	401
清掃.....	402
リアウインドの交換.....	402
ワックスがけ.....	422

A

ACC(アダプティブクルーズコントロー ル).....	241

B

BLIS(ブラインド・スポット・インフォ メーション・システム).....	279, 280
BLIS のエラーメッセージ.....	283
BLIS のメッセージ.....	283

C

City Safety™.....	261
CO ₂ エミッション.....	447
CTA.....	281
CZIP(クリーン・ゾーン・インテリア・ パッケージ)	164

E

ECC、オートマチック・エアコンディショ ナー	167
Eco Cruise.....	330

Eco guide	102
ECO ドライブモード.....	330
ECO プレッシャー.....	360, 449
ECO モード.....	330
ETC、エレクトロニック・テンパレ チャー・コントロール.....	168

F

FSC、環境ラベル.....	26

G

GSI (ギヤセクターレパーアシタン ス).....	316

I

IAQS (インテリア・エア・クオリティ・シ ステム).....	164

L

LKA (レーン・キーピング・エイド).....	291

M

MY CAR.....	147

P

PACOS	68
PAP (パークアシスト・パイロット).....	304
PCC (パーソナル・カー・コミュニケーター) 機能.....	200
作動範囲.....	203
PCC 付きリモートコントロールキー 作動範囲.....	203
Power guide.....	102

S

Sensus.....	114
SIPS バッグ.....	70
Start/Stop.....	321
エンジンが停止しない.....	324
機能と操作.....	322

T

TSA (トレーラー・スタビリティ・アシス ト)	225, 352

V

Volvo ID.....	22

W

WHIPS 後部衝撃吸収リクライニング機構....	72
チャイルドシート、ブースタークッ ション.....	72
着座姿勢.....	73

